
大里郡大里町

下田町遺跡Ⅰ

大里地区高規格堤防整備事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告

— Ⅰ —

<第2分冊>

2004

国土交通省 関東地方整備局
財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

目次

<第1分冊>

口絵

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	4. 井戸跡	137
1. 発掘調査に至る経過	1	5. 竪穴状不明遺構	192
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	6. 土壇	197
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	4	7. ピット	241
II 遺跡の立地と環境	5	8. 火葬墓・土壇墓	259
III 遺跡の概要	11	<第2分冊>	
IV 遺構と遺物	18	9. 溝跡	261
1. 方形周溝墓	18	10. グリッド・表採出土遺物等	406
2. 住居跡	31	V まとめ	429
3. 掘立柱建物跡	91		

付編

写真図版

付図

插图目次

<第2分册>

第254图	下田町遺跡溝跡全体图 (1) ……………	262	第288图	第21号溝跡遺物出土状况 ……………	297
第255图	下田町遺跡溝跡全体图 (2) ……………	263	第289图	溝跡出土遺物 (19) ……………	298
第256图	溝跡 (1) ……………	264	第290图	溝跡出土遺物 (20) ……………	299
第257图	溝跡 (2) ……………	265	第291图	溝跡出土遺物 (21) ……………	301
第258图	溝跡 (3) ……………	266	第292图	第28号溝跡遺物出土状况 ……………	302
第259图	溝跡 (4) ……………	266	第293图	第30号溝跡遺物出土状况 ……………	302
第260图	第3号溝跡区割图 ……………	267	第294图	溝跡出土遺物 (22) ……………	303
第261图	第3号溝跡遺物出土状况 (1) ……………	268	第295图	溝跡出土遺物 (23) ……………	305
第262图	第3号溝跡遺物出土状况 (2) ……………	269	第296图	溝跡 (8) ……………	307
第263图	第3号溝跡遺物出土状况 (3) ……………	270	第297图	溝跡 (9) ……………	308
第264图	溝跡出土遺物 (1) ……………	271	第298图	溝跡 (10) ……………	309
第265图	溝跡出土遺物 (2) ……………	272	第299图	第44号溝跡遺物出土状况 ……………	310
第266图	溝跡出土遺物 (3) ……………	273	第300图	溝跡出土遺物 (24) ……………	311
第267图	溝跡出土遺物 (4) ……………	274	第301图	溝跡出土遺物 (25) ……………	312
第268图	溝跡出土遺物 (5) ……………	275	第302图	溝跡出土遺物 (26) ……………	313
第269图	溝跡出土遺物 (6) ……………	276	第303图	溝跡出土遺物 (27) ……………	314
第270图	溝跡出土遺物 (7) ……………	277	第304图	溝跡出土遺物 (28) ……………	315
第271图	溝跡出土遺物 (8) ……………	278	第305图	溝跡出土遺物 (29) ……………	317
第272图	溝跡出土遺物 (9) ……………	279	第306图	溝跡出土遺物 (30) ……………	318
第273图	溝跡出土遺物 (10) ……………	280	第307图	第59号溝跡出土状况出土遺物 (31) ……	319
第274图	溝跡出土遺物 (11) ……………	281	第308图	溝跡出土遺物 (32) ……………	321
第275图	溝跡出土遺物 (12) ……………	282	第309图	溝跡出土遺物 (33) ……………	323
第276图	溝跡出土遺物 (13) ……………	283	第310图	溝跡出土遺物 (34) ……………	325
第277图	溝跡出土遺物 (14) ……………	285	第311图	溝跡 (11) ……………	326
第278图	溝跡出土遺物 (15) ……………	287	第312图	溝跡 (12) ……………	327
第279图	溝跡出土遺物 (16) ……………	289	第313图	溝跡 (13) ……………	328
第280图	溝跡出土遺物 (17) ……………	290	第314图	溝跡 (14) ……………	329
第281图	第18号溝跡遺物出土状况 ……………	291	第315图	第80号溝跡遺物出土状况 (1) ……………	331
第282图	第18号溝跡 (1) ……………	292	第316图	第80号溝跡遺物出土状况 (2) ……………	332
第283图	第18号溝跡 (2) ……………	293	第317图	第80号溝跡遺物出土状况 (3) ……………	333
第284图	溝跡 (5) ……………	294	第318图	第80号溝跡遺物出土状况 (4) ……………	334
第285图	溝跡 (6) ……………	295	第319图	第80号溝跡遺物出土状况 (5) ……………	335
第286图	溝跡 (7) ……………	296	第320图	溝跡出土遺物 (35) ……………	337
第287图	溝跡出土遺物 (18) ……………	296	第321图	溝跡出土遺物 (36) ……………	338

第322図	溝跡出土遺物 (37) ……………	339	第350図	溝跡出土遺物 (63) ……………	368
第323図	溝跡出土遺物 (38) ……………	340	第351図	溝跡出土遺物 (64) ……………	370
第324図	溝跡出土遺物 (39) ……………	341	第352図	溝跡出土遺物 (65) ……………	372
第325図	溝跡出土遺物 (40) ……………	342	第353図	溝跡出土遺物 (66) ……………	374
第326図	溝跡出土遺物 (41) ……………	343	第354図	溝跡出土遺物 (67) ……………	376
第327図	溝跡出土遺物 (42) ……………	344	第355図	溝跡出土遺物 (68) ……………	378
第328図	溝跡出土遺物 (43) ……………	345	第356図	グリッド・表採出土遺物 (1) ……………	406
第329図	溝跡出土遺物 (44) ……………	346	第357図	グリッド・表採出土遺物 (2) ……………	407
第330図	溝跡出土遺物 (45) ……………	347	第358図	グリッド・表採出土遺物 (3) ……………	408
第331図	溝跡出土遺物 (46) ……………	348	第359図	グリッド・表採出土遺物 (4) ……………	409
第332図	溝跡出土遺物 (47) ……………	349	第360図	グリッド・表採出土遺物 (5) ……………	410
第333図	溝跡出土遺物 (48) ……………	350	第361図	グリッド・表採出土遺物 (6) ……………	411
第334図	溝跡出土遺物 (49) ……………	351	第362図	グリッド・表採出土遺物 (7) ……………	412
第335図	溝跡出土遺物 (50) ……………	353	第363図	グリッド・表採出土遺物 (8) ……………	413
第336図	溝跡出土遺物 (51) ……………	354	第364図	グリッド・表採出土遺物 (9) ……………	414
第337図	溝跡出土遺物 (52) ……………	355	第365図	グリッド・表採出土遺物 (10) ……………	415
第338図	溝跡出土遺物 (53) ……………	356	第366図	グリッド・表採出土遺物 (11) ……………	416
第339図	溝跡出土遺物 (54) ……………	357	第367図	グリッド・表採出土遺物 (12) ……………	417
第340図	溝跡出土遺物 (55) ……………	358	第368図	グリッド・表採出土遺物 (13) ……………	418
第341図	溝跡出土遺物 (56) ……………	359	第369図	グリッド・表採出土遺物 (14) ……………	419
第342図	溝跡出土遺物 (57) ……………	360	第370図	グリッド・表採出土遺物 (15) ……………	420
第343図	溝跡出土遺物 (58) ……………	361	第371図	グリッド・表採出土遺物 (16) ……………	421
第344図	溝跡出土遺物 (59) ……………	362	第372図	弥生時代中期後半の周辺遺跡……………	429
第345図	溝跡出土遺物 (60) ……………	363	第373図	弥生後期後半～古墳時代前期の遺構…	431
第346図	溝跡出土遺物 (61) ……………	364	第374図	古墳時代後期の遺構……………	433
第347図	第82号溝跡遺物出土状況……………	365	第375図	奈良・平安時代の遺構……………	435
第348図	溝跡 (15) ……………	366	第376図	中世の遺構……………	435
第349図	溝跡出土遺物 (62) ……………	367			

図 版 目 次

<第2分冊>

図版 1	調査区航空写真
図版 2	調査区全景 (南から) 調査区全景 (北から)
図版 3	調査区全景 (北西から)

	調査区南側 (西から)
図版 4	第1号方形周溝墓 第3・4号方形周溝墓
図版 5	第2号方形周溝墓

- 第2号方形周溝墓遺物出土状況
- 図版6 第3号方形周溝墓
第4号方形周溝墓
- 図版7 第18号溝跡
第18号溝跡遺物出土状況
- 図版8 第4・5・6・7・8号住居跡(東から)
第3号住居跡カマド
第4号住居跡(西から)
第6号住居跡(東から)
第7号住居跡(東から)
- 図版9 第7号住居跡カマド
第7号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
第8号住居跡(東から)
第8号住居跡カマド(南から)
第11号住居跡(東から)
第12号住居跡(西から)
第13号住居跡(西から)
第13号住居跡カマド
- 図版10 第14号住居跡(東から)
第16号住居跡(西から)
第16号住居跡と周囲の溝跡(東から)
第18号住居跡(東から)
第19号住居跡(北西から)
第19号住居跡遺物出土状況
第20号住居跡(東から)
第21号住居跡(東から)
- 図版11 第22号住居跡(南東から)
第23号住居跡(東から)
第24号住居跡(西から)
第25(奥)・26(手前)号住居跡(東から)
第27号住居跡と溝跡(西から)
第28号住居跡(南から)
第28号住居跡と周囲の溝跡(東から)
第29・32号住居跡(南から)
- 図版12 第29号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
第30号住居跡(西から)
第31号住居跡(東から)
- 第32号住居跡(西から)
第34号住居跡(西から)
第35号住居跡(南から)
第37号住居跡(西から)
第36・41号住居跡(西から)
- 図版13 調査区東中央部住居跡集中地点遠景
調査区東中央部住居跡集中地点(北から)
第40(右)・42(左)号住居跡(西から)
第44~48号住居跡(西から)
第49号住居跡(北から)
- 図版14 第2号掘立柱建物跡(西から)
第2号掘立柱建物跡P2
第2号掘立柱建物跡P6
第2号掘立柱建物跡P7
第2号掘立柱建物跡P9
- 図版15 第1・3・4号掘立柱建物跡(南から)
第5号掘立柱建物跡(北から)
第6号掘立柱建物跡(西から)
第7号掘立柱建物跡(南から)
第8号掘立柱建物跡(北から)
第9号掘立柱建物跡(西から)
第11号掘立柱建物跡(南から)
第12号掘立柱建物跡(南から)
- 図版16 第13号掘立柱建物跡(東から)
第14号掘立柱建物跡(西から)
第16号掘立柱建物跡(東から)
第16号掘立柱建物跡(北から)
第17号掘立柱建物跡(西から)
第18号掘立柱建物跡(東から)
第19号掘立柱建物跡(西から)
第21号掘立柱建物跡(南から)
- 図版17 第2号井戸跡
第2号井戸跡木枠
第2号井戸跡木枠近影
第3号井戸跡遺物出土状況
第5号井戸跡(東から)
第6号井戸跡(東から)

	第7号井戸跡（西から）	第129号土壙遺物出土状況
	第7号井戸跡木杵近影	第144号土壙遺物出土状況
図版18	第8号井戸跡（東から）	P481遺物出土状況
	第9号井戸跡（東から）	P585耳環出土状況
	第11号井戸跡（東から）	P693遺物出土状況
	第15号井戸跡（東から）	図版23 第1号火葬墓
	第17号井戸跡（北から）	第1号土壙墓
	第19号井戸跡（東から）	図版24 第2・4号溝跡
	第20（右）・24（左）号井戸跡（西から）	第4・57号溝跡（北から）
	第21号井戸跡（南から）	図版25 第3号溝跡遺物出土状況
図版19	第22号井戸跡（西から）	第3号溝跡遺物出土状況
	第23号井戸跡（北から）	第3号溝跡遺物出土状況
	第25号井戸跡（南から）	第3号溝跡遺物出土状況
	第26号井戸跡（南から）	第3号溝跡
	第27号井戸跡（東から）	図版26 第16号溝跡
	第28号井戸跡（北から）	第16号溝跡
	第29号井戸跡（東から）	第21号溝跡
	第31号井戸跡馬頭骨出土状況	第28・31・32号溝跡
図版20	第32号井戸跡（北から）	図版27 第44号溝跡
	第33号井戸跡（東から）	第44号溝跡遺物出土状況
	第34号井戸跡（東から）	第59号溝跡遺物出土状況
	第35号井戸跡（南から）	第57号溝跡
	第40号井戸跡（西から）	図版28 第80号溝跡調査状況
	第43号井戸跡（西から）	第80号溝跡遺物出土状況
	第55号井戸跡（南から）	図版29 第80号溝跡遺物出土状況
	第58号井戸跡（西から）	第80号溝跡遺物出土状況
図版21	第59号井戸跡（南から）	第80号溝跡遺物出土状況
	第63号井戸跡（西から）	第80号溝跡遺物出土状況
	第64号井戸跡（東から）	第80号溝跡遺物出土状況
	第65号井戸跡（西から）	図版30 第80号溝跡遺物出土状況
	第66号井戸跡（西から）	第80号溝跡遺物出土状況
	第67号井戸跡（西から）	図版31 第6号住居跡出土遺物
	第68号井戸跡（西から）	第7号住居跡出土遺物
	第71号井戸跡（西から）	第8号住居跡出土遺物
図版22	第1号竪穴状遺構（南から）	第12号住居跡出土遺物
	第4号竪穴状遺構（北から）	第13号住居跡出土遺物
	第50号土壙遺物出土状況	図版32 第13号住居跡出土遺物

	第14号住居跡出土遺物		第43号土壙出土遺物
	第16号住居跡出土遺物		第50号土壙出土遺物
	第19号住居跡出土遺物	図版40	第51号土壙出土遺物
	第21号住居跡出土遺物		第71号土壙出土遺物
	第22号住居跡出土遺物		第80号土壙出土遺物
	第24号住居跡出土遺物		第106号土壙出土遺物
図版33	第24号住居跡出土遺物		第117号土壙出土遺物
	第26号住居跡出土遺物		第127号土壙出土遺物
	第28号住居跡出土遺物		第129号土壙出土遺物
	第30号住居跡出土遺物	図版41	第155号土壙出土遺物
図版34	第32号住居跡出土遺物		第363号ピット出土遺物
	第37号住居跡出土遺物		第445号ピット出土遺物
	第40号住居跡出土遺物		第465号ピット出土遺物
図版35	第42号住居跡出土遺物		第530号ピット出土遺物
	第44～48号住居跡出土遺物		第693号ピット出土遺物
	第49号住居跡出土遺物		第855号ピット出土遺物
	第1号掘立柱建物跡出土遺物	図版42	第3号溝跡出土遺物
	第2号掘立柱建物跡出土遺物	図版43	第3号溝跡出土遺物
図版36	第2号掘立柱建物跡出土遺物	図版44	第3号溝跡出土遺物
	第7号掘立柱建物跡出土遺物	図版45	第3号溝跡出土遺物
図版37	第9号掘立柱建物跡出土遺物	図版46	第3号溝跡出土遺物
	第12号掘立柱建物跡出土遺物	図版47	第3号溝跡出土遺物
	第1号竪穴状跡出土遺物		第7号溝跡出土遺物
	第4号竪穴状跡出土遺物		第21号溝跡出土遺物
	第2号井戸跡出土遺物	図版48	第21号溝跡出土遺物
図版38	第2号井戸跡出土遺物		第28号溝跡出土遺物
	第3号井戸跡出土遺物		第30号溝跡出土遺物
	第5号井戸跡出土遺物	図版49	第44号溝跡出土遺物
	第7号井戸跡出土遺物		第57号溝跡出土遺物
	第13号井戸跡出土遺物		第59号溝跡出土遺物
	第20号井戸跡出土遺物		第80号溝跡出土遺物
図版39	第21号井戸跡出土遺物	図版50	第80号溝跡出土遺物
	第52号井戸跡出土遺物	図版51	第80号溝跡出土遺物
	第63号井戸跡出土遺物	図版52	第80号溝跡出土遺物
	第66号井戸跡出土遺物	図版53	第80号溝跡出土遺物
	第79号井戸跡出土遺物	図版54	第80号溝跡出土遺物
	第20号土壙出土遺物	図版55	第80号溝跡出土遺物

- | | | |
|------|---------------|----------------|
| 図版56 | 第80号溝跡出土遺物 | 第144号土壙出土遺物 |
| 図版57 | 第80号溝跡出土遺物 | 図版69 |
| 図版58 | 第80号溝跡出土遺物 | 第155号土壙出土遺物 |
| | 第134号溝跡出土遺物 | 第481号ピット出土遺物 |
| | グリッド出土遺物 | 第44号溝跡出土遺物 |
| 図版59 | グリッド出土遺物 | 図版70 |
| | 表採遺物 | 第44号溝跡出土遺物 |
| | 第7号住居跡出土遺物 | 第59号溝跡出土遺物 |
| 図版60 | 第14号住居跡出土遺物 | 第80号溝跡出土遺物 |
| | 第19号住居跡出土遺物 | 図版71 |
| | 第24号住居跡出土遺物 | 第80号溝跡出土遺物 |
| | 第29号住居跡出土遺物 | 図版72 |
| | 第32号住居跡出土遺物 | 第80号溝跡出土遺物 |
| 図版61 | 第32号住居跡出土遺物 | 図版73 |
| | 第42号住居跡出土遺物 | グリッド出土遺物 |
| | 第43号住居跡出土遺物 | 図版74 |
| | 第2号掘立柱建物跡出土遺物 | グリッド出土遺物 |
| | 第82号井戸跡出土遺物 | 表採遺物 |
| 図版62 | 第82号井戸跡出土遺物 | 図版75 |
| | 第127号土壙出土遺物 | 第1号方形周溝墓出土遺物 |
| | 第129号土壙出土遺物 | 図版76 |
| 図版63 | 第129号土壙出土遺物 | 第1号方形周溝墓出土遺物 |
| | 第3号溝跡出土遺物 | 第2号方形周溝墓出土遺物 |
| | 第28号溝跡出土遺物 | 第3号方形周溝墓出土遺物 |
| | 第44号溝跡出土遺物 | 図版77 |
| 図版64 | 第44号溝跡出土遺物 | 第18号掘立柱建物出土遺物 |
| | 第45号溝跡出土遺物 | 第7号井戸跡出土遺物 |
| | 第59号溝跡出土遺物 | 第10号井戸跡出土遺物 |
| | 第80号溝跡出土遺物 | 第59号井戸跡出土遺物 |
| 図版65 | 第80号溝跡出土遺物 | 第78号井戸跡出土遺物 |
| 図版66 | 第80号溝跡出土遺物 | 第7号溝跡出土遺物 |
| 図版67 | 第145号溝跡出土遺物 | 第14号溝跡出土遺物 |
| | グリッド出土遺物 | 第4号竪穴状不明遺構出土遺物 |
| | 表採遺物 | 図版78 |
| 図版68 | 第24号住居跡出土遺物 | 第28号溝跡出土遺物 |
| | 第61号井戸跡出土遺物 | 第51号溝跡出土遺物 |
| | 第82号井戸跡出土遺物 | 第57号溝跡出土遺物 |
| | | 第80号溝跡出土遺物 |
| | | 第134号溝跡出土遺物 |
| | | 第1号井戸跡出土遺物 |
| | | 図版79 |
| | | 第83号溝跡出土遺物 |
| | | 第94号溝跡出土遺物 |
| | | グリッド出土遺物 |
| | | 表採遺物 |
| | | 図版80 |
| | | 第2号方形周溝墓出土遺物 |
| | | 第3号方形周溝墓出土遺物 |

- 図版81 第2号方形周溝墓出土遺物
第3号方形周溝墓出土遺物
第39号井戸跡出土遺物
- 図版82 弥生土器 1
弥生土器 2
- 図版83 弥生土器 3
弥生土器 4
- 図版84 弥生土器 5
弥生土器 6
- 図版85 緑釉陶器 1
- 図版86 緑釉陶器 2
- 図版87 緑釉陶器 3
- 図版88 緑釉陶器 4
- 図版89 緑釉陶器 5
- 図版90 灰釉陶器 1
- 図版91 灰釉陶器 2
- 図版92 灰釉陶器 3
- 図版93 石製模造品
- 図版94 鉄製品 鉄滓
- 図版95 金属製品 転用紡錘車
- 図版96 土錘
- 図版97 土錘
- 図版98 須恵器 砥石・石製品
- 図版99 砥石 青磁
- 図版100 陶器 古銭
- 図版101 木製品 1
- 図版102 木製品 2
- 図版103 木製品 3
- 図版104 木製品 4
- 図版105 木製品 5
- 図版106 木製品 6
- 図版107 木製品 7
- 図版108 木製品 8
- 図版109 木製品 9
- 図版110 木製品 10
- 図版111 木製品 11
- 図版112 木製品 12
- 図版113 木製品 13
- 図版114 木製品 14
- 図版115 木製品 15
- 図版116 木製品 16
- 図版117 貝殻
- 図版118 骨
- 図版119 骨
- 図版120 骨
- 図版121 骨・種子

9. 溝跡

下田町遺跡の発掘調査では、西側と東側の両調査区から180条の溝跡を検出した。

このうち今回報告の西側調査区からは、152条の溝跡を検出した。調査の結果、これらの溝跡は、規模、形態の違いがあり堆積していた覆土もそれぞれ異なっていた。このため、出土する遺物などから古墳時代から中世に至るまで時期差があることが確認された。

また、これらの溝跡には、様々な性格や機能が考えられる。たとえば、ある一定の空間を区画する溝、用水路や排水路などの溝、道路などの側溝、建物の雨落溝などが考えられる。また、構造や方向は、遺跡の立地に左右されており、中央が高く、北側から東側に向かって緩やかに傾斜している。こうした集落の立地条件に沿って溝が掘られている。

古墳時代の主な溝跡は、調査区の北側に大溝第80号溝跡を検出した。東西方向に走り、集落の北限域を画する溝と考えられる。幅4.1m深さ1.5mを測り大規模な人工的に掘削された溝である。この大溝が集落内の溝跡に大きな影響を与えていると考えられる。

また、この時期の集落内を走る溝跡には、まず、北から南方向に集落を縦断し、取水口が大溝に起因する第16号と第44号溝跡がある。第16号溝跡は緩やかな曲線を落ち蛇行するがほぼ南北方向に掘り込まれている。一方、第44号溝跡はN-40°-Wの斜め方向に伸びる。掘り込みは深く集落内排水溝としての機能が高い溝跡である。しかも、本溝跡には、住居跡の外側周溝が接続する。この外側周溝は、雨落溝または竪穴住居内に流れ込む水の排水処理を行うなどの機能が考えられる。

この、外側周溝と判断した溝跡は、第4号住居跡の第13・17号溝跡、第16号住居跡の第34・55・68号溝跡、第25号住居跡の第70号溝跡、第27号住居跡の第66号溝跡、第28号住居跡の第58・71・73号溝跡、第29号住居跡の第69号溝跡、さらに、住居跡は確認できなかったが、第132号溝跡も同様の機能をもっ

ていたと考えられる。

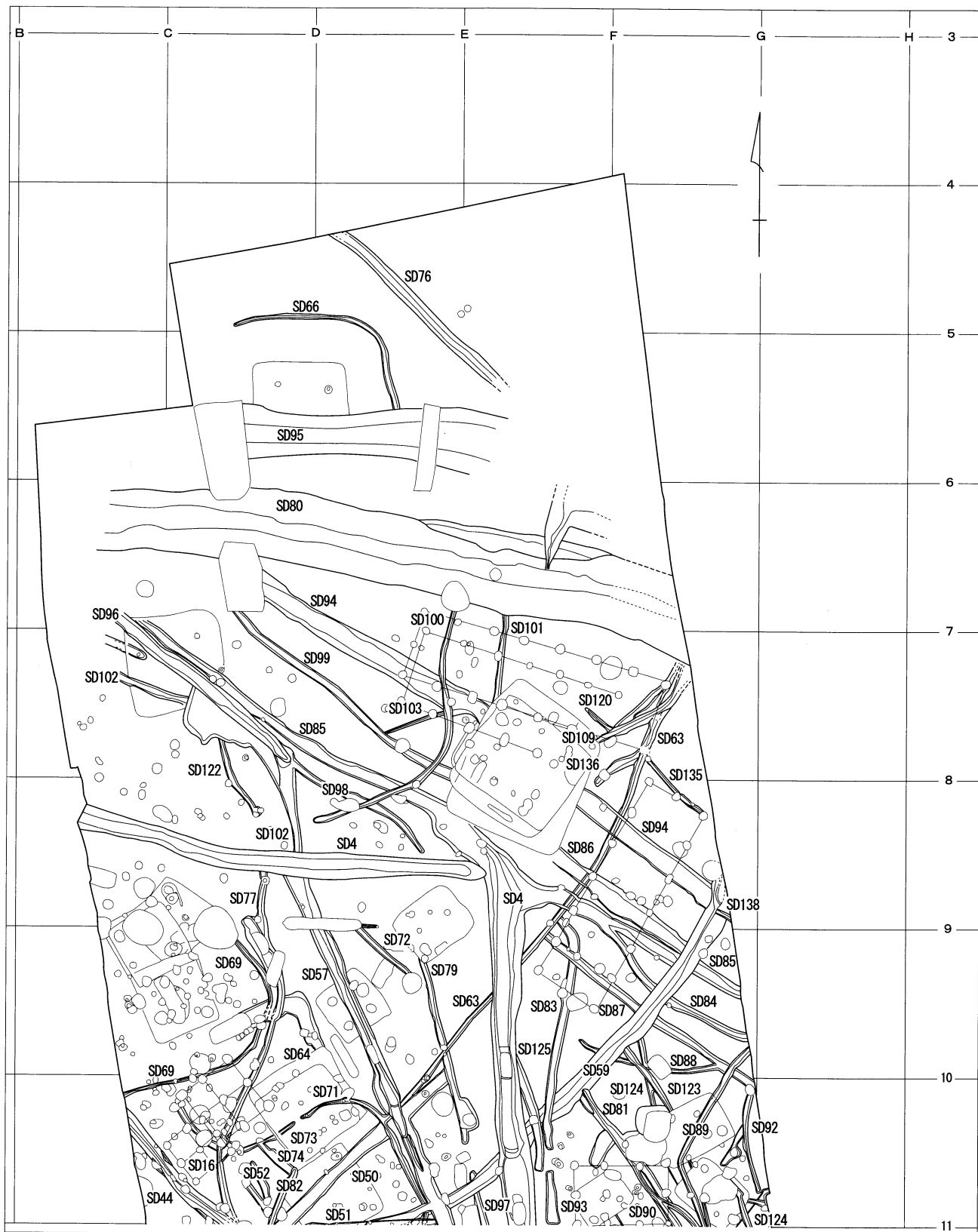
次に、西から東方向に集落を横断し、排水口が大溝に取り付く第21・31・59・63・105号溝がある。それぞれ、規模や掘り方の形状は異なるがいずれも弓なりに弧を描きながら集落内を横断し、大溝跡へ繋がる。ここで注目すべき点は、規模や覆土共通性から第44号溝跡と直行して交わる第59号溝跡の関係、また、第16号溝跡と分岐する第105号溝跡の関係である。いずれも、集落構成を位置付ける溝跡である。前者の溝は、集落内の竪穴住居跡をかなり規則的に配置した構造を推測させる。一方、後者は自然的構成をうかがわせる。

奈良・平安時代の溝跡は、調査区北側に大溝第95号溝跡を検出した。出土遺物はほとんど検出されなかったため時期を断定するには根拠が少ないが、わずかに平安時代の須恵器甕の破片を検出した。

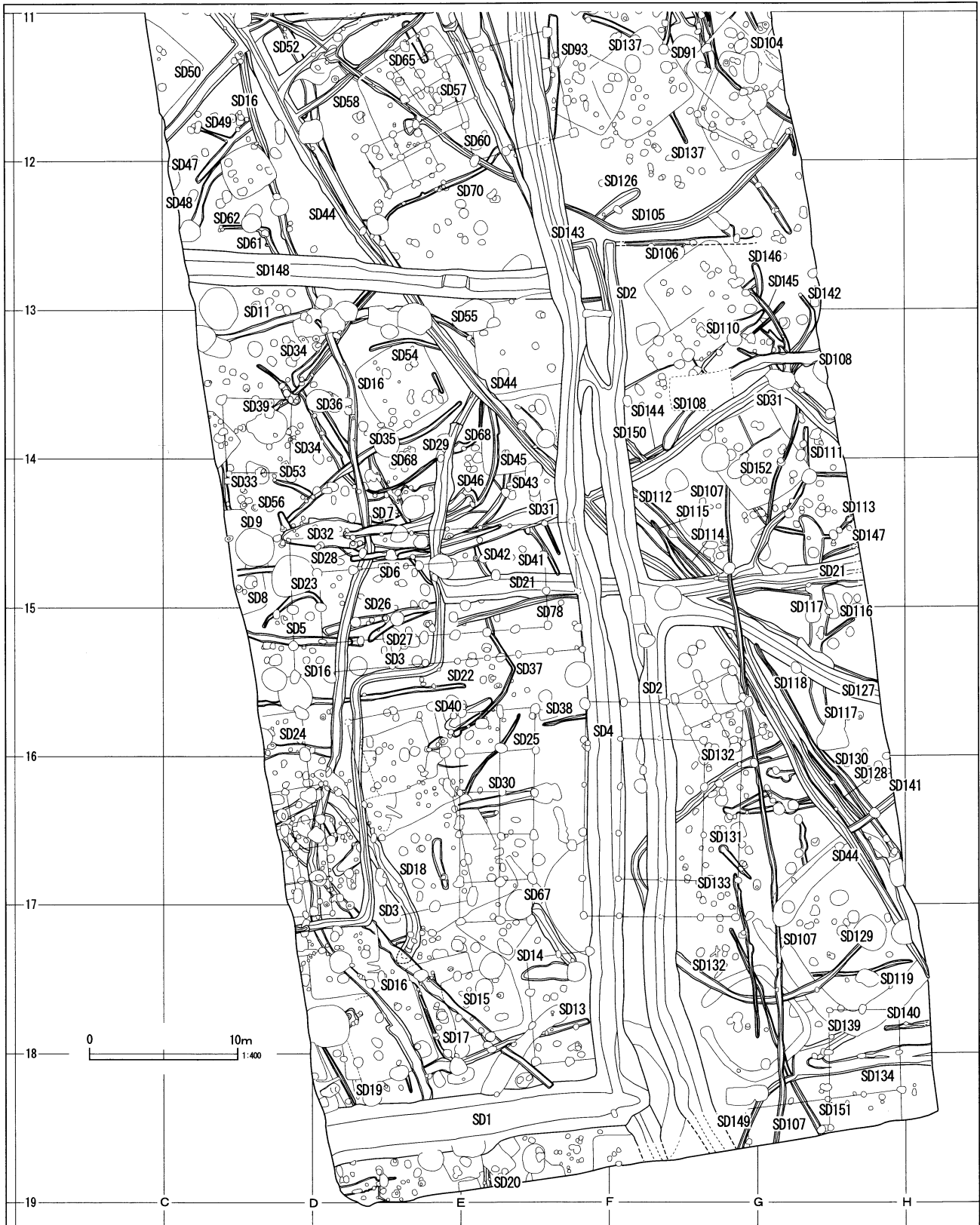
この時期の集落は、掘立柱建物跡を検出し、竪穴住居跡は確認できなかった。このため、集落内を走る溝跡の性格や機能は不明だが、第3・5・11・30・57・94・117・125・134号溝跡などが存在する。

なかでも、第3号溝跡は、大量の須恵器、灰釉・緑釉陶器を検出した。これらの遺物は、溝内に一括投棄されたと考えられ、須恵器は完形に近いものが多く、灰釉・緑釉陶器はかなり壊れ、破片が多い。溝跡はクランクしており、屋敷地の区画をしていたと考えられる。南側には井戸跡、東側には第6・7号掘立柱建物跡が軸をそろえて立ち並ぶ。また、北側には第2号掘立柱建物跡が位置し、溝跡との関係が注意される。

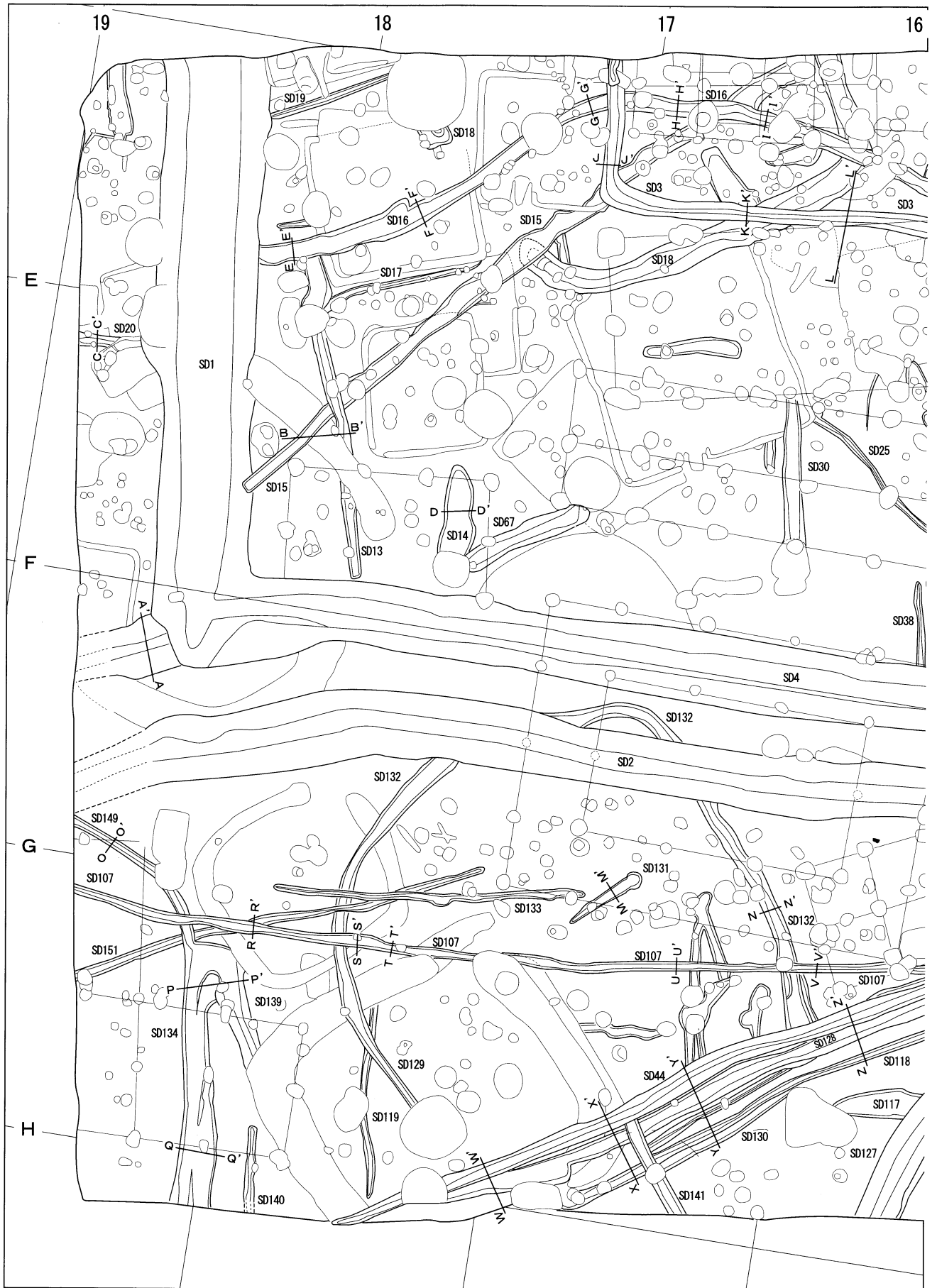
中世の溝跡は、調査区中央を北から、南方向に走る第2・4号溝跡、そして、この溝跡に直行して繋がる調査区南端の第1号溝跡、調査区中央に第148号溝跡、調査区北側に第4号溝跡を検出した。いずれも、規模は大きい。屋敷の区画溝として捉えられる。覆土は青緑色の粘土を主体とし、短時間に埋没したとみられる。



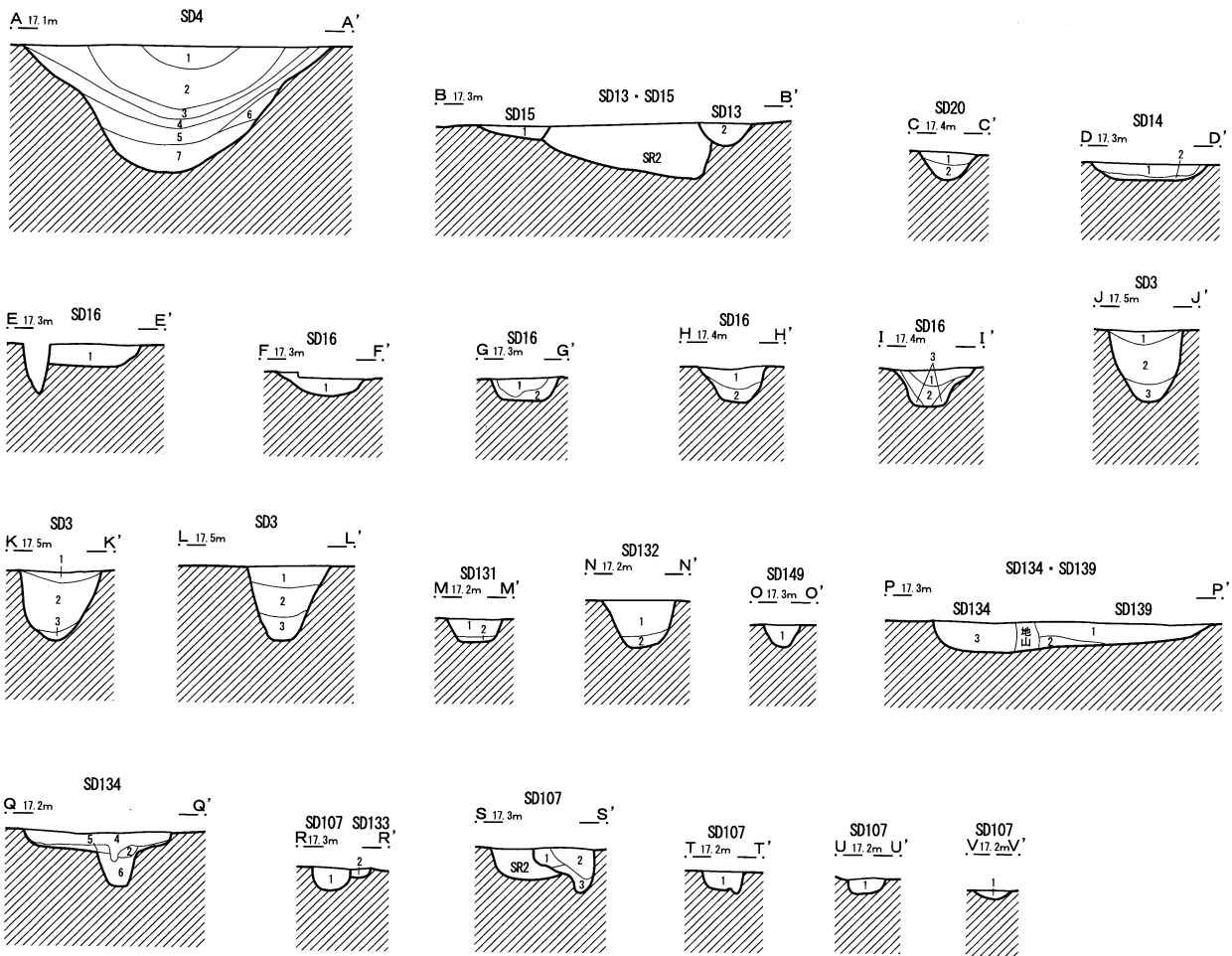
第254図 下田町遺跡溝跡全体図 (1)



第255図 下田町遺跡溝跡全体図 (2)



第256图 沟迹 (1)



第4号溝

- 1 暗黒褐色土 暗灰色土層と互層をなす。粘性強い
- 2 暗灰色土 やや青み帯びる。粘性強い
- 3 暗灰色土 2層との間に、黒色有機質層はさむ
- 4 暗灰色土 暗黒色土と暗灰色土、互層をなす
- 5 暗黒色土 粘性強い
- 6 暗黒色土 青灰色粒子斑状に入る
- 7 暗黒色土 5層より黒味強く、下位は青灰色土ブロック混じる。粘性強い

第13・15号溝

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック多量。SD-15覆土。粘性なし、しまりあり
- 2 茶褐色土 焼土・炭化粒子少量

第20号溝

- 1 褐色土 ローム粒子・微量の焼土・炭化粒子含む
- 2 褐色土 ローム粒子・炭化粒子ふくむ

第14号溝

- 1 暗褐色土 炭化粒子多量。粘性なし、しまりあり
- 2 暗茶褐色土 ロームブロック多量。しまりあり

第16号溝

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黄褐色土 ローム粒子多量
- 3 黄褐色土 ローム粒子多量

第131号溝

- 1 暗褐色土 ローム粒子少量
- 2 暗褐色土 ローム粒子多量

第132号溝

- 1 暗褐色土 炭化物粒子微量、黄褐色土粒子含む
- 2 黄褐色土 暗褐色粒子斑に入り、やや粘性あり

第149号溝

- 1 暗褐色土 黄褐色粒子・ローム粒子含む

第3号溝

- 1 暗褐色土 ローム粒子含み、焼土・炭化物粒子多量。遺物包含層。
- 2 暗褐色土 1層にほぼ同じ
- 3 暗褐色土 ローム粒子、ロームブロック(径2.0cm)少量。遺物混入
- 4 暗褐色土 地山のローム、暗灰色粘質土が入り、炭化物粒子少量。やや粘性あり

第134・139号溝

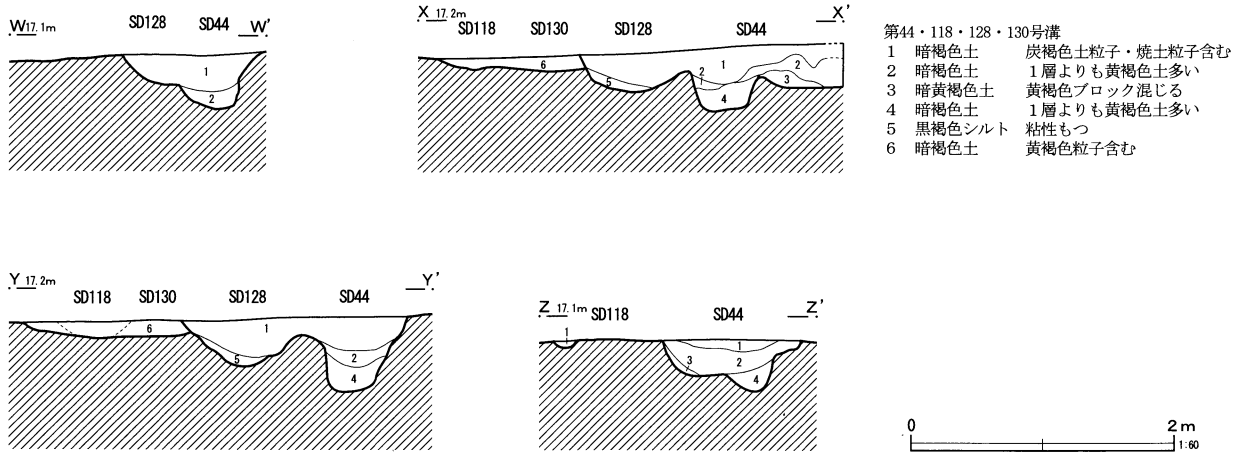
- 1 黄褐色土 黒色土少量。粘性なし
- 2 暗褐色土 ローム粒子少量
- 3 暗褐色土 ロームブロック多量
- 4 暗褐色土 ローム粒子・青灰色土ブロック少量
- 5 暗褐色土 ロームブロック少量
- 6 黒灰褐色土 青灰色土ブロック少量。粘性あり

第107・133号溝

- 1 黒褐色土 黄褐色粒子(径0.5cm)多量。SD-107覆土。平安の覆土
- 2 暗褐色土 褐色粒子多量。SD-133覆土
- 3 黒褐色土 黄褐色土粒子(径0.3~1.0cm)多量



第257図 溝跡 (2)



第258図 溝跡 (3)

第1号溝跡

調査区南側のD・E・F-18グリッドに位置する。東西方向に伸び、第4号溝跡と直行して交わる。検出した規模は全長21.3m、西側での幅3.6m、深さ65cm、グリッドラインE付近の中間地点で幅3.2m、深さ55cm、第4号溝跡付近で幅3.4m、深さ51cmである。幅広く掘り込みは青灰色の粘土層まで達し深い。箱形で底面は平坦で西から東に緩やかな傾斜を伴う。

本溝跡は、第2・4・148号溝跡と合わせ方形区画を形成している。さらに、第148号溝跡より南側では第2号溝跡と平行し、調査区南側に伸びる。また、第83・85・93号溝跡も同時期の溝跡である。

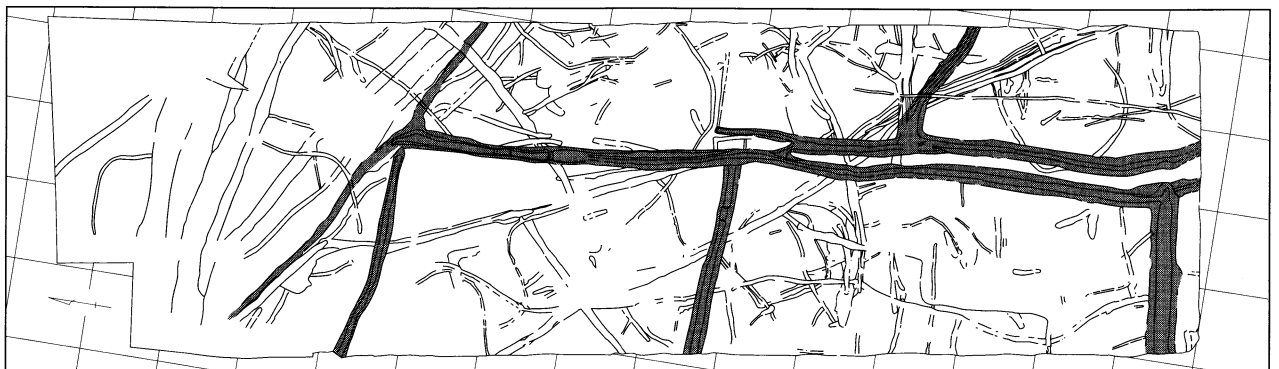
出土遺物は、常滑の甕の胴部破片、軽石を検出。

第2号溝跡

調査区中央のF-12~18グリッドに位置する。南北方向に伸び、南側は調査区域外へ伸び、北側はF-12グリッドで立ち上がり途切れる。これより北側は、検出されていない。また、立ち上がる位置には、西側に第148号溝跡が本溝跡と直交し、さらに、第4号溝跡と平行する。

検出した規模は全長59.3m、南側で幅2.3m、深さ88cm、F-16で幅2.0m、深さ60cm、北側先端で幅0.8m、深さ15cmである。幅広く、掘り込みは青灰色の粘土層まで達し深い。断面形態は箱薬研である。

出土遺物は、渥美焼き甕の口縁部破片、在地産片口鉢の破片を検出した。



第259図 溝跡 (4)

第3号溝跡

調査区南西のD-14~17グリッドに位置する。本遺構の南側には、第2号井戸跡が存在する。東側には、第6・7号掘立柱建物跡が位置し、北側には、重複するように第2号掘立柱建物跡が存在する。

また、南側の第15・16号溝跡を切り、北側では、第21・22号溝跡を切り、第5号井戸跡に切られる。南側では、調査区域外へ伸び、東西方向、南北方向、そして、東西、再び南北方向にクランクしながら伸びる。本遺構は、第6・7号掘立柱建物跡を意識した西側区画溝の可能性が考えられる。

検出した溝の規模は、全長31.5m、南側の東西方向で長さ4.8m、幅56cm、深さ54cm。中央の南北方向で長さ17.1m、幅60cm、深さ56cm。北側東西方向で長さ5.5m、幅60cm、深さ56cm。北端の南北方向で長さ4.1m、幅60cm、深さ56cmである。北端は第5号井戸跡に切られている。井戸北側の第29号溝跡は古墳時代後期の溝跡である。

溝の形態は、ほぼ箱形に掘り込まれている。

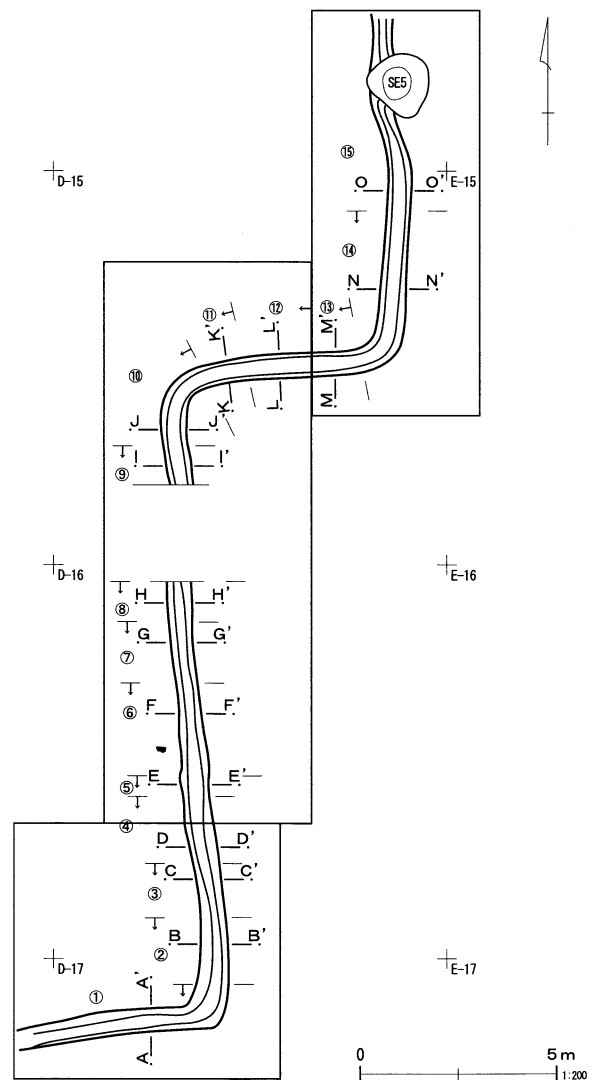
覆土は、黒褐色土を主体とし、焼土粒子・炭化粒子をとめない、大量の須恵器とともに、灰釉陶器、緑釉陶器が混在する。覆土上面は焼土ブロック、炭化物を多くとめない、羽口や碗形鍛冶滓を検出した。溝跡周辺に鍛冶炉の存在も考えられるが、検出することはできなかった。覆土は焼土粒子、炭化物粒子、ローム粒子を多量に含む。底面近くにはローム粒子、ブロックを含む。覆土中全体から遺物を検出する。

溝跡の覆土内からは、須恵器杯・高台付杯・耳皿、内黒土器、灰釉陶器碗・皿、緑釉陶器碗・香炉・輪花碗、鉄製品釘などの遺物を大量に検出した。

須恵器の胎土は、白色針状物質を含む粘質の強い粘土に、少量の砂粒子を混和材として混入させている。杯は口径11~12cm台で器高3cm台が主体である。整形は、ロクロ整形により、底部を回転糸切り離し、体部はロクロ目が明瞭に細かく残るものと、体部上半に凹凸が強く残るものがある。形態の特徴は、底部糸じりが円柱部分を残し、やや厚くわずかに上げ

底気味である。体部は、1・10・18など内湾気味にたちあがるものと、2・4・20など直線的に立ち上がるもの、3・21~23など外反するものが見られる。全体的に器肉厚く、焼成は還元焼成されてはいるが、カンカンな須恵器の焼成による焼き上がり状態とはことなり甘く焼成されている。161・162・163・164は酸化焰焼成に近く色調が明褐色である。

高台碗は、口径13cm台で器高4~5cm台が主体である。整形は、ロクロ整形により、底部回転糸切り離し後に、ハの字状に開く高台が貼り付く。なかでも、187・210・211・212などは高台が高い。体部はロクロ目が明瞭に細かく残る。形態の特徴は、底部の腰部分に高台が貼り付く。体部は、165・166・

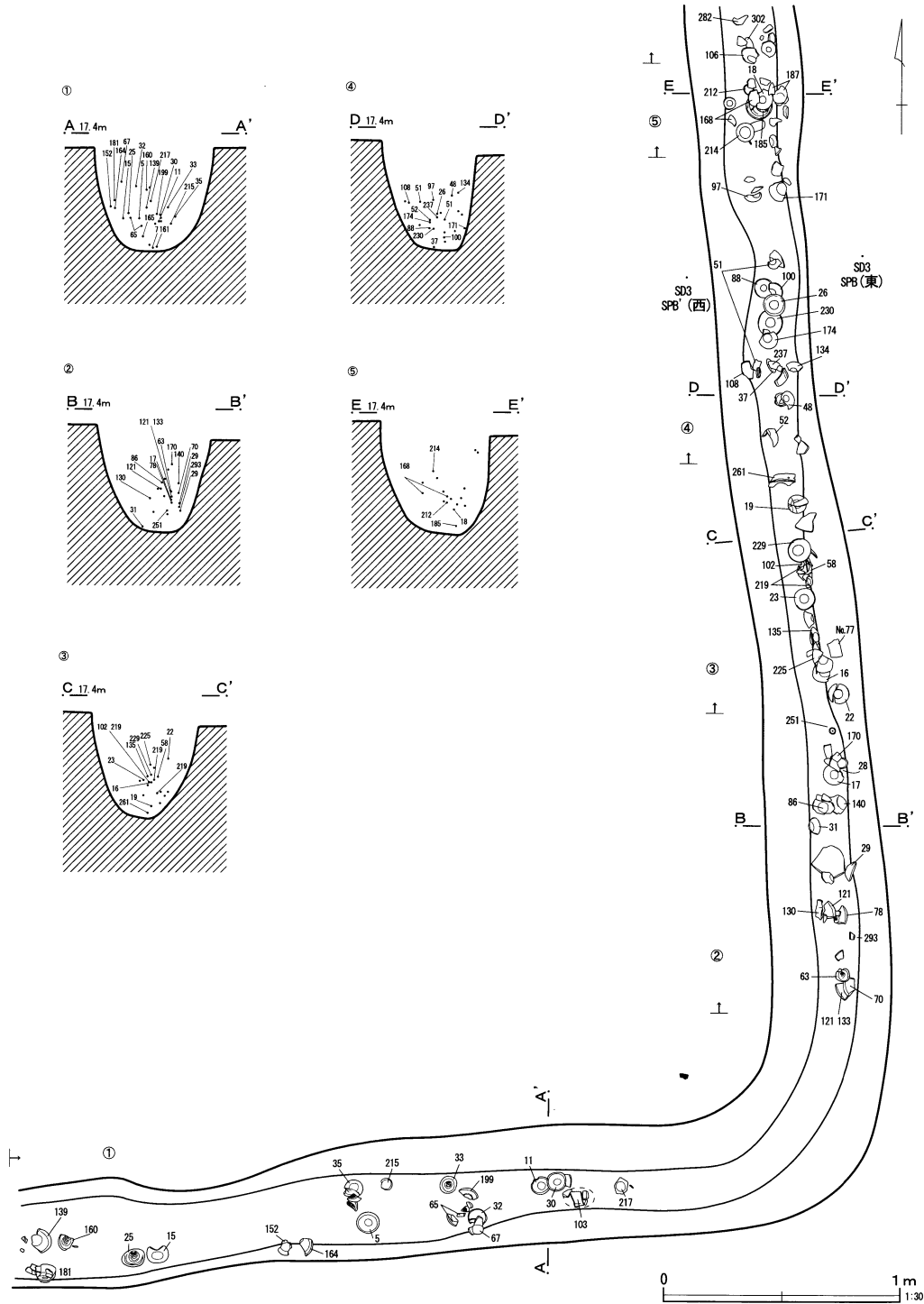


第260図 第3号溝跡区割図

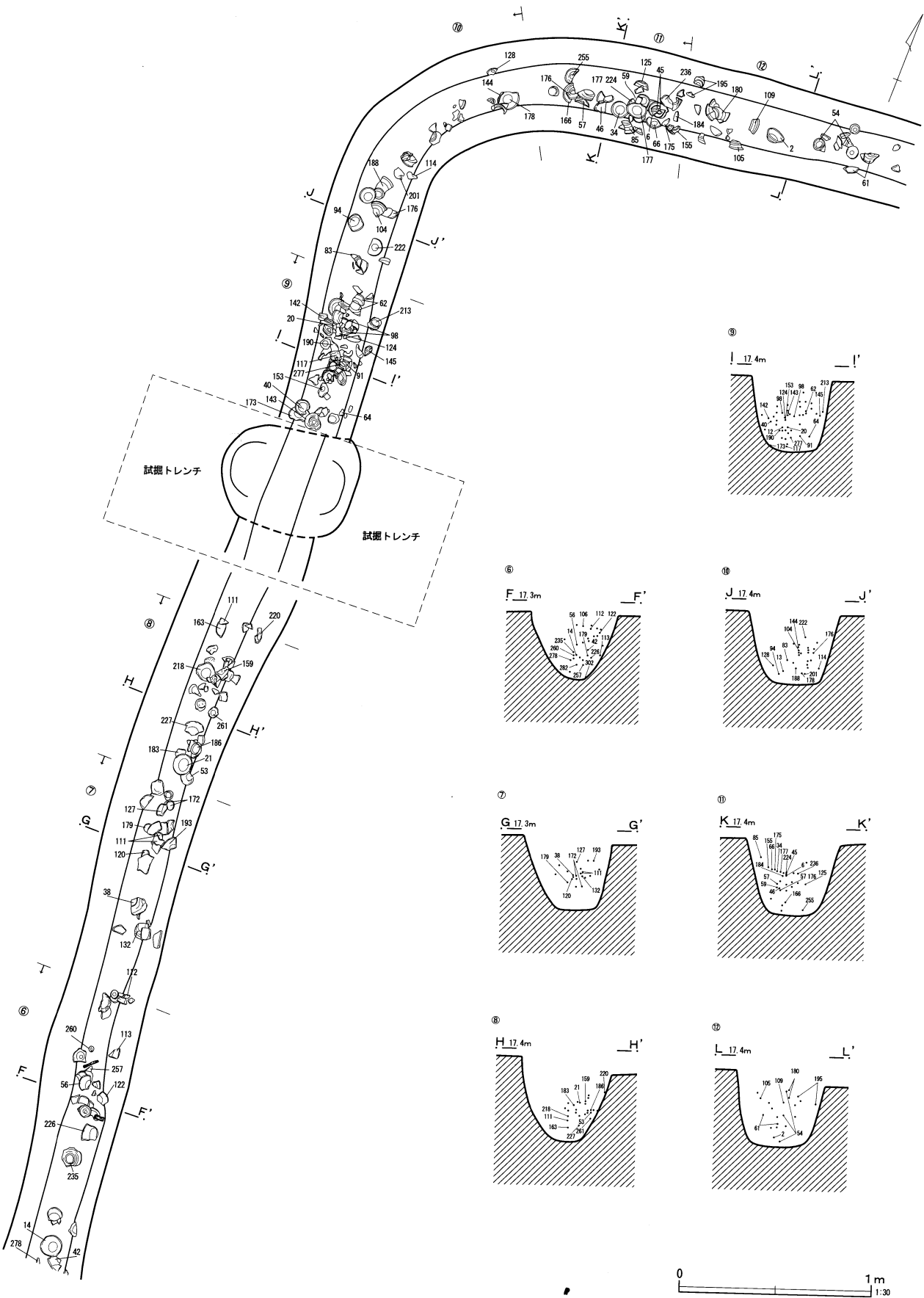
175など内湾気味にたちあがるものと、169・186・202など直線的に立ち上がるもの、192・200など外反するものが見られる。全体的に器肉厚く、焼成は還元焼成されてはいるが、カンカンな須恵器の焼成による焼き上がり状態とはことなり甘く焼成されている。223～231は酸化焰焼成に近く色調が黄灰～橙

色である。

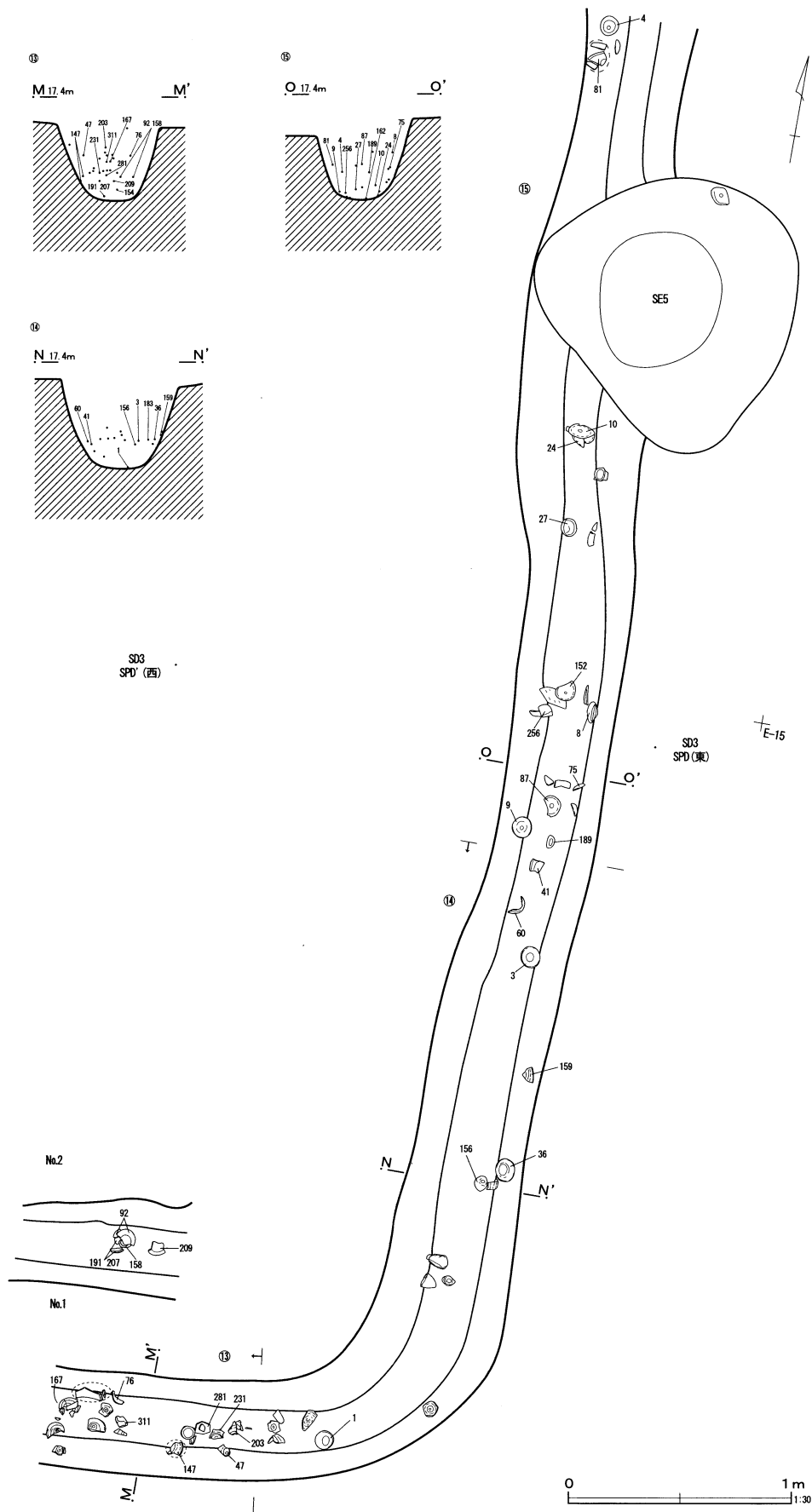
内黒土器は、232～235・237などである。胎土は須恵器高台埴に近似する。焼成が異なり内面を横方向に細かく磨き、黒色処理している。189は、体部外面に「大」の墨書、216の底部外面に「井」の篋描きを検出した。240・241は須恵器耳皿である。



第261図 第3号溝跡遺物出土状況(1)

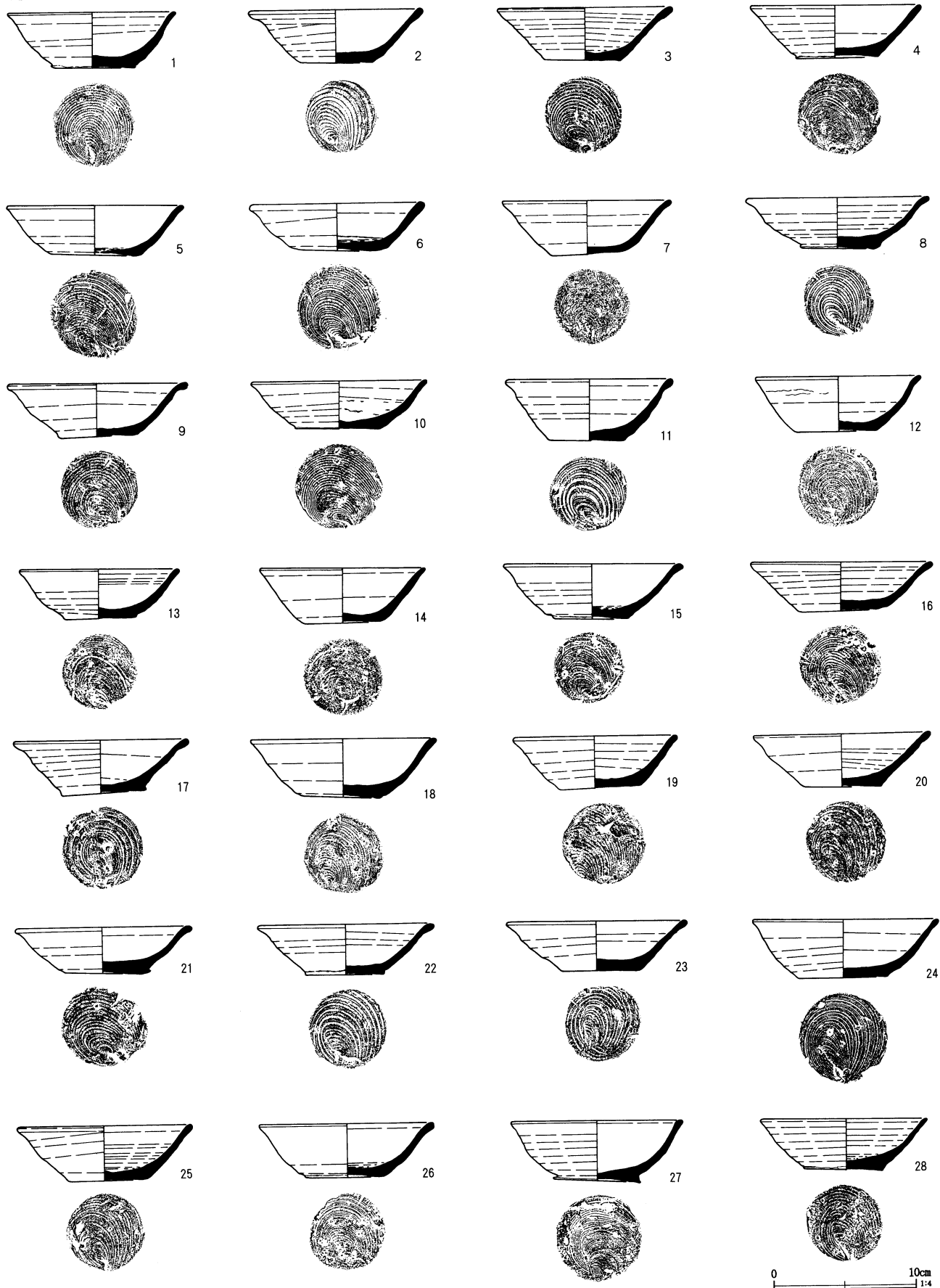


第262図 第3号溝跡遺物出土状況 (2)



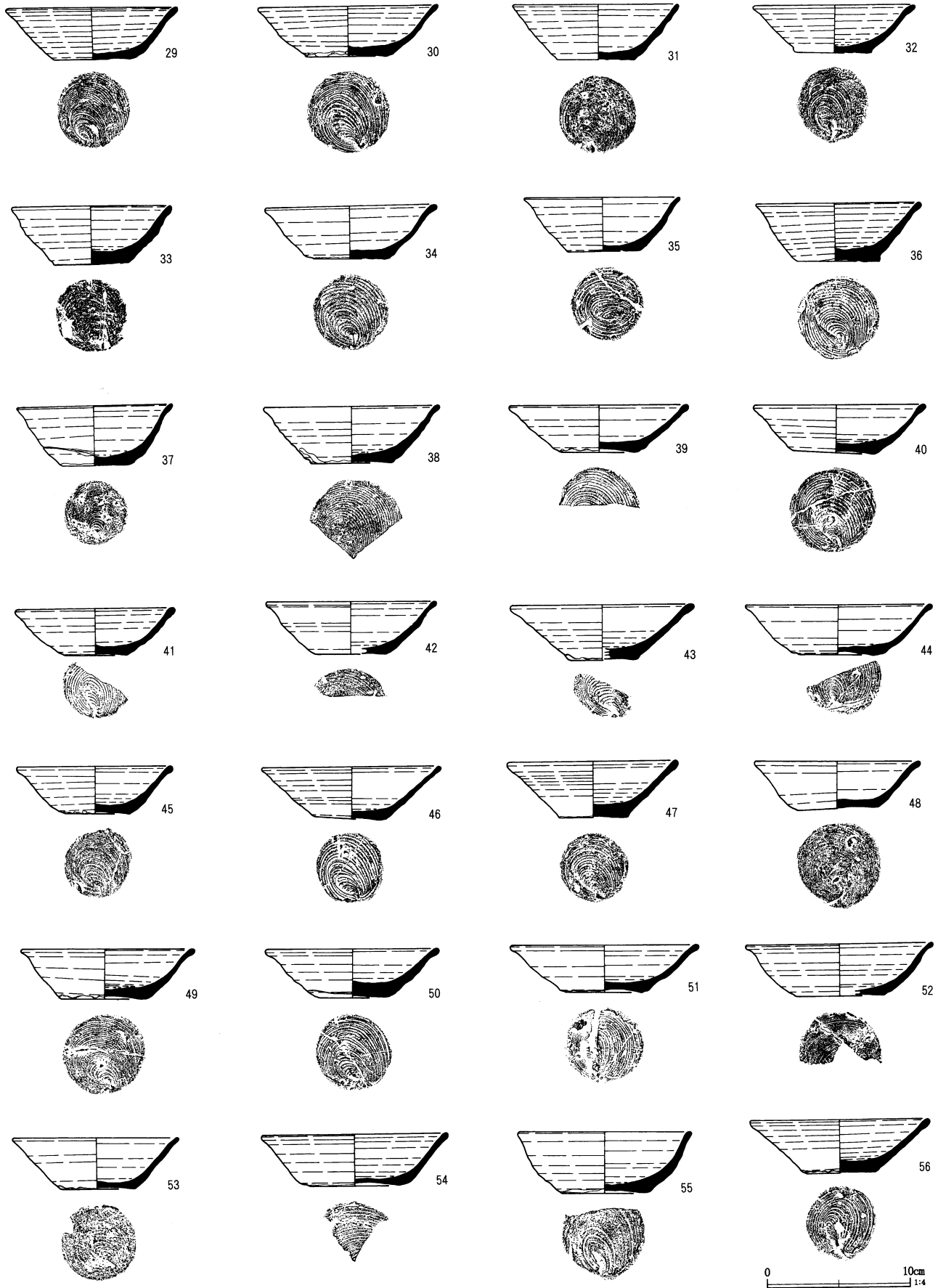
第263図 第3号溝跡遺物出土状況 (3)

SD3



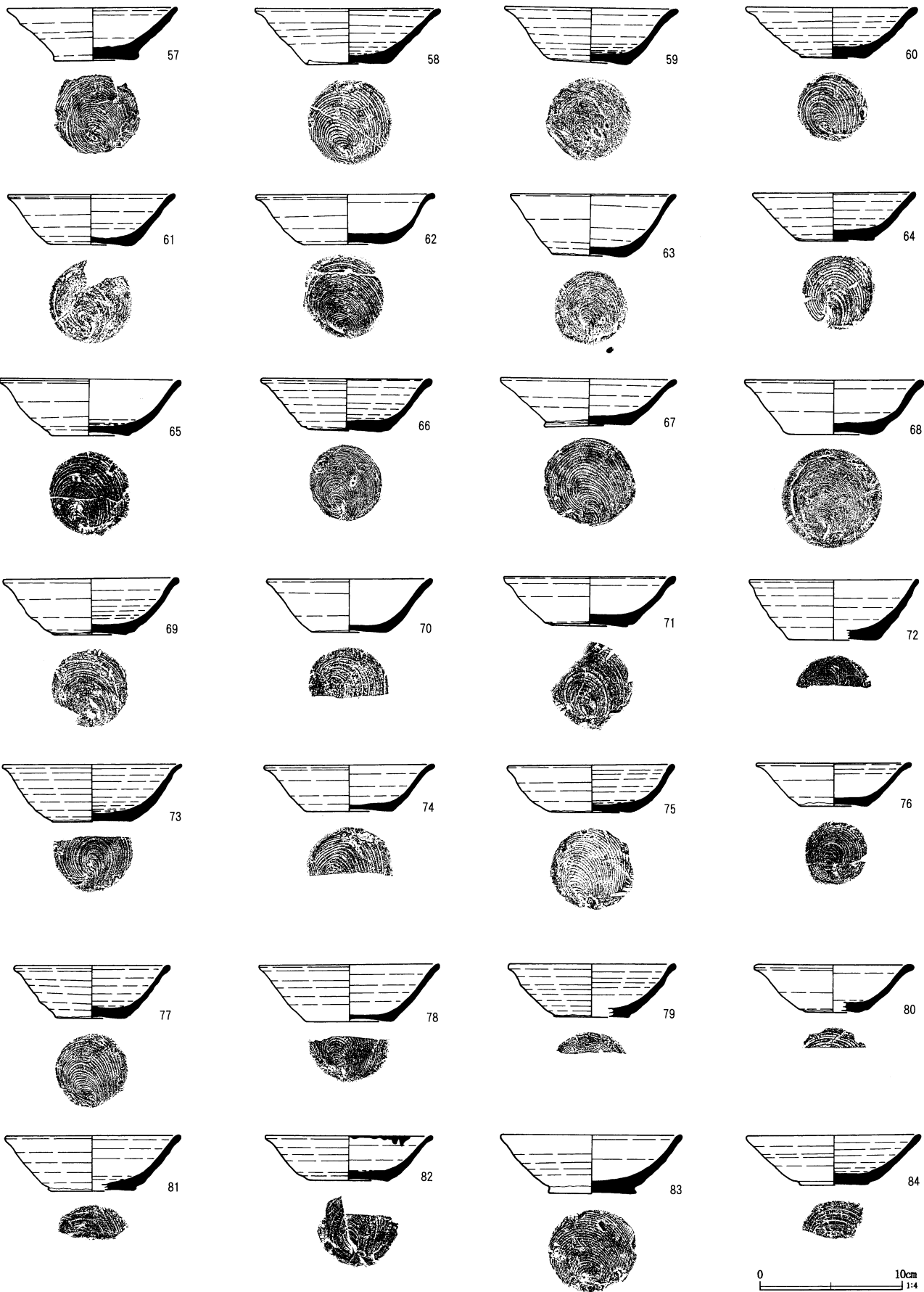
第264图 沟迹出土遗物 (1)

SD3



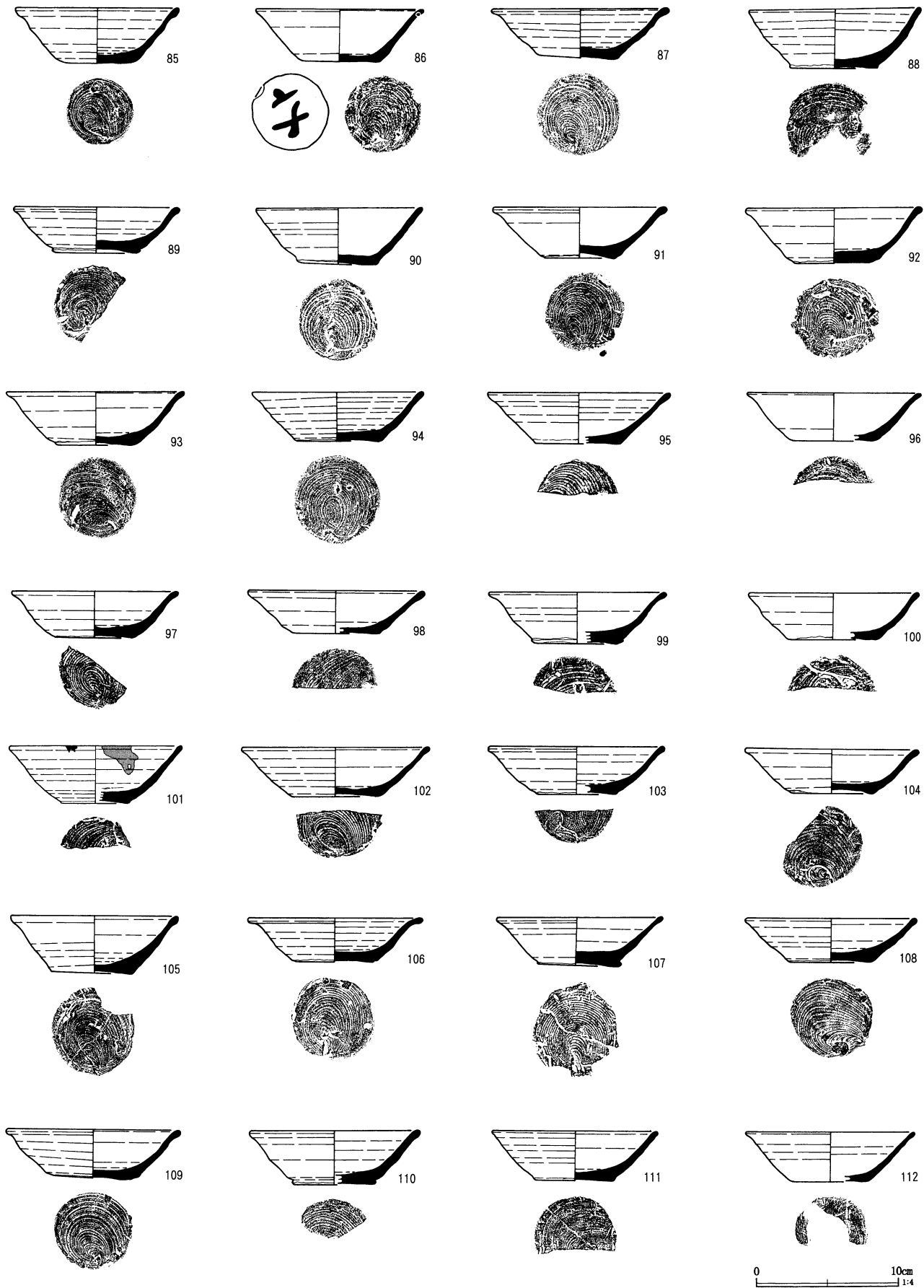
第265图 沟迹出土遗物 (2)

SD3



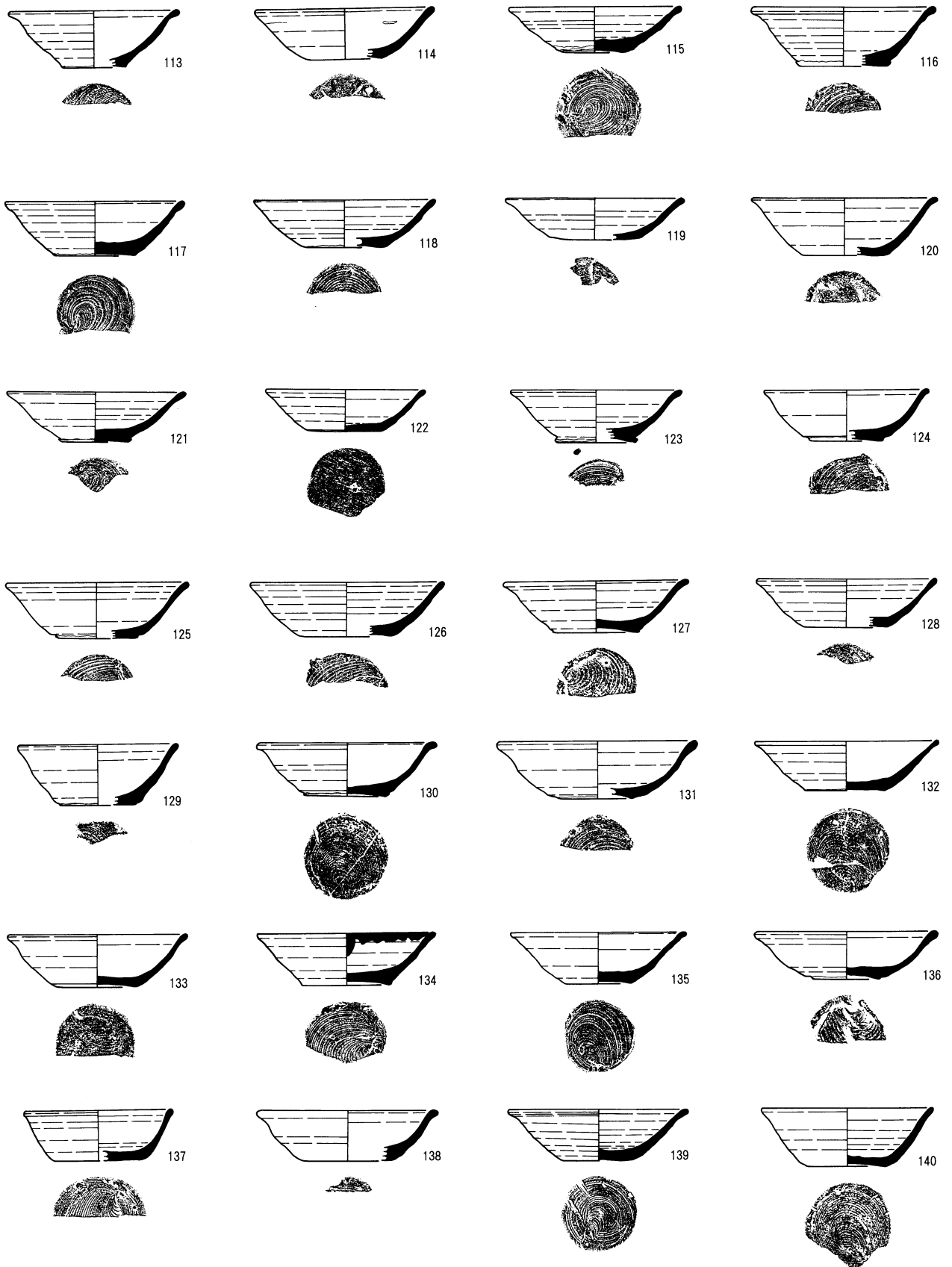
第266图 清跡出土遺物 (3)

SD3



第267图 沟跡出土遺物 (4)

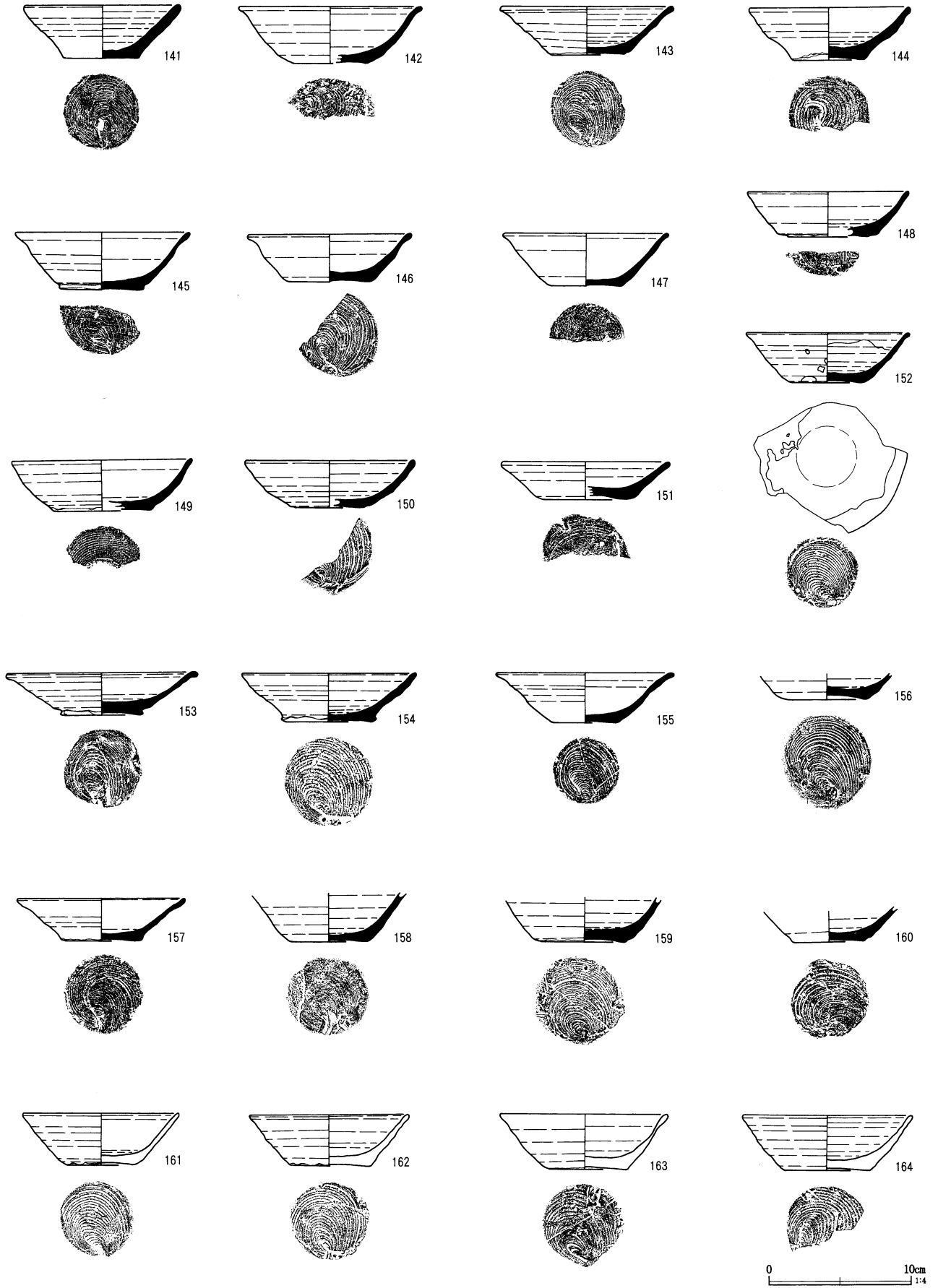
SD3



0 10cm 1:4

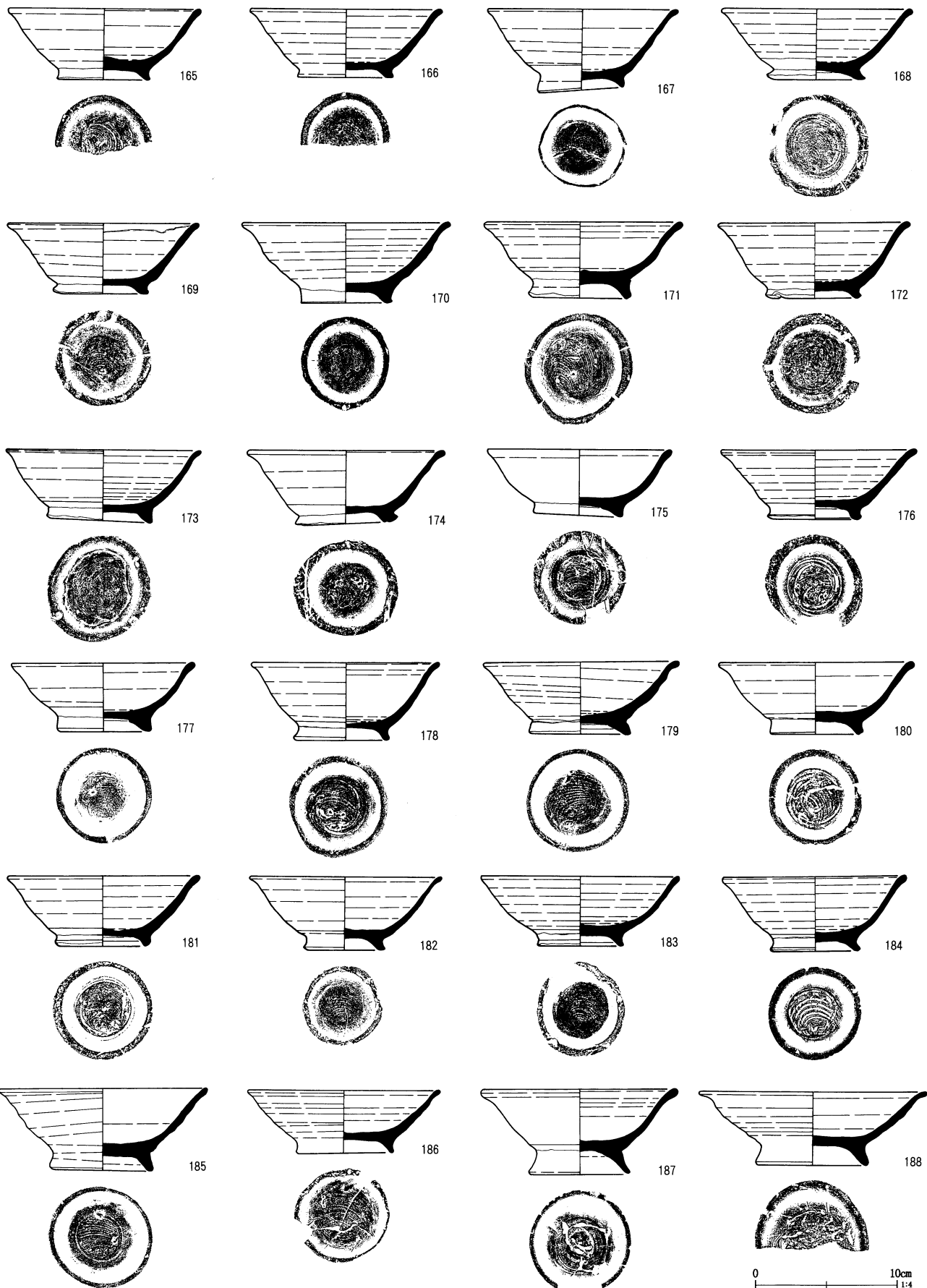
第268图 溝跡出土遺物 (5)

SD3



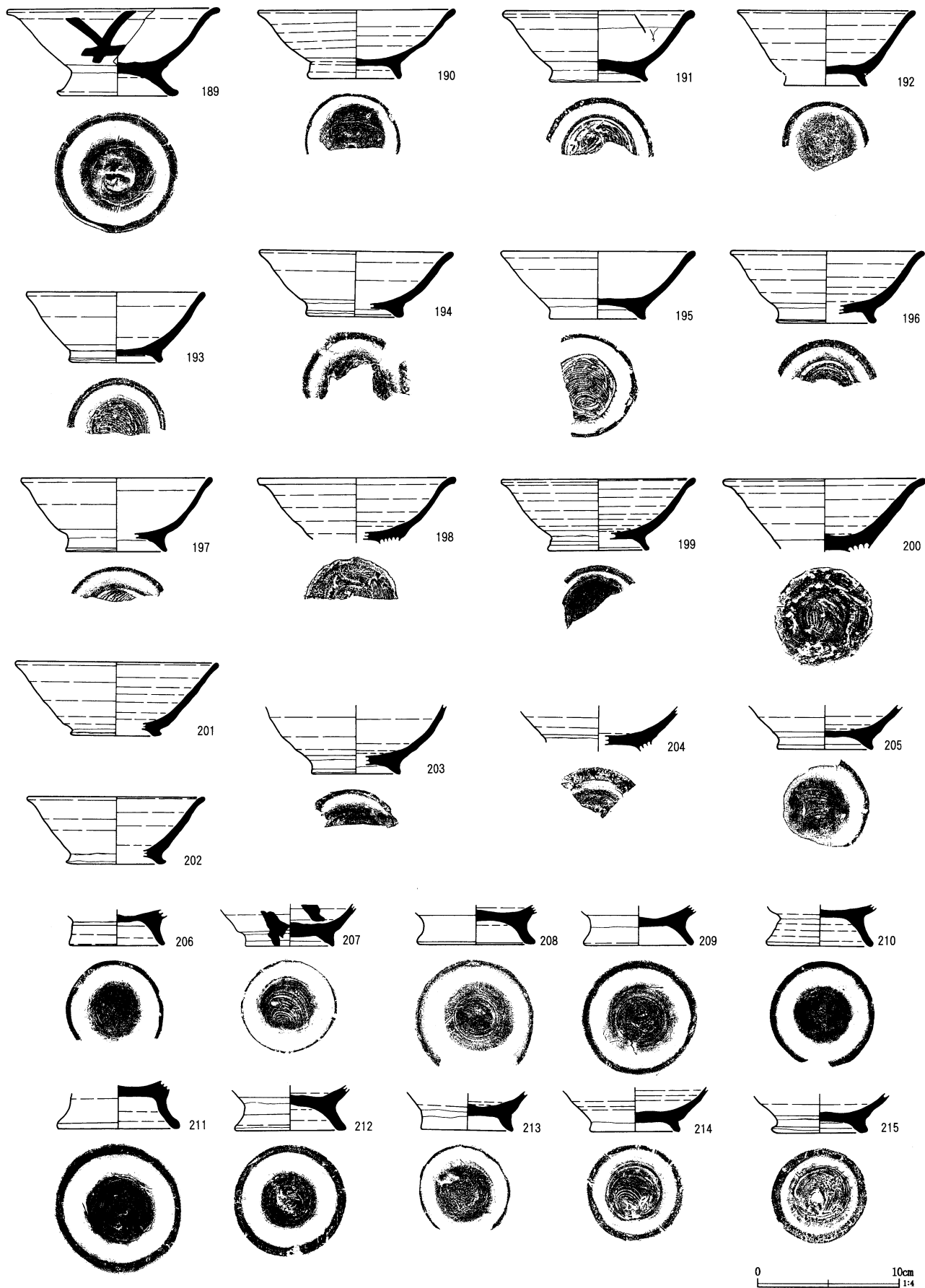
第269图 沟跡出土遺物 (6)

SD3



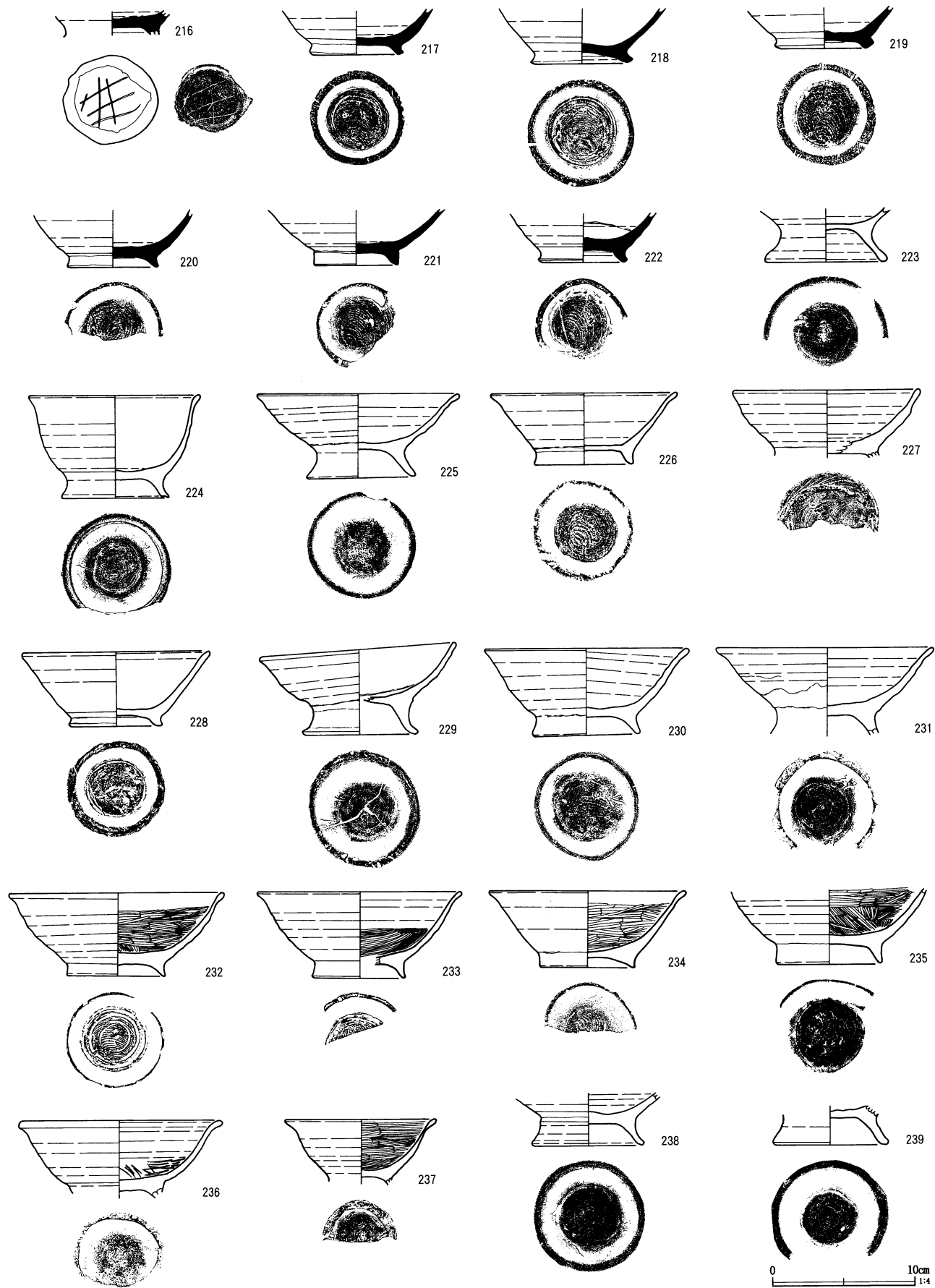
第270图 溝跡出土遺物 (7)

SD3



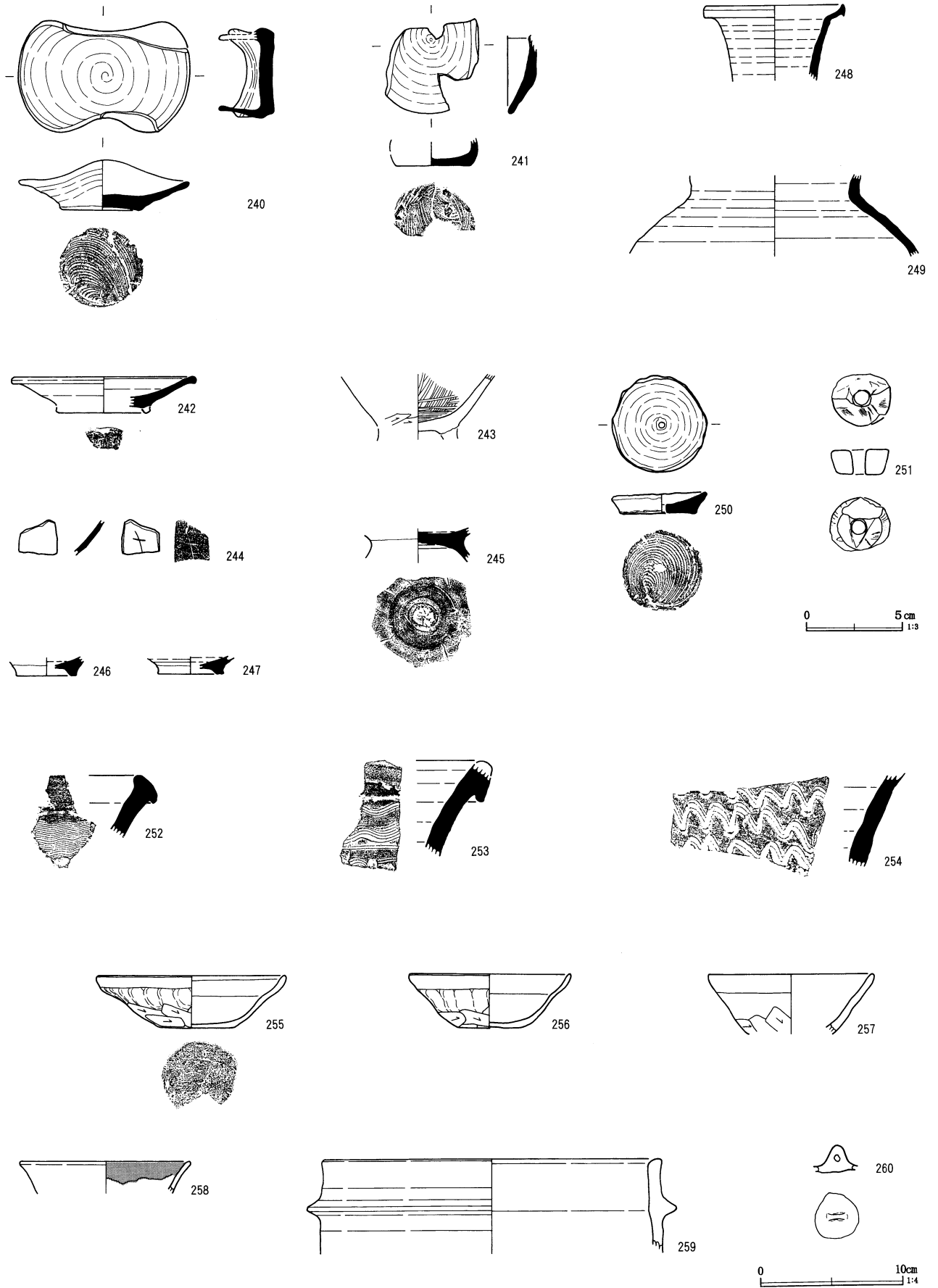
第271图 清跡出土遺物 (8)

SD3



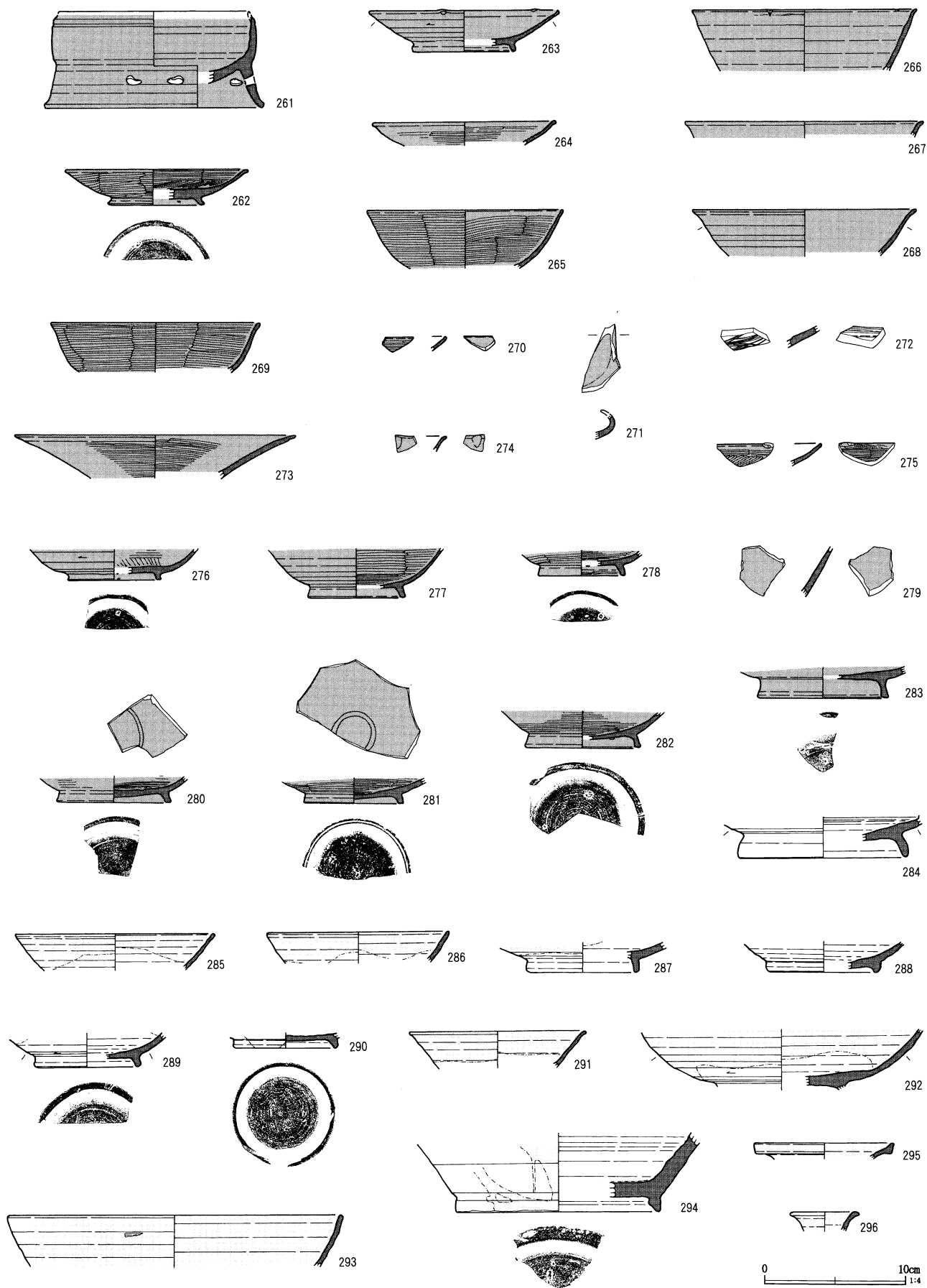
第272図 溝跡出土遺物 (9)

SD3

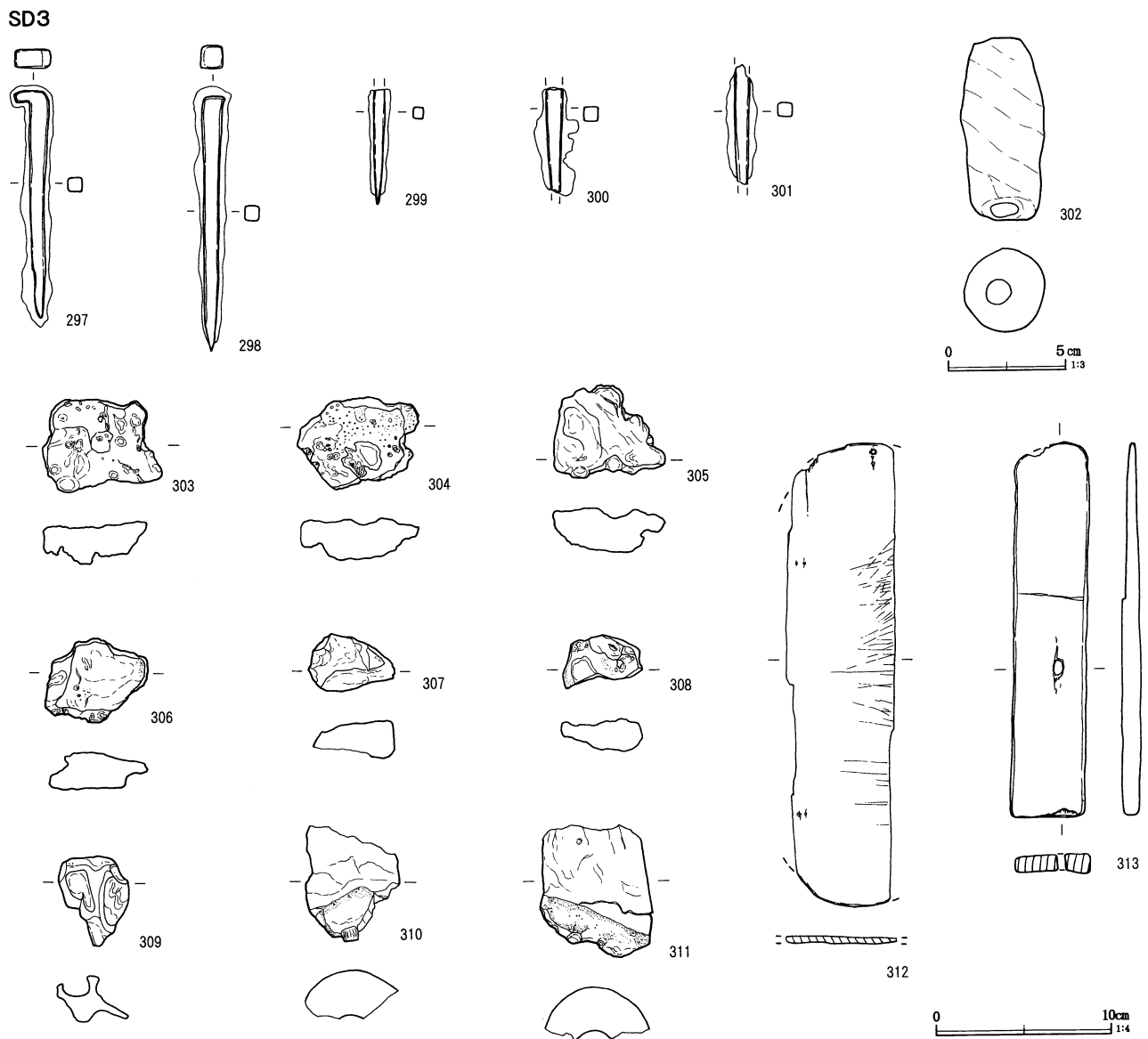


第273图 溝跡出土遺物 (10)

SD3



第274图 清跡出土遺物 (11)



第275図 溝跡出土遺物 (12)

紡錘車は250が須恵器底部の転用、251は滑石製である。

須恵器甕は、252・253が細かな多条の波状文、254は3条三段が確認できる粗い波状文である。

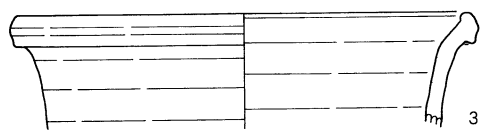
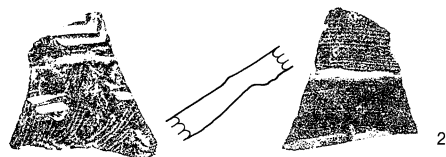
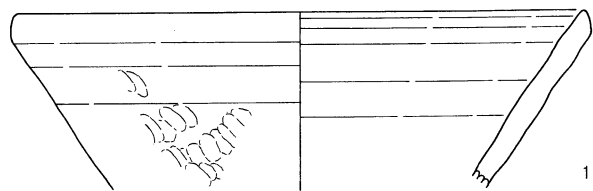
土師器坏は、255～258である。口縁部を短い範囲でヨコナデ、体部上半を指頭圧痕、下半を横方向のヘラケズリを施し最終段階の調整を行う。

緑釉陶器は、261～283である。261の香炉は脚部と対になる透かしを三方にもつ。猿投窯跡群の生産品と見られる。263は輪花5弁、273は唾壺の口縁部破片と考えられる。灰釉陶器は284～296で、ツケ掛

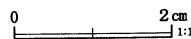
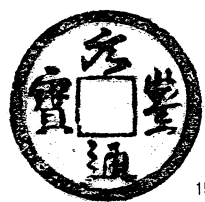
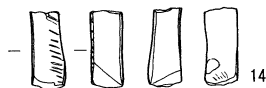
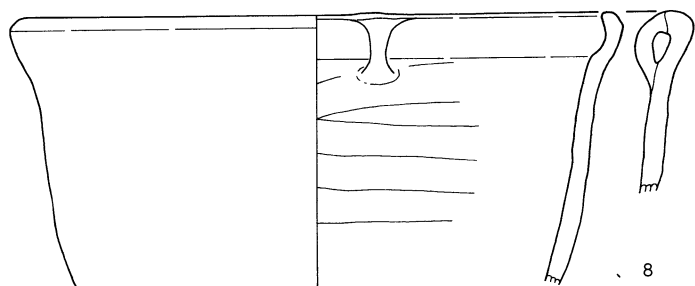
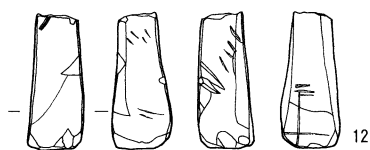
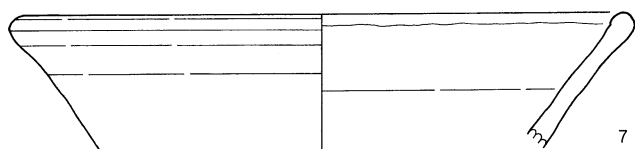
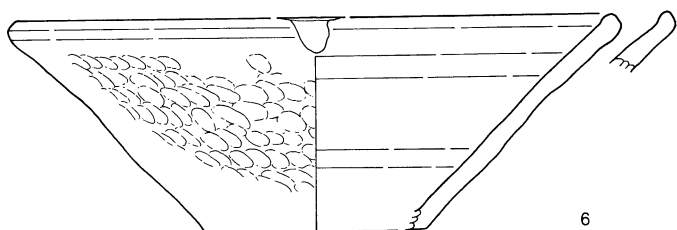
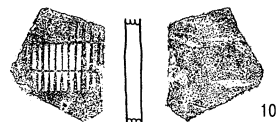
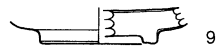
けが見られる。

この他、鉄製品釘、鉄滓、羽口なども出土した。検出した土器は、平安時代中期頃で10世紀前半の土器群と考えられる。須恵器は、丘陵部の窯跡群で焼成されたものではなく近隣の窯跡の存在が考えられる。出土遺物の中には底部に亀裂のある須恵器が存在することから窯場に近いことが指摘できる。これらの土器群は「里の須恵器」と捉えられる。土師器は、胎土が粗く、体部下端および底部外面をヘラケズリしている。類似する土師器は上里町中堀遺跡や熊谷市北島遺跡からも出土している。

SD2



SD4



第276图 溝跡出土遺物 (13)

第4号溝跡

調査区中央のE・Fグリッドラインに沿って南北に位置する。南側は調査区域外に伸び、北側はE-8グリッドで止まり、調査区中央を延々と検出され、西側に直角に折れる第4号溝跡へとつながる。西側に折れる東西方向の第4号溝跡を便宜的に北側4号溝跡と呼称する。南北に走る第4号溝跡は、南から第1号・第148号・北側4号溝跡と直角に交わる。また、第2号溝跡と平行する。重複関係はいずれの遺構よりも新しく、第1・148・北側4号・2号溝跡と同時存在である。北端部分では第85号溝跡を切って造られている。

規模は、全長131.5m、南北方向の長さ104.0m、溝の北側で幅170cm、深さ45cm。溝の中央で幅220cm、深さ68cm。溝の南側で幅240cm、深さ85cm。

溝の形態はほぼ箱薬研形に掘り込まれている。覆土は、暗灰色の粘質土を主体とし、底面には黒色土を混在した堆積層が認められた。堆積層の断面観察から、第5・7層は自然堆積層であるが、4層は暗黒色と暗灰色土による互層を形成し堆積していたと見られる。また、第1・2層は掘り返し後の堆積層と考えられ溝が再度使用されていたと考えられる。

出土遺物は、溝覆土内から輸入陶磁器の青磁、常滑焼の甕、在地産の片口鉢、内耳塼、砥石を検出した。また、北宋1078年初鑄の「元豊通宝」を出土した。

第5号溝跡

調査区西端のC-15グリッドに位置する。西側は調査区域外に伸びる。東側は第16号溝跡を切って立ち上がる。東西方向に直線的に伸びる。重複関係は、第2号掘立柱建物跡に切られる。

規模は、全長6.3m、幅64cm、深さ40cm。溝の形態は逆台形に掘り込まれている。

出土遺物は、溝覆土内から須恵器の甕、高台付坏を検出した。

第6号溝跡

調査区南西のD-14グリッドに位置する。東西方向に伸びる短い溝跡を検出した。重複関係は、第16

号溝跡を切り、第7号溝跡と平行する。

規模は、全長5.4m、幅40cm、深さ5cm。溝跡の形態は浅い皿状である。

出土遺物は、須恵器高台付坏の底部破片を出土した。図示したものは古墳時代前期の甕の破片で混入である。

第7号溝跡

調査区南西のD-14グリッドに位置する。東西方向に伸びる短い溝跡を検出した。重複関係は、第16号溝跡を切り、第6号溝跡と平行する。

規模は、全長5.9m、幅60cm、深さ40cm。溝跡の形態は逆台形に掘り込まれている。

出土遺物は、覆土内から第277図14の須恵器甕の口縁部破片が出土し、波状文が施文されている。波状文は、櫛歯3本が一単位で6段まで残存している。15は土師質土器で内面に鳥と見られる線刻が施されている。ロクロ整形で器肉薄く色調は明褐色である。胎土はややきめ細かく粉っぽい。この他坏、高台付坏を検出した。

第8号溝跡

調査区南西のC-14グリッドに位置する。東西方向に伸びる短い溝跡を検出し、西側は調査区域外、東側は第7号井戸跡で切られる。重複関係は、第18号住居跡を切り、第28号井戸跡に切られる。

規模は、全長2.6m、幅40cm、深さ6cm。溝跡の形態は浅く皿状に掘り込まれている。

出土遺物はなく、覆土内には焼土ブロックを混在する。

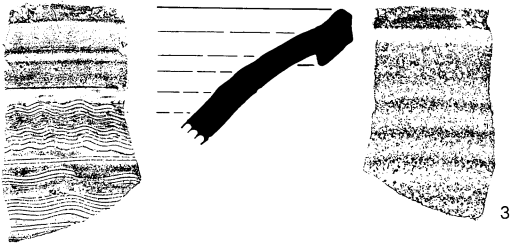
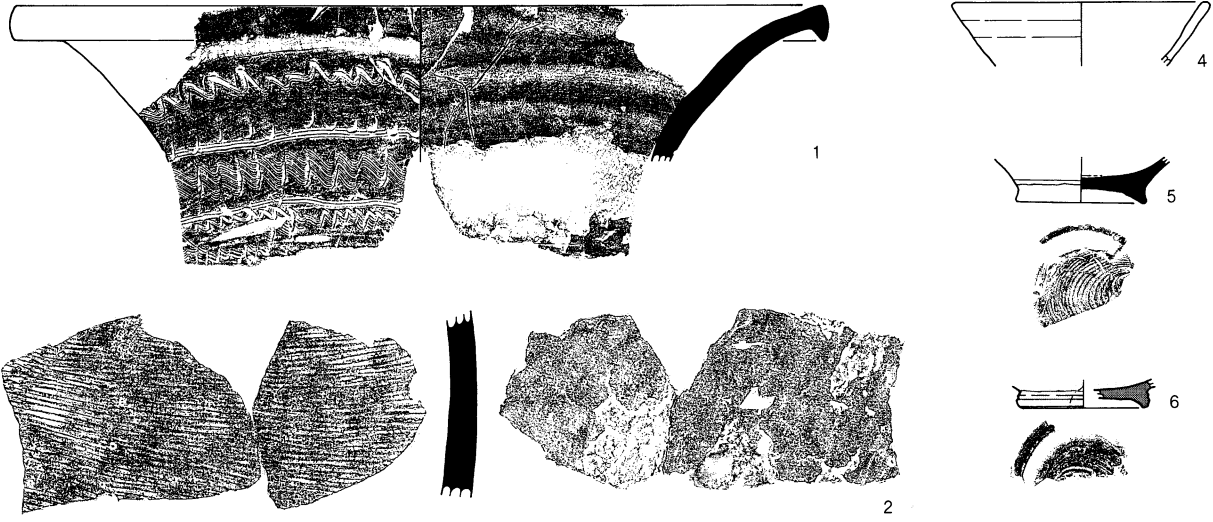
第9号溝跡

調査区南西のC-14・15グリッドに位置する。東西方向に伸びる短い溝跡を検出し、西側に第33号溝跡、東側に第16号溝跡が位置する。重複関係は、第35号溝跡を切る。

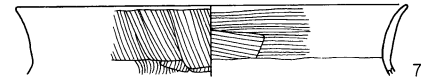
規模は、全長5.8m、幅25cm、深さ3cm。溝跡の形態は浅く皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、第277図17が湖西産坏Hの蓋で天井部外面を回転ヘラケズリする。北武蔵型の土師器坏、

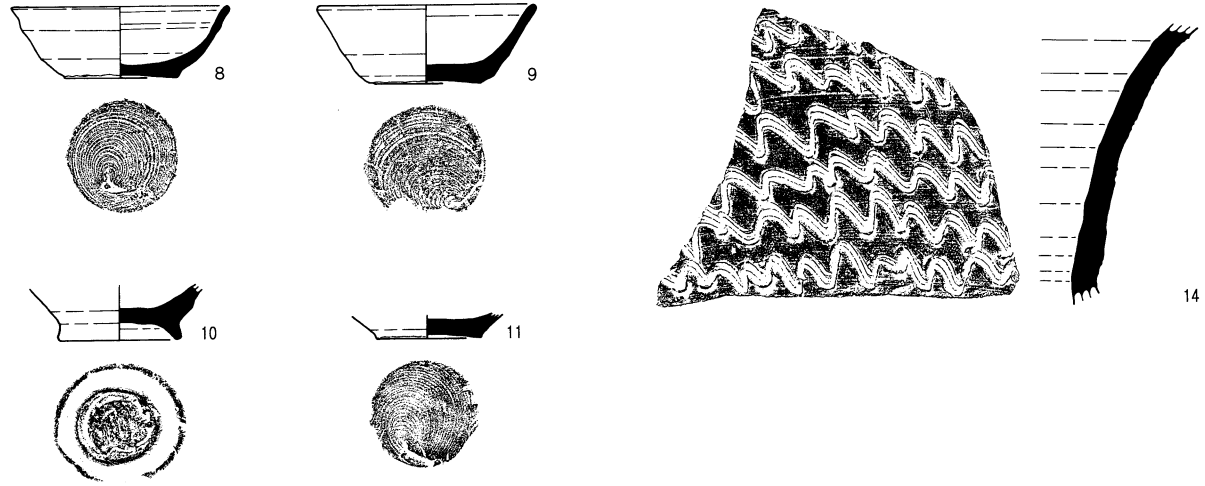
SD5



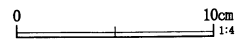
SD6



SD7



SD9



第277图 沟迹出土遗物 (14)

小型甕の口縁部を検出した。

第11号溝跡

調査区南西のC-13グリッドに位置する。東西方向に伸びる短い溝跡を検出した。重複関係は、西側で第16号井戸跡、第40号土壇に切られる。東側の立ち上がりは明瞭でない。

規模は、全長5.0m、幅50cm、深さ28cm。溝跡の形態は浅い逆台形に掘り込まれている。

出土遺物は、覆土内から第278図1の須恵器壺の口縁部破片が出土。2は五領の壺で、混入していた。

第13号溝跡

調査区南のE-17・18グリッドに位置する。東西方向に伸びる短い溝跡を検出した。西側では、第17号溝跡と直角に合流し、第16号溝跡につながる。第13・17号溝跡を一体の溝跡として捉えると、「L」字状になり南西のコーナー部分で第16号溝跡と短い溝跡で連結する。本溝跡の機能として第4号住居跡の周囲を巡る溝跡として捉えることができる。さらに第16号溝跡は集落内を南北に連なる排水溝としての役割が考えられる。重複関係は、第20・24号井戸跡に切れ、第15号溝跡、第2号方形周溝墓を切る。

規模は、全長5.0m、幅50cm、深さ28cm。溝跡の形態は浅い逆台形に掘り込まれている。

出土遺物は、覆土内から甕の口縁部の破片、土錘が出土した。

第14号溝跡

調査区南のE-17グリッドに位置する。東西方向に伸びる短い溝跡を検出した。本溝跡の北側には第6・7号掘立柱建物跡、西側には第2号井戸跡が位置する。重複関係は、東側で第22号井戸跡に切られる。また、新旧は不明だが第8号掘立柱建物跡と重なる。

規模は、全長3.1m、幅80cm、深さ12cm。溝跡の形態は浅く皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、覆土内から第278図6の須恵器杯、7の緑釉陶器皿が出土した。特に8は、刀装具で方頭大刀の柄頭もしくは鞘尻の覆輪金具である。片側の覆輪と責の大半を欠く。長さ5.0cm、現存幅3.2cm、

厚さは頂部で1.4cm、覆輪部で1.0cmである。銅製の铸造品で、分析の結果、純銅である可能性が高い。頭頂部を中心として左右対称となる文様が施されている。表面には研磨痕が認められる。頂部にわずかではあるが黒漆の皮膜が付着しており、元は全面に黒漆が塗布されていたものと推定される。

第15号溝跡

調査区南のD・E-16・17・18グリッドに位置する。北西から南東方向に直線的に伸びる。北西側では調査区外に伸び、南東側は第1号溝跡で壊され消える非常に浅い溝跡である。重複関係は、第18号溝跡と第2号方形周溝墓を切り、第4号住居跡、第3・13・16号溝跡に切られる。

規模は、全長24.5m、幅50～40cm、深さ10～4cmと非常に浅い。溝跡の形態は浅い箱形に掘り込まれている。

出土遺物は、覆土内から高坏、甕の底部破片が出土した。高坏は脚部との接合部に凸状のへそをもつ。

第16号溝跡

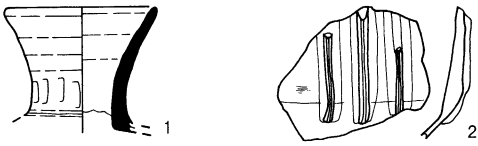
調査区西寄りのC-8～D-18グリッドに位置し、集落を南北方向に緩やかな蛇行をしながら縦断して検出された。さらに、北側の第122号溝跡に繋がる可能性がある。重複関係は、第18・15・64号溝跡と第2号方形周溝墓を切り、第7号住居跡、第1・3・148・44号溝跡に切られる。

規模は、全長103.0m、幅90～62cm、深さ32～12cm。溝の形態はやや深く逆台形状に掘り込まれている。

本溝跡は、古墳時代後期の集落内を縦断する溝跡と捉えられる。第44号溝跡も同様の機能を考えられ、本遺構が第44号溝跡よりも先行する時期に造られ、その後第44号溝跡に移行し、集落の変化がここに指摘できる。ではこれらの溝の機能とは、集落内の排水を目的としていたと考えられる。

出土遺物は、覆土内から土師器有段口縁杯、須恵器杯蓋を検出した。かわらけや台付甕の脚部は混入品と考えられる。

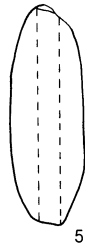
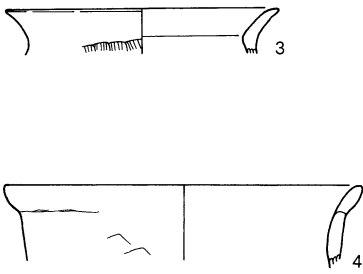
SD11



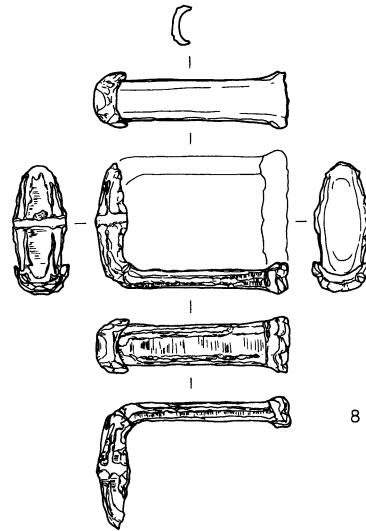
SD14



SD13

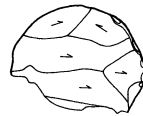
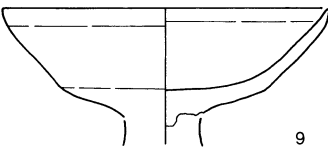


0 5cm 1:3

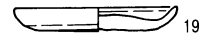
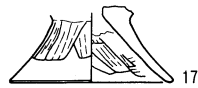
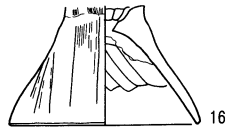
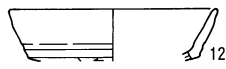


0 10cm 1:3

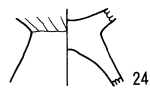
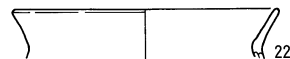
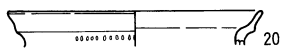
SD15



SD16



SD19



0 10cm 1:4

第278图 溝跡出土遺物 (15)

第17号溝跡

調査区南のD-17グリッドに位置する。南北方向に伸びる短い溝跡を検出した。重複関係は、南側で第13号溝跡と繋がる。

規模は、全長6.0m、幅20cm、深さ6cm。溝跡の形態は浅い逆台形に掘り込まれている。

出土遺物は、覆土内から土師器破片を少量検出した。

第18号溝跡

調査区南のD-16・17グリッドに位置する。「コ」の字状に巡る溝跡を調査区南西で検出した。

南側に開口部分をもち、東辺側は全体を検出でき、北辺側は、一部を検出し調査区域外に伸びる。西辺側は、調査区域外で検出することはできなかった。また、南辺側は開口部だが東辺側の溝跡がわずかにコーナーをとって南側に伸びる。西辺は確認できないが西辺から伸びると考えられる南辺の溝跡を第2号井戸跡の東側で検出した。重複関係は、南側で第2号井戸跡に切られ、北東側で第3・15・16号溝跡に切られる。

規模は、東辺が全長13.7m、幅100cm、深さ58cm。北辺が全長4.3m、幅80cm、深さ32cm。溝跡の形態はやや深く逆台形に掘り込まれている。

覆土中から遺物を多く検出した。覆土には、炭化粒子、焼土粒子を多く混在していた。

本遺構は、方形周溝墓の可能性が指摘できたが、溝跡内から出土する遺物量が多いこと、器種組成に甕が多いことなどから考え溝跡とした。出土破片を個体の異なる口縁部および底部の破片数を一個体としてカウントし、その重量を計量した結果、甕22個体で1570g、壺21個体で4430g、小型壺5個体で200g、高坏23個体で1685g、台付甕16個体で1840g、甑1個体で10g、鉢11個体で250g、埴1個体で10g、器台1個体で70gである。

出土遺物は、第279図1～3は鉢である。1は径が小さく、緩く外反する口縁部を持つ。2・3は体部から内彎して口縁部に至るもので、端部が内傾する面を持つ。小型高坏の坏部の可能性がある。

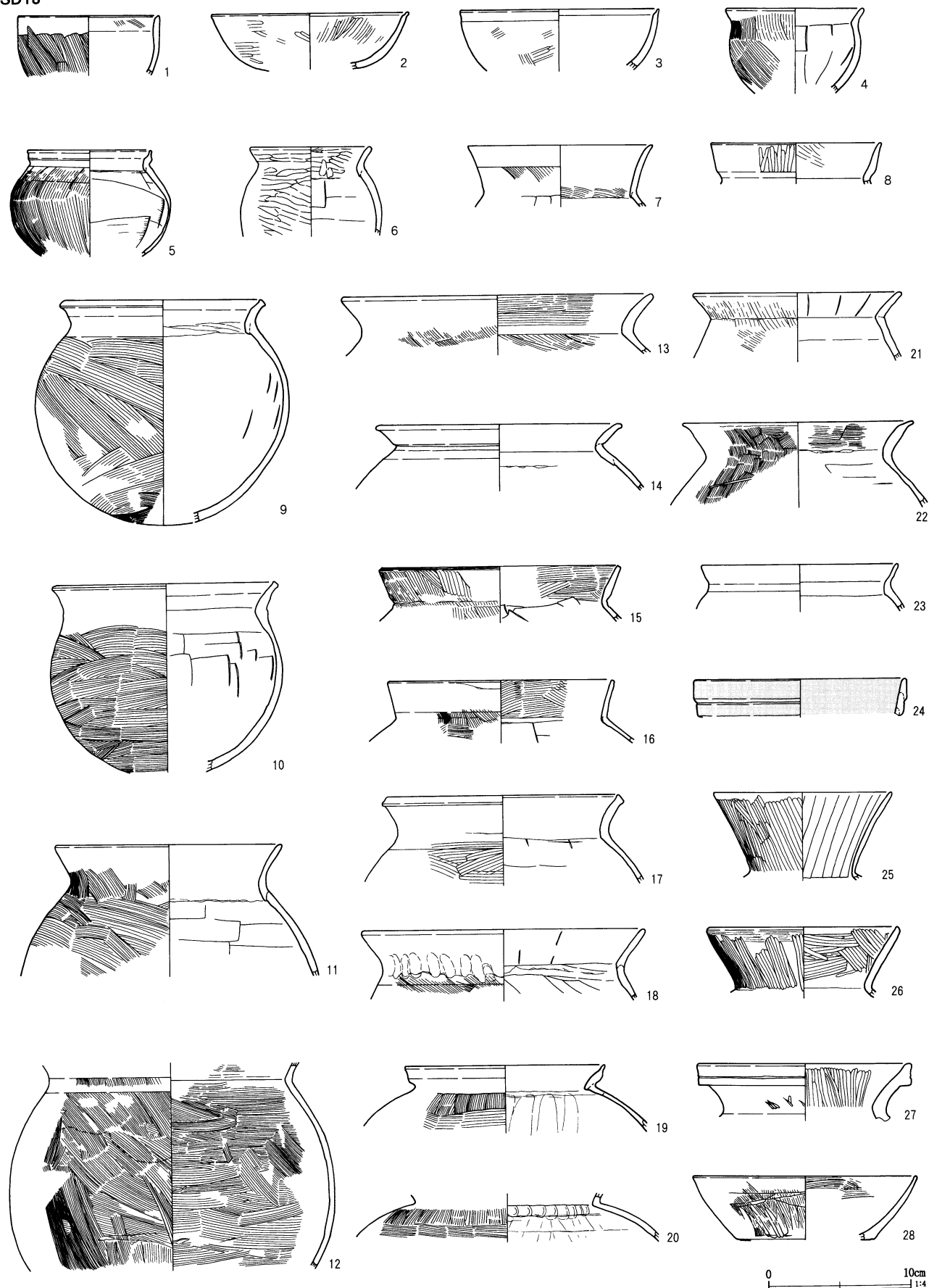
4～6は小型の甕である。5はS字状台付甕である。口縁部は上端部がわずかにつまみあげられ、丸く収まる。器壁は厚めで、重量感がある。外面の肩部には細い工具によるナデが施されている。内面は木口状工具によるナデによって仕上げられている。色調は白がかったが、胎土は在地の土器と同様である。外面に煤が付着する。6はヘラミガキによって仕上げられており、小型の壺としてもいいだろう。

7～23は甕である。8は口縁部外面がヘラミガキによって仕上げられ、面を持つ。9・10は口縁端部に上下に若干突出する面を持つ。脚台部がごく小さく、平底もしくは、丸底と考えられる。9の内面は頸部が段を持つ。外面は、強い2次加熱を全体に受けており、赤変、剥落する。胎土は在地の土器と同様である。内外面とも煤が付着する。11・13～19、21～23は口縁部で、19・22以外は、いずれも端部が丸く仕上げられている。12は大型品の可能性がある。13は太い刷毛目が施されている。17は9・10同様に口縁端部に上下に突出する面を持つ。胎土は在地の土器と同様である。19はS字状台付甕である。胎土は在地の土器と同様である。口縁部上端がわずかにつまみあげられている。器壁は厚めである。外面の肩部には不連続な横位の刷毛目が施されている。外面に煤が付着する。20は肩部の破片である。器壁は厚めである。外面の肩部には不連続な横位の刷毛目が施されている。いずれも内面に縦位のナデが施されている。23は小型品である。

24～27は壺の口縁部である。24は吉ヶ谷式土器の壺の口縁部である。内外面とも赤彩される。25・26は単純口縁の壺である。いずれも色調が黄白色である。27は口縁端部外面に粘土紐を貼付するもので、外面の中央がやや凹線状に凹んでいる。

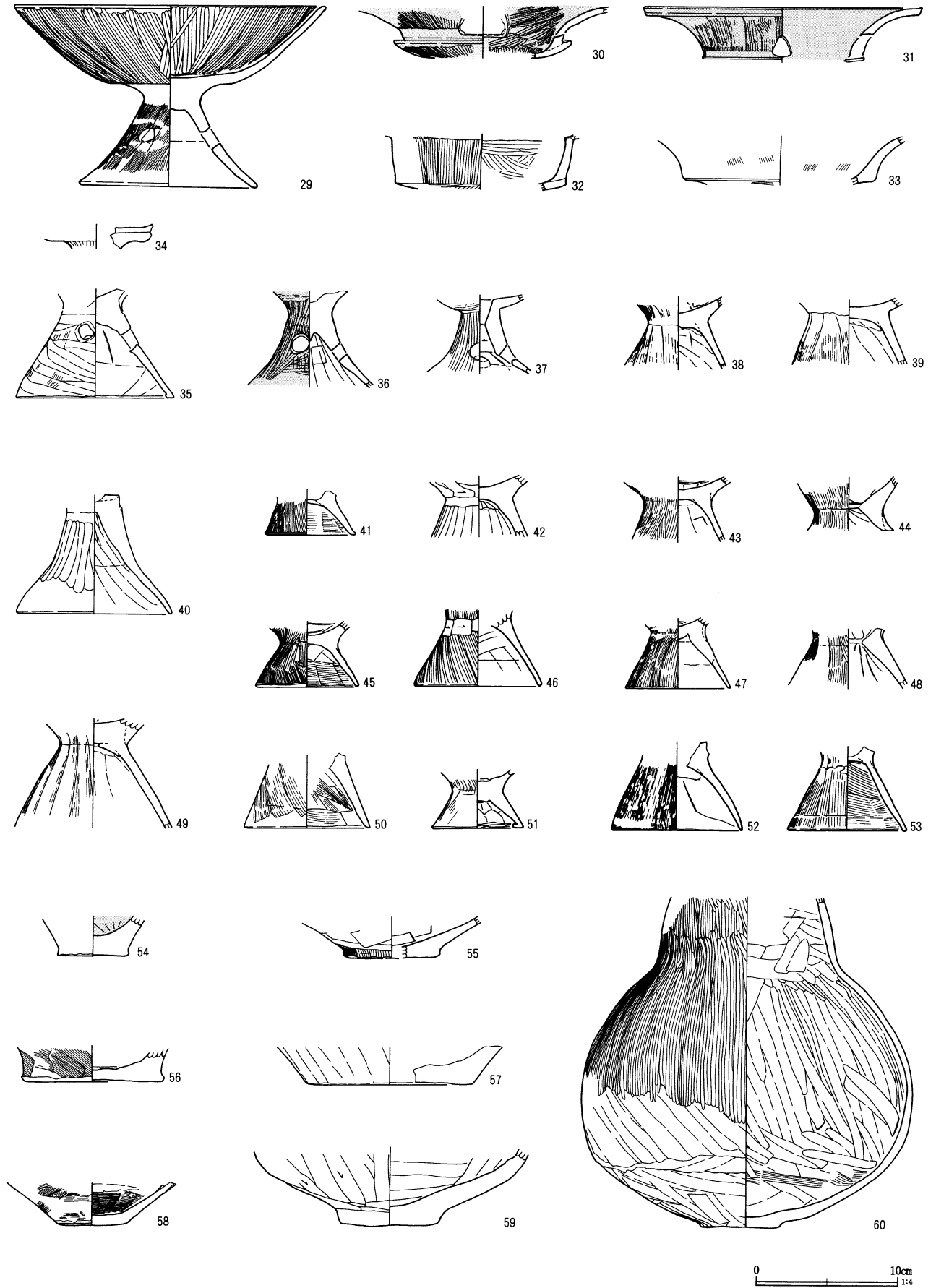
28・第280図29・34～36、40は高坏である。28・29・34は坏部で、いずれも下半に稜を持つものである。29は色調が黄白色である。35・36・40は脚部で、端部が内彎するものである。35は穿孔がいびつである。36は外面が赤彩される。

SD18

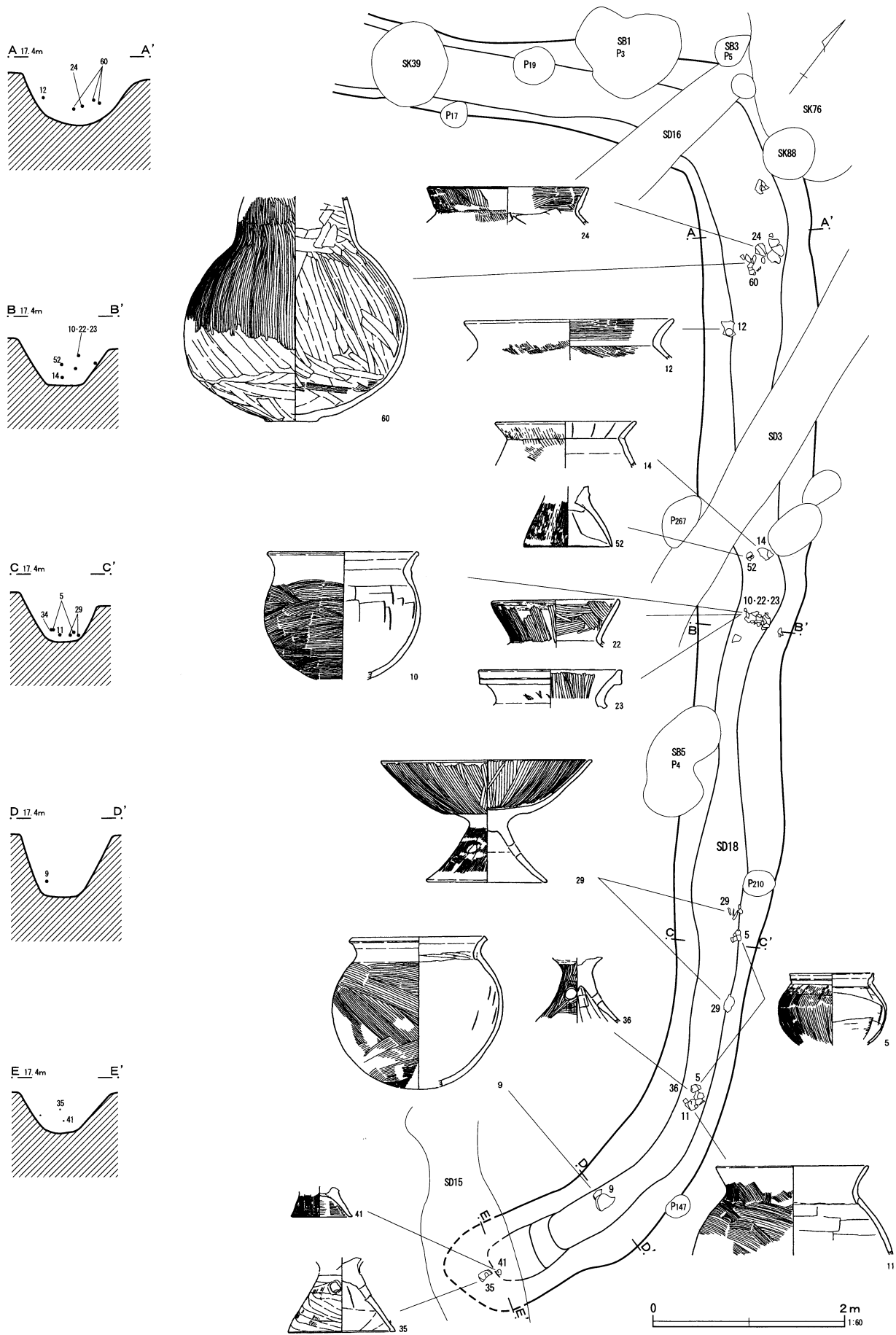


第279图 溝跡出土遺物 (16)

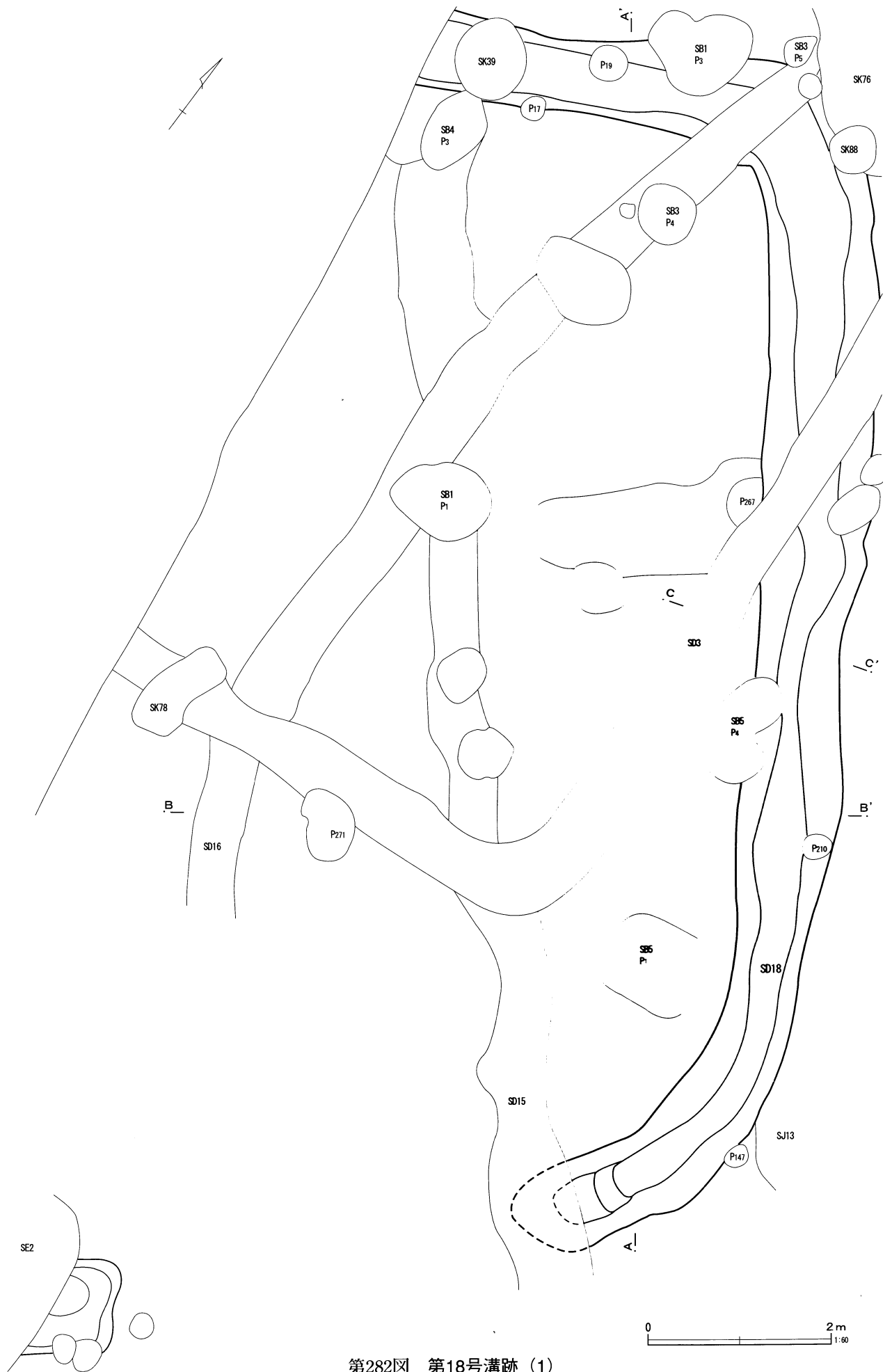
SD18



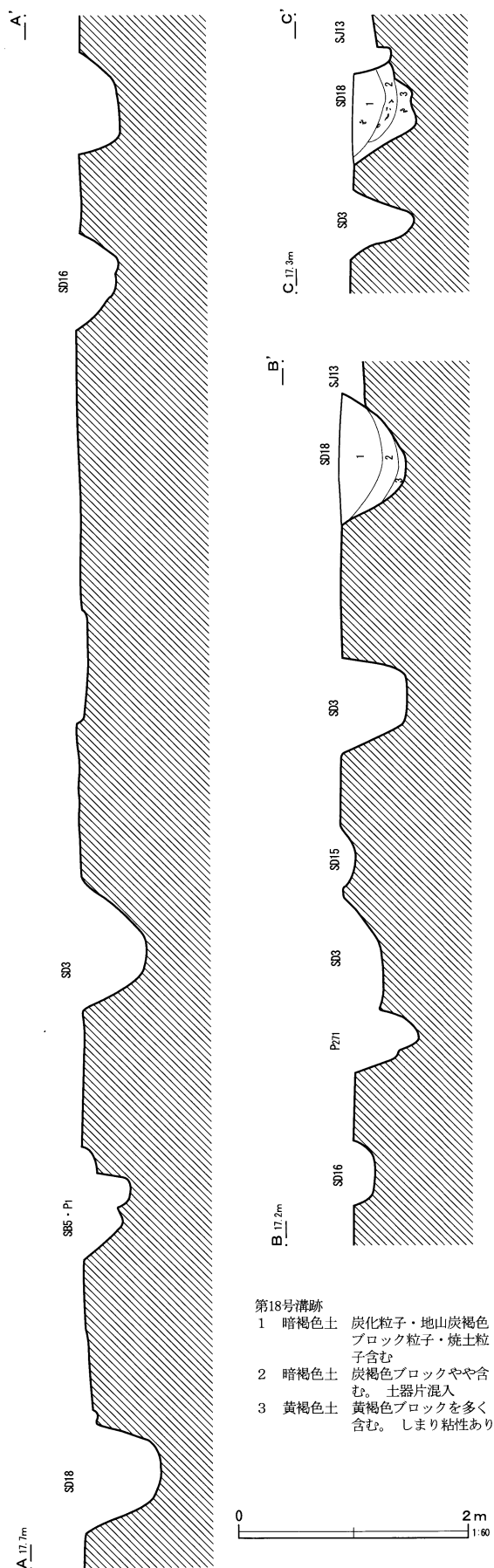
第280图 溝跡出土遺物 (17)



第281图 第18号沟迹遗物出土状况



第282图 第18号沟迹 (1)



第283図 第18号溝跡 (2)

30～32は大型器台である。30・31は涙滴形の透穴を持ち、内外面とも赤彩される。32・33は小破片で、透かしの有無は不明である。32は稜をもって口縁部と接合する。

37は小型器台の脚部である。

38・39・41～53は台付甕の脚台部である。41・45・47・51は小型、49は大型である。38・39・42・51・52は、外面に強い2次加熱を受けており赤変する。

54～59は壺の底部である。底面はいずれも木口状工具のナデによって仕上げられている。56・59は底面に穀物のものと考えられる圧痕が残る。56・57は内面が全面剥落している。

60は壺である。口縁部が太く、筒状に窄まりやや下膨れの胴部と接合する。下半に大きな粘土帯の単位が認められ、上→下に粘土がナデつけられ、バリ状になっている。内面もこの部分に強い木口状工具によるナデが見られる。底部は小さく、木口状工具によるナデによって仕上げられている。胎土は雲母をやや多く含むが、在地の土器と同様である。

第19号溝跡

調査区南のD-17グリッドに位置する。南北方向に伸びる短い溝跡を検出した。重複関係は、南側で第1号溝跡、北側で第2号井戸跡に切られる。

規模は、全長4.0m、幅70cm、深さ9cm。溝跡の形態は浅い逆台形に掘り込まれている。

出土遺物は、古墳時代前期の遺物である壺、甕、台付甕を検出した。

第20号溝跡

調査区南のD-18グリッドに位置する。南北方向に伸びる短い溝跡を検出した。重複関係は、北側で第11号住居跡、第2号方形周溝墓を切る。

規模は、全長2.0m、幅40cm、深さ20cm。溝跡の形態は浅い逆台形に掘り込まれている。

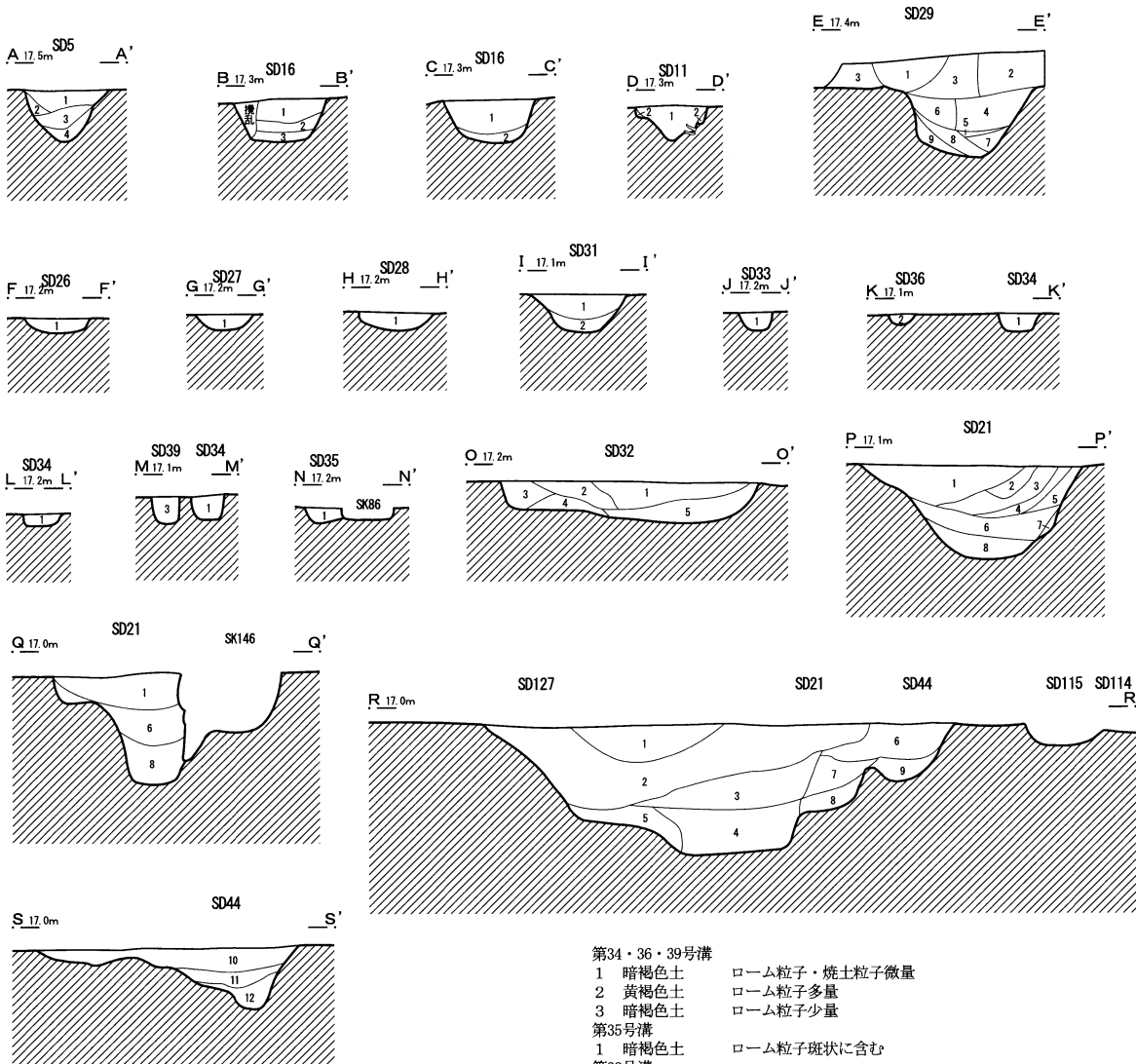
出土遺物は、古墳時代後期の遺物片を検出した。

第21号溝跡

調査区中央南寄りのE・F・G-14グリッドに位置する。東西方向に伸びる幅の広い溝跡を検出した。

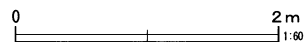


第284図 溝跡 (5)

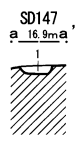
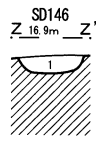
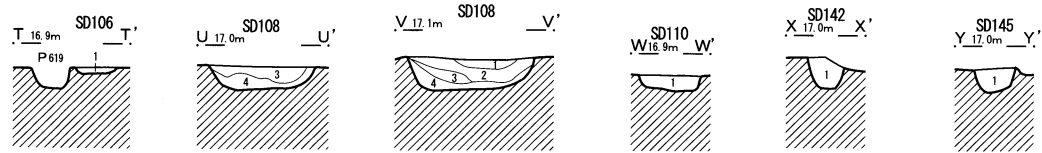


- 第5号溝
- 1 暗褐色土 焼土粒子 (0.5cm) を斑に含む
 - 2 暗褐色土 1層より明るく、黄褐色粒子ブロック (径1.0cm) 含む
 - 3 黒褐色土 黄褐色土粒子、濃灰色粒子・ブロック (径1.0cm) 含む
 - 4 黒褐色土 粘質強い
- 第11号溝
- 1 暗褐色土 地山の砂質ローム粒子、微量の焼土粒子含む
 - 2 黄褐色土 地山の砂質ローム粒子多量
- 第26号溝
- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子多量
- 第29号溝
- 1 黒褐色土 焼土粒子 (径5mm以下) 少量。粘性、しまりなし。SD-3覆土
 - 2 暗黄褐色土 焼土粒子 (径2mm以下) 少量。粘性なし、しまりあり
 - 3 暗茶褐色土 炭化粒子多量。粘性なし、しまりあり
 - 4 暗褐色土 焼土粒子 (径3mm位)、ローム粒子 (径3mm位) 多く含む、粘性ややあり、しまりなし
 - 5 暗灰茶褐色土 ロームブロック・青灰色土ブロック多量。粘性、しまりややあり
 - 6 暗褐色土 焼土粒子 (径3mm) ロームブロック。粘性、しまりややあり
 - 7 黒灰色土 炭化粒子 (径2mm以下) 多量。粘性あり、しまりなし
 - 8 黒灰色土 炭化・焼土粒子 (径2mm位) 多量。粘性あり、しまりなし
 - 9 暗黄色土 ロームブロック・青灰色土ブロック多量
- 第27号溝
- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子多量
- 第28号溝
- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子少量
- 第31号溝
- 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色粒子少量
 - 2 暗褐色土 焼土粒子微量、黄褐色粒子少量
- 第33号溝
- 1 黒褐色土 ローム粒子少量。粘性あり

- 第34・36・39号溝
- 1 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子微量
 - 2 黄褐色土 ローム粒子多量
 - 3 暗褐色土 ローム粒子少量
- 第35号溝
- 1 暗褐色土 ローム粒子斑状に含む
- 第32号溝
- 1 暗褐色土 焼土粒子多く、炭化粒子少量、土器細片含む
 - 2 暗褐色土 1層より明度高い。内容物1層に同じ
 - 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック斑状に混じる。内容物1層に同じ
 - 4 明褐色土 暗褐色土ブロック (1~3層の土) 斑状に含む
 - 5 暗褐色土 暗褐色土粒子、下位にいく程多く、斑状に含む。1~3層より暗色やや強い。粘性ややあり
- 第21号溝
- 1 暗褐色土 炭化物粒子斑状に少量、焼土少量
 - 2 暗褐色土 ローム粒子 (0.5~1.0cm) 少量
 - 3 暗黄褐色土 黒色土多く含む、やや粘性あり
 - 4 暗褐色土 ロームブロック含む、やや粘性あり
 - 5 暗黄褐色土 暗灰粘質土斑状に含む
 - 6 暗灰粘質土 炭化物粒子 (2cm) 少量。粘性あり
 - 7 黄褐色土 暗灰粘質土少量
 - 8 暗灰粘質土 暗青灰色土斑状に含む
- 第21・44・114・115・127号溝
- 1 暗青灰色土 黒色土層薄く、間層として含む
 - 2 黒褐色土 青灰色土を斑状に含む
 - 3 黒褐色土 2層と同じ。黒味強い。粘性強い
 - 4 黒色土 青灰色土ブロック (径20~30mm) 粗に混入。粘性極めて強い
 - 5 青灰色粘土 黒褐色土粒子・ブロック混入。やや砂質
 - 6 暗褐色土 やや灰色帯びる
 - 7 暗褐色土 青灰色粘土粒子混入、全体に灰色。6層より強く、粘性強い
 - 8 暗灰褐色土 黒褐色土ブロック多量。粘性強い
 - 9 暗褐色土 8層よりやや暗い。青灰色土粒子微量。粘性強い
 - 10 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (径2.0cm)・焼土粒子少量
 - 11 暗褐色土 1層よりやや暗い。ローム粒子・焼土粒子含む
 - 12 黄褐色土 ロームブロック (径2~3cm) 含む

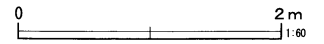


第285図 溝跡 (6)



- 第106号溝
 1 暗褐色土 褐色粒子多量
 2 暗褐色土 褐色粒子多量、黄褐色粒子ブロック (径2.0cm) 含む
- 第108号溝
 1 黒褐色土 黄褐色土ブロック (径3.0cm以上) 多量
 2 黒褐色土 黄褐色粒子・炭化粒子多量
 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック (径3.0cm以上) 多量
 4 暗黄褐色土 暗褐色土少量

- 第110号溝
 1 暗褐色土 焼土粒子微量、黄褐色粒子多量
- 第142号溝
 1 暗褐色土 焼土粒子・黄褐色粒子少量
- 第145号溝
 1 暗褐色土 焼土粒子微量、黄褐色粒子少量
- 第146号溝
 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色粒子多量
- 第147号溝
 1 黄褐色土 暗褐色粒子含む



第286図 溝跡 (7)

西側は第32号溝跡、北側には第28・29・32号溝跡が位置し同時期の可能性が見られる。東側は調査区域外に伸びる。重複関係は、溝跡中央部分で第2・4号溝跡、第2号掘立柱建物跡に切られる。第44号溝跡を切り込んでいる。

規模は、全長28.3m、幅は西側で160cm、東側で110cm、深さは西側で62cm、東側で72cm。溝の形態は浅い逆台形に掘り込まれている。

覆土は、1～4層は焼土粒子や炭化物粒子、ローム粒子を含みやや粘性がある。6～8層は暗灰色の粘質土である。断面観察によると第44号溝跡を切って本遺構が造られていることがわかる。

出土遺物は、古墳時代後期の遺物を多く検出した。第287図1は高坏の須恵器蓋である。ボタン状の直径1.9cmのつまみが貼り付き、内面指ナデ痕が残る。透明鉞物片を含む。産地不明。2は胎土極めて細か

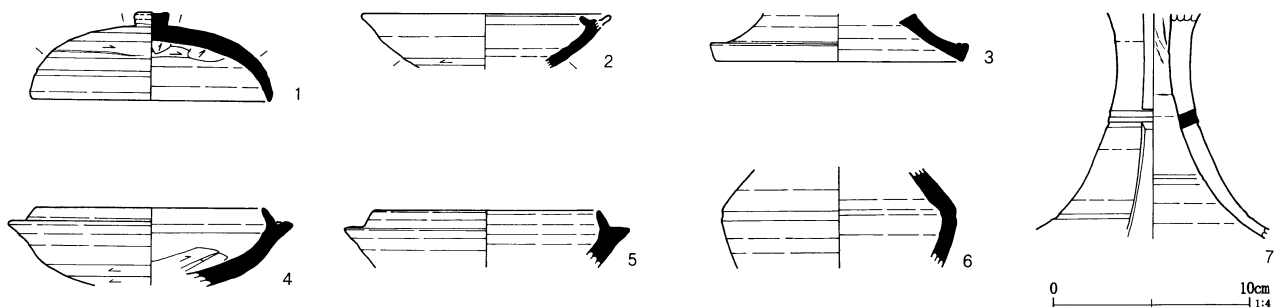
く、微粒の雲母を含む。3～7は末野産須恵器である。3は壺の脚部か、4・5は坏身で器肉厚い、5は黄橙色である。G-14グリッド付近で底面近くから52の土師器壺を検出した。また、テラス部分からは土師器坏がまとまって検出された。土師器坏の33・34・第290図37は北武蔵型坏で大・中・小のセットであり、三個が入子坏である。整形は口縁部は短くヨコナデを施し、体部のヘラケズリは口縁部まで施している。丁寧な造りで古い様相をもつ。29の土師器坏は丸底で内面に放射状暗文を施す。

第22号溝跡

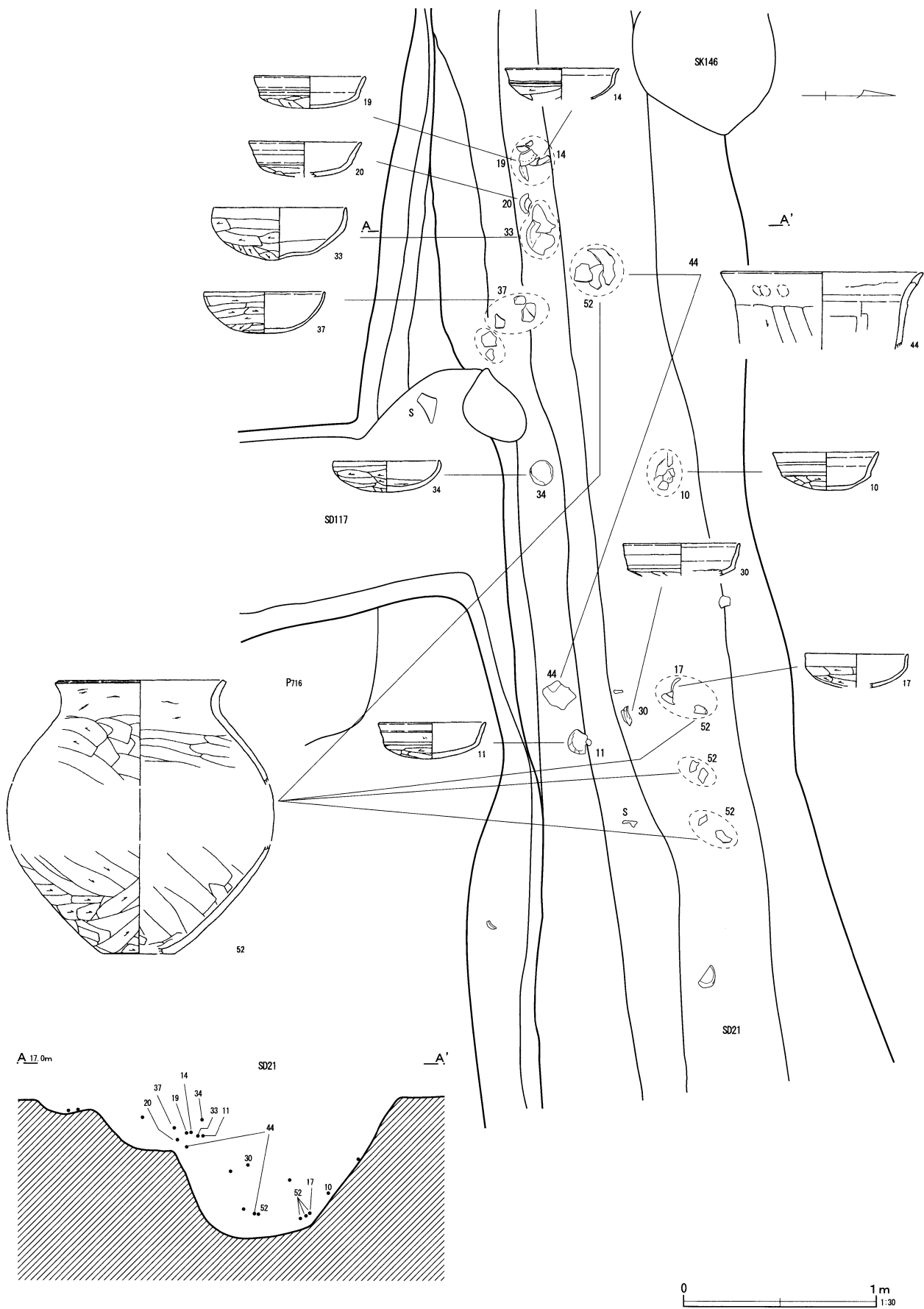
調査区南寄りのD-15グリッドに位置する。東西方向に伸びる細長い溝跡を検出した。重複関係は、溝跡中央部分で第16・3号溝跡、西寄りで第26号井戸跡に切られる。

規模は、全長14m、幅は西側で30cm、深さは8cm。

SD21

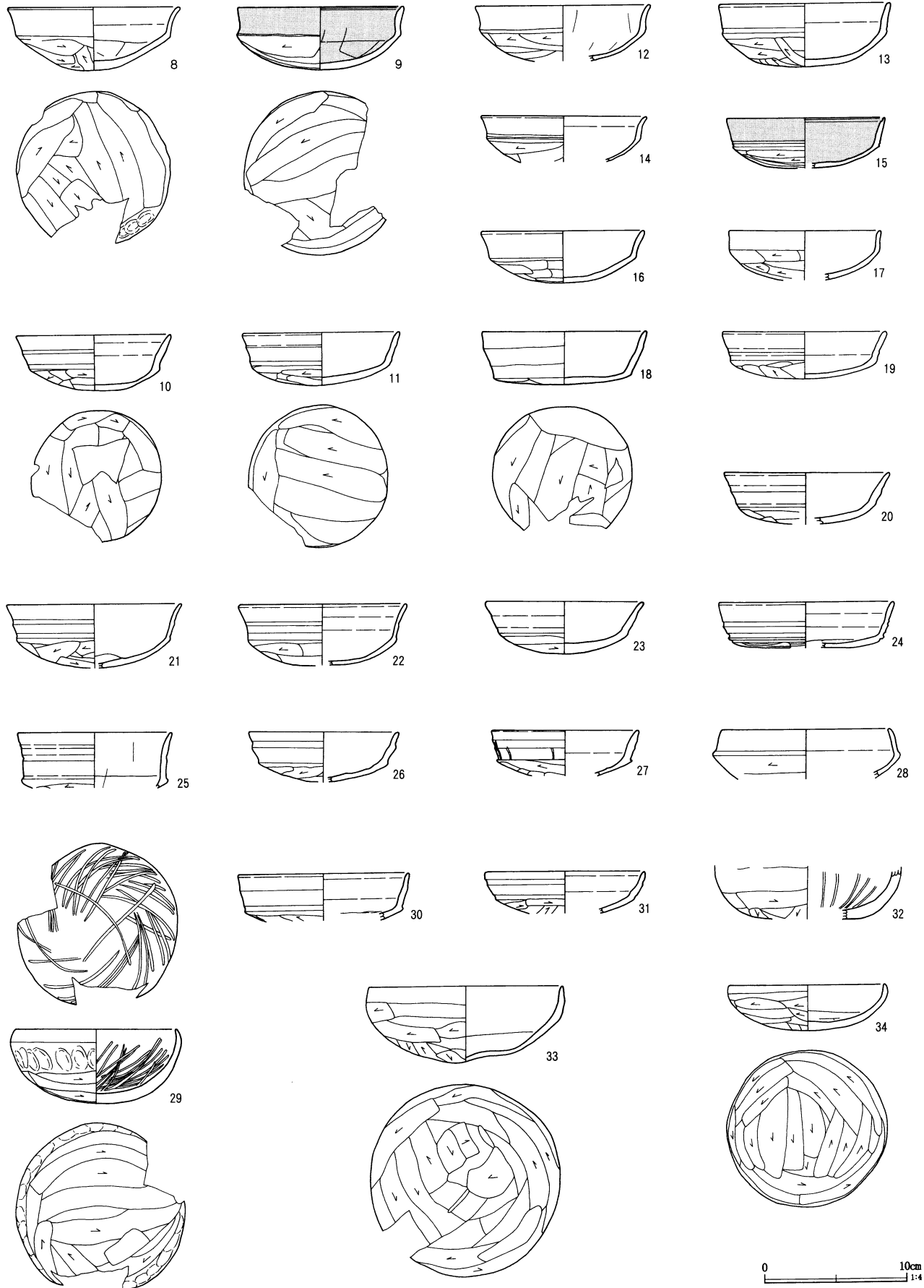


第287図 溝跡出土遺物 (18)



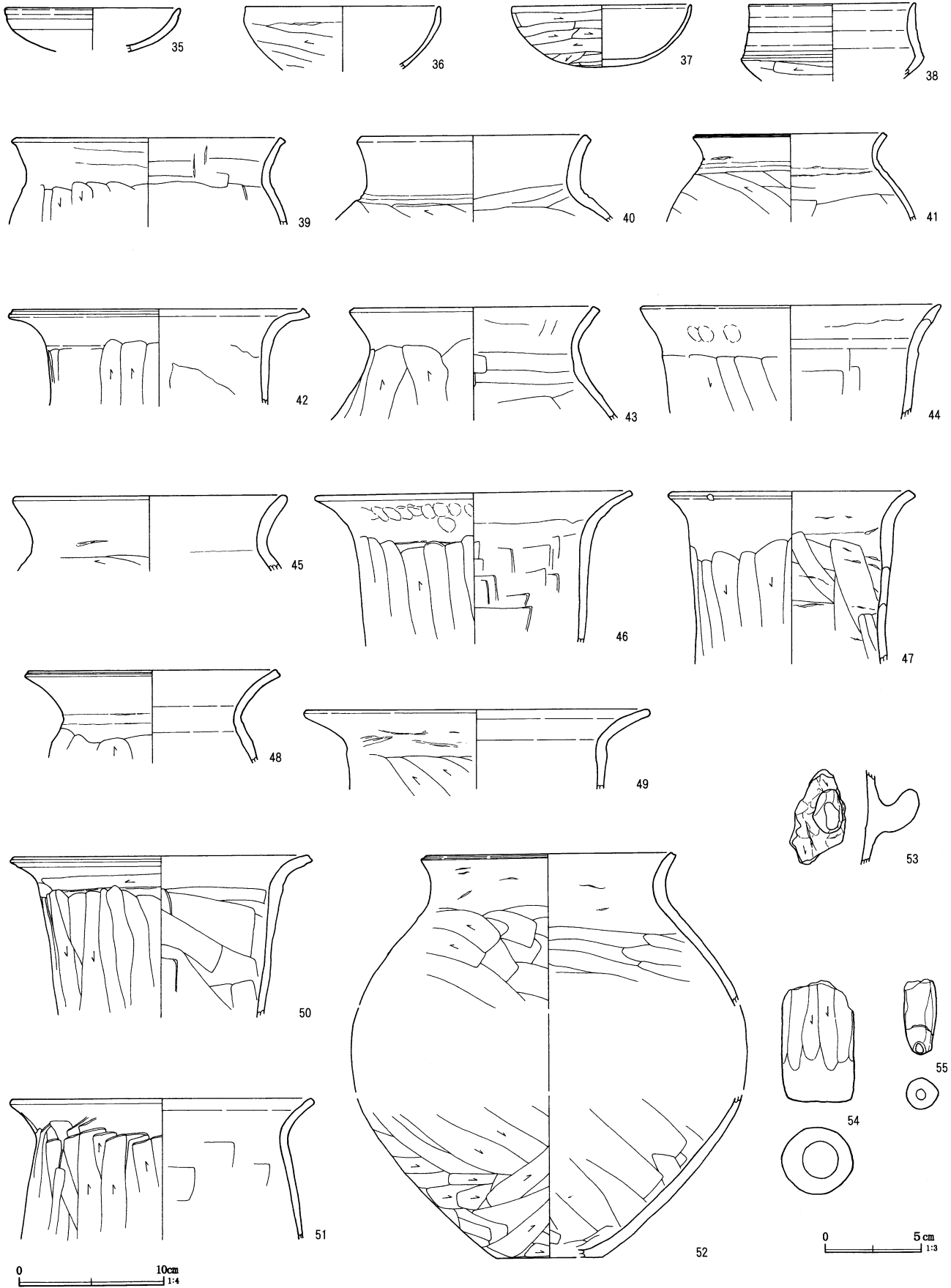
第288図 第21号溝跡遺物出土状況

SD21



第289図 溝跡出土遺物 (19)

SD21



第290图 溝跡出土遺物 (20)

溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、古墳時代後期の遺物である第291図1の須恵器罅の口縁部破片を検出した。

第23号溝跡

調査区南寄りのC-14・15、D-15グリッドに位置する。東西方向に伸びる細長い溝を検出した。東側は、南東方向に曲がりコーナーをもつ。重複関係は、溝中央部分で第7号井戸跡に切られる。

規模は、全長5m、幅は西側で18cm、東側最大幅90cm、深さは8cm。

出土遺物は、古墳時代前期の遺物片を少量検出し、刷毛目の甕胴部破片や第291図に示した台付甕の脚部などである。

第24号溝跡

調査区南寄りのC・D-16グリッドに位置する。東西方向に伸びる細長い溝跡を検出した。

規模は、全長3.5m、幅は60cm、深さは10m。溝跡の形態は浅く掘り込まれている。

出土遺物は、古墳時代前期の遺物片を少量出土。

第25号溝跡

調査区南寄りのE-15・16グリッドに位置する。南北方向に伸びる短い溝跡を検出した。南側は第13号住居跡、北側は徐々に浅くなり途切れる。重複関係は、溝跡中央付近で第7号掘立柱建物跡に切られる。

規模は、全長5.2m、幅30cm、深は4～11cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、古墳時代後期の遺物片を少量出土。

第26号溝跡

調査区南寄りのD-15グリッドに位置する。東西方向に伸びる短い溝跡を検出した。西側は第5号溝跡、東側は第3号溝跡の辺りで止まる。第21号溝跡に繋がるかは不明である。重複関係は、西側部分で第16号溝跡に切れ、東側では第3号溝跡に切られる。

規模は、全長7.0m、幅60cm、深さは10～28cm。溝跡の形態は浅い逆台型に掘り込まれている。

出土遺物は、古墳時代前期の遺物片を少量検出し

た。この他後期の遺物も検出した。

第27号溝跡

調査区南寄りのD-15グリッドに位置する。東西方向に伸びる短い溝跡を検出した。北側に第26号溝跡、西側は第16号溝跡である。重複関係は、溝跡東側部分で第3号溝跡に切られる。

規模は、全長5.0m、幅44cm、深さは12cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第28号溝跡

調査区南寄りのD-14グリッドに位置する。東西方向に伸びる短い溝跡を検出した。西側は第32号溝跡、東側は第21号溝跡、南北方向に走る第16・29号溝跡が位置する。重複関係は、第29・31号溝跡と交わるが新旧は不明である。

規模は、全長7.2m、幅25～58cm、深さは14～24cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、古墳時代後期の遺物片を検出した。第291図10は須恵器壺の口縁部で末野産、12は胴部に櫛歯の刺突痕をもつ。他に土師器甕、坏、高坏、鉢などがある。

第29号溝跡

D-13・14グリッドに位置する。南北方向に伸びる溝跡を検出した。北側は第44号溝跡で止まる。南側は第5号井戸跡を挟んで第21号溝跡に繋がると考えられる。重複関係は、第5号井戸跡には切られる。

規模は、全長11.5m、幅は北側で55cm、南側で80cm、深さは北側で24cm、南側で47cmと深くなる。溝跡の形態は逆台形状に掘り込まれている。

出土遺物は、古墳時代後期の遺物を検出した。第291図18は比企型坏、19～22は有段口縁坏、23は模倣坏、24は土師器甕、25～27は土師器甕である。

第30号溝跡

E-16グリッドに位置する。東西方向に伸びる短い溝跡を検出した。西側は第5号掘立柱建物跡で止まる。東側は第80号土壌で止まる。重複関係は、古墳時代の第13号住居跡を切り、第7号掘立柱建物跡

SD22



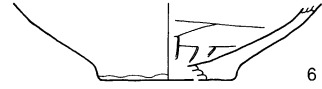
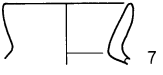
SD23



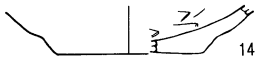
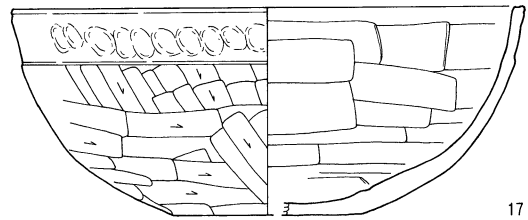
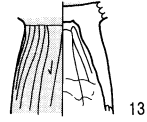
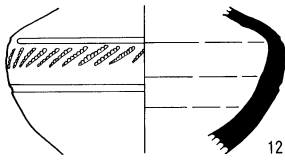
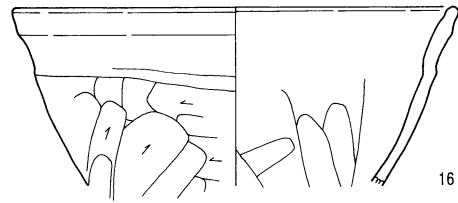
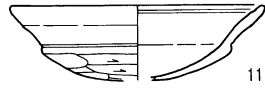
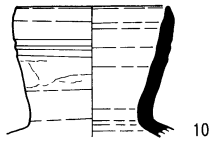
SD24



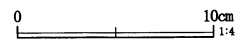
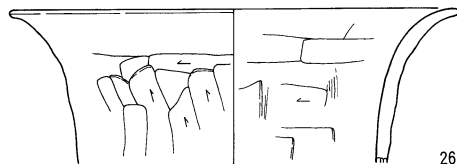
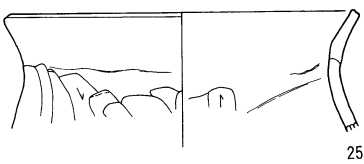
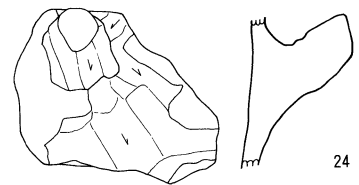
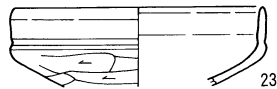
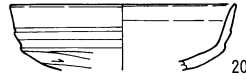
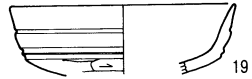
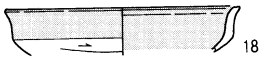
SD26



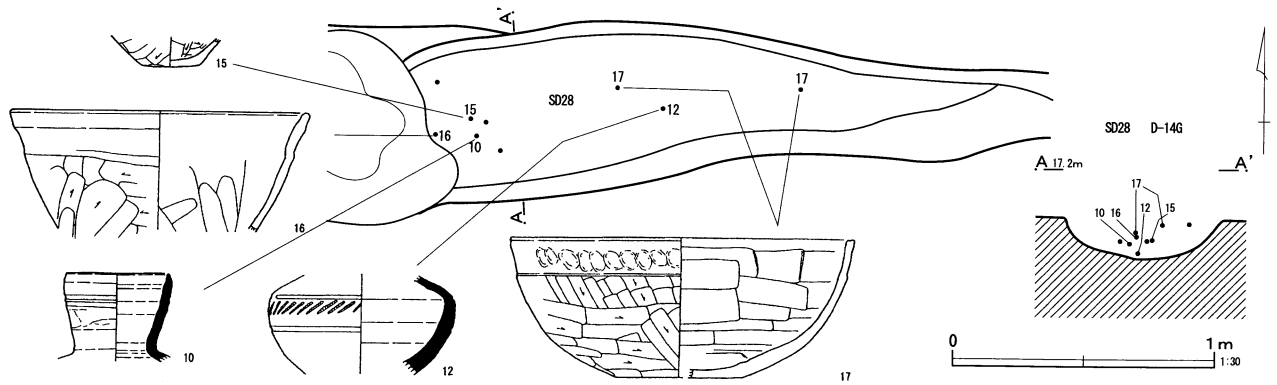
SD28



SD29



第291図 溝跡出土遺物 (21)



第292図 第28号溝跡遺物出土状況

に切られる。

規模は、全長5.0m、幅50～70cm、深さ25cm。溝跡の形態は逆台形状に掘り込まれている。

出土遺物は、第295図に示したように溝の底面近くからまとまって検出された。須恵器はいずれも南比企産である。9は底部回転ヘラケズリ、内面に「X」の篋記号をもつ。10・11は底部外周ヘラケズリが施されている。

第31号溝跡

D・E-14、F・G-13・14グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝跡を検出した。西側は第29号溝跡が位置し、東側はG-13グリッドで「L」字に屈曲し、調査区域外に伸びる。重複関係は、第2号掘

立柱建物跡、第2・4号溝跡に切られる。

規模は、全長30.0m、幅110～120cm、深さ27～34cm。溝跡の形態は逆台形状に掘り込まれている。

本溝跡は第21号溝跡の北側に位置し、東に向かって距離を広げている。また、「L」字に屈曲し南東方向に向きを変え、第127号溝跡と平行する。

出土遺物は、第294図に示した。1は須恵器坏蓋で天井部外面に「X」の篋記号が見られる。土師器坏は蓋模倣と身模倣の坏が存在する。14の甕は底部に木葉痕が認められた。15は滑石製の剣型石製模造品である。

第32号溝跡

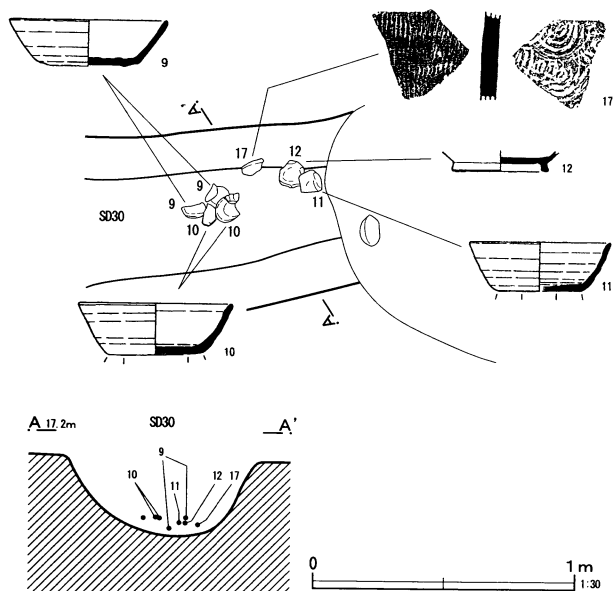
D-14グリッドに位置する。東西方向に伸びる幅広の溝跡を検出した。西側には第28号井戸跡、東側は第29号溝跡で止まる。重複関係は、第7・16号溝跡、第2号掘立柱建物跡に切られる。

規模は、全長10.2m、幅200cm、深さ15～32cm。溝跡の形態は皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器坏では蓋模倣と身模倣の坏が存在する。第294図21は鉢型の甑、24は大型甑とみられる。また、25は滑石製の石製模造品で、鏡を模造した有孔円盤である。

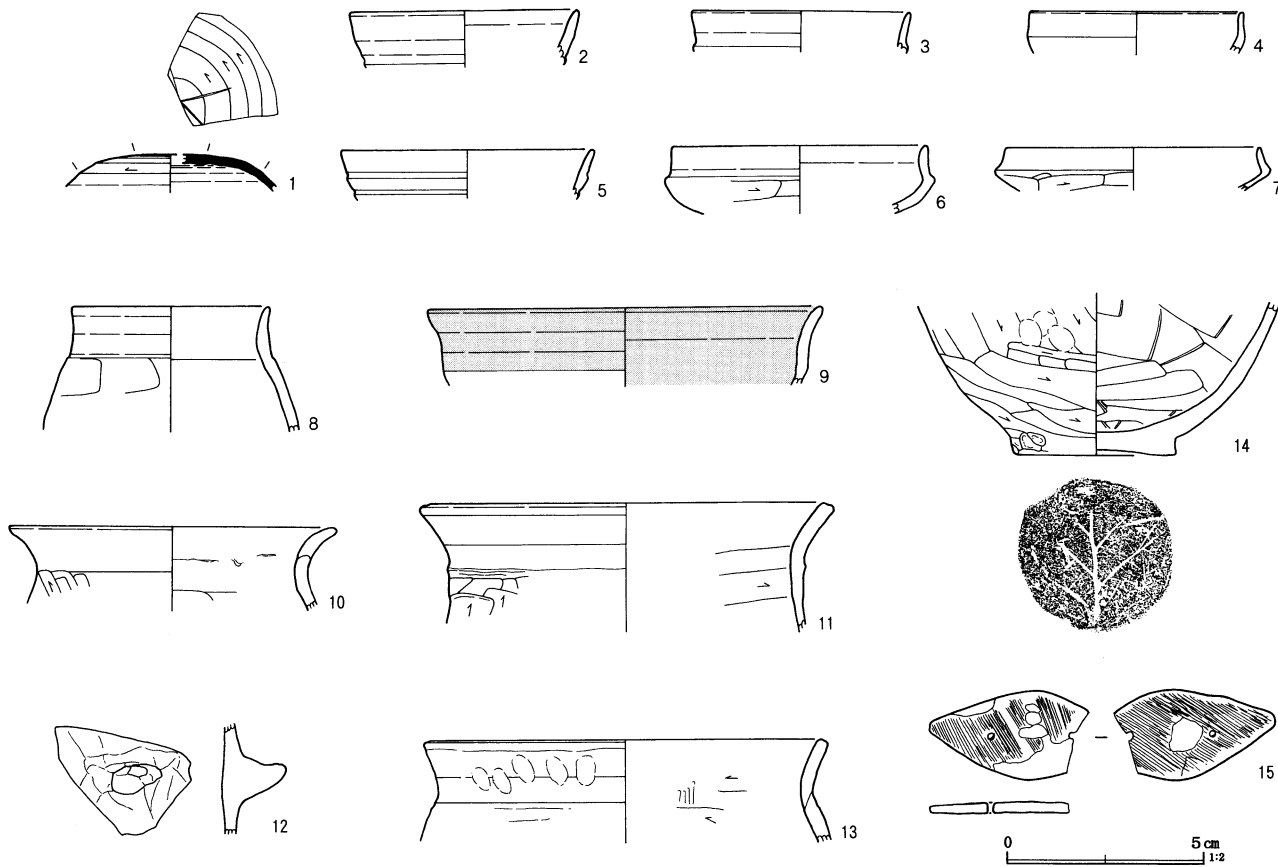
第33号溝跡

C-14グリッドに位置する。南北方向に伸びる短い溝跡を検出した。北側は第20号住居跡が位置し、南側は第18号住居跡が位置する。東側には第19号掘立柱建物跡が存在する。

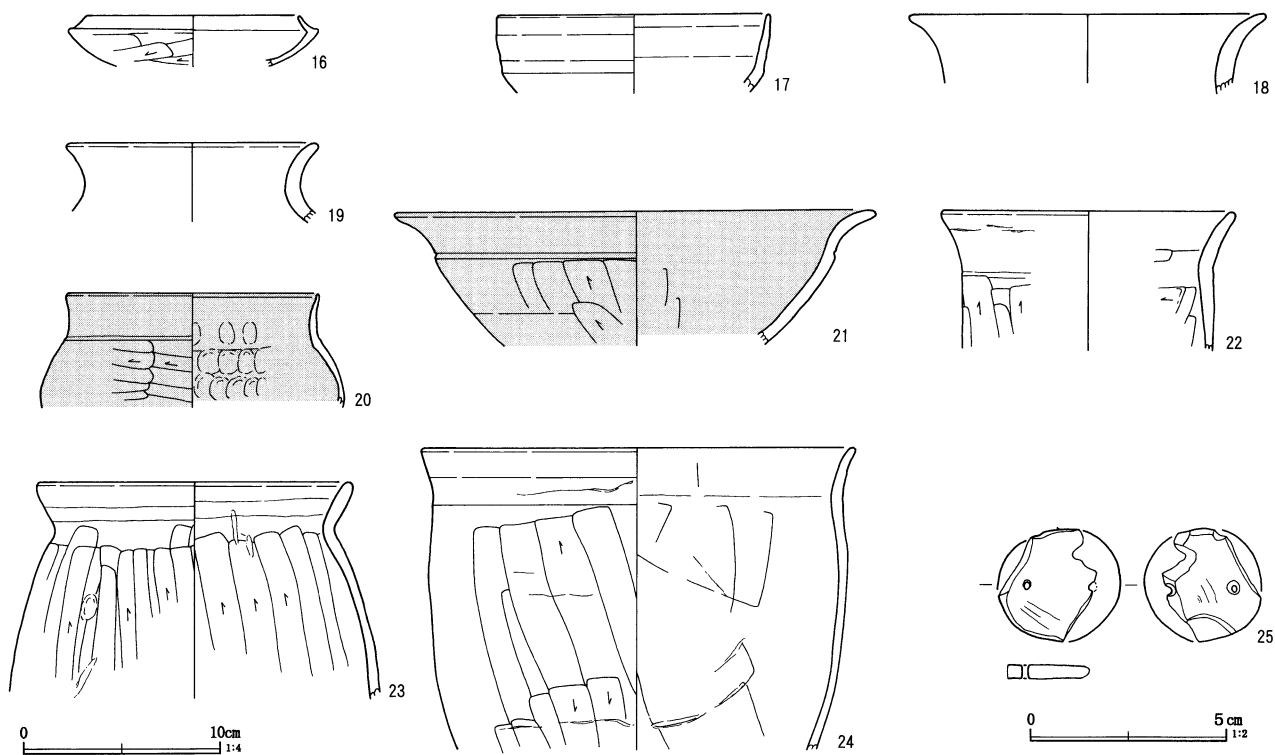


第293図 第30号溝跡遺物出土状況

SD31



SD32



第294図 溝跡出土遺物 (22)

規模は、全長3.2m、幅24cm、深さ16cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第34号溝跡

D-12・13グリッドに位置する。南東側の第68号溝跡と合流し、方形に巡る溝である。溝中央には第16号住居跡が位置し、住居跡の外側周溝と考えられる。住居跡壁面からの距離は約3～3.5mである。

本溝跡の機能は住居周囲の排水機能が考えられ、第44号溝跡に排水したものと推測される。重複関係は、第16・29号溝跡に切られる。

規模は、全長16.0m、幅24～30cm、深さ8～18cm。溝跡の形態は箱形状に掘り込まれている。

このような住居跡周溝はこの他、第58・69・70・73号溝跡などが考えられる。

出土遺物は、土師器比企型環と甕を第295図に示した。

第35号溝跡

C-14、D-13・14グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝跡を検出した。西側は第56号溝跡が位置し、東側は第44号溝跡が位置する。重複関係は、第8号井戸跡に切られ、第16・34・36号溝跡と交叉するが新旧関係は不明である。

規模は、全長14.2m、幅30cm、深さ12cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

本溝跡と同類と見られる溝跡は北側に第39号、南側に第28・22・20号が存在する。西から東に放射状に検出された。

出土遺物は、第295図の土師器環の有段口縁環と北武蔵型環を検出した。

第36号溝跡

D-13グリッドに位置する。南北方向に伸びる溝跡を検出した。北側は第9号井戸跡が位置し、東側は第16号溝跡に合流する。

規模は、全長3.0m、幅20cm、深さ8cm。溝跡の形態は蒲鉾状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第37号溝跡

E-15グリッドに位置する。南北方向に細長く「く」の字状に伸びる溝跡を検出した。北側は第78号溝跡が位置し、南側は第40号溝跡が位置する。重複する遺構は、第2・7号掘立柱建物跡に切られる。

規模は、全長10.0m、幅20cm、深さ6～11cm。溝跡の形態は箱形に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第38号溝跡

E-15グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝跡を検出した。西側は第7号掘立柱建物跡が位置し、東側は第6号掘立柱建物跡が存在する。重複する遺構は、第4号溝跡によって切られている。

規模は、全長3.1m、幅20cm、深さ10cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第39号溝跡

C・D-13、D-12グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝跡を検出した。北側は第34号溝跡が位置しほぼ近接した位置で平行する。南側は第35号溝跡がやや離れた距離に平行して検出された。

規模は、全長10.0m、幅35cm、深さ21cm。溝跡の形態は箱形状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第40号溝跡

E-14・15グリッドに位置する。東西方向に伸びるやや幅をもつ短い溝跡を検出した。北側は第2号掘立柱建物跡、南側には第33号井戸跡、西側には第12号住居跡が位置する。

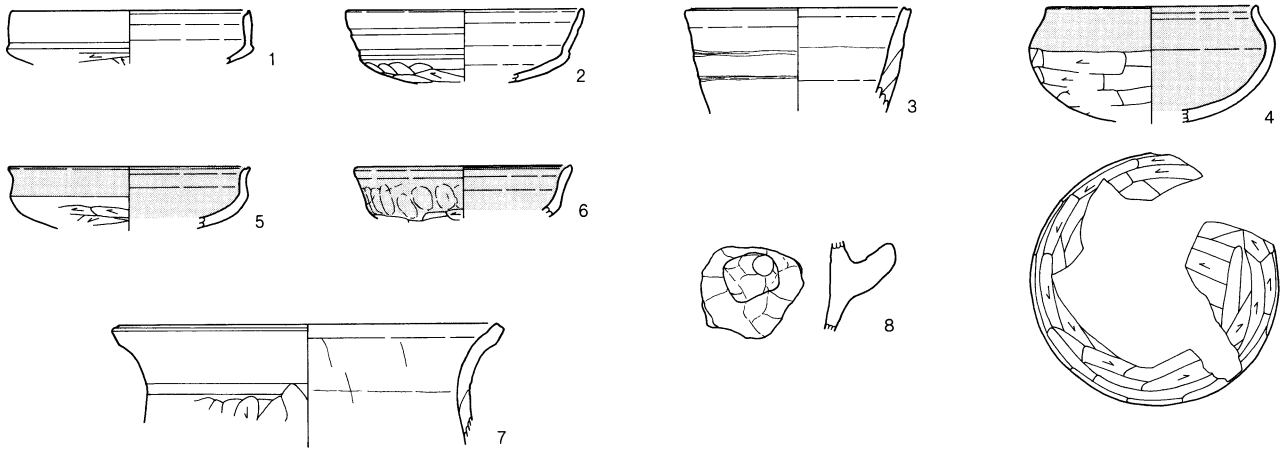
規模は、全長3.6m、幅80cm、深さ12cm。溝跡の形態は蒲鉾状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器の破片を少量検出した。古墳時代前期の遺物片が認められこの時期の遺構と捉えることができる。方形周溝墓の可能性は不明である。

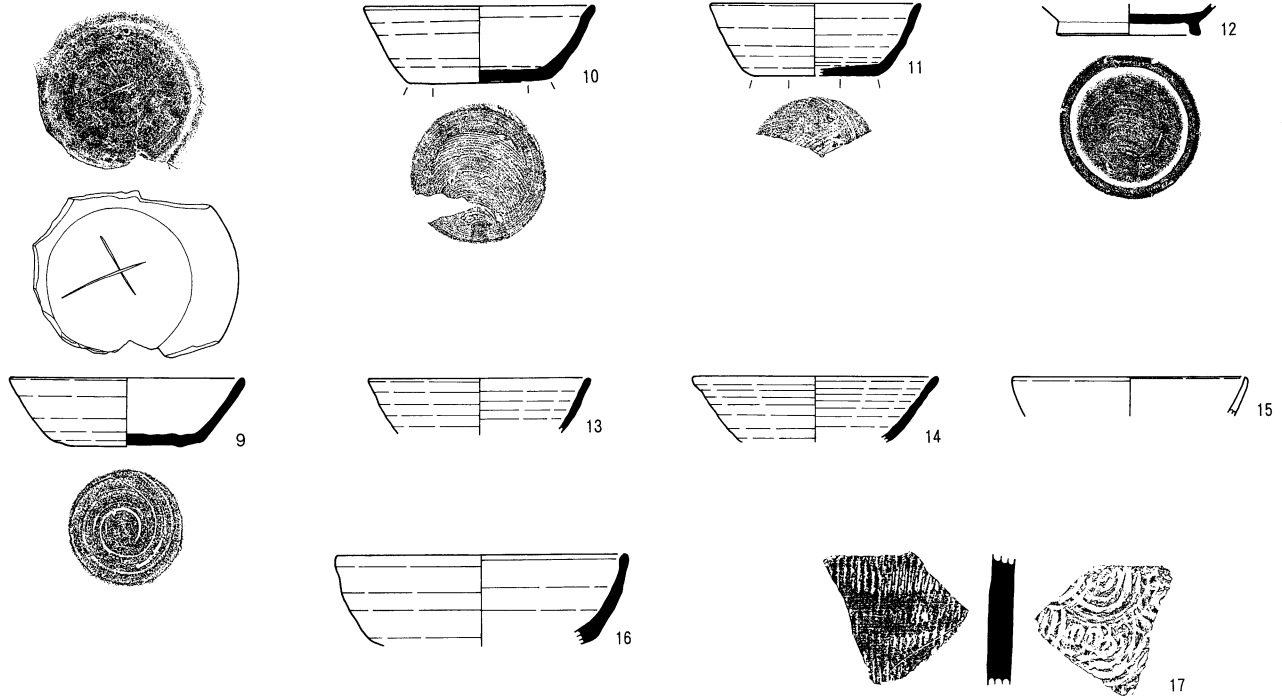
第41号溝跡

E-14グリッドに位置する。南北方向に伸びる溝跡を検出した。北側は第31号溝跡、南側は第21号溝

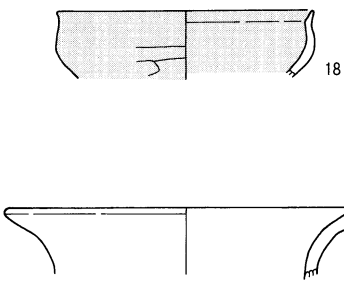
SD28-31



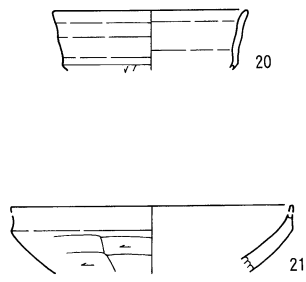
SD30



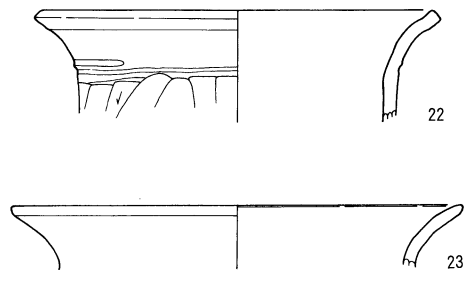
SD34



SD35



SD43



0 10cm 1:4

第295図 溝跡出土遺物 (23)

跡が位置し、西側にも同規模で同軸方向の第42号溝跡が存在する。住居周溝の可能性も考えられるが確認できなかった。

規模は、全長3.8m、幅20cm、深さ11cm。溝跡の形態は蒲鉾状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第42号溝跡

E-14グリッドに位置する。南北方向に伸びる溝跡を検出した。北側は第31号溝跡、南側は第21号溝跡が位置し、東側に同規模で同軸方向の第41号溝跡が位置する。住居周溝の可能性も考えられるが確認できなかった。

規模は、全長2.2m、幅20cm、深さ10cm。溝跡の形態は蒲鉾状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第43号溝跡

E-14グリッドに位置する。南北方向に弧を描きながら伸びる溝跡を検出した。北側は第14号住居跡が位置し、南側は第28・31号溝跡と重複する。

規模は、全長4.3m、幅50cm、深さ16cm。溝跡の形態は蒲鉾状に掘り込まれている。

本溝跡は、第68・45号溝跡の外周を巡り住居跡の外周に造られた溝跡と考えられる。また、北側D-13グリッドで検出された第54号溝跡または第55号溝跡辺りが本溝跡と繋がる可能性も考えられる。いずれにしても、本溝跡の中心となる竪穴住居跡は検出できなかった。

出土遺物は、土師器破片を少量検出し、土師器の甕を第295図に示した。

第44号溝跡

C-10・11、D-11・12、E-13、F-14・15、G-15・16・17グリッドに位置する。集落内を北西から南東にわたってほぼ縦断するように検出された。北西はC-10グリッドで調査区域外に伸びる。南東はH-17グリッドで調査区域外に伸び、直線的に掘り込まれていた。重複遺構は、第2・4・21・127号溝跡に切られる。また、北側では、第16号溝跡を

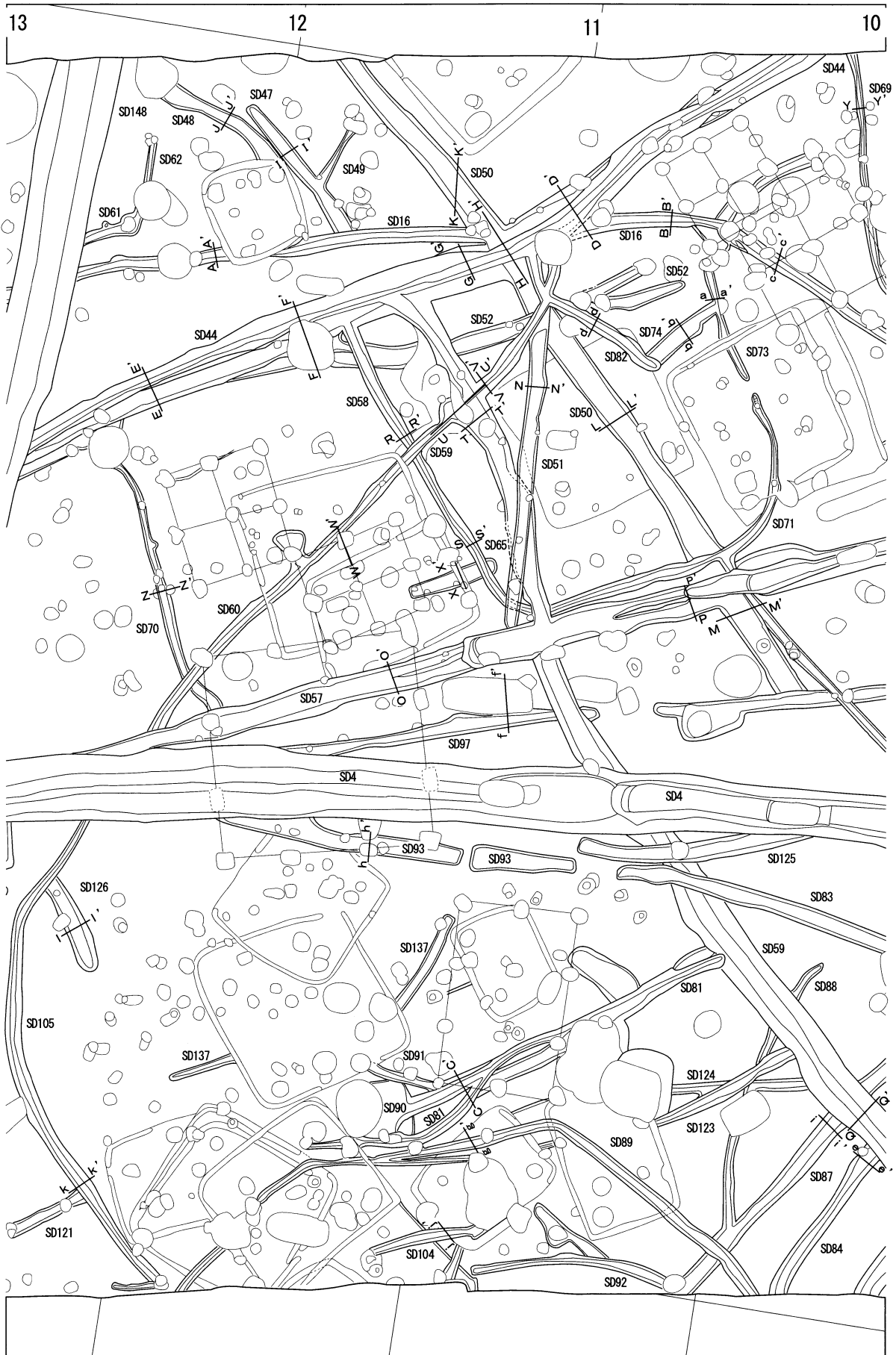
切る。

規模は、全長98.3m、幅は北側のC-11付近で150cm、中央のD-13付近で110cm、南側のG-17付近で50cm、深さは北側で66cm、南側で44cm。溝跡の形態は、底面の幅が狭い逆台型に掘り込まれている。

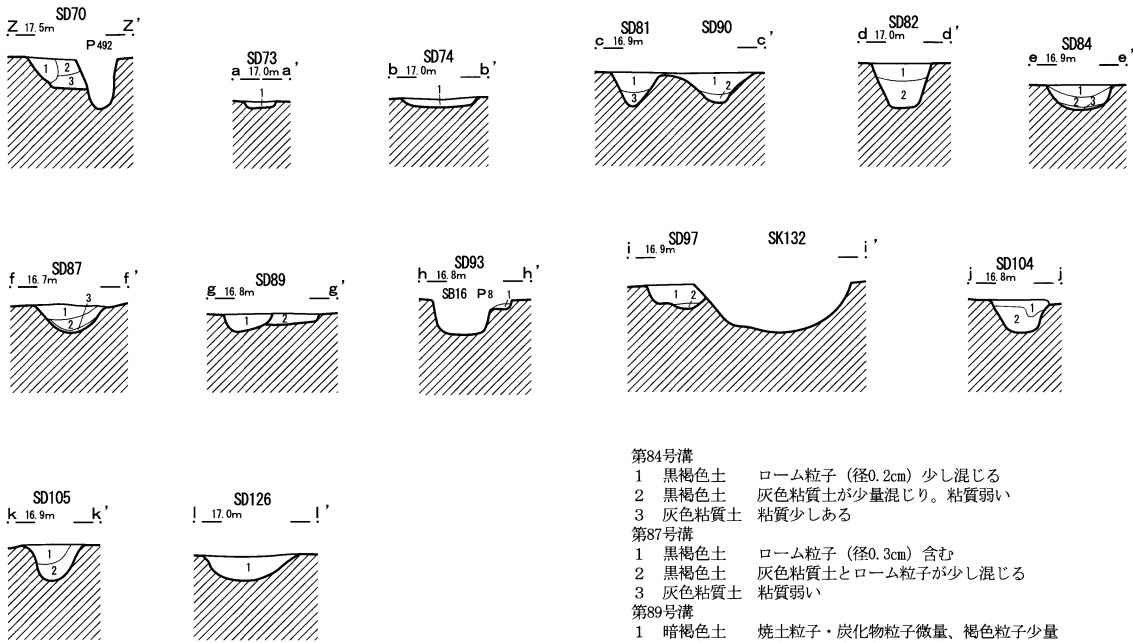
本溝跡は、住居跡に外縁を巡る外側周溝の取り付く集落内排水溝としての機能が想定される。北側から第29号住居跡の外側周溝である第69号溝跡、第28号住居跡の外側周溝である第58・71・73号溝跡、第25号住居跡の外側周溝である第70号溝跡、第16号住居跡の外側周溝である第34・68号溝跡、住居跡は検出できなかったが、同様の外側周溝である第32号溝跡が取り付く排水溝であると考えられる。同様の機能をもつ集落内排水溝は規模がやや小さいが第16号溝跡である。また、集落中央から北東に向かって緩やかに傾斜し、第80号溝跡に繋がる第63・59・169・21号溝跡の存在もある。

また、直線的に南北に走ることから、北側はおそらく第80号溝跡から分岐したものと予測される。南側は、不明であるが新たな排水機能をもった大溝跡などが存在する可能性が考えられる。

出土遺物は、第300～303図に図示した。1は須恵器線である。口縁部にはラップ状に大きく口を広げ、頸部は細くつぼまる。細かい篋描きの条線が頸部から口縁部方向に施され、二本一単位に沈線が頸部と口縁部中位に巡り、肩部にも沈線巡る。胎土緻密で粘質強く自然釉付着。2は高坏の身の部分である。胎土やや粗雑で器肉厚い。3は須恵器坏蓋である。胎土に軟らかい白色不透明のテフラ状粒子を含む。きめ細かく粘質性が高い。外面灰白、内面は黄橙。4は須恵器坏身で灰色、胎土緻密で堅致である。5は短頸壺の破片で器肉薄く、胎土緻密で堅致。6～14は坏である。7は口縁部外に大きく開き皿状となる。9・10は口唇部の屈曲する比企型坏である。15は口径の大きな鉢、16は小型の鉢である。21は手づくね土器。19・22・23・25・26は甑の取っ手である。24は石製模造品の未製品とみられる勾玉である。

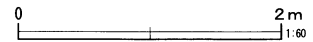


第296図 溝跡 (8)

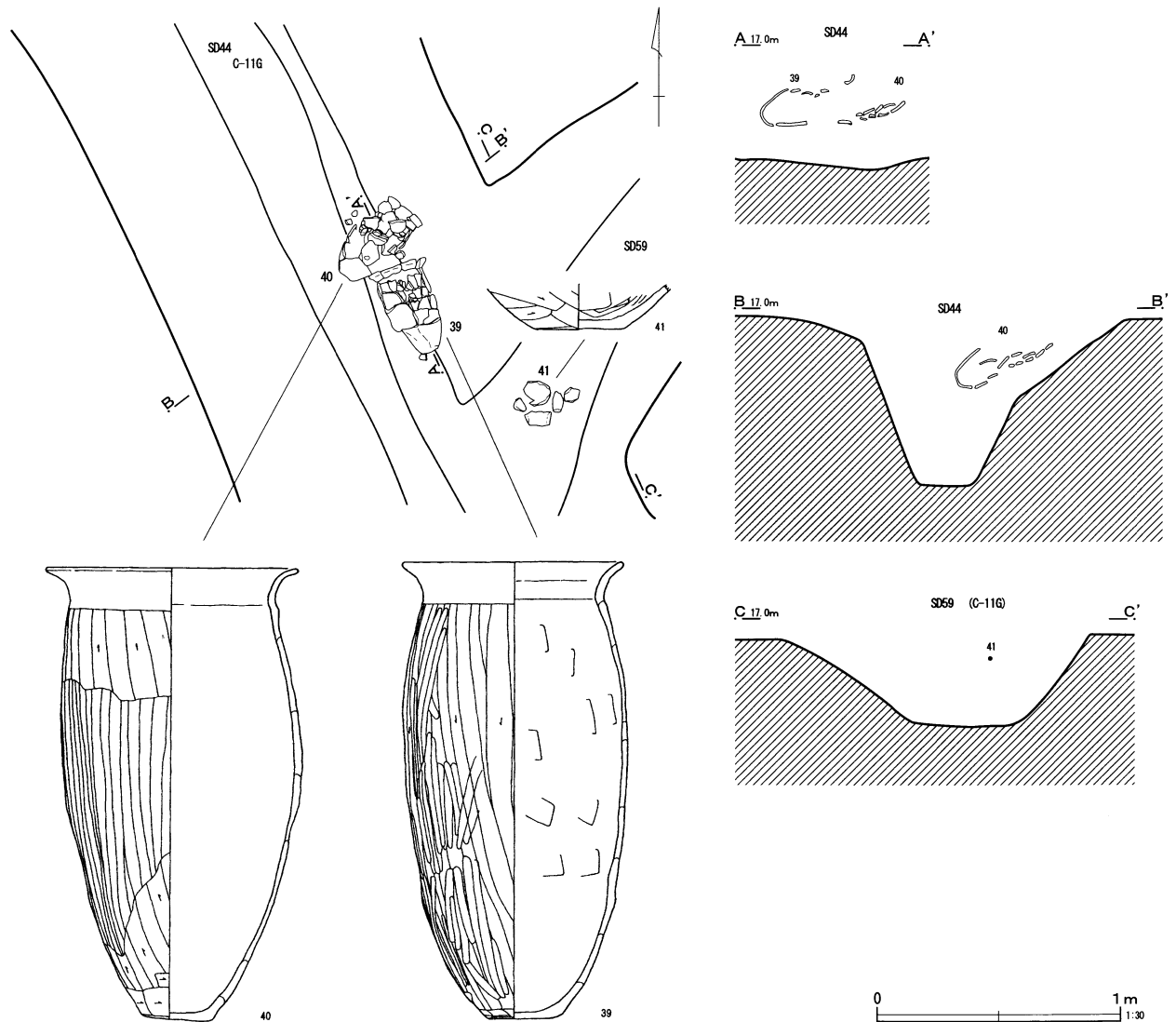


- 第70号溝
 1 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子含む。粘性あり
 2 暗褐色土 ローム粒子少量
 3 黄褐色土 2層が混じり、ローム土を主体とする
- 第73号溝
 1 暗褐色土 ローム粒子・褐色粒子含む、SD-74より新しい
- 第74号溝
 1 暗褐色土 褐色粒子含む
- 第81・90号溝
 1 暗褐色土 褐色粒子（酸化鉄）多量
 2 黄褐色土 地山の黄褐色土と暗灰色粘質土の混合層。粘質土
 3 暗褐色土 青灰色粘質土粒子含む
- 第82号溝
 1 黒褐色土 焼土粒子・炭化物粒子多量、黄褐色粒子少量
 2 暗褐色土 褐色粒子多量、黄褐色粒子・暗灰色粘質土少量

- 第84号溝
 1 黒褐色土 ローム粒子（径0.2cm）少し混じる
 2 黒褐色土 灰色粘質土が少量混じり。粘質弱い
 3 灰色粘質土 粘質少しある
- 第87号溝
 1 黒褐色土 ローム粒子（径0.3cm）含む
 2 黒褐色土 灰色粘質土とローム粒子が少し混じる
 3 灰色粘質土 粘質弱い
- 第89号溝
 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子微量、褐色粒子少量
 2 暗褐色土 褐色粒子・青灰色粘質土含む
 3 黄灰褐色土 地山
- 第93号溝
 1 黒褐色土 黄灰褐色土と暗灰色粘質土の混合層
 2 黄灰褐色土 褐色粒子含む
 3 暗褐色土 褐色粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。Pit-1の覆土
- 第97号溝
 1 暗灰褐色土 褐色粒子含む。粘質土
 2 暗灰褐色土 6層より暗く、褐色粒子含む。粘質土
- 第104号溝
 1 暗灰褐色土 褐色粒子含む、黄灰色土粒子少量
 2 青灰色土 褐色粒子多量、暗灰色土粘質土少量、やや粘性あり
- 第105号溝
 1 暗褐色土 褐色粒子多量
 2 暗褐色土 褐色粒子多量・黄褐色粒子（径0.5cm）含む
- 第126号溝
 1 暗灰褐色土 焼土粒子微量、褐色粒子多量、黄灰色粒子斑状に含む



第298図 溝跡 (10)



第299図 第44号溝跡遺物出土状況

30・32・38は甑とみられる。39・40は土師器甕でC-11グリッド覆土上層から2個体が出土した。底部外面に木葉痕をもちほぼ完形品に復元できた。

41～80は前期の遺物とみられ本遺構に混入したものである。41～44は底部外面に木葉痕をもつ。また、43・45は刷毛目の痕跡が底部外面下端に認められる。さらに、43・47・49は底部外周に輪台状に粘土が貼り付く。51は大型の埴と見られる。外面下半はヘラケズリ、上半はナデを施す。

52は埴の口縁部破片である。53～56は器台、57～65は高坏で外面磨きを施す。66～71は台付甕の脚部破片である。外面には刷毛目を施す。72～80は壺の

底部破片である。73・76・77は底部外面に刷毛目が見られる。78は外面に磨きが見られる。その他はヘラケズリを施す。

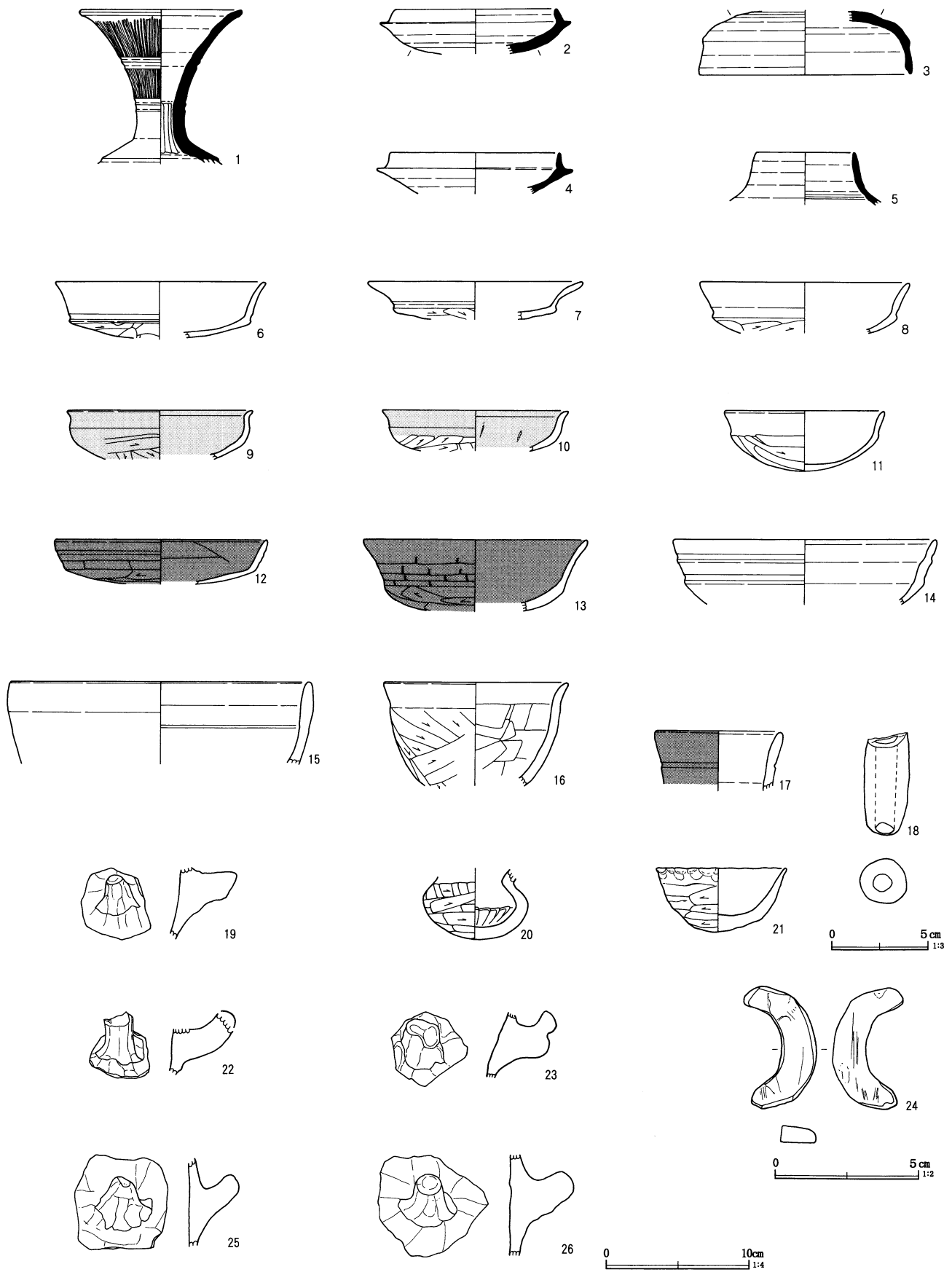
第45号溝跡

E-13・14グリッドに位置する。南北方向に弧を描きながら伸びる溝跡を検出した。東側は第14号住居跡と重複する。南側は第43号溝跡が位置する。

規模は、全長10.0m、幅40cm、深さ7cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

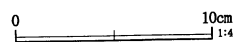
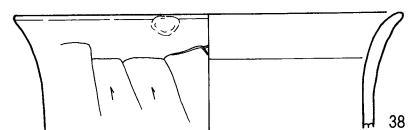
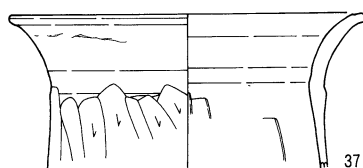
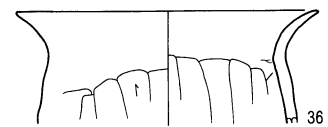
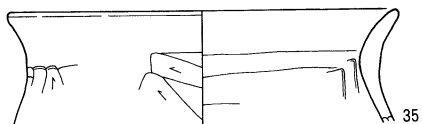
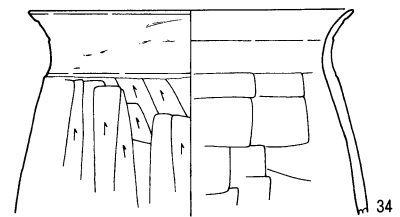
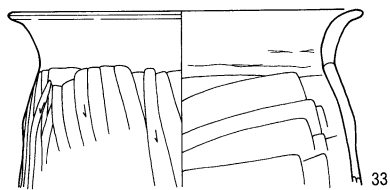
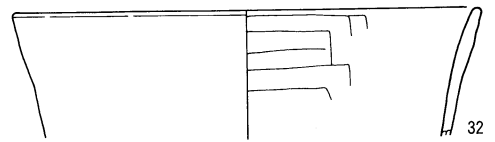
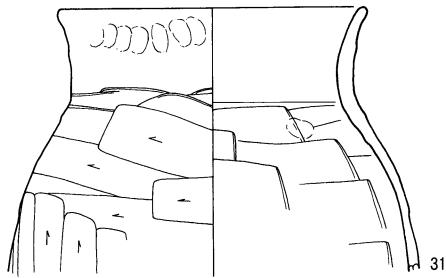
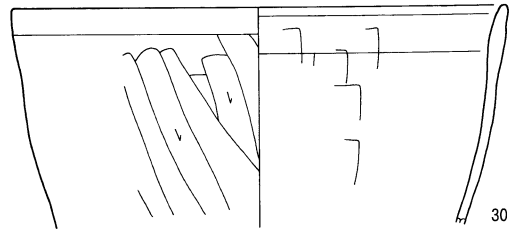
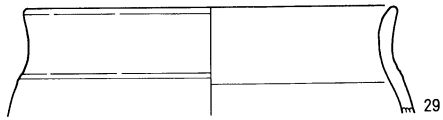
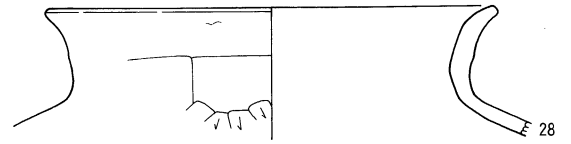
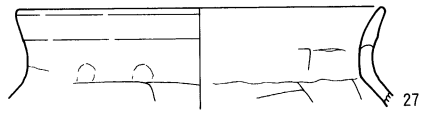
本溝跡は、第68号溝跡と第43号溝跡の間を巡り、住居跡の外周に造られた溝跡と考えられる。また、北側D-13グリッドで検出された第55号溝跡と本溝

SD44

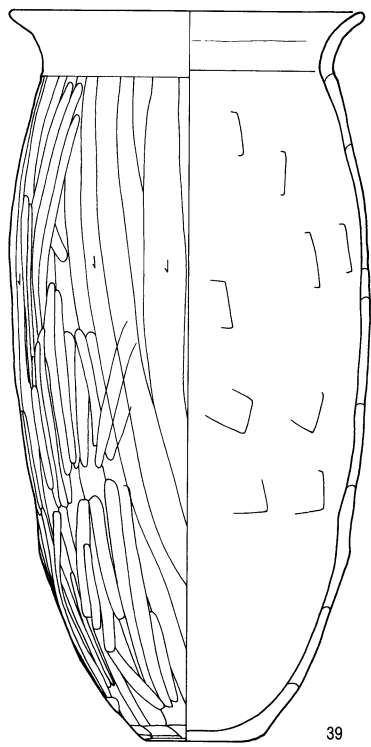


第300图 沟跡出土遺物 (24)

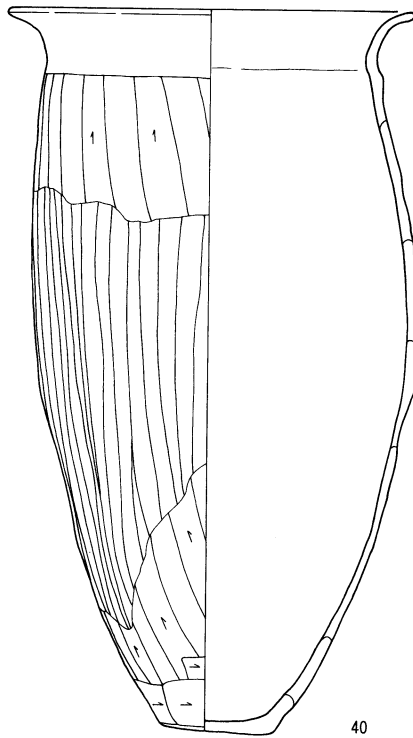
SD44



第301図 溝跡出土遺物 (25)



39



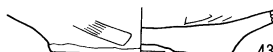
40



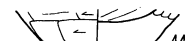
41



42



43



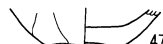
44



45



46



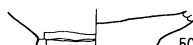
47



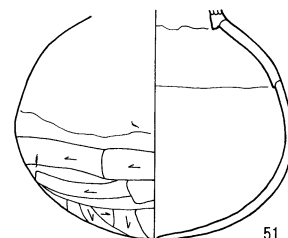
48



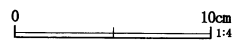
49



50

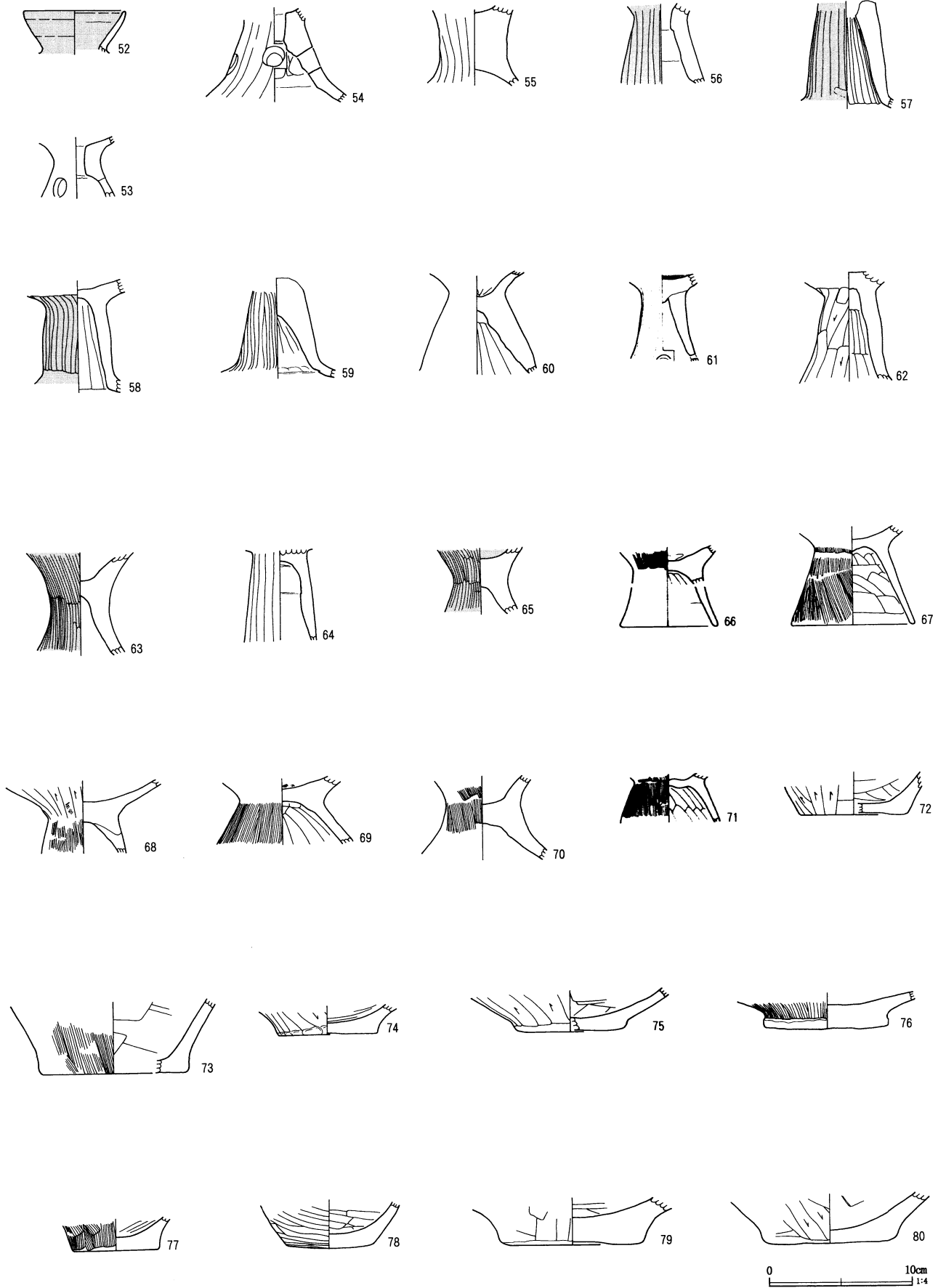


51



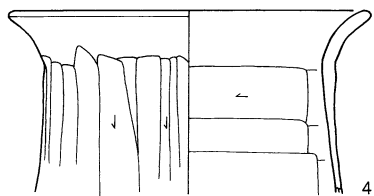
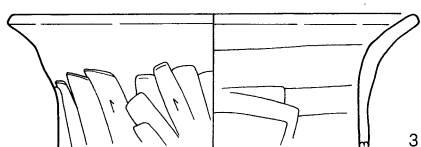
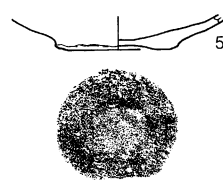
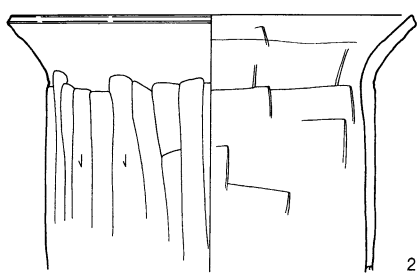
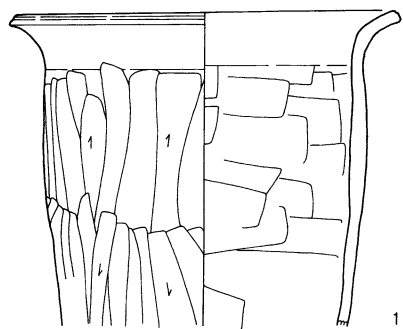
第302图 沟跡出土遺物 (26)

SD44

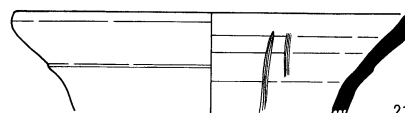
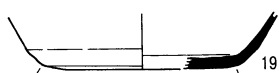
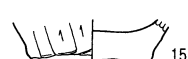
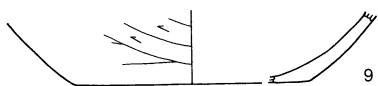
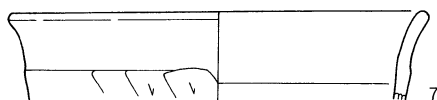
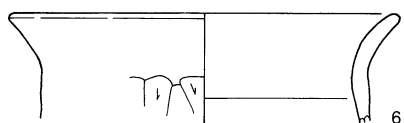


第303图 沟迹出土遗物 (27)

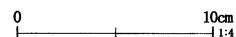
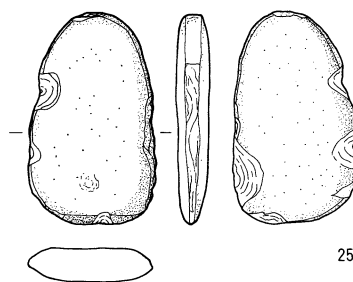
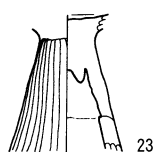
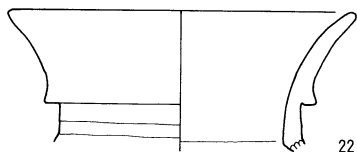
SD45



SD50



SD51



第304図 溝跡出土遺物 (28)

跡が繋がる可能性も考えられる。いずれにしても、本溝跡の中心となる竪穴住居跡は検出できなかった。また、本溝跡が排水として繋がる溝跡は第16号溝跡とみられる。

出土遺物は、第304図の土師器甕を検出した。

第46号溝跡

E-13・14グリッドに位置する。東西方向に伸びる短い溝跡を検出した。西側に第29号溝跡が位置し、南側は第45・43号溝跡に近接して位置する。

規模は、全長3.3m、幅60cm、深さ29cm。溝跡の形態は皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第47号溝跡

C-11・12グリッドに位置する。南西から北東方向に伸びる短い溝跡を検出した。東側に直行する第16・44号溝跡が位置する。その東側には、第59号溝跡が位置する。

規模は、全長5.4m、幅44cm、深さ12cm。溝跡の形態は皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第48号溝跡

C-12グリッドに位置する。南西から北東方向に伸びる短い溝跡を検出した。北側には平行する第47号溝跡、東側には、第21号住居跡が位置する。

規模は、全長4.2m、幅40cm、深さ8cm。溝跡の形態は皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第49号溝跡

C-11グリッドに位置する。南北方向に伸びる短い溝跡を検出した。西側は第50号溝跡、南東側は第47号溝跡が位置する。

規模は、全長2.1m、幅20cm、深さ4cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器甕を検出した。

第50号溝跡

C-11、D-10グリッドに位置する。南西から北東方向に伸びる溝跡を検出した。西側は調査区域外

に伸びる。東側は第79号溝跡で止まる。南側の第59号溝跡と平行する。重複関係は、断面観察によると第16・44号溝跡を切って造られ、第28号住居跡を切っている。また、第57号溝跡に切られている。

規模は、全長26.3m、幅90～100cm、深さ9～24cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、第304図の土師器甕・甑・模倣坏、須恵器甕・壺を検出した。

第51号溝跡

C-11、D-10・11グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝跡を検出した。西側は第50号溝跡から分岐する。東側は第57号溝跡で止まる。重複関係は、第28号住居跡を切っている。また、第58・59・60号溝跡と交叉するが新旧は不明である。

規模は、全長10.0m、幅55cm、深さ10cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、第304図の土師器壺、高坏を検出した。

第52号溝跡

C・D-10・11グリッドに位置する。南北方向に伸びる溝跡を検出した。北側は第73号溝跡。南側は第44号溝跡に重なる。重複関係は、第44号住居跡に切られている。また、第50・51・59・60号溝跡と交叉しいずれよりも古い。

規模は、全長15.0m、幅40～70cm、深さ6cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、古墳時代前期の土師器を検出した。第305図1～5は甕、2は胴部に縄文が施文されている。4は刷毛目が施されている。6は甑である。

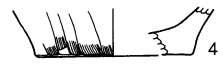
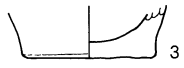
第53号溝跡

C-14グリッドに位置する。東西方向に伸びる短く細い溝跡を検出した。北側には第19号掘立柱建物跡。南側は第35号溝跡に重なる。

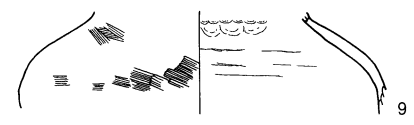
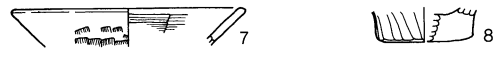
規模は、全長2.6m、幅35cm、深さ10cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。本溝跡は住居跡の周溝の可能性も指摘できるが性格不明である。

出土遺物は、第305図の古墳時代前期の土師器甕、壺を検出した。

SD52



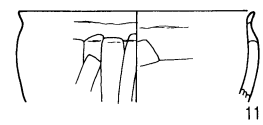
SD53



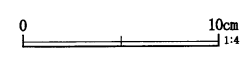
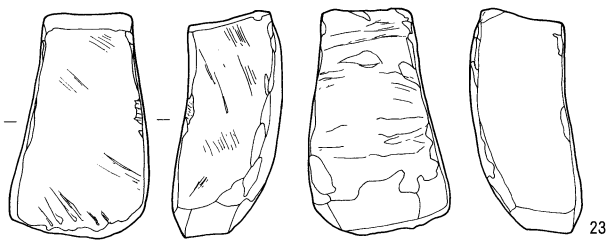
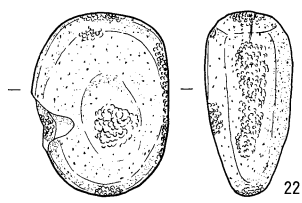
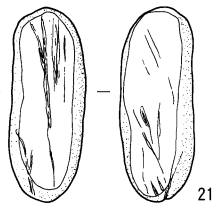
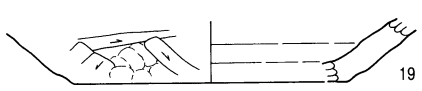
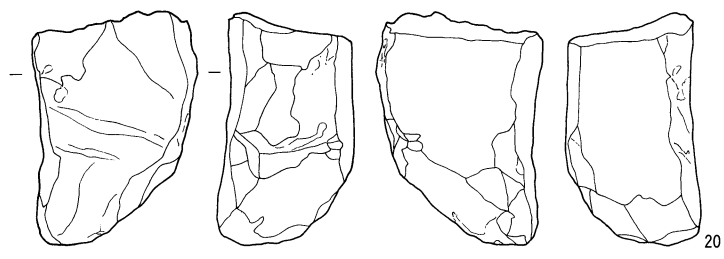
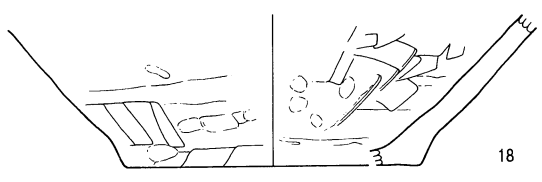
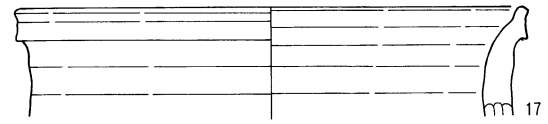
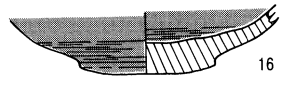
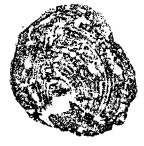
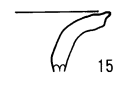
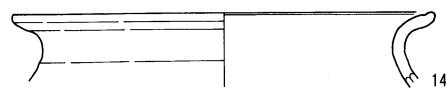
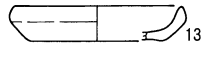
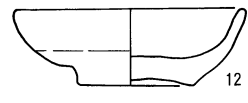
SD54



SD55

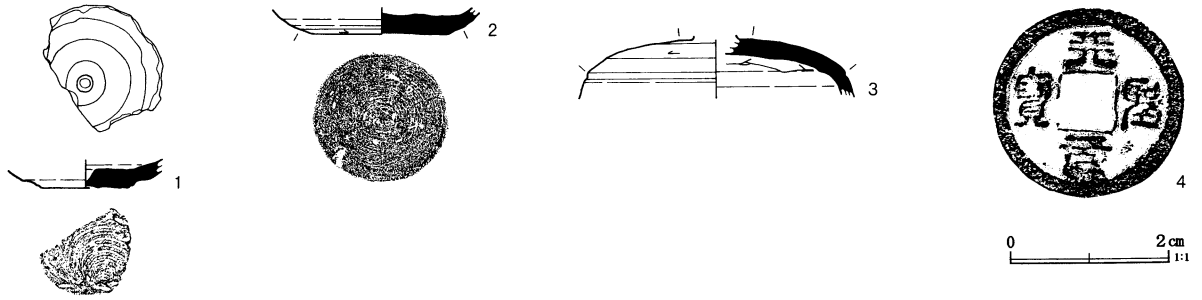


SD57

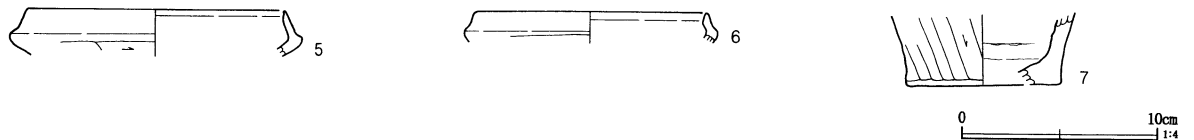


第305図 溝跡出土遺物 (29)

SD57



SD58



第306図 溝跡出土遺物 (30)

第54号溝跡

D-13グリッドに位置する。東西方向にやや湾曲して伸びる短く細い溝跡を検出した。北側には第43号井戸跡。南側は第16号住居跡が位置する。

規模は、全長4.9m、幅25cm、深さ10cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、第305図の古墳時代後期の土師器破片を検出。

第55号溝跡

D・E-13グリッドに位置する。東西方向にやや湾曲して弧を描きながら伸びる短く細い溝跡を検出した。東側は第14・41・42号土壇、第12・43号井戸跡と重複する。南側は第16号住居跡が位置する。

規模は、全長9.0m、幅25cm、深さ12cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

本溝跡は、第43または45号溝跡とつながり住居跡の外周に造られた溝跡と考えられる。本溝跡が排水として繋がる溝跡は第16号溝跡とみられる。

出土遺物は、第305図の土師器破片を検出した。

第56号溝跡

C-14グリッドに位置する。南北方向に伸びる短

い溝跡を検出した。南側は第32号溝跡と重複する。東側は第35号溝跡が位置する。

規模は、全長1.2m、幅50cm、深さ3cm。溝跡の形態は非常に浅い掘り込みである。

出土遺物は、刷毛目をもつ土師器甕の胴部破片を検出した。

第57号溝跡

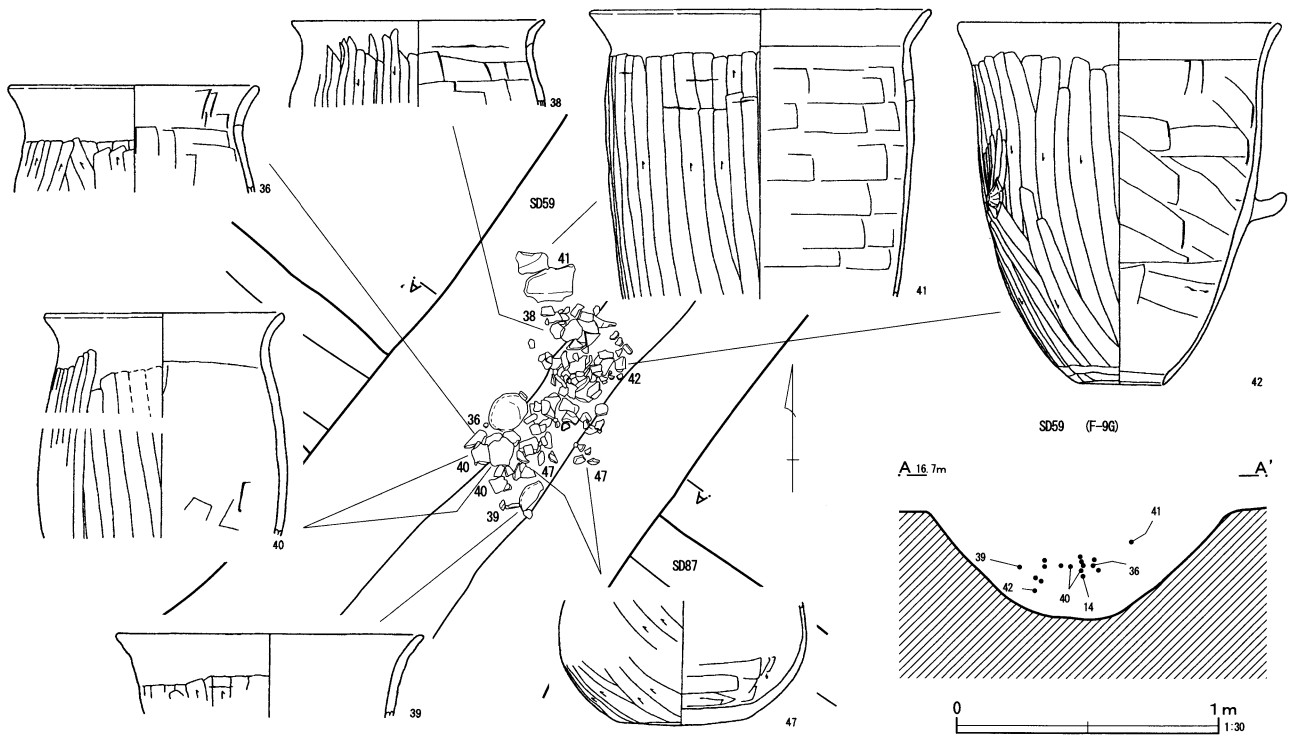
C-7・8、D-8・9・10・11、E-11・12、F-13グリッドに位置する。南北方向に長く調査区を縦断する溝跡を検出した。北側は第96号溝跡から南に屈曲する。南側は第2号溝跡まで伸び止まる。重複関係は、第2・4号溝跡に切られ、第50・59・105号溝跡と第30号住居跡を切る。

規模は、全長57m、幅100~130cm、深さ19~31cm。溝跡の形態は箱形状に掘り込まれている。

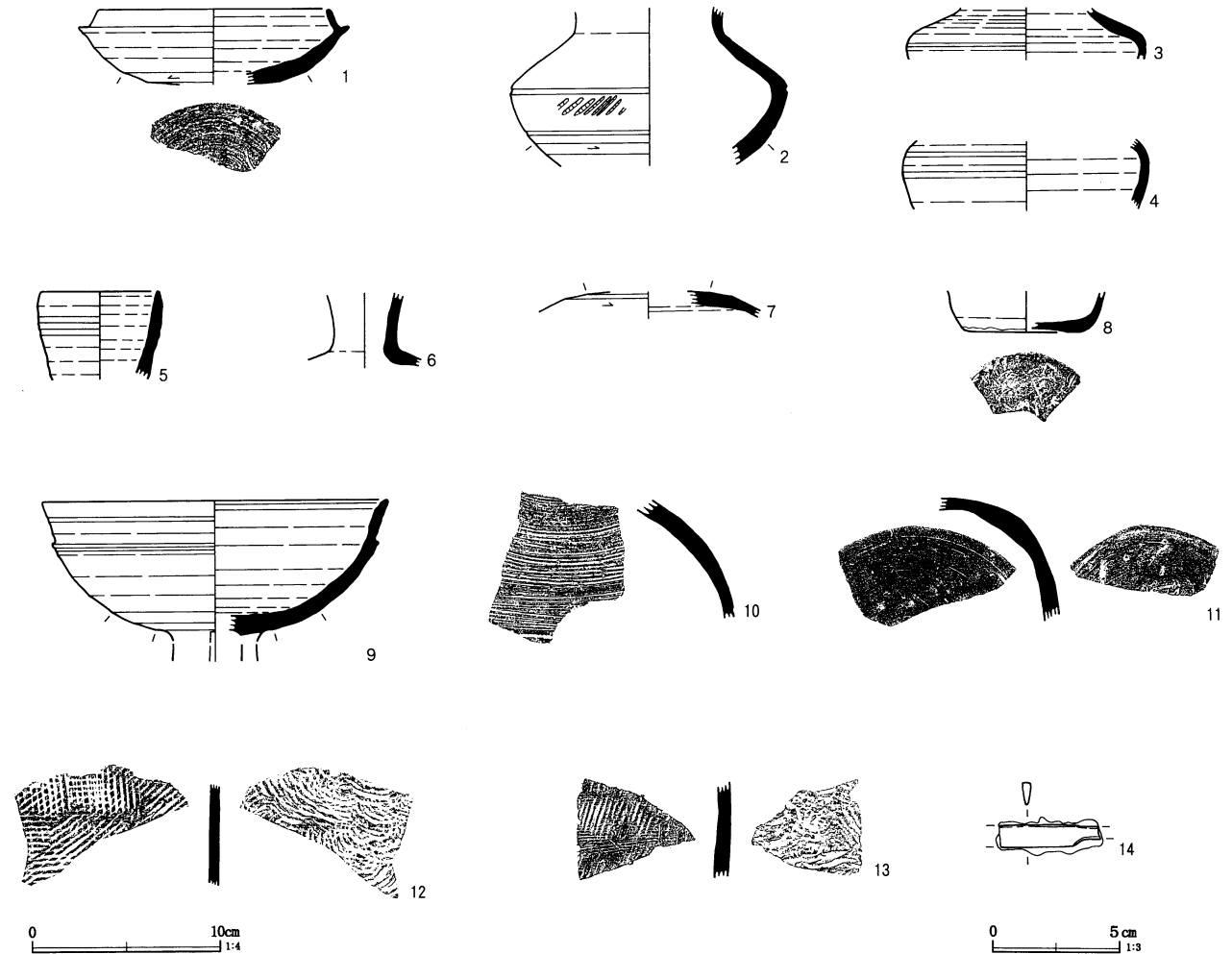
出土遺物は、第305図に示したかわらけ、常滑の甕、全面黒漆塗りの木製椀、石製砥石などである。

第58号溝跡

D-11グリッドに位置する。本溝跡は第28号住居跡の周囲を巡る溝跡の一部である。本溝跡は南側にあたり、東側は第71号溝跡、北側は第73号溝跡で



SD59



第307图 第59号溝跡出土状況出土遺物 (31)

「コ」の字状に囲む。西側の部分は集落内を縦断する第44号溝跡が位置し本溝跡と繋がる。ただし本溝跡と第44号溝跡との間と北側との二ヶ所に開口部が存在し、北西隅の2.5m程と北側に50cmほどの開口部が確認された。さらに東側の第71号溝跡から第80号溝跡につながる第63号溝跡とも連結している。古墳時代後期における竪穴住居跡の排水施設が良好に検出された例である。

規模は、全長11.6m、幅32～45cm、深さ29cm。溝跡の形態は箱型状に掘り込まれている。

出土遺物は、第306図の須恵器身模倣の土師器坏、甕を検出した。

第59号溝跡

C・D-11、E-10・11、F-8・9・10グリッドに位置する。東西方向に緩やかに湾曲して北東に伸びる溝跡を検出した。北側には幅の細い第63号溝跡が平行して伸びる。

規模は、全長36.3m、幅100～130cm、深さ29～44cm。溝の形態はやや深く箱型状に掘り込まれている。

出土遺物は、古墳時代後期の土師器、須恵器を検出した。第307図1～13は須恵器である。1は有蓋高坏である。胎土中にガラス質の透明粒子を混在、2は短頸壺の肩部から胴部上半である。器面滑らかで胎土もきめ細かく粘質高い。3・4は同一個体で短頸壺の破片である。器面滑らか、胎土は石英粒子を混入し緻密。5は壺口縁である。胎土、焼成は3に類似する。6は長頸壺の口縁部である。粒子やや多いが粘質の富んだ胎土である。9は無蓋の高坏である。脚部には透かし切り込みの工具痕跡が明瞭に残る。胎土は粒子の細かい砂粒子を含む。10・11は提瓶の破片である。10は胎土に石英粒子が多く含まれる。11は細かな砂粒子が多く含まれる。12・13は甕の破片である。いずれの胎土にも針状物質は含まれず片岩も見られない。

第308図15～29は土師器坏である。16は身模倣坏で内面に放射状暗文を施す。33・34は高坏脚部、35～第309図41は甕、42は取手付大型甕である。

第60号溝跡

C・D・E-11グリッドに位置する。南北方向に伸びる溝跡を検出した。北側は第36号井戸跡と重複しているため溝跡の分岐が第16号溝跡か第44号溝跡なのか把握できない。南側は東寄りに南下し第57および第4号溝跡に切られる。さらに東側はおそらく第105号溝跡に繋がると考えられる。

規模は、全長21.0m、幅40cm、深さ27～36cm。溝跡の形態は箱形状に掘り込まれている。

出土遺物は、第310図の土師器高坏、甕、模倣坏などを検出した。

第61号溝跡

C-12グリッドに位置する。南北方向に伸びる短い溝跡を検出した。北側は、第62号溝跡に繋がる。同一の溝跡である。南側は第148号溝跡と重複する。

規模は、全長2.3m、幅35cm、深さ15cm。溝跡の形態は非常に浅い掘り込みである。

出土遺物は、古墳時代後期の土師器破片を少量検出した。

第62号溝跡

C-12グリッドに位置する。東西方向に伸びる短い溝跡を検出した。東側は、第61号溝跡に繋がる。同一の溝跡である。

規模は、全長1.3m、幅15cm、深さ2cm。溝跡の形態は非常に浅い掘り込みである。

出土遺物は、古墳時代後期の土師器破片を少量検出した。

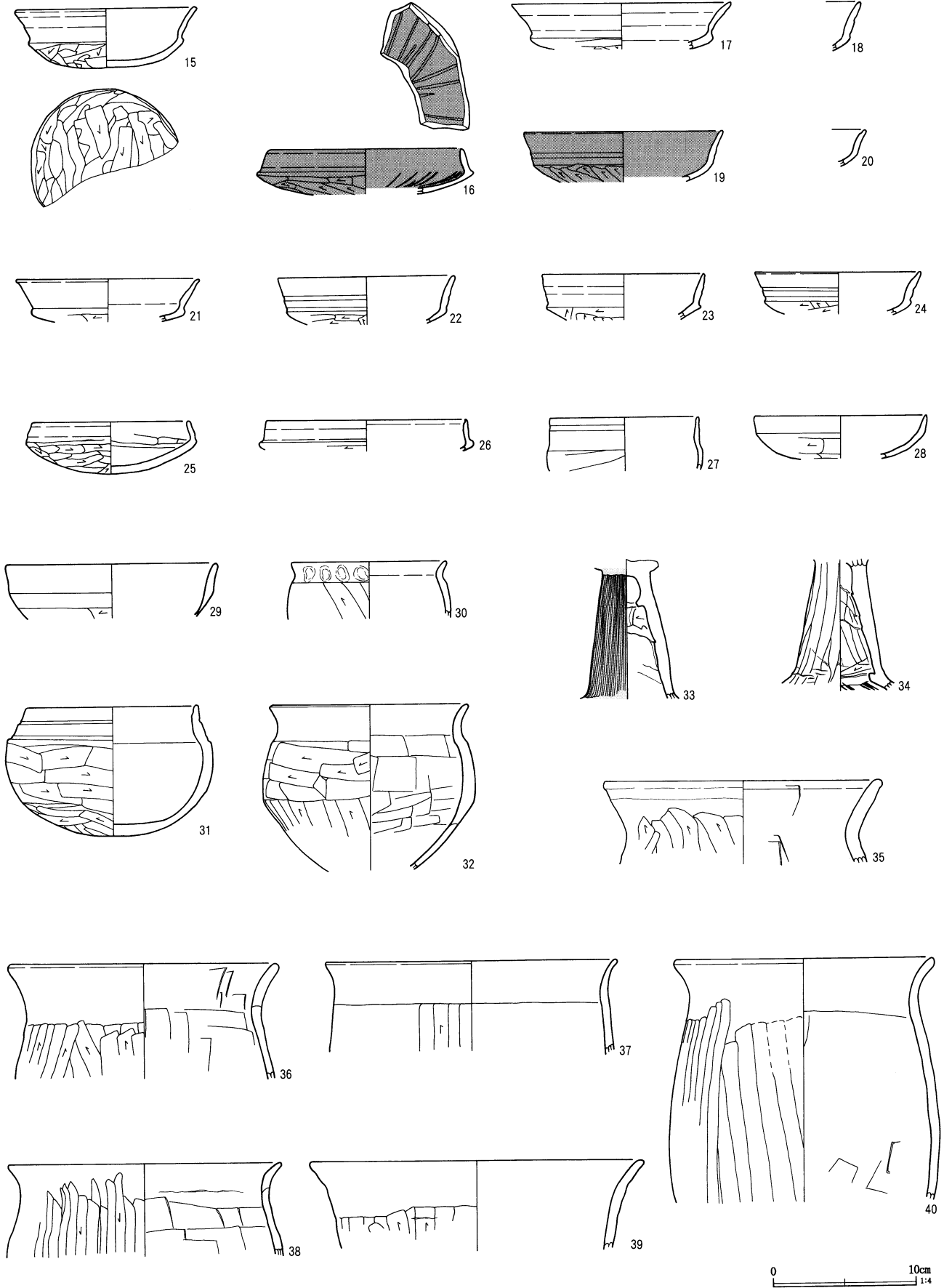
第63号溝跡

D-9・10、E-8・9・10、F-7・8グリッドに位置する。南北方向に伸びる細長い溝跡を検出した。

北側は、第80号溝跡に繋がる。南側は第71号溝跡と繋がり、第28号住居跡の外側に巡る方形の周溝から伸び排水機能をもち、第80号溝跡に落ちると考えられる。

規模は、全長35.7m、幅14～25cm、深さ30～35cmで緩やかに北側の第80号溝跡に向かって傾斜する。

SD59



第308図 溝跡出土遺物 (32)

溝跡の形態は方形に掘り込まれている。

出土遺物は、古墳時代後期の須恵器、土師器を検出した。第310図6は須恵器壺の口縁破片である。7～16は土師器坏である。7・8・9は有段口縁坏、10～14は模倣坏、15は比企型坏、16は身模倣坏である。17～19は混入と考えられる。

第64号溝跡

C-9グリッドに位置する。「L」字状に伸びる溝跡を検出した。北側西端は第1号方形周溝墓と重複し、中央は第16・69号溝跡に切られる。東側は第24号住居跡と重複する。

規模は、全長10.5m、幅120cm、深さ19cm。溝跡の形態は皿状の浅い掘り込みである。

出土遺物は、古墳時代前期の土師器破片を少量検出した。

第65号溝跡

D-11グリッドに位置する。南北方向に伸びる短い溝跡を検出した。北側は、第58号溝跡に切られる。南側は第26号住居跡と重複する。

規模は、全長3.1m、幅52cm、深さ12cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、古墳時代前期の土師器破片を少量検出した。

第66号溝跡

D-4グリッドに位置する。調査区北端にあたる。第27号住居跡の外側に巡る周溝である。北側から東側にかけて検出し、第80号溝跡に繋がっていたものと考えられる。しかし、南側の第95号溝跡に切れ南半分は検出できなかった。

規模は、全長15.0m、幅10～18cm、深さ30～40cm。溝跡の形態は箱形状に掘り込まれていた。

遺物は、まったく検出できなかった。

第67号溝跡

E-17グリッドに位置する。南北方向に伸びる短い溝跡を検出した。北側は、第23号井戸跡に繋がる。南側は第22号井戸跡に繋がる。同時期かは不明。

規模は、全長4.7m、幅72cm、深さ23cm。溝跡の

形態は浅い掘り込みである。

出土遺物は、第310図の須恵器高台付坏や坏、土錘を検出した。

第68号溝跡

D-14、E-13・14グリッドに位置する。南西側は第34号溝跡と合流し、方形に巡る溝跡である。溝跡中央には第16号住居跡が位置し、住居跡の外側周溝と考えられる。住居跡壁面からの距離は約3～3.5mである。

本溝跡の機能は住居周囲の排水機能が考えられ、第44号溝跡に排水したものと推測される。重複関係は、第16・29号溝跡に切られる。

規模は、全長14.9m、幅28cm、深さ8cm。溝跡の形態は箱形状に掘り込まれている。

出土遺物は、第310図に土師器模倣坏、比企型坏、甕、甌などを図示した。

第69号溝跡

B-10、C-9グリッドに位置する。「コ」の字状に巡る溝跡である。溝跡中央には第29号住居跡が位置し、住居跡の外側周溝と考えられる。住居跡壁面からの距離は約3～3.5mである。

第44号溝跡に排水したものと推測される。重複関係は、北側に第45号井戸跡に切れ、第32・33号住居跡と重なり溝跡は検出できなかった。本溝跡の機能は住居周囲の排水機能が考えられる。

規模は、全長17.2m、幅25～35cm、深さ21cm。溝跡の形態は箱型状に掘り込まれている。

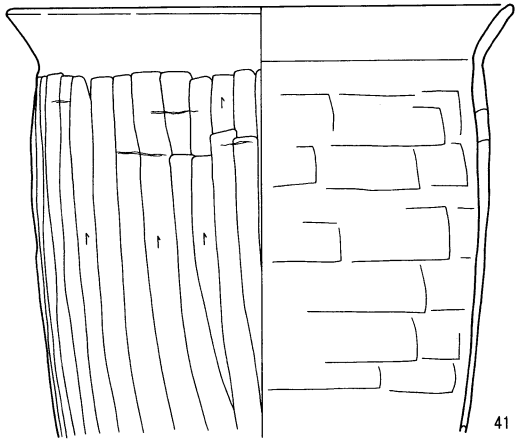
出土遺物は、土師器破片を少量検出し、甕を第310図に示した。

第70号溝跡

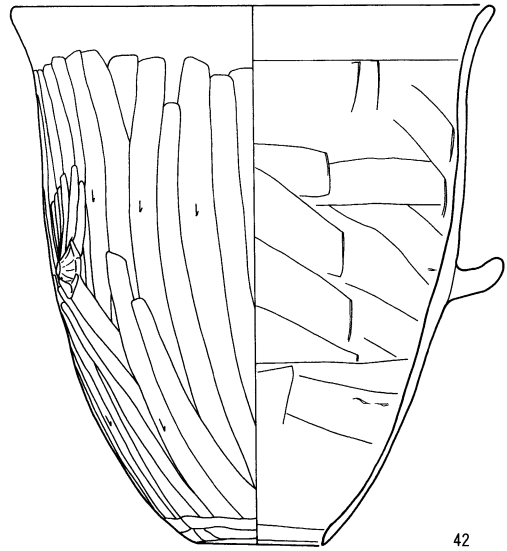
D-12グリッドに位置する。「コ」の字状に巡る住居跡の外側周溝と考えられる。本溝跡は南側部分にあたる。中央には第25号住居跡が位置する。住居跡壁面からの距離は約3mである。第44号溝跡に排水したと推測される。東と北側は検出できなかった。

規模は、全長9.2m、幅35cm、深さ15cm。溝跡の形態は箱形状に掘り込まれている。

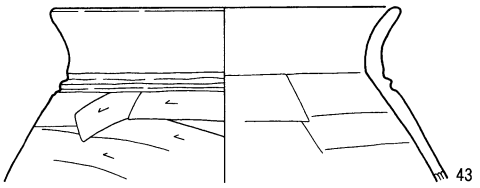
SD59



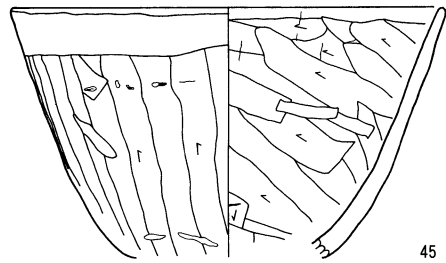
41



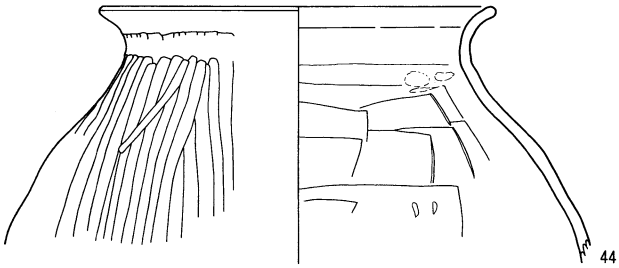
42



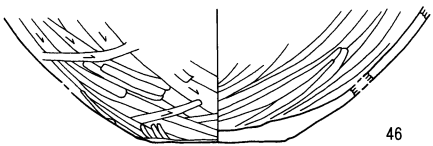
43



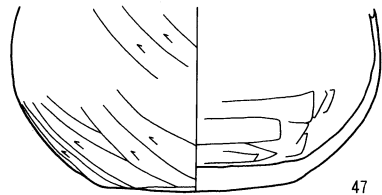
45



44



46



47



48



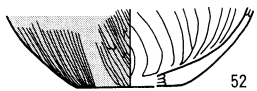
49



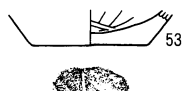
50



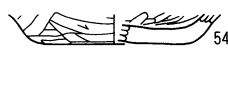
51



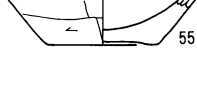
52



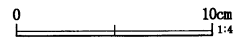
53



54



55



第309図 溝跡出土遺物 (33)

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第71号溝跡

D-10グリッドに位置する。本溝跡は第28号住居跡の周囲を巡る溝の一部である。本溝跡は東側にあたり、南側は第58号溝跡、北側は第73号溝跡で「コ」の字状に囲む。

規模は、全長13.0m、幅40cm、深さ23cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第72号溝跡

D-9グリッドに位置する。南北方向に伸びる短い溝跡を検出した。北側は第104号土壌に切られる。南側は第50号井戸跡と重複する。

規模は、全長4.6m、幅35cm、深さ17cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第73号溝跡

C-10グリッドに位置する。第71号溝跡と北側に位置し、第28号住居跡の周囲を巡る溝跡の一部である。南側には第58号溝跡で「コ」の字状に囲む。

規模は、全長3.9m、幅18~23cm、深さ3cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第74号溝跡

C-10グリッドに位置する。南北方向に伸びる短い溝跡を検出した。北側は、第73号溝跡に切られる。南側は第82号住居跡と重複する。

規模は、全長3.1m、幅60cm、深さ5cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第75号溝跡 欠番

第76号溝跡

D-4グリッドに位置する。北西から南東方向に伸びる溝跡を検出した。北側は調査区域外、南側は途中で切れる。

規模は、全長14.5m、幅90cm、深さ16cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。第310図に示したのは土師器坏の破片である。

第77号溝跡

C-8・9グリッドに位置する。南北方向に伸びる短い溝跡を検出した。第16号溝跡を切る。中央に第1号方形周溝墓の東溝が位置する。

規模は、全長3.5m、幅115cm、深さ18~37cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、北武蔵型坏の破片を検出した。

第78号溝跡

D・E-15グリッドに位置する。東西方向に伸びる細い溝跡を検出した。西側は第3号溝跡に切られる。東側は第4号溝跡と重複する。

規模は、全長8.2m、幅50cm、深さ30cm。溝跡の形態は箱形状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量、身模倣坏や高坏の破片を検出した。

第79号溝跡

D-9・10、E-10・11グリッドに位置する。南北方向に伸びる細長い溝跡を検出した。北側は、第31号住居跡に切られる。南側は第51号井戸跡付近で途切れ、2mの間隔を置いて再び溝跡が伸び、第4号溝跡と重複する。

規模は、全長24.5mで北側が12.5m、南側は10.5m、中間の途切れた部分が2.0m。幅45cm、深さ10~15cm。溝跡の形態は浅い皿状に掘り込まれている。

出土遺物は、土師器破片を少量検出し、土師器坏、甕、高坏の破片を確認した。

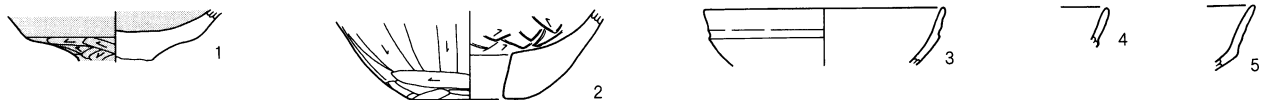
第80号溝跡

調査区北側のB・C・D・E・F-6グリッドに位置する。古墳時代後期の溝跡である。

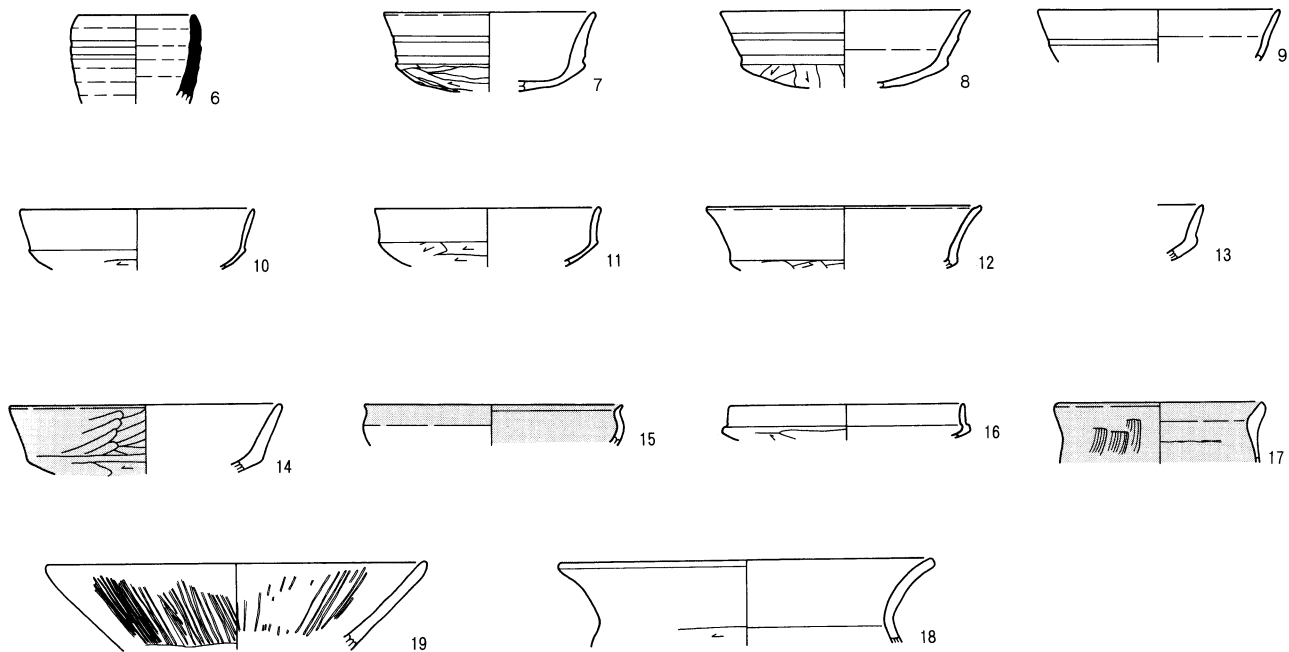
本溝跡は、集落の北側を東西方向に検出され、自然堤防上に立地する集落の北縁を、西から東に向けてわずかに湾曲しながら緩やかな傾斜を保ち掘り込まれている。底面のレベルは西側で15.107m、東側で15.02m、レベル差は8.7cmである。

西側および東側は調査区域外に伸び、東区でも検

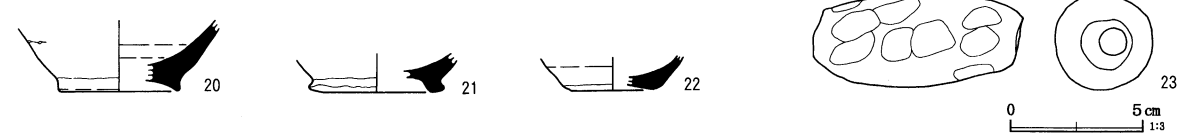
SD60



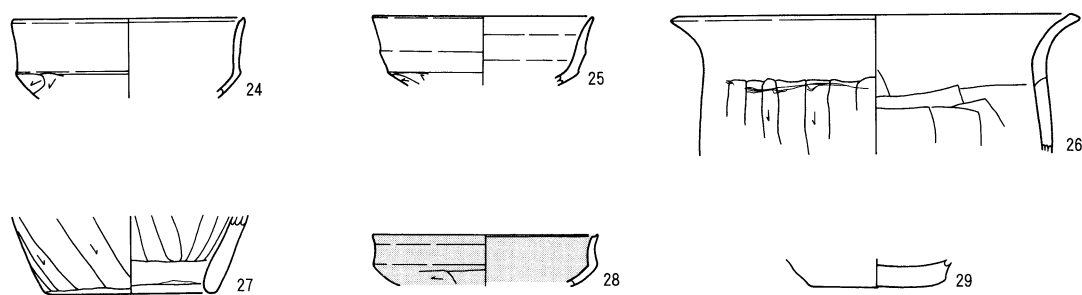
SD63



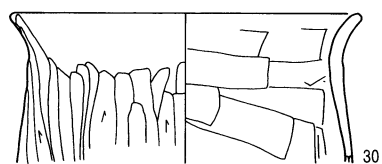
SD67



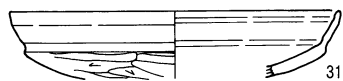
SD68



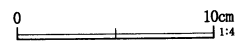
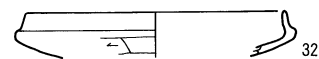
SD69



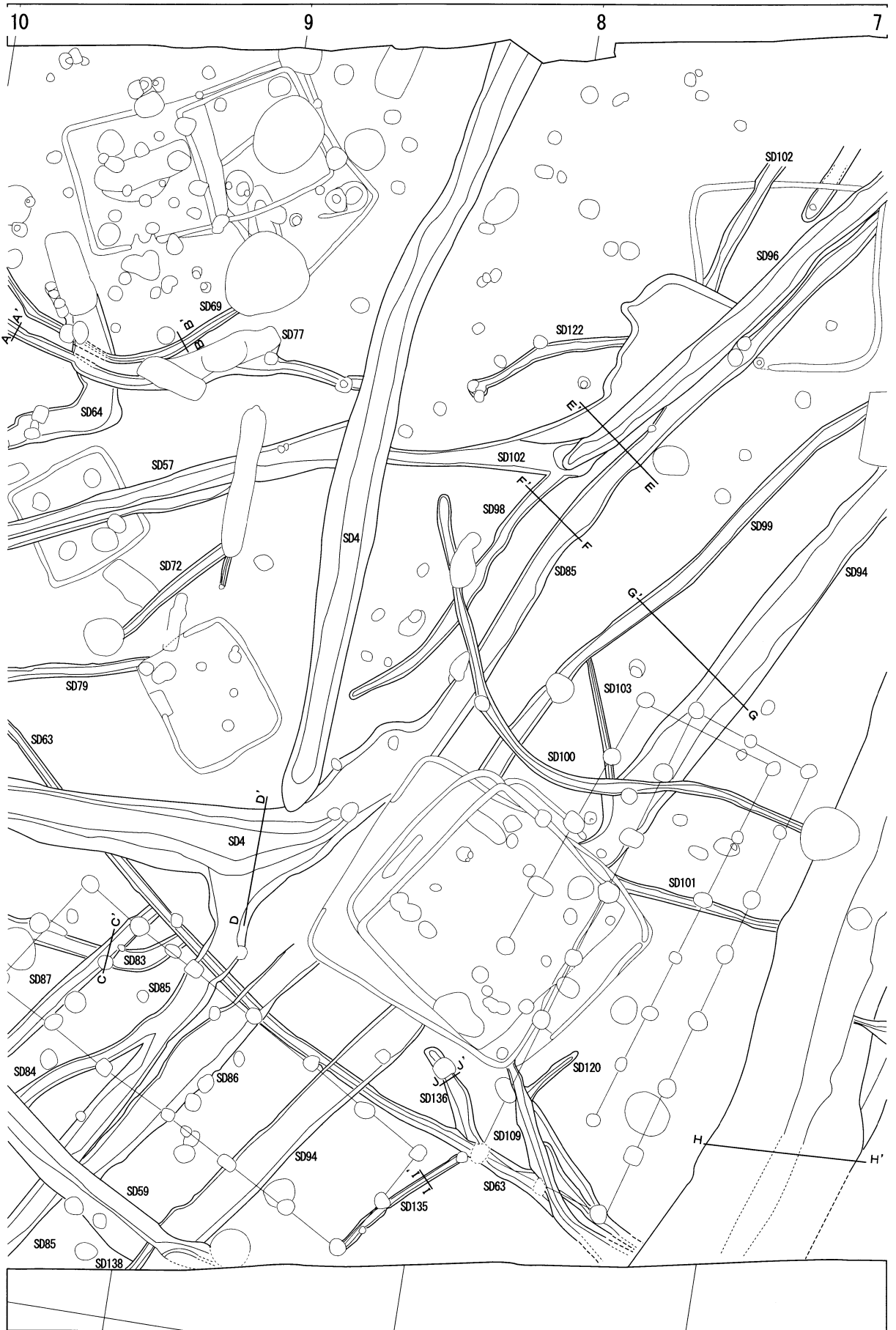
SD71



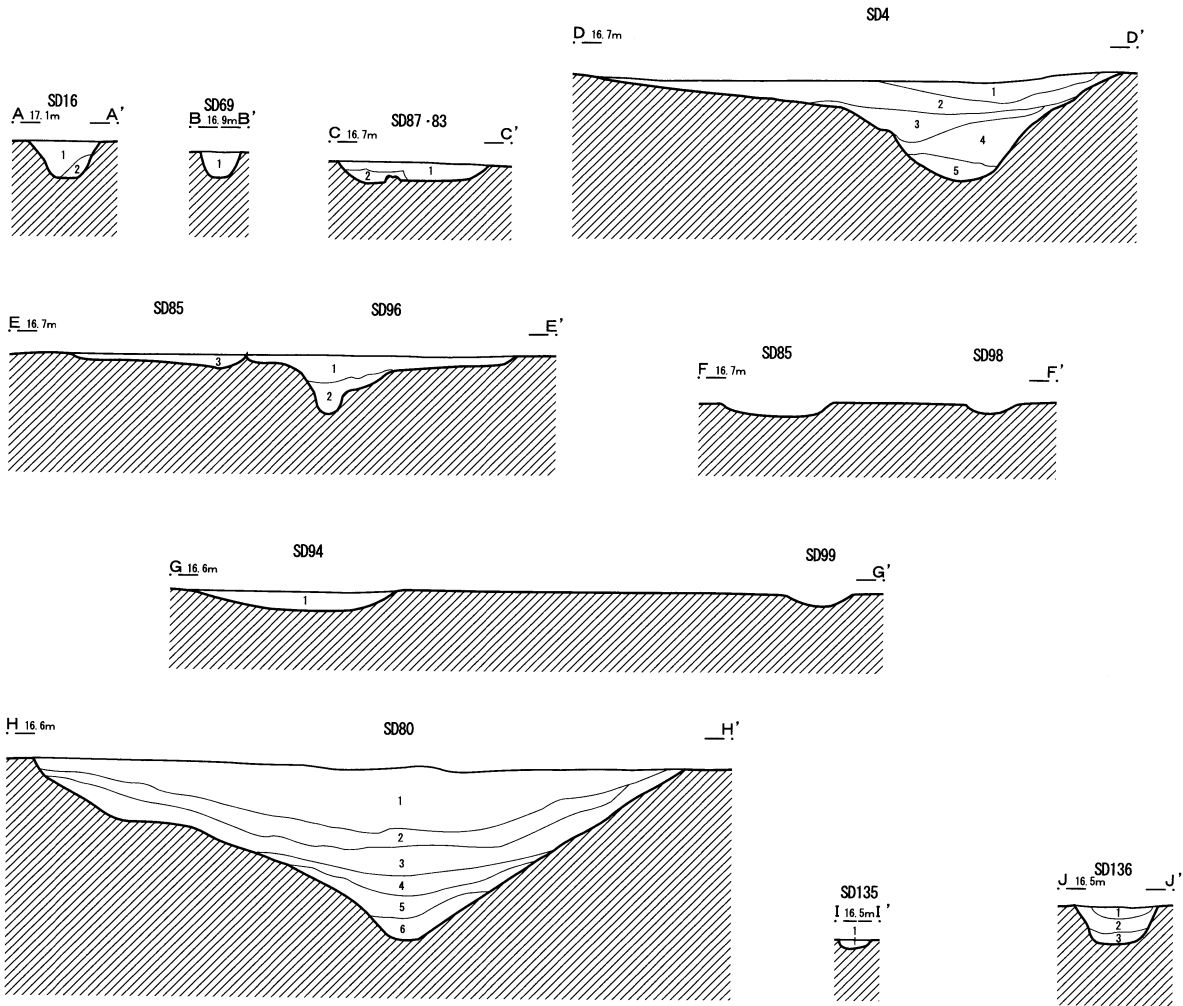
SD76



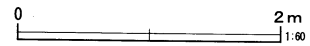
第310図 溝跡出土遺物 (34)



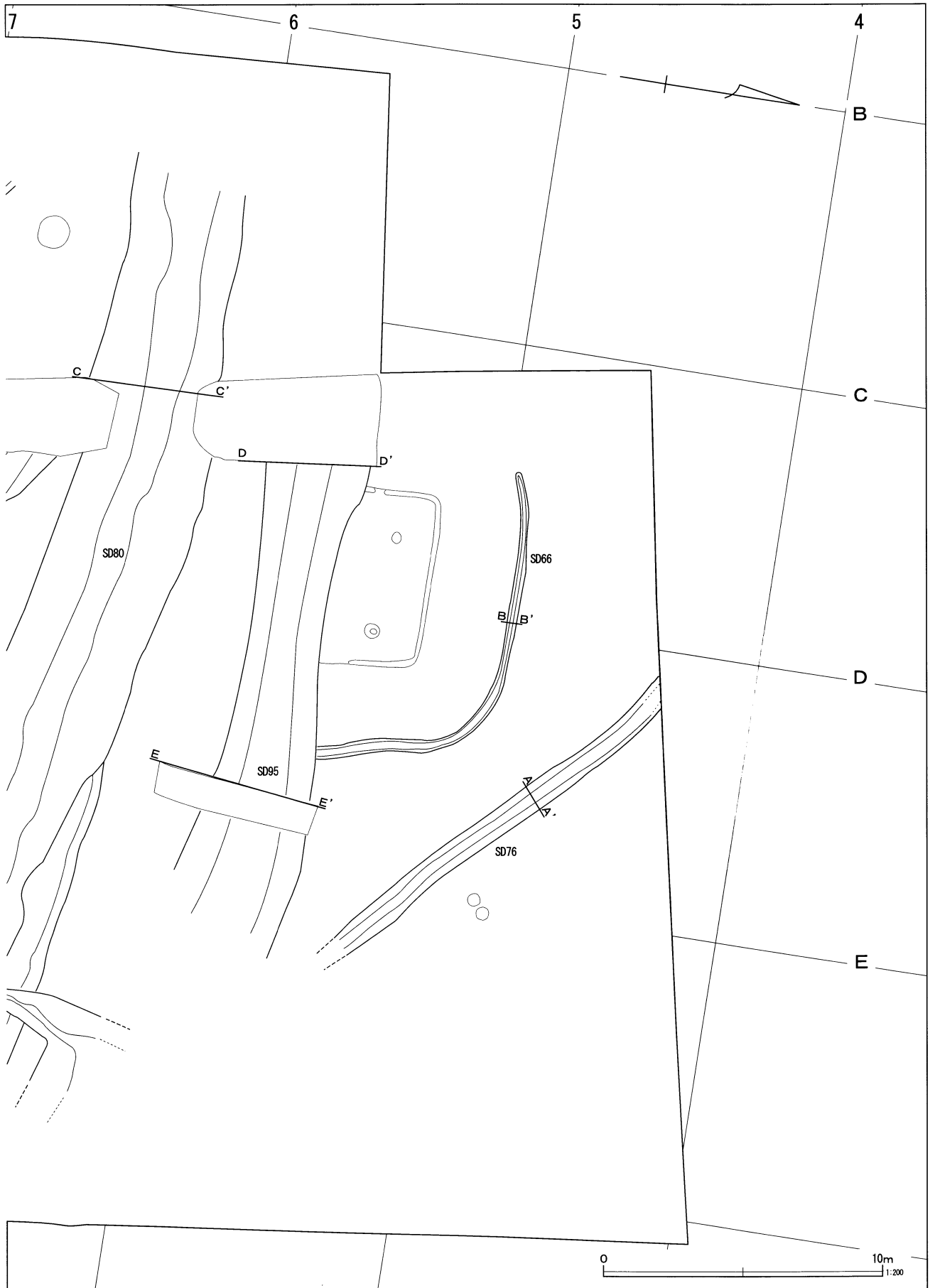
第311図 溝跡 (11)



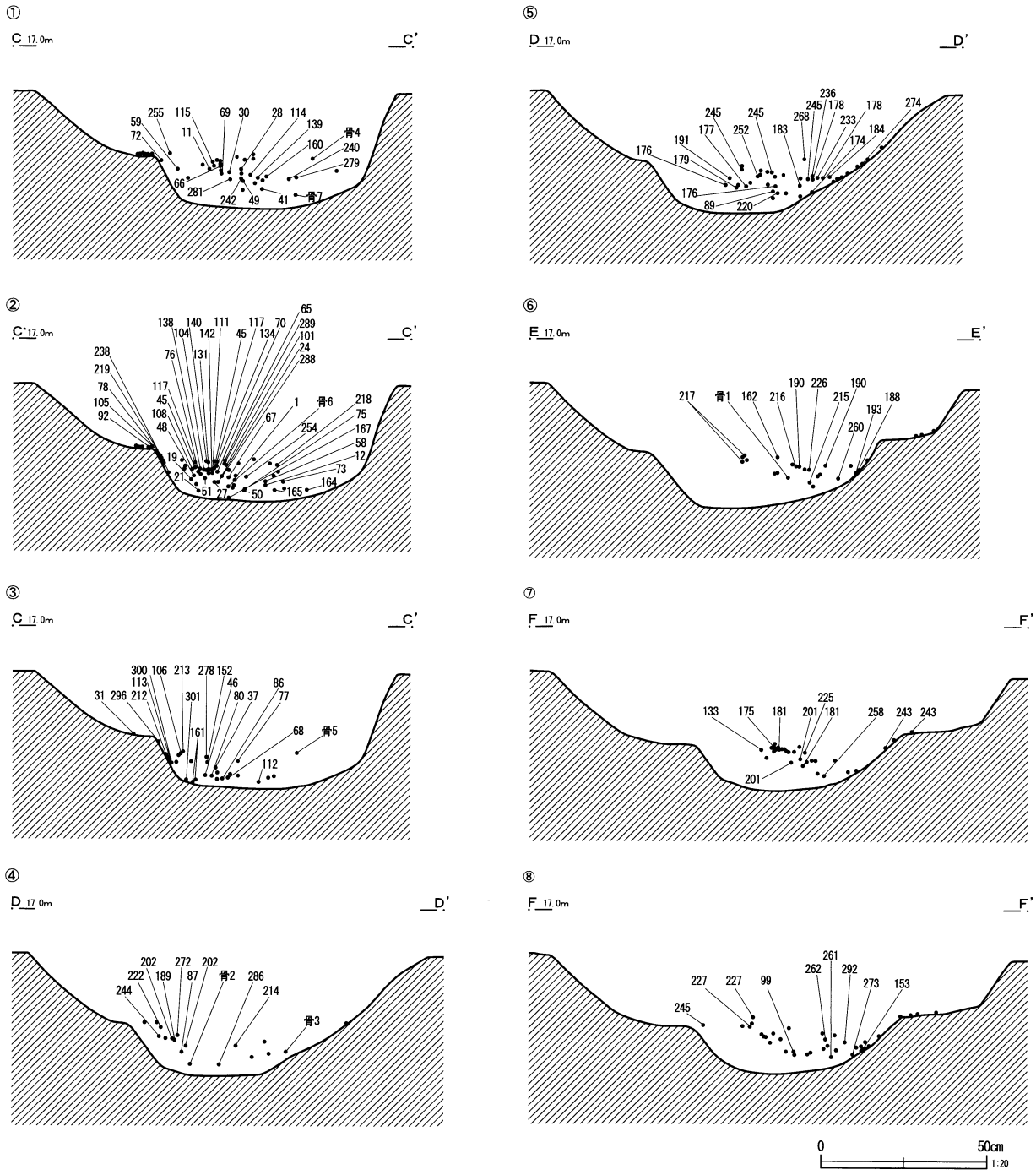
- | | |
|--|--|
| <p>第4号溝</p> <p>1 灰褐色土 白色スコリア斑状に混入。緻密。粘性ややあり</p> <p>2 暗灰褐色土 1層よりやや灰色強く暗化した色調。緻密。粘性ややあり</p> <p>3 暗灰褐色土 青灰色土粒子斑状に混入。緻密。粘性ややあり</p> <p>4 暗灰褐色土 3層より更に暗化した色調。緻密。粘性強い</p> <p>5 青灰色土 暗灰色土(4層)との混合層第16号溝</p> <p>1 暗褐色土 ローム粒子少量、茶褐色(酸化鉄)粒子含む</p> <p>2 黄褐色土 ローム粒子多量</p> <p>第69号溝</p> <p>1 暗褐色土 ローム粒子少量</p> <p>第80号溝</p> <p>1 暗褐色土 黄褐色の砂粒子が上位に混入。やや粘性あり</p> <p>2 暗褐色土 青灰色の斑状に入り、1層よりやや灰色かして見える。白色粒子全体に混入。やや粘性あり</p> <p>3 暗黒褐色土 黒色土ブロック(径3~5mm)・青灰色土粒子斑状に混入。粘性あり</p> <p>4 暗黒褐色土 3層と同じ。木製品・流木・土器混入。粘性あり</p> <p>5 暗灰褐色土 灰色・青灰色土のブロック(径10~20mm)全体に混入(下位に密)。木製品・流木・土器混入。粘性あり</p> <p>6 暗青灰褐色土 青灰色土ブロック(径50mm)全体に混入</p> <p>第83・87号溝</p> <p>1 暗褐色土 褐色粒子多量、黄褐色粒子少量</p> <p>2 暗褐色土 褐色粒子・黄褐色粒子・青灰色粒子多量</p> | <p>第94号溝</p> <p>1 灰褐色土 褐色粒子多量、青灰色土粒子含む</p> <p>第96号溝</p> <p>1 暗褐色土 青灰色粘土ブロック含む</p> <p>2 暗褐色土 暗褐色粘土ブロック多量</p> <p>3 暗褐色土 白色粒子・ブロック多量</p> <p>第135号溝</p> <p>1 暗褐色土 褐色粒子多量、黄灰色粘質土斑状に少量</p> <p>第136号溝</p> <p>1 暗褐色土 炭化物粒子微量、褐色粒子少量。粘性あり</p> <p>2 黄灰褐色土 暗灰色粘質土斑状に、青灰色粘質土斑状に多く、褐色粒子多量。粘性あり</p> <p>3 黄灰色土 黄灰色土の粘質土・暗灰色・褐色粘質土含む</p> |
|--|--|



第312図 溝跡 (12)



第313図 溝跡 (13)



第314图 沟迹 (14)

出された。北側には第95・76号溝跡を検出し、外側周溝跡を伴う第27住居跡を検出した。

溝跡の規模は、全長38.7m、幅は西側で4.6m、東側で5.0m、深さは西側で144cm、東側で132cmである。底面の幅は、西側付近では広くほぼ100～150cmである。一方、東寄りに行くに従い底面の幅は細く薬研状になる。

溝は、地山の青灰色粘土層を掘り込み造られている。砂質混じりの粘土も混在する。断面観察によると覆土の堆積は自然堆積である。第1・2層は暗褐色土層で砂粒子、白色粒子が混じり灰色気味で青灰色粘土粒子が斑点状に混じる。第3層は黒色土ブロックと青灰色粘土粒子が斑点状に混じる。第4・5層は暗黒褐色土および暗灰褐色土で多くの土器、木製品、流木、自然遺物が含まれている。ほぼ溝跡底面に近く、使用時に廃棄された遺物類として捉えることができる。また、多時期の遺物がほとんど認められないことからかなり短時間の廃棄とも考えられる。

本溝跡は、集落内に用水機能を持った多くの溝跡が分岐すると考えられる。第16・44・57～102・94・99号などである。これら溝跡は、北西から南東方向もしくは南に直線的に伸びる傾向をもつ。また、一方、排水機能を持つ溝跡が取り付くと考えられる。第59・63・100・101号溝跡などである。これらの溝跡はいずれもやや湾曲して南西から北東方向に伸びる特徴をもつ。

確認した溝跡は、C-6グリッド中央にトレンチを入れ、西側から順次東に掘り進めた。暗褐色の粘性のある土に黄褐色粒子を含む確認面から掘り下げ、10～15cmほどの暗黒褐色土中からは遺物を多く検出した。特に、トレンチの周囲からは土師器の坏類が多く出土し、須恵器、木製品などが多く混在して出土した。さらに、貝類、骨、種子も多く検出された。

これらの遺物が、一括廃棄されている点で注目すべきパターンである。一括廃棄されている事象はさまざまな報告例がある。ここでは、多くの完形の土

器とともに、木製品・貝・動物や魚類の骨など、いわば当時の人々が使用したさまざまなものが同時に廃棄されている。このことが大きな特徴である。

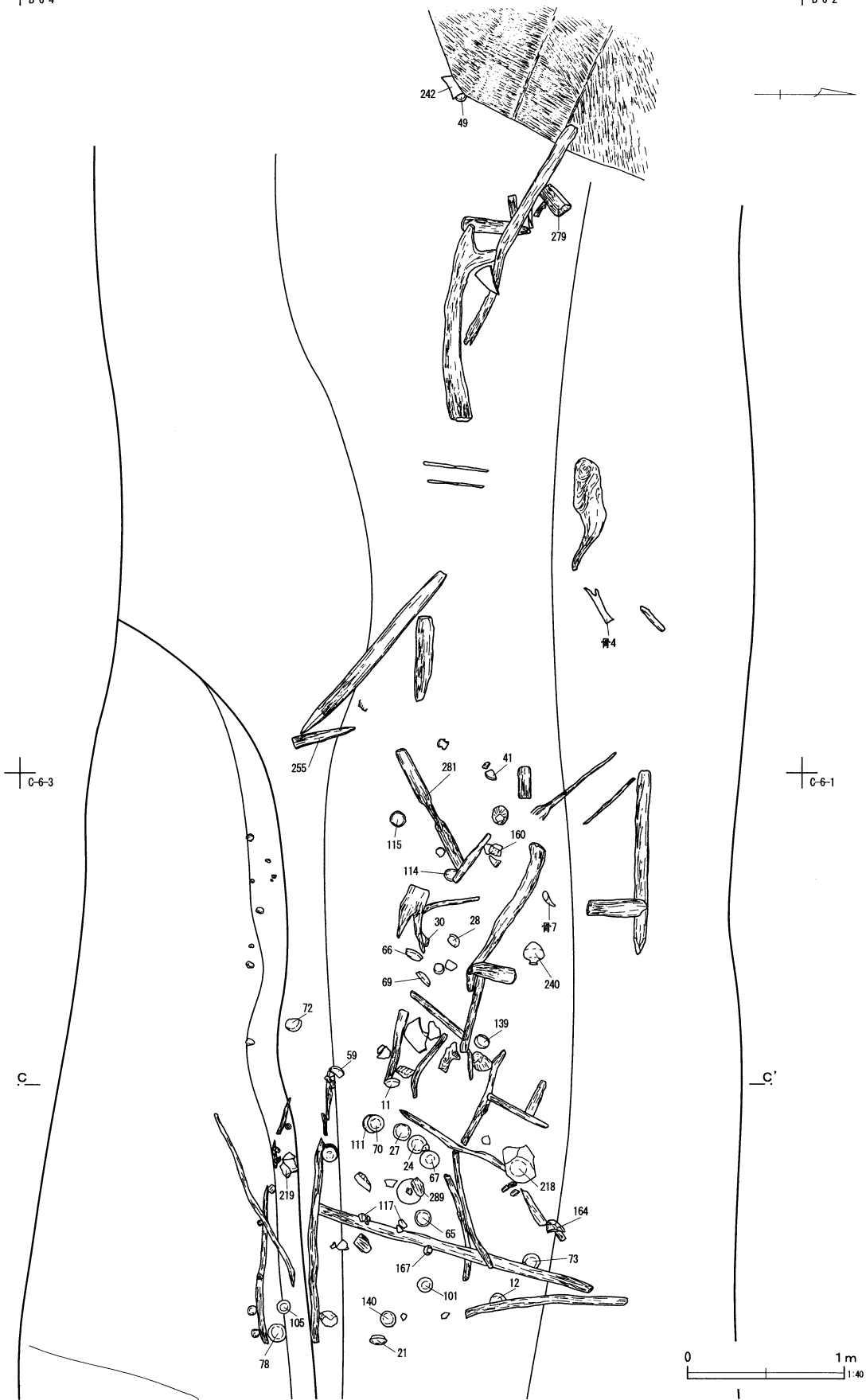
土師器、須恵器、木製品は第320図～第346図に、貝類は図版117、骨、種子は図版120・図版121に掲載した。また、木製品の材質はコナラ、クヌギ類が多い。貝類は蛤、アサリ、カキ、サザエ、タニシ、カワニナであった。骨は、鹿、馬、牛、オオワシ、鳥、魚であった。種はもも、すもも、ウリ科（ユウガオ？）バラ科のとげなどが検出された。

詳細な木製品の材質同定および貝の分析結果は付編に掲載した。

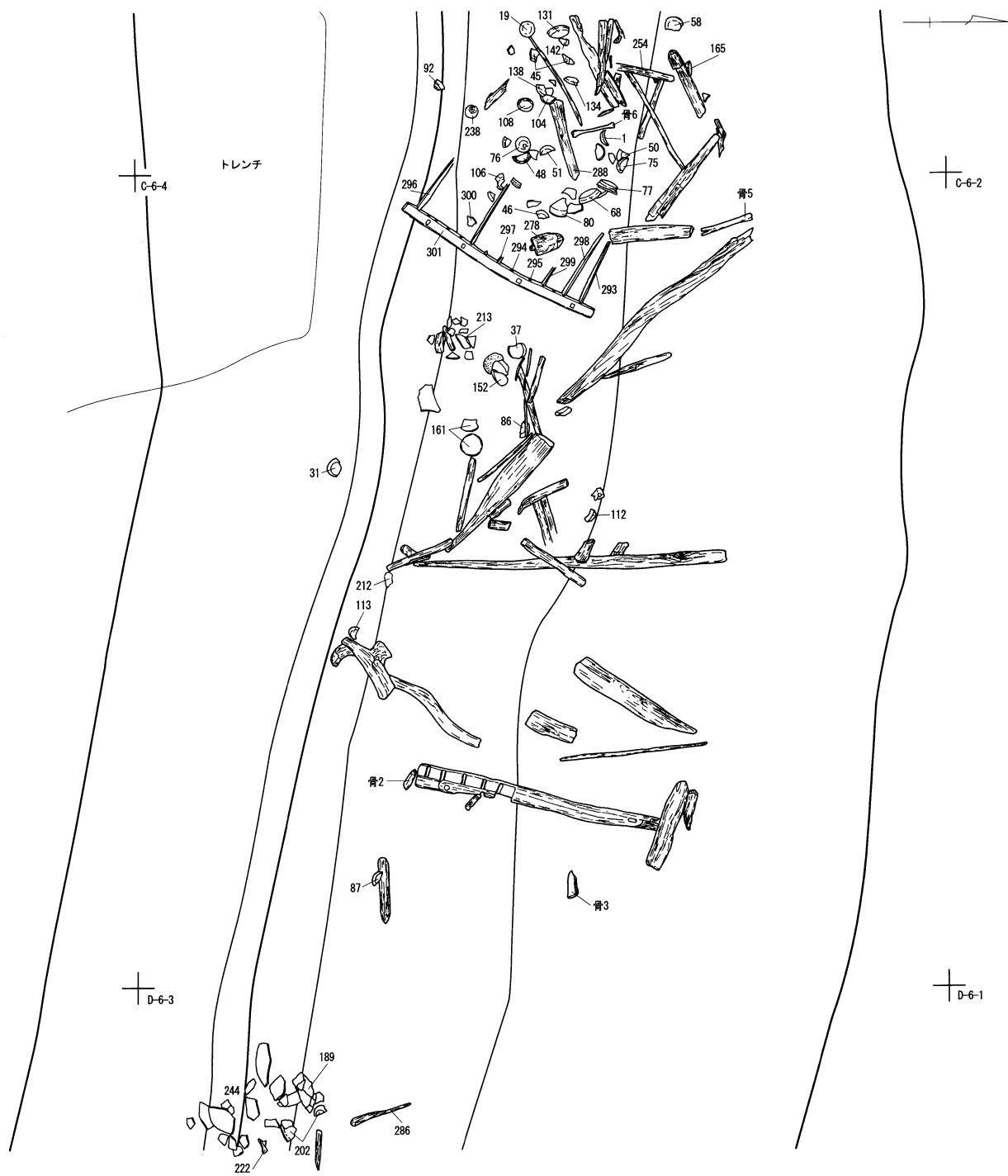
出土遺物は、第320～334図に土器を第335～346図に木器を図示した。1～146は坏類であり、坏は、9分類し、1～8は模倣坏B類である。口縁部がやや短くわずかに外方に開いて立ち上がる。胎土はやや緻密で粉っぽい。全体に橙色系である。9・14・15・20は模倣坏Aである。10は北武蔵型坏の祖形のような坏である。形態は丸底で口縁部内屈する。口縁部下端までヘラケズリを施し口縁部にヨコナデを施す。17・18・25～41は有段口縁坏、22～24は有段口縁皿、19～21、42～56、58～98は黒色有段口縁坏である。50・51・80は口縁部が長く外に開き、段を持たずにナデられている。64は黒色模倣坏で口縁部はやや短い。99は黒色模倣塊、100は模倣塊である。101～108は模倣坏Cとした。坏C類は湖西産の須恵器坏Hの模倣形態に近く小型である。109～120は有段口縁坏である。酸化焰焼成されている。形態はさまざまなものである。112は器高が深く、底部が丸い。116はやや小ぶりである。胎土に茶褐色粒子を多く含む。121は身模倣坏で内外面黒色である。123は内面に放射状暗文をもつ。126・127・130は北武蔵型坏である。131～146は続比企型坏である。内面および口縁部外面まで赤彩が施されている。147～151は模倣皿である。赤彩を施したものと、黒色処理されたものがある。形態は丸底で体部は大きく逆「ハ」の字状に外に開いて立ち上がる。口縁部も外に開く。赤彩

B-6-4

B-6-2



第315图 第80号沟迹遗物出土状况 (1)



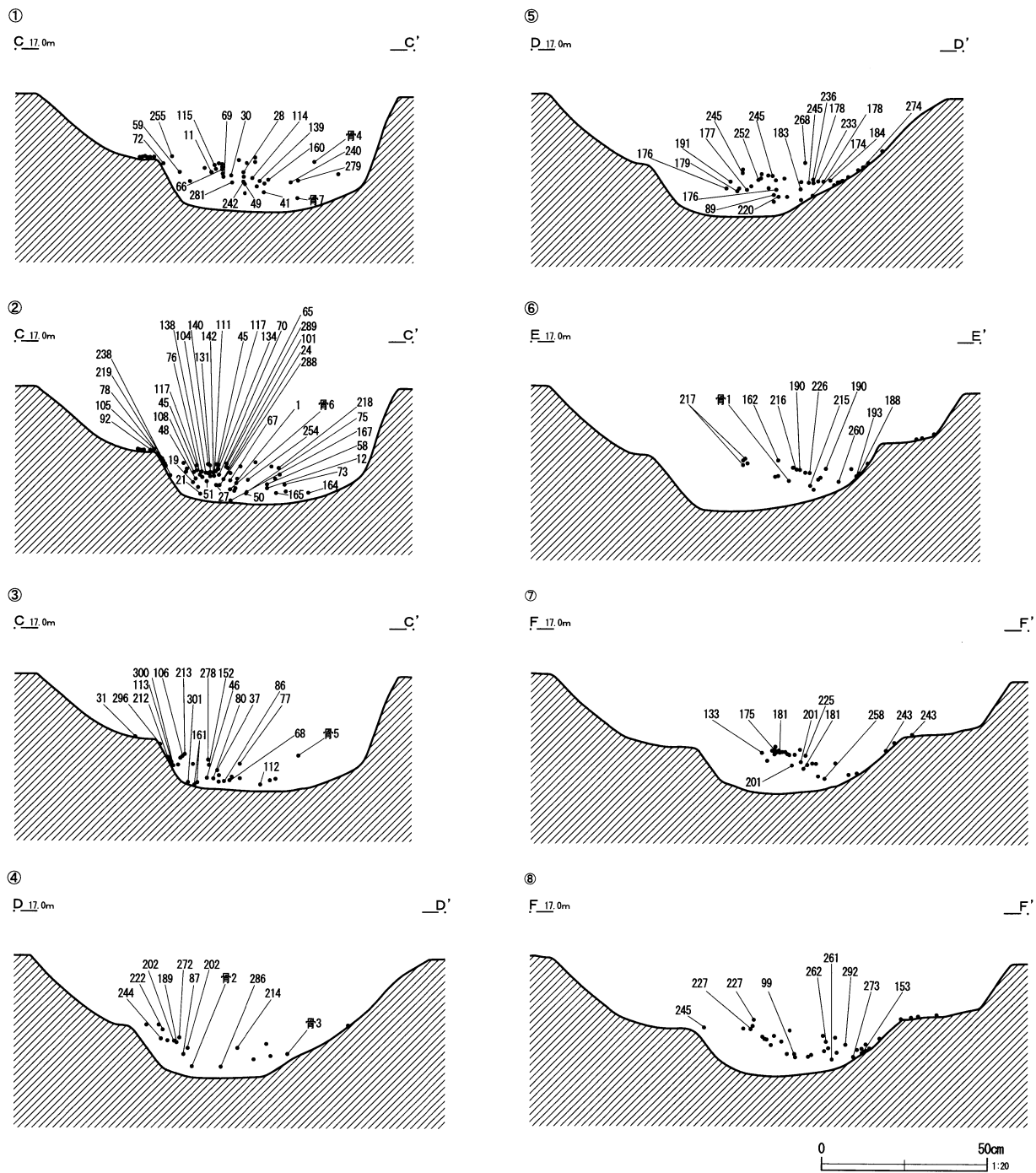
第316図 第80号溝跡遺物出土状況 (2)



第317图 第80号沟迹遗物出土状况 (3)



第318図 第80号溝跡遺物出土状況 (4)



第319図 第80号溝跡遺物出土状況 (5)

の範囲は内面が全面、外面が口縁部のみである。底部丁寧なヘラケズリ。147・148・150は赤色模倣皿、149・151は黒色模倣皿である。

152～157は埴である。157は口縁部が屈曲し薄く仕上げられ、他は口縁部が有段になっている点で時期的な特徴でもある。158～162・224は小型甕である。163～166は鉢である。いずれも、底部に木葉痕が見られる。167～169は手づくね土器である。170は滑石製の石製模造品である。171はうつろ玉である。

172～198は土師器甕である。甕は長甕である。口縁部の形態に特徴があり、丸型、肥丸型、角型、突出型の4種類の形態差を認めた。丸型としたものは62片で第328図172に見られる。角型としたものは42片で第328図173、174、177、178に見られる。口唇部は外面に向いた面をもち角がある。また、なかには中心部が窪むものもある。突出型としたものは9片で第328図175に見られる。器面の調整は、外面が縦方向のヘラケズリを施し、内面は横および斜め方向のヘラナデによる。

199～209・212は甑である。202・209・212は鉢型甑で底部中央に円形の孔があく。また、209は同じ鉢型でも底部中央に小さな孔が複数あく。その他はいずれも大型甑で把手がつく。210・211・223は鉢である。

213～222は壺と考えられる。口縁部の形態は甕と同様に丸型、肥丸型、角型、突出型の4種類を認めた。胴部は球形を呈する。

225～227は台付甕である。この時期に226、227などのような大型の台付甕は特殊である。また、228～232は高坏である。

第333図233～第334図248は須恵器である。233～235は坏蓋である。器肉厚く天井部外面は回転ヘラケズリを施す。236は有蓋高坏の蓋と見られる。237は坏身、238、239は高坏である。239は焼成堅緻で器面は滑らか、長脚二段の三方透しと見られる。240は小型壺である。器面はやや摩滅し、胎土やや粗い。241は提瓶で胴部にカキ目をもつ。242は横瓶、243～245は甕である。甕は末野産と見られる。調整は平行叩きに内面は同心円文が残る。

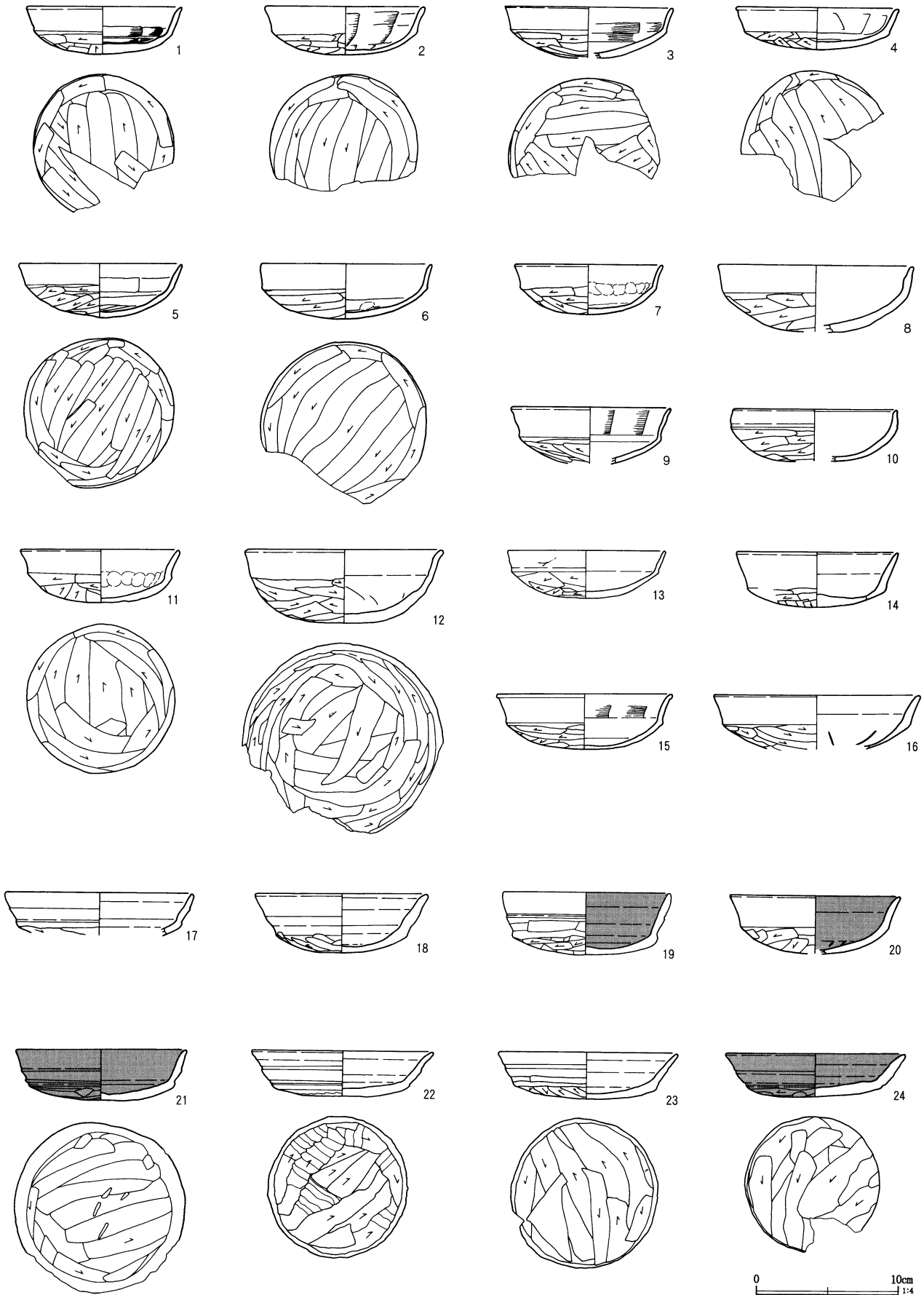
第335図～第346図は木製品である。249はいわゆる「ささら状」木製品。ほぼ完形で、刀身形の片側面に鋸歯状の刻みを入れる。柄の部分がやや細身になっている。250～252、258は後述の301の馬鋏に付属する歯に相当する可能性が高い(293～300に類似)。250や252では先端の幅が狭まる差込部が残っている。253と254は同様な形態ではあるが、全体に薄いつくりになっている。

255は先端に段を有することから、275のような曲物の底部の一部である可能性がある。

第80号溝跡出土遺物計量表

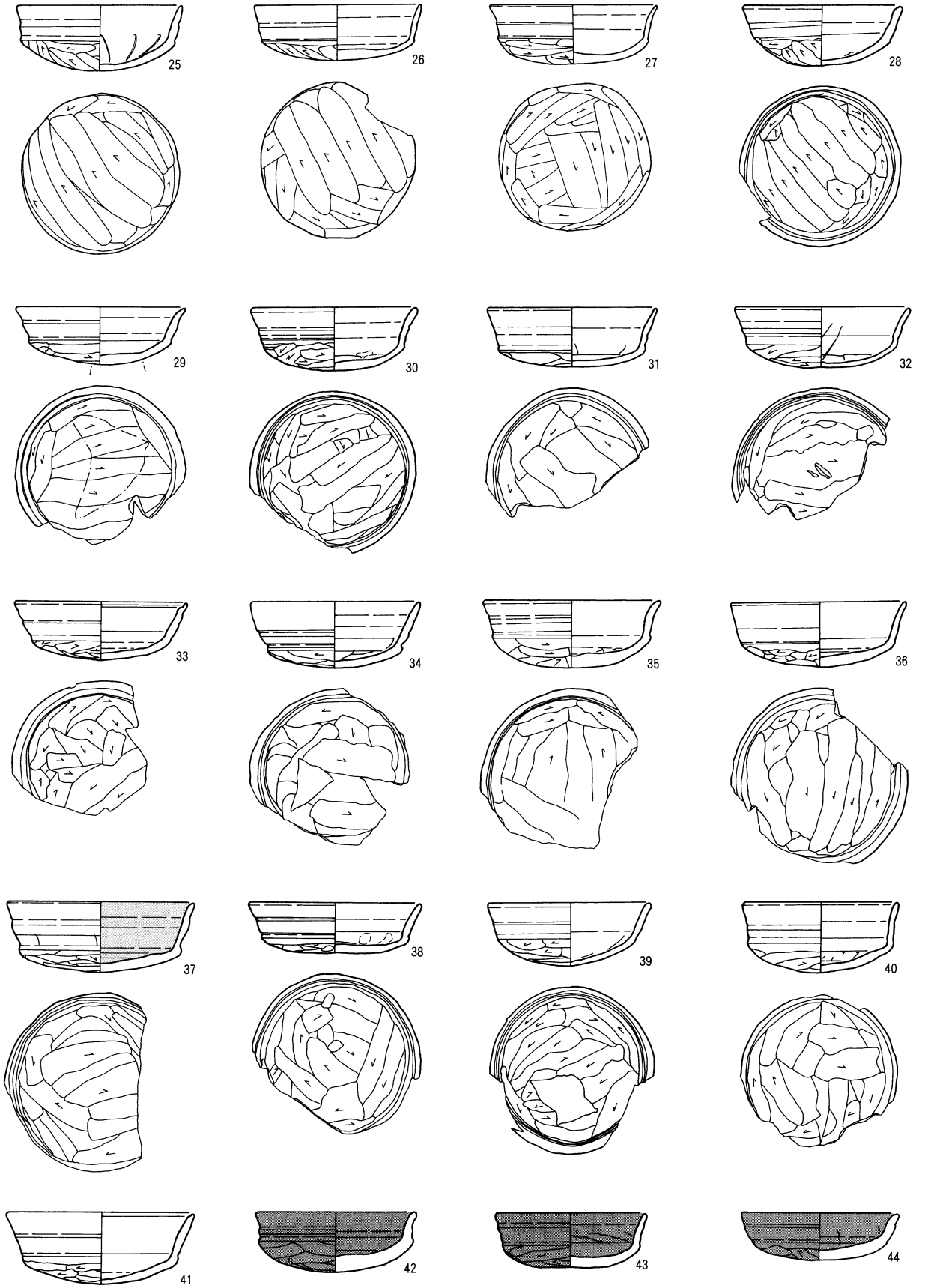
器種	破片数(片)	重量(g)	器種	破片数(片)	重量(g)
模倣坏A	31	805	甕口縁丸型	62	6100
模倣坏B	16	835	甕口縁肥丸	4	130
模倣坏C	7	307	甕口縁角型	42	7740
黒色模倣坏	68	2180	甕口縁突出	9	1030
有段口縁坏	64	3125	甕口縁底部	11	715
黒色有段口縁坏	116	3615	壺底部	30	1980
赤色模倣皿	3	235	小型甕	9	1500
黒色模倣皿	6	165	鉢	16	1695
身模倣坏	2	30	甑	11	2585
暗文坏	1	35	高坏	16	945
比企型坏	53	1465	台付甕	9	1670
北武蔵型坏	4	210	甕胴部		30kg
模倣碗	17	1015			

SD80



第320図 清跡出土遺物 (35)

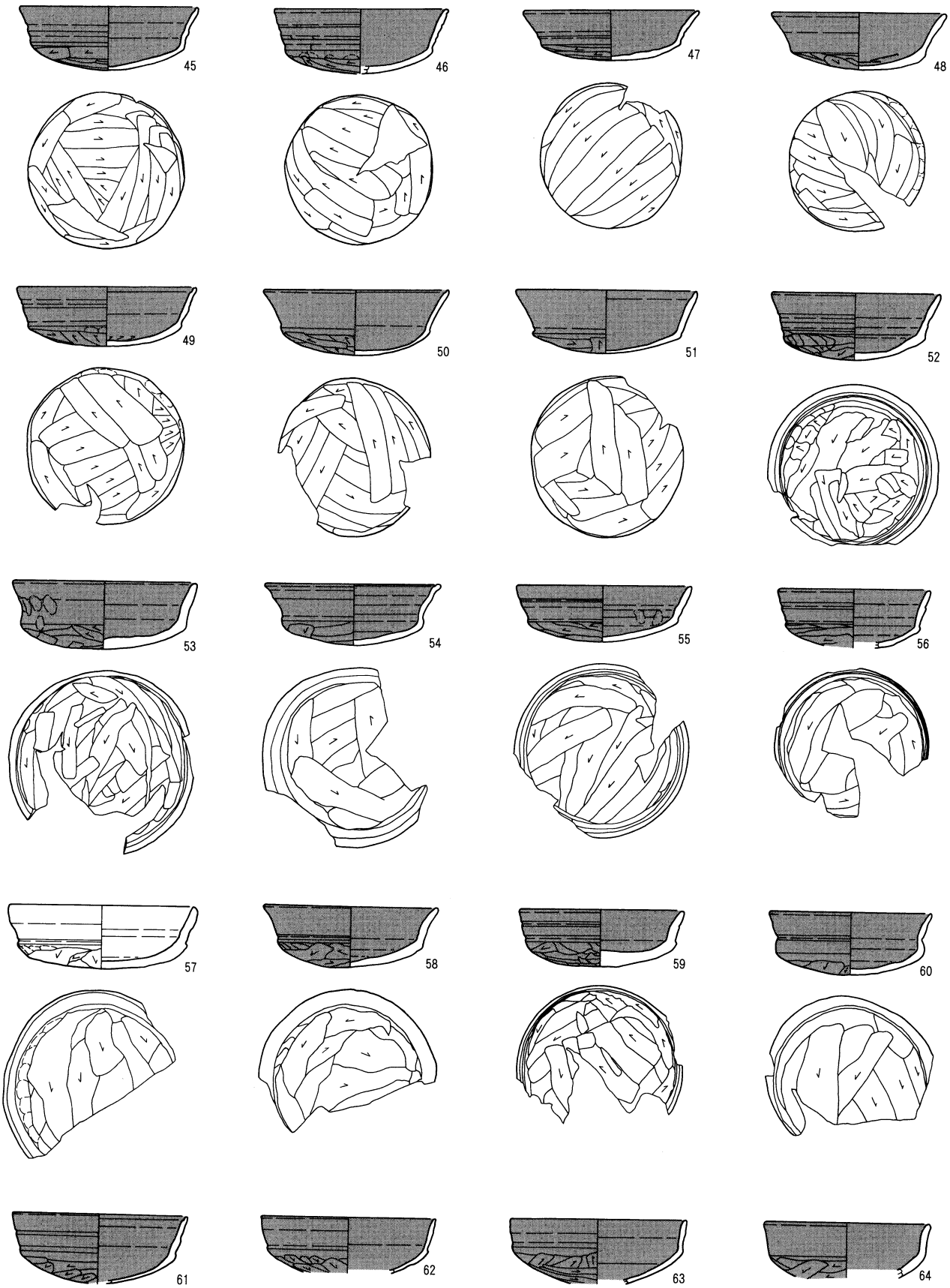
SD80



0 10cm
1:4

第321図 溝跡出土遺物 (36)

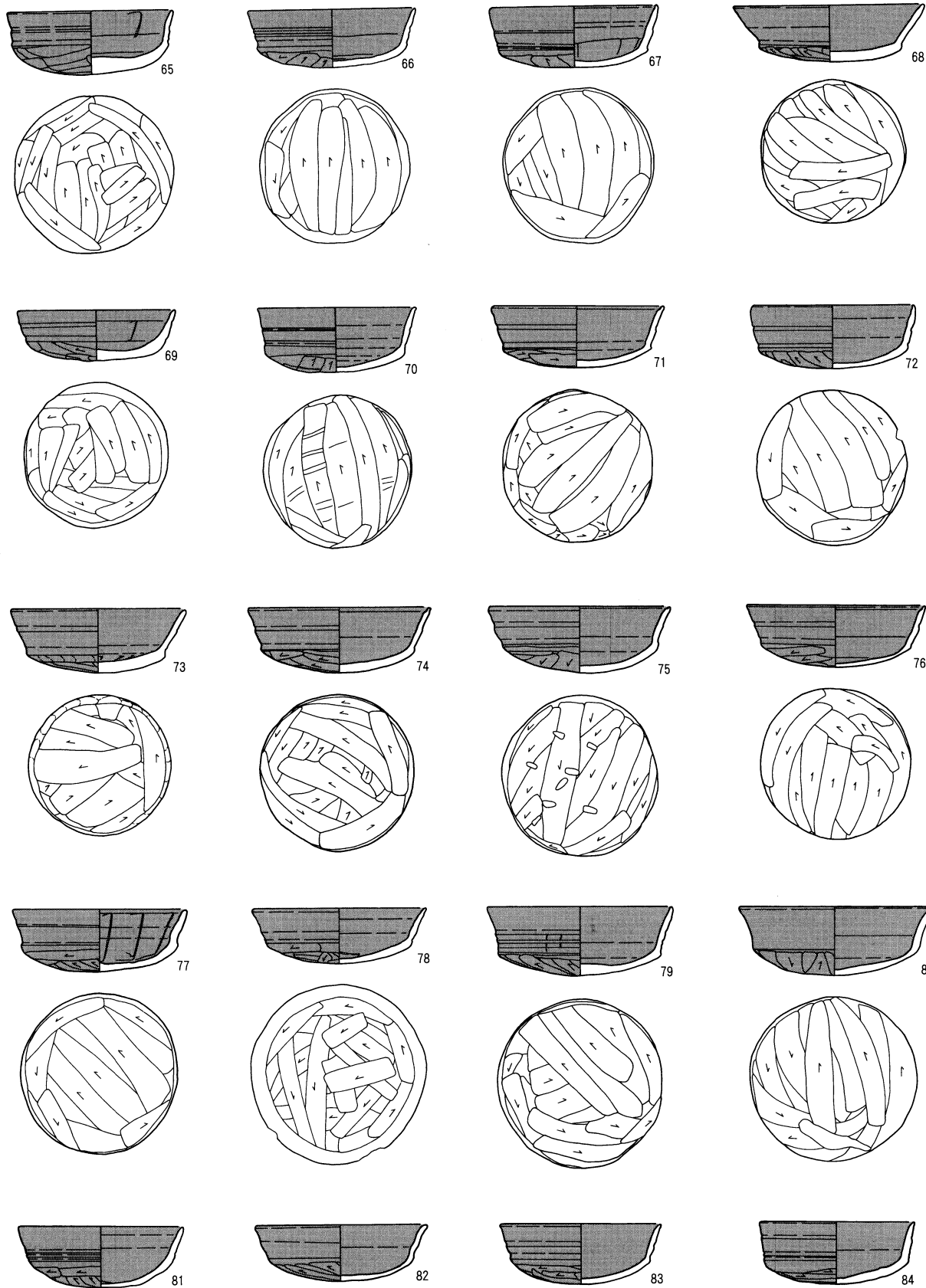
SD80



0 10cm
1:4

第322図 溝跡出土遺物 (37)

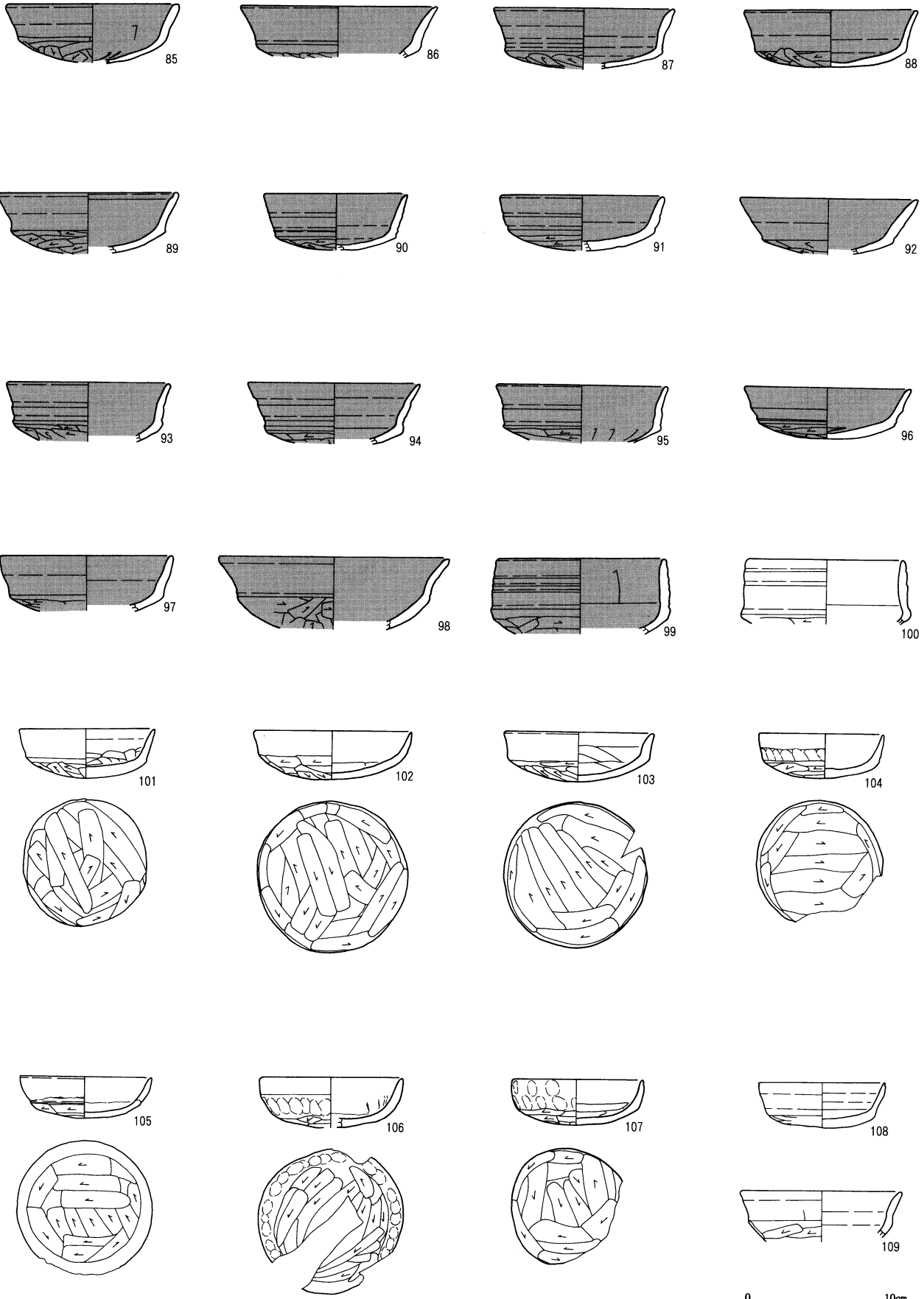
SD80



0 10cm 1:4

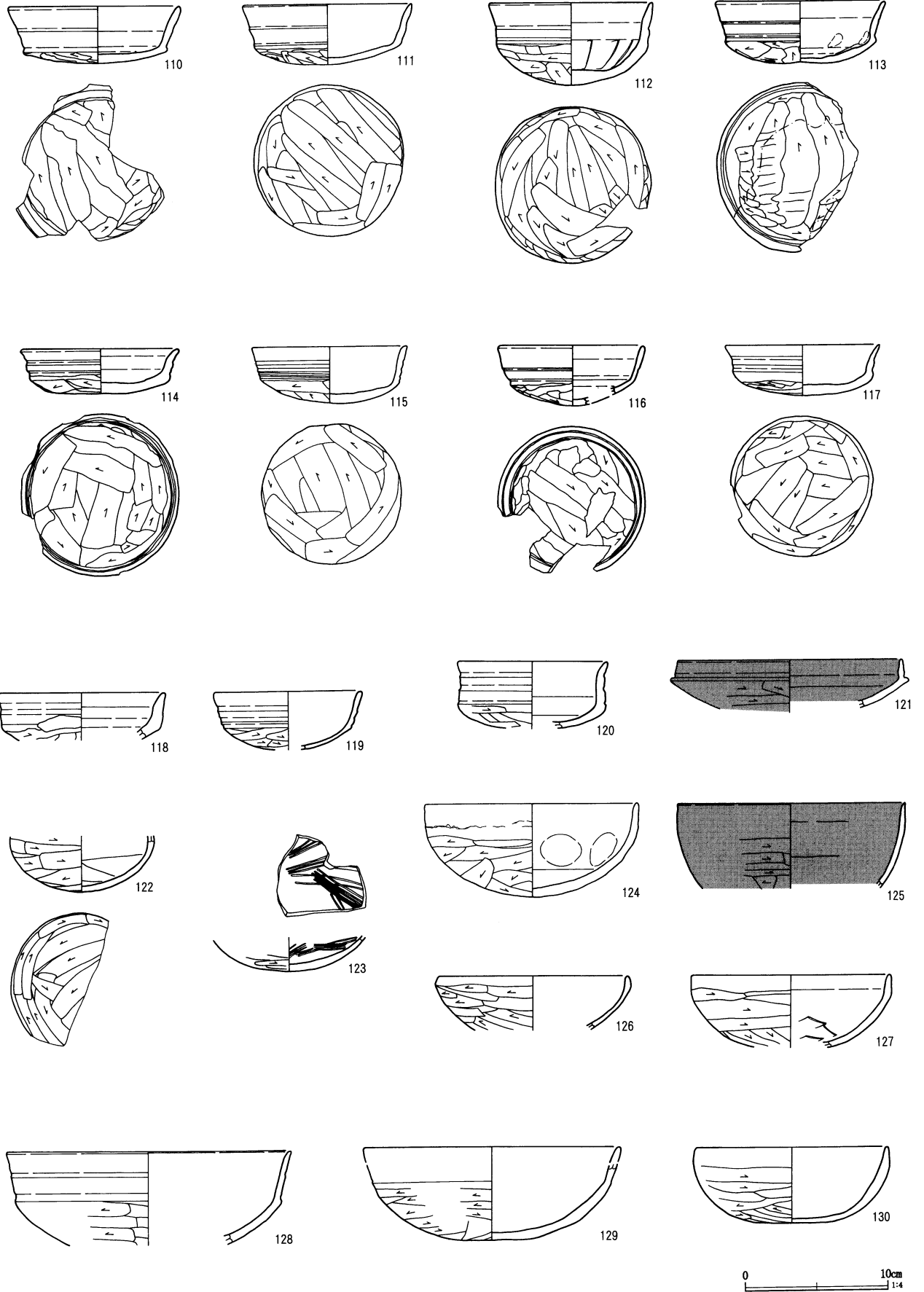
第323図 溝跡出土遺物 (38)

SD80



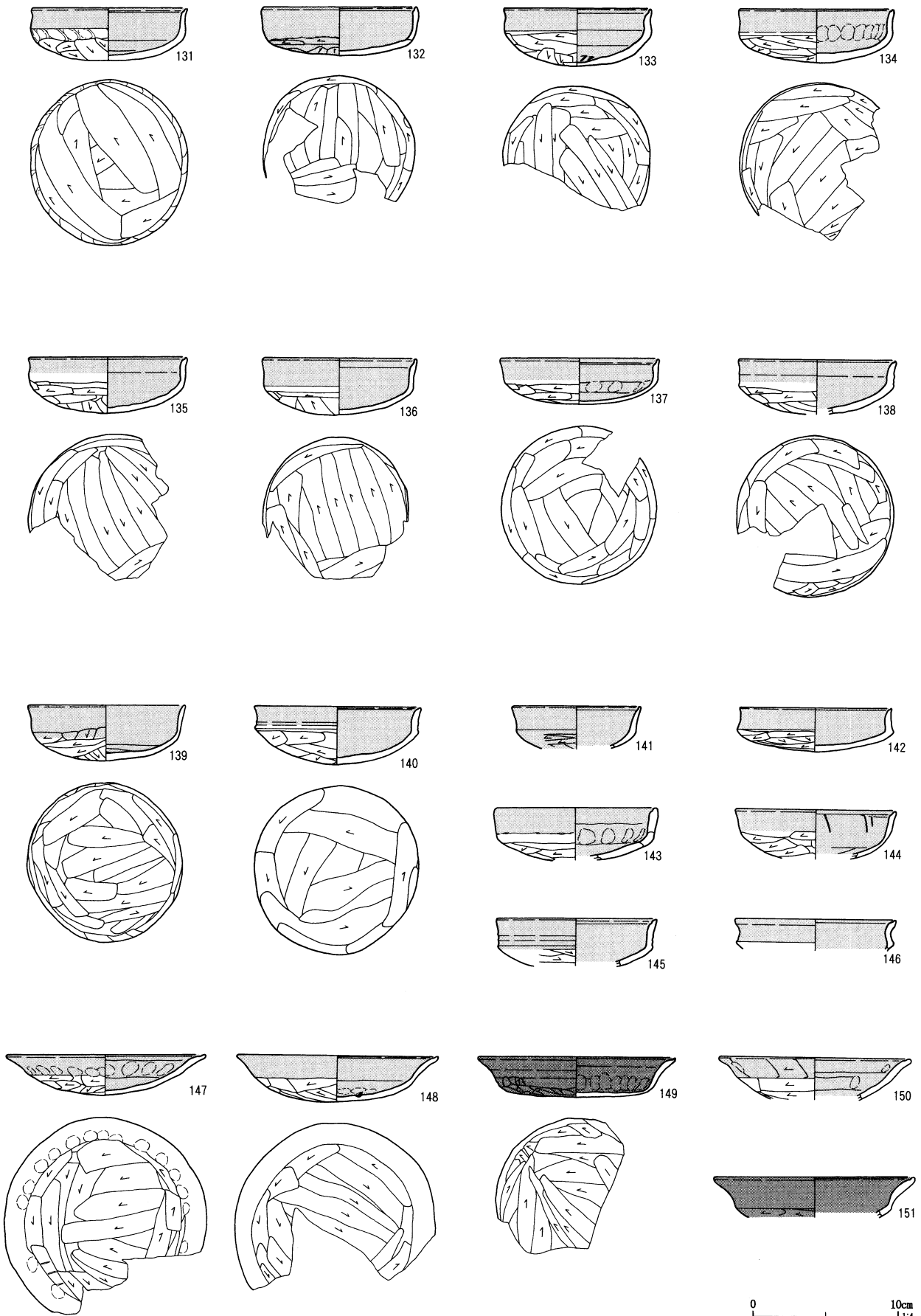
第324图 溝跡出土遺物 (39)

SD80



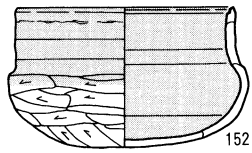
第325図 溝跡出土遺物 (40)

SD80

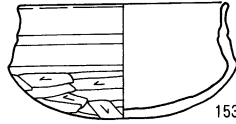


第326图 沟迹出土遗物 (41)

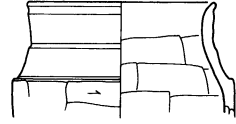
SD80



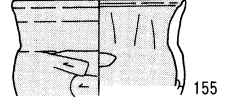
152



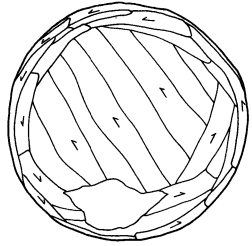
153



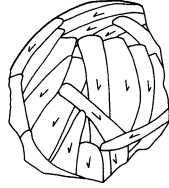
154



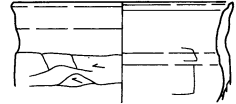
155



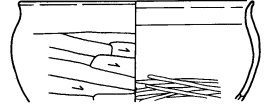
156



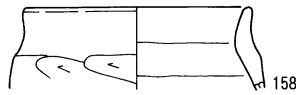
157



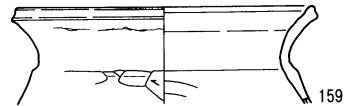
158



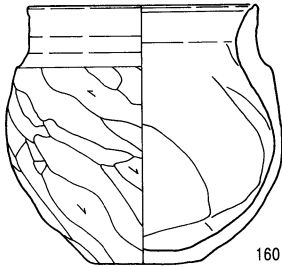
159



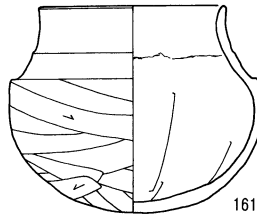
160



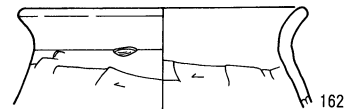
161



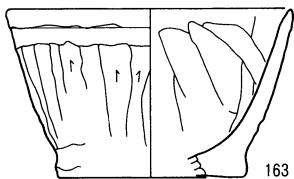
162



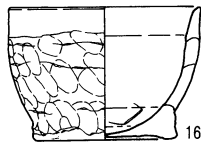
163



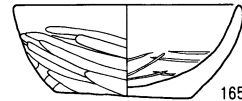
164



165



166



167



168



169



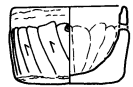
170



171



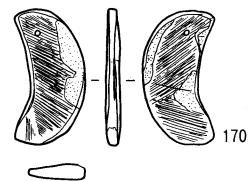
172



173



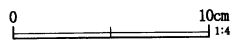
174



175

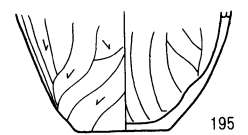
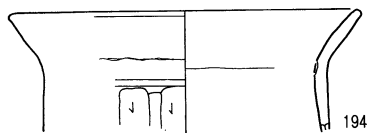
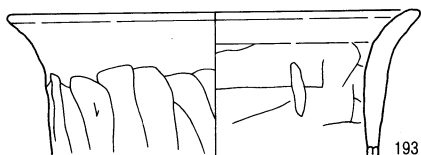
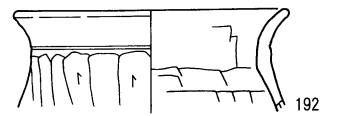
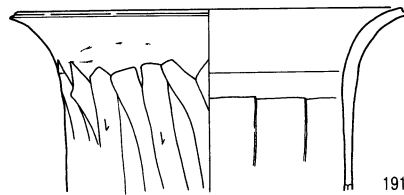
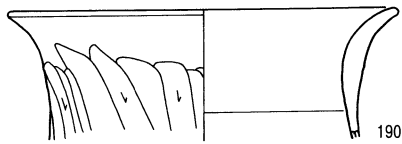
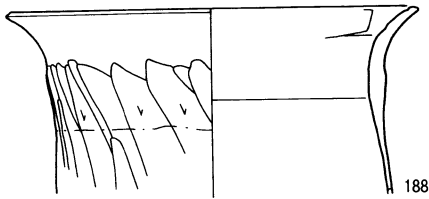
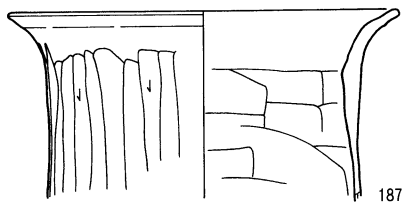
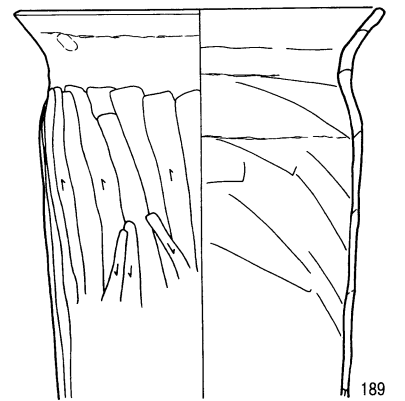
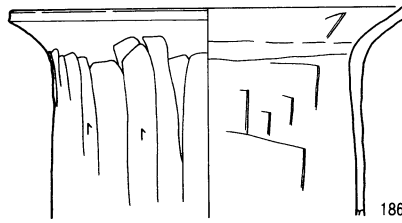
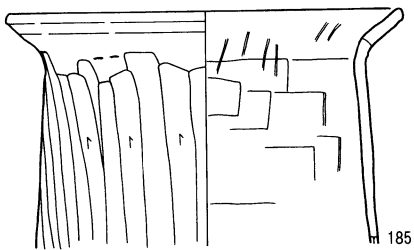
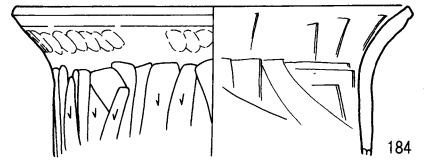
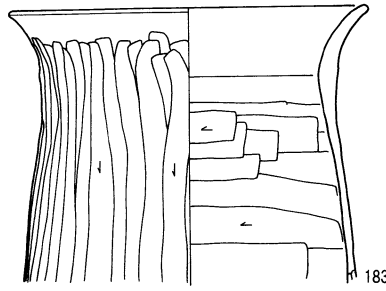
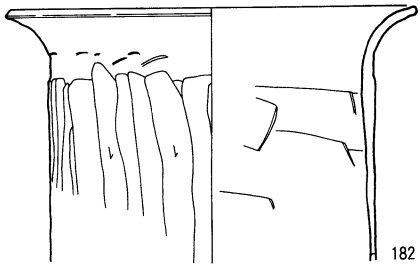
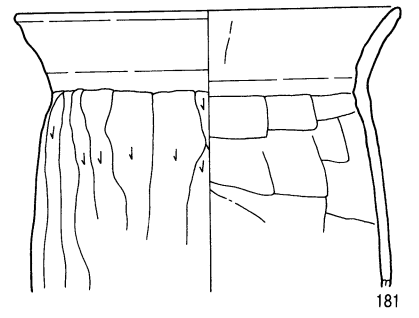
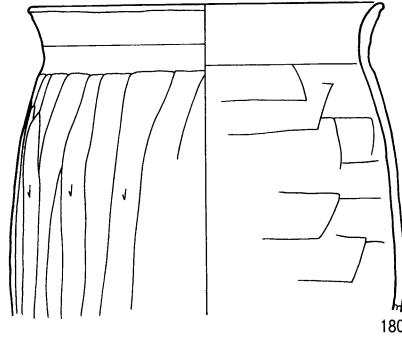
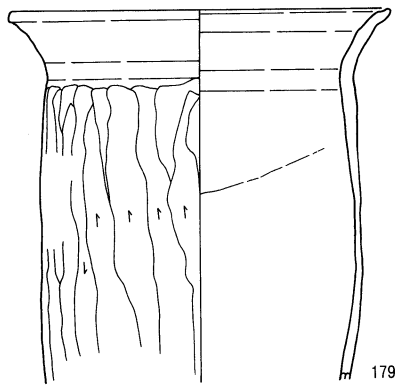


176



第327图 沟跡出土遺物 (42)

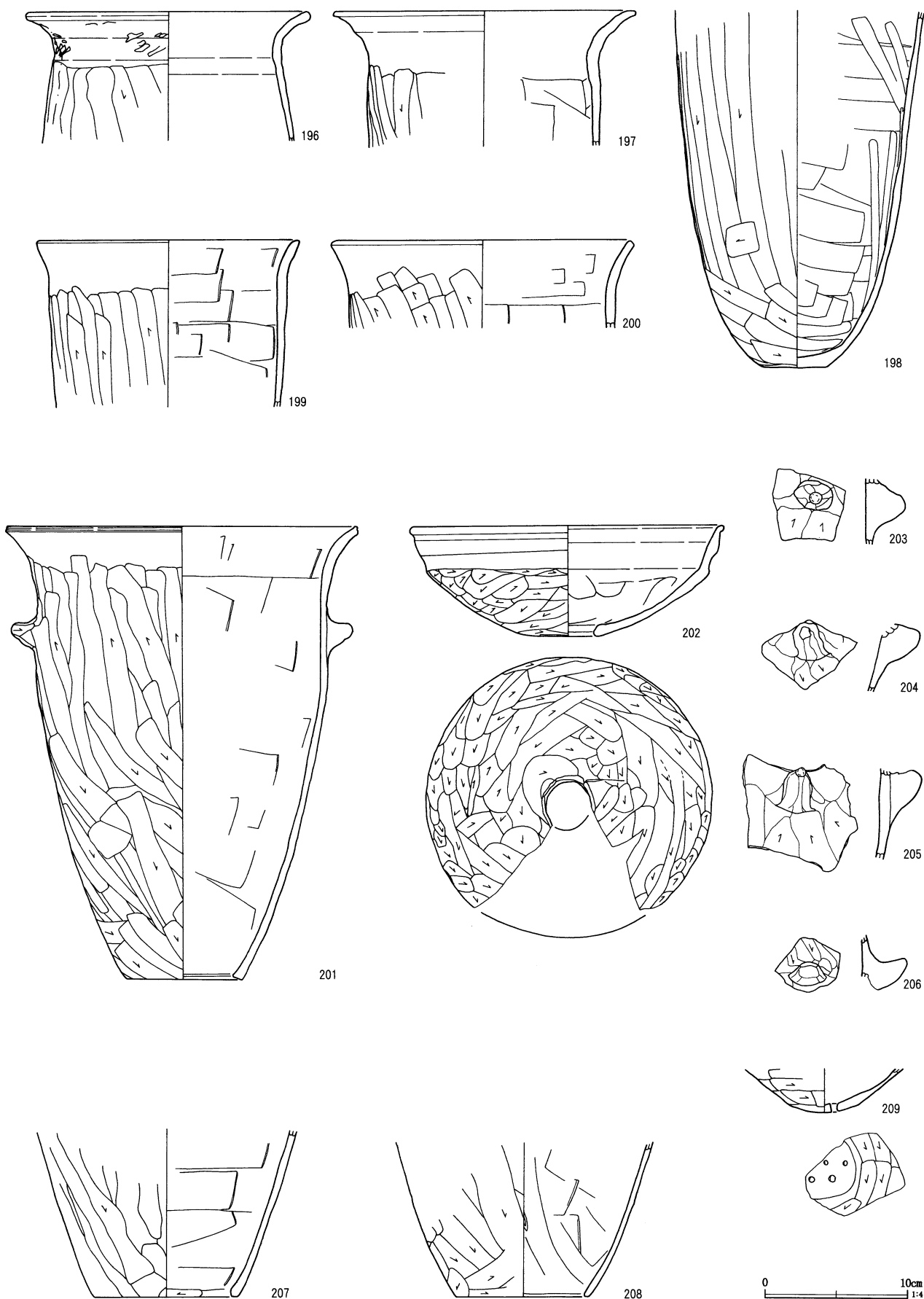
SD80



0 10cm 1:4

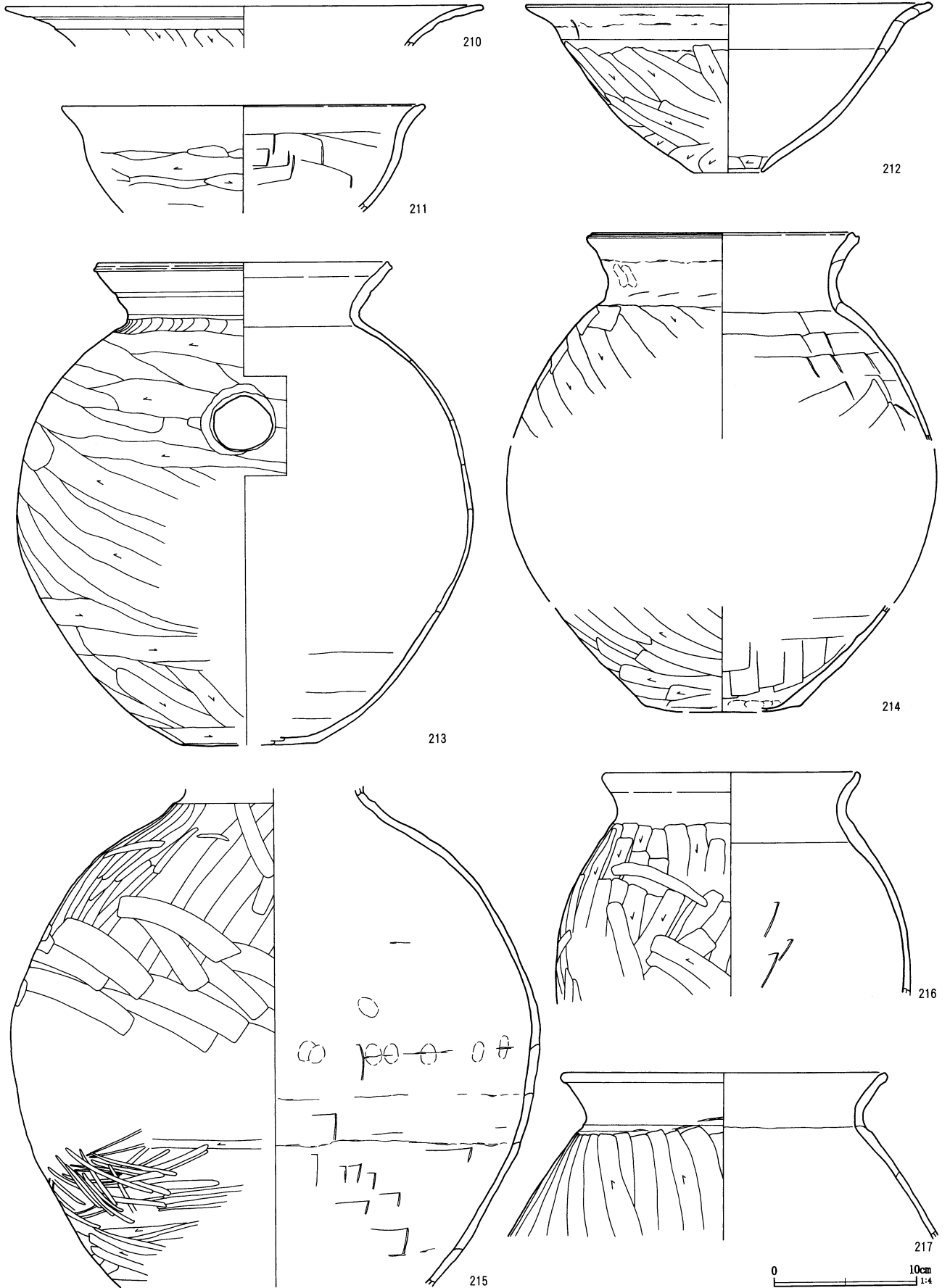
第329图 沟迹出土遗物 (44)

SD80



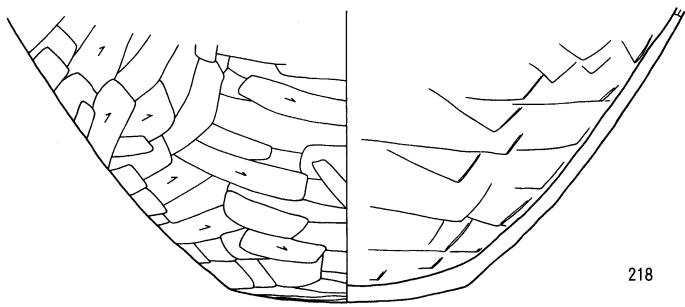
第330图 溝跡出土遺物 (45)

SD80

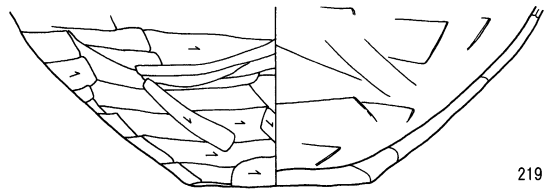


第331图 沟迹出土遗物 (46)

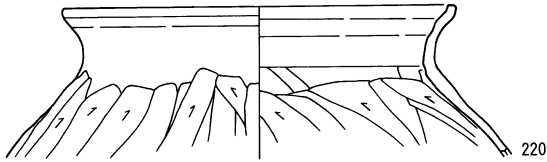
SD80



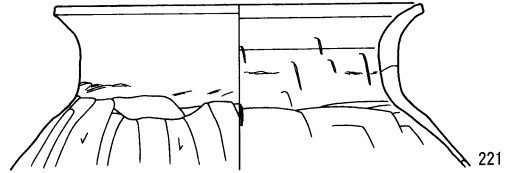
218



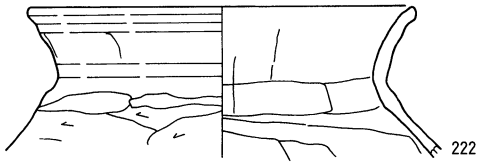
219



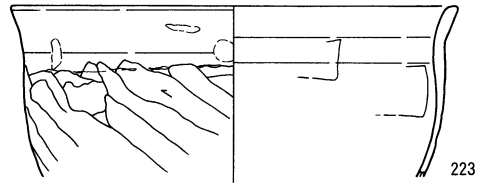
220



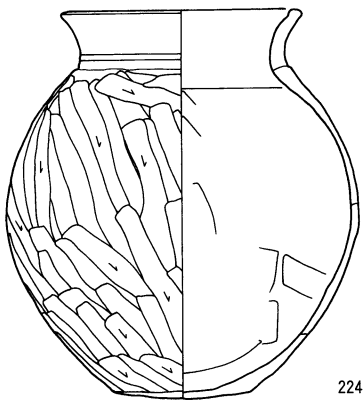
221



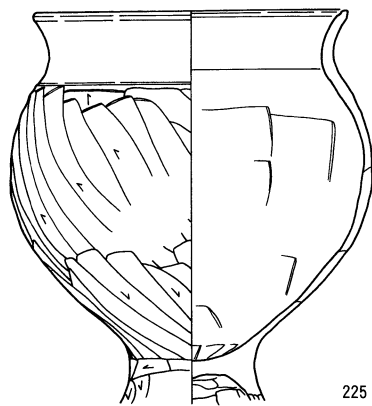
222



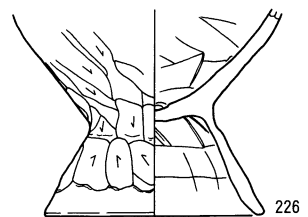
223



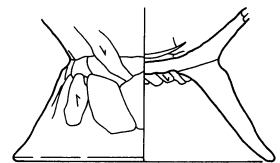
224



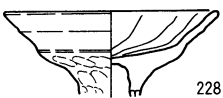
225



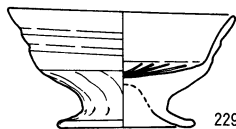
226



227



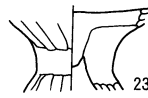
228



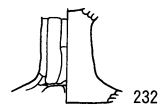
229



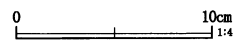
230



231

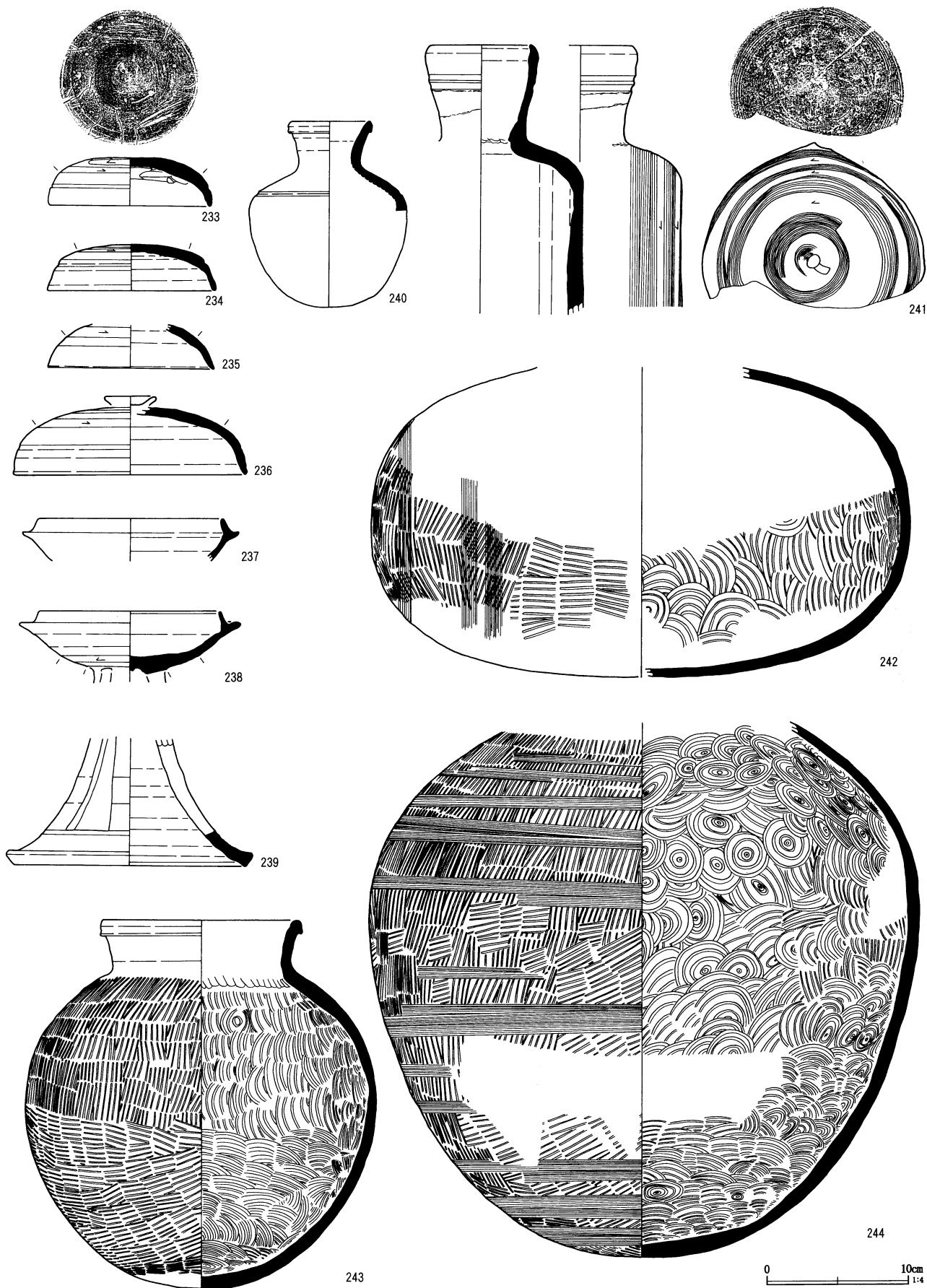


232



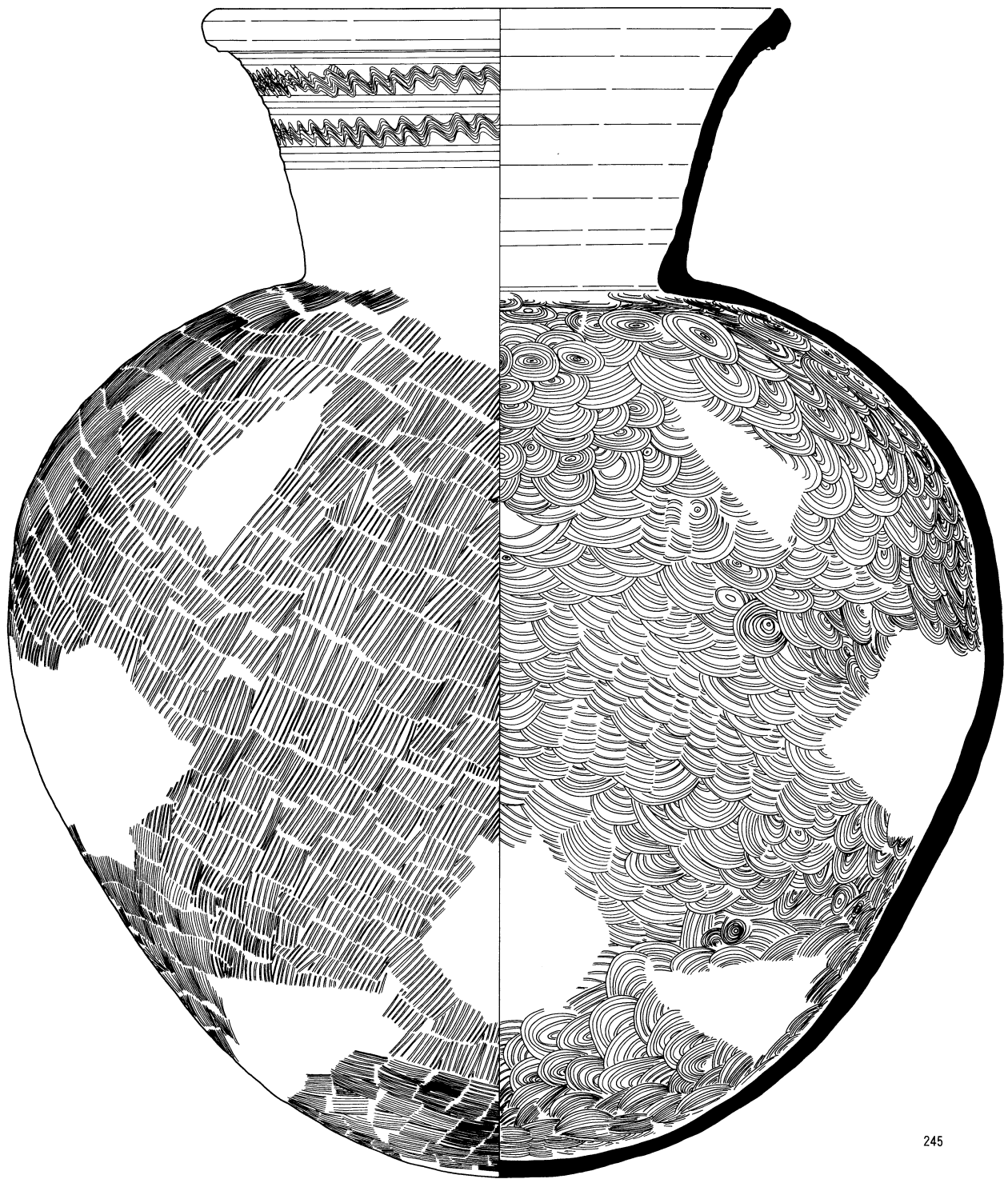
第332図 溝跡出土遺物 (47)

SD80

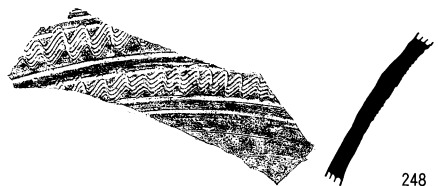
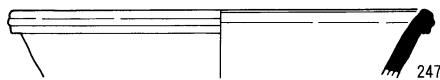
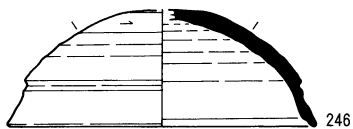


第333图 沟跡出土遺物 (48)

SD80



245



0 10cm 1:4

第334图 沟迹出土遗物 (49)

256は先端部を丸く作り出す板状の製品であるが、反対側は旧状をとどめていないので全体の形態は不明。裏面は木目に沿って全体が剥離している可能性もある。用途は不明。

257は断面がほぼ正方形の角材製品で、片側の先端部付近以外は木目に沿って、半分の厚みが欠失している。側面には釘を打ち込んだような孔が2つある。用途は不明。

259は断面楕円形の棒状製品で、鋤等の柄の一部と考えられる。

260は木製紡錘車である。ほぼ完形。中央に穿孔があり、外形は刀子等できれいに加工した痕がみられる。

261・262は同一種類のもので、いずれも両端が欠失している。断面長方形の角材に、6～7cm間隔で幅約1.5cmの溝が掘り込まれており、用途は不明である。

263は断面長方形の角材に長方形の孔が貫通する。両先端とも欠失しているため、全体の形態は不明であるが、建築部材の一部か、または斧の直柄であろうか。

264～266は一連の製品である。幅約9cmの板材に10～11cm間隔で、幅約3cmの溝を掘込んでおり、261等の規模を大きくしたような形態をなす。それらの掘り込んだ溝の間には、数箇所に一辺約3cmの方形の孔を貫通させる。264は一方の端部が残存し、端から2条目と3条目の間に方形孔を開けている。用途は不明。

267は平面方形の槽である。一隅部分が残存している。短辺の口縁が長辺の口縁よりも厚くなっている。短辺の内面には加工痕がみられる。外面には加工痕等はみられなかったが、脚等の付かない平底のものである。

268は田下駄である。小判形の足板の両端に、木杵に取り付けるための柄を作り出している。鼻緒を取り付けるための3つの緒孔があり、足の指に接触する1孔は偏った箇所に穿孔されており、右足用で

あったと考えられる。

269は両端に柄を作り出し、中央に約2×3cmの長方形の孔を開けたもの。田下駄の杵型の横杵材であろうか。

270～272はいずれも板状の製品であるが、用途が不明のものである。270は片側面に旧状を残すが、それ以外は欠失する。271は大型の板材で、図の右側面の下半部のみ旧状を残す。断面は側面に向かって幅が狭くなっている。272は両側面にほぼ旧状をとどめる。両端欠失。

273は一木鋤である。身部の両側面が欠失しているが、現状からみて四又鋤になると推定され、身幅は約17cmであったと復元される。柄の先端・刃部先端とも欠けているため、全長はわからない。肩部の平面形は「なで肩」で、側面観は身と柄が直線をなしている。柄部は断面楕円形で、身部の断面は中央がやや膨らむレンズ形、刃部は断面方形である。

274は一木平鋤である。風化が激しく特に、身部先端付近の残存状態は良くないが、一部旧状を残す箇所がある。柄の先端は欠失している。身はスプーン状の形態で、肩部はやや丸肩、側面観は身と柄が直線をなす。柄の断面は半月形、身部の断面は、図の表面はほぼ直線で、裏面がやや膨らむ形態である。

275は曲物の底板。外形の曲線が一部残るが、円を復元すると、本来は楕円形であったと推定される。周縁は段を有し、側板をはめこむ溝は断面三角形をなしている。

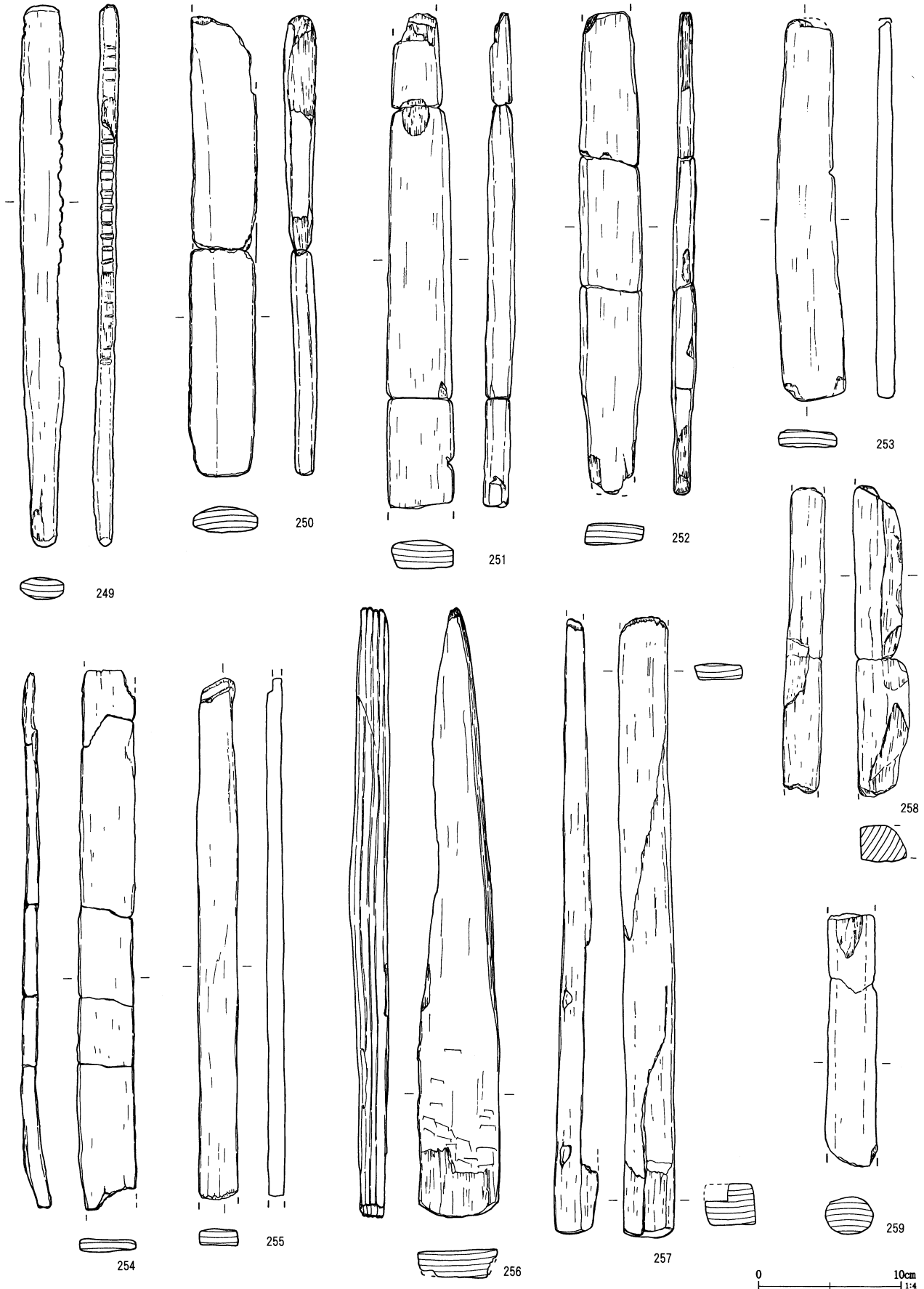
276は板状の製品であるが、用途は不明である。全体に火を受けていて、表面が炭化している。

277は板材の側面を上方に屈曲させている。欠失部が多く原型を復元することは難しい。方形の容器の一部であろうか。

278は横槌である。丸太材の先端を尖らせるように加工して身部とし、反対側に柄部を作り出す。柄はほとんどが欠失しているが、痕跡から断面楕円形をなしていたようである。身部も断面楕円形である。

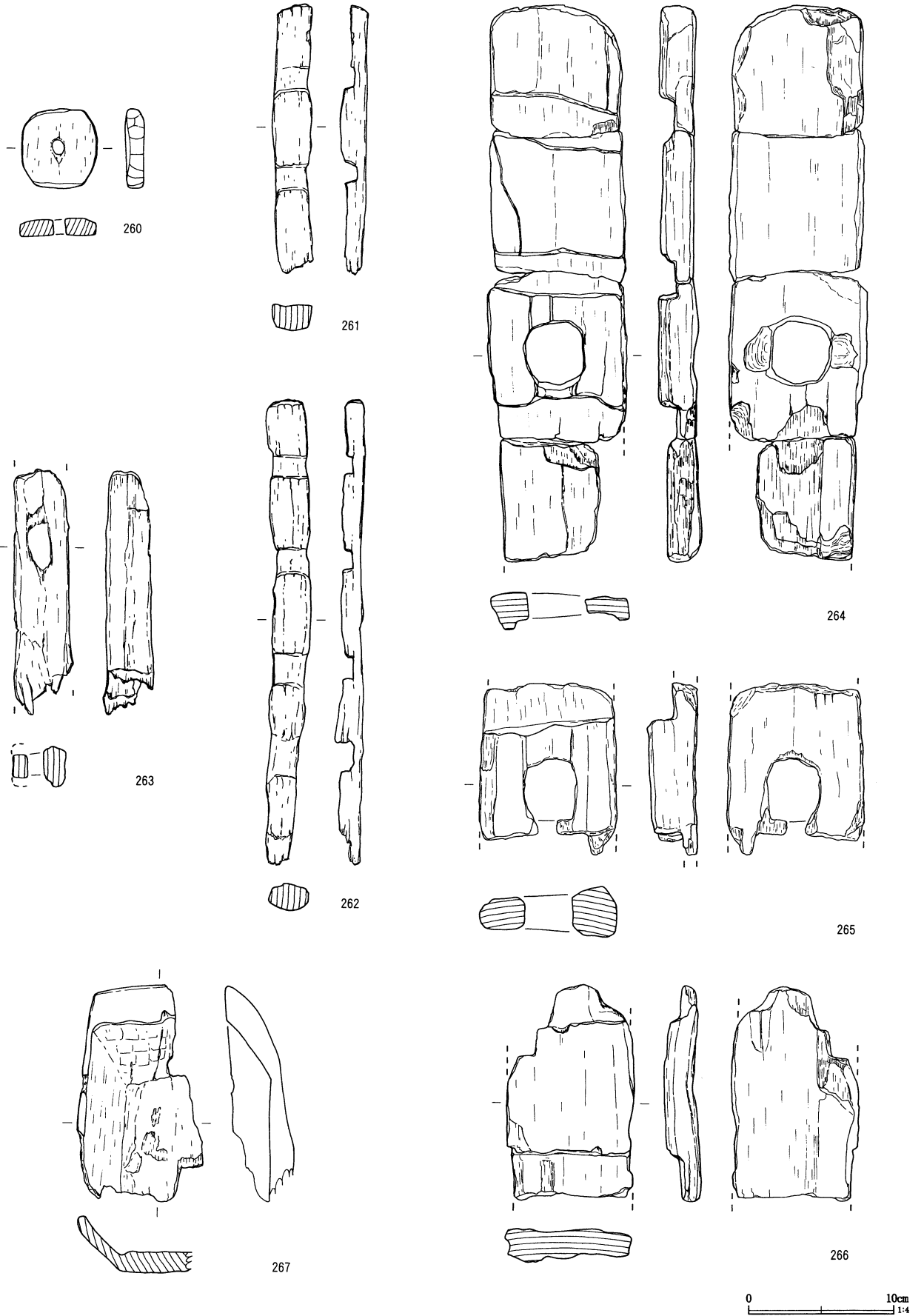
279は楔形の不明木製品である。両側面とも原型

SD80



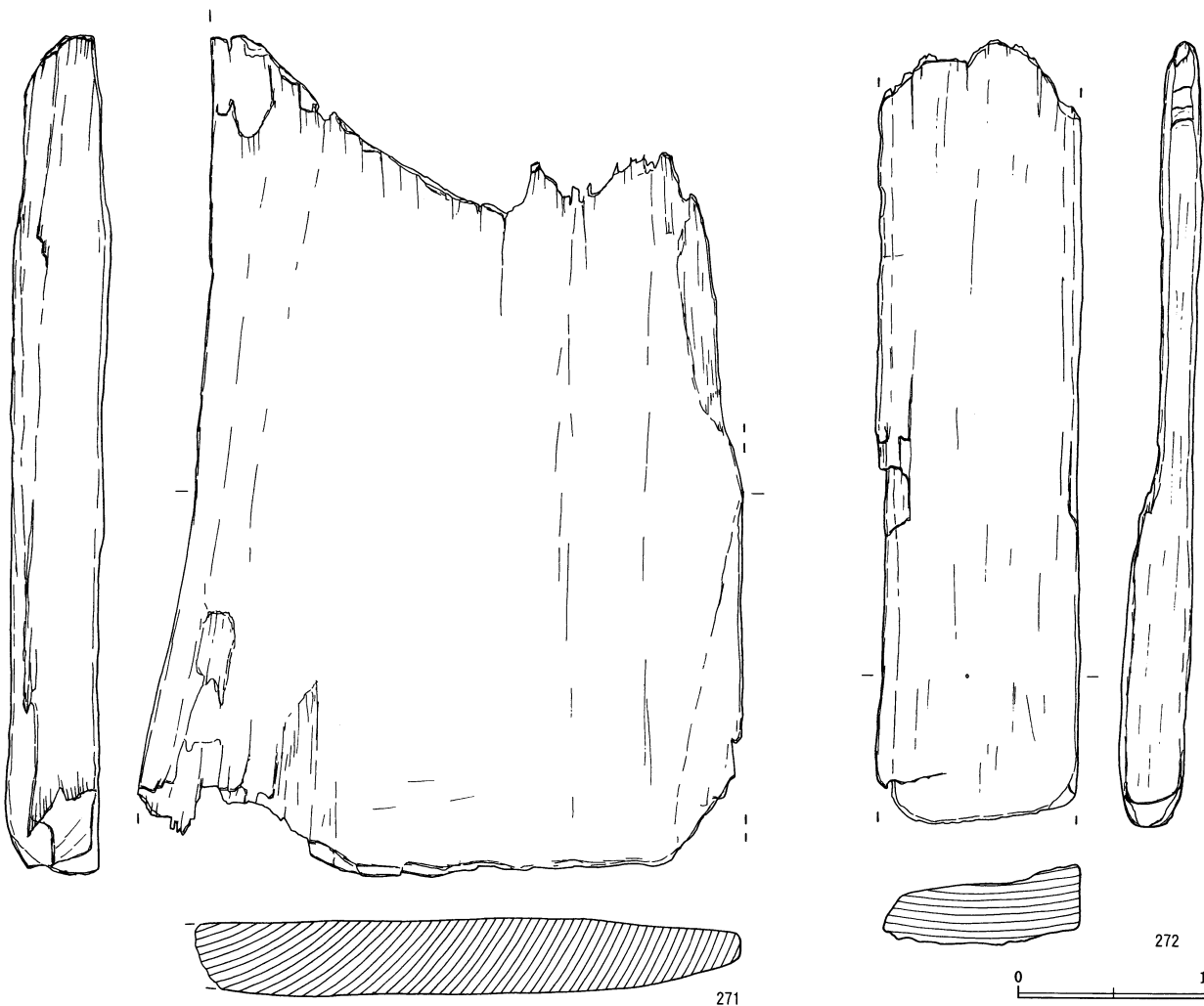
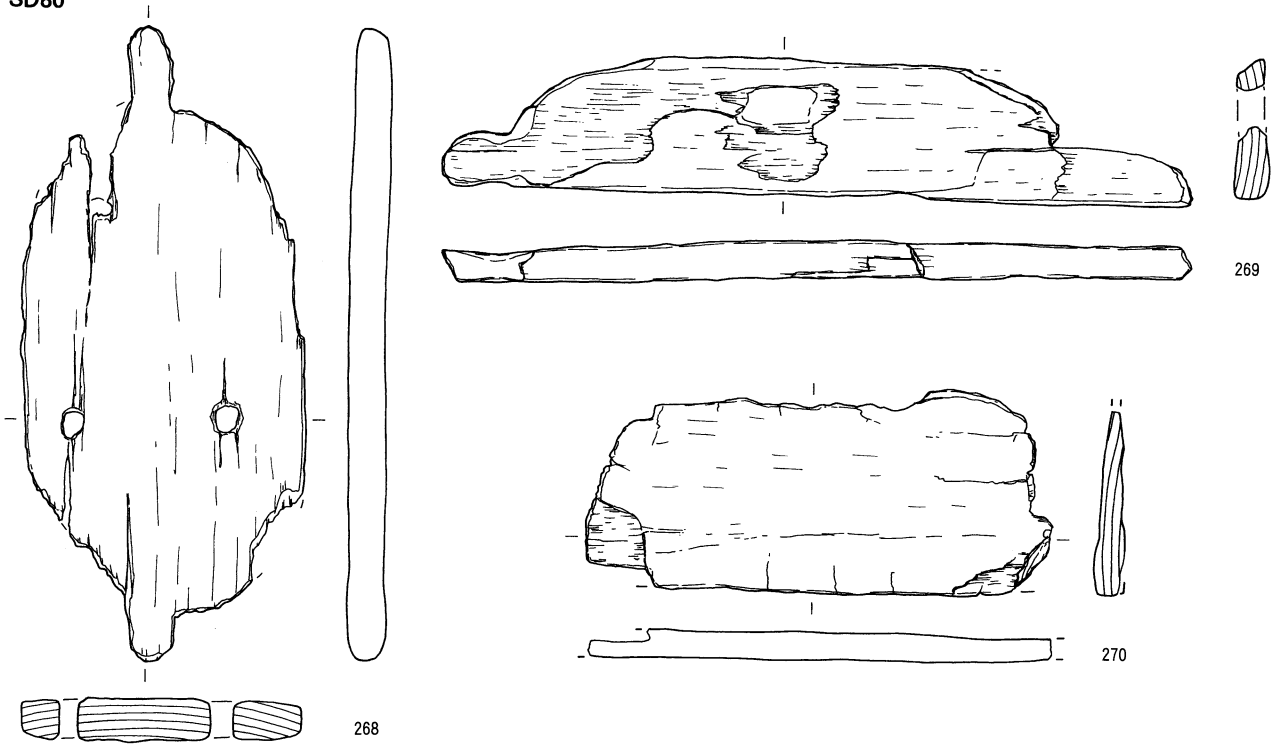
第335图 溝跡出土遺物 (50)

SD80



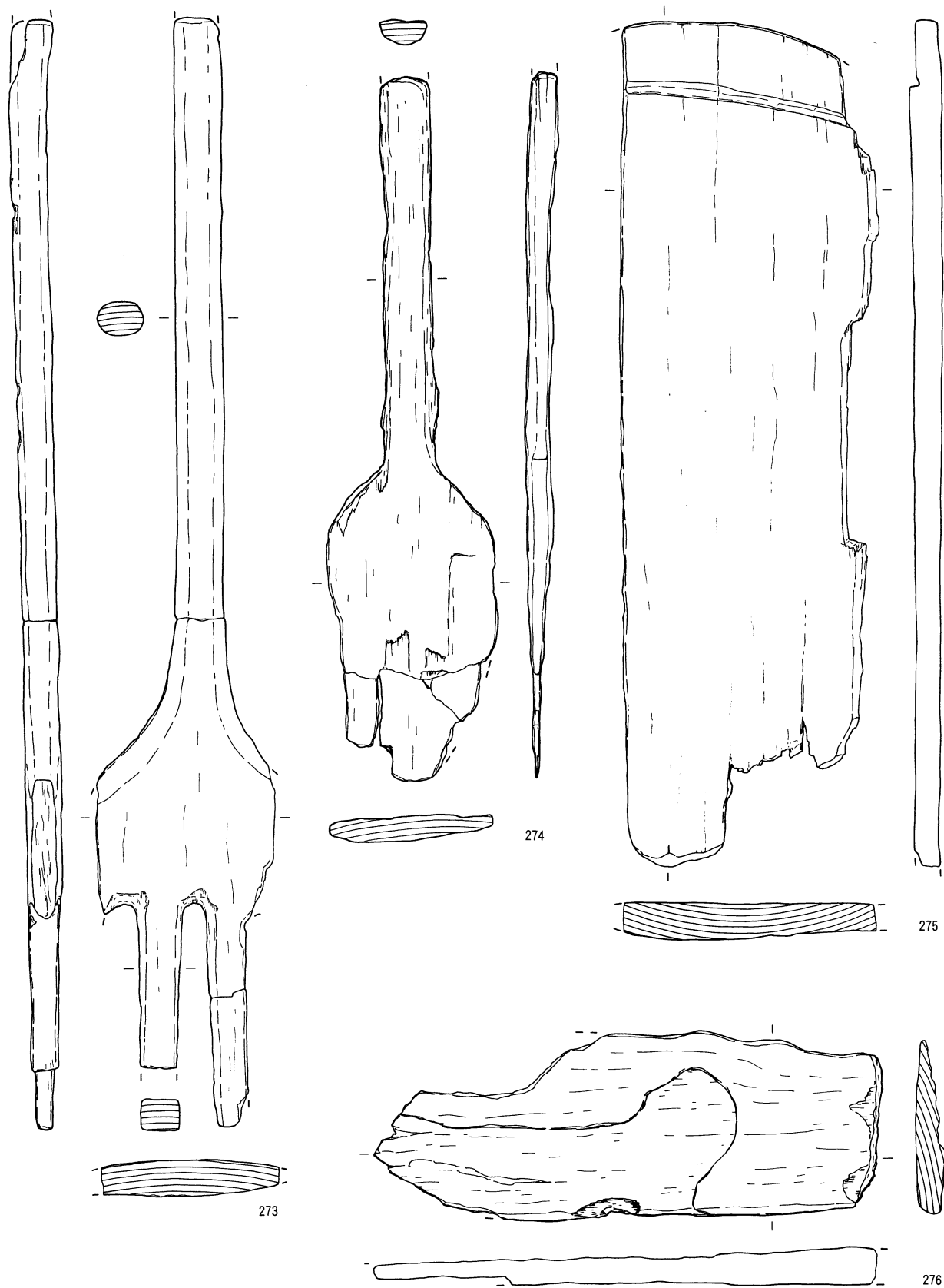
第336图 溝跡出土遺物 (51)

SD80



第337图 沟迹出土遗物 (52)

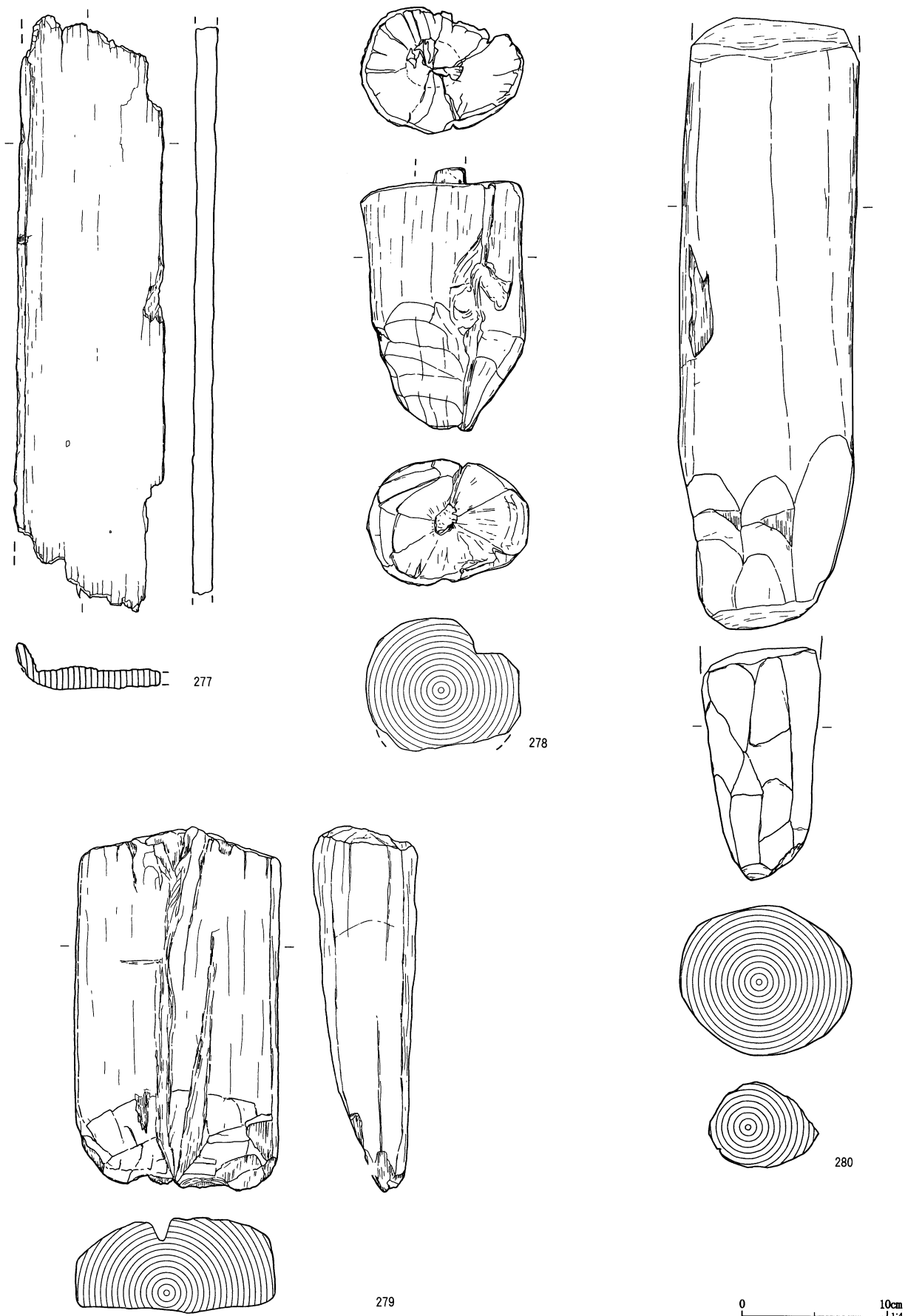
SD80



0 10cm
1:4

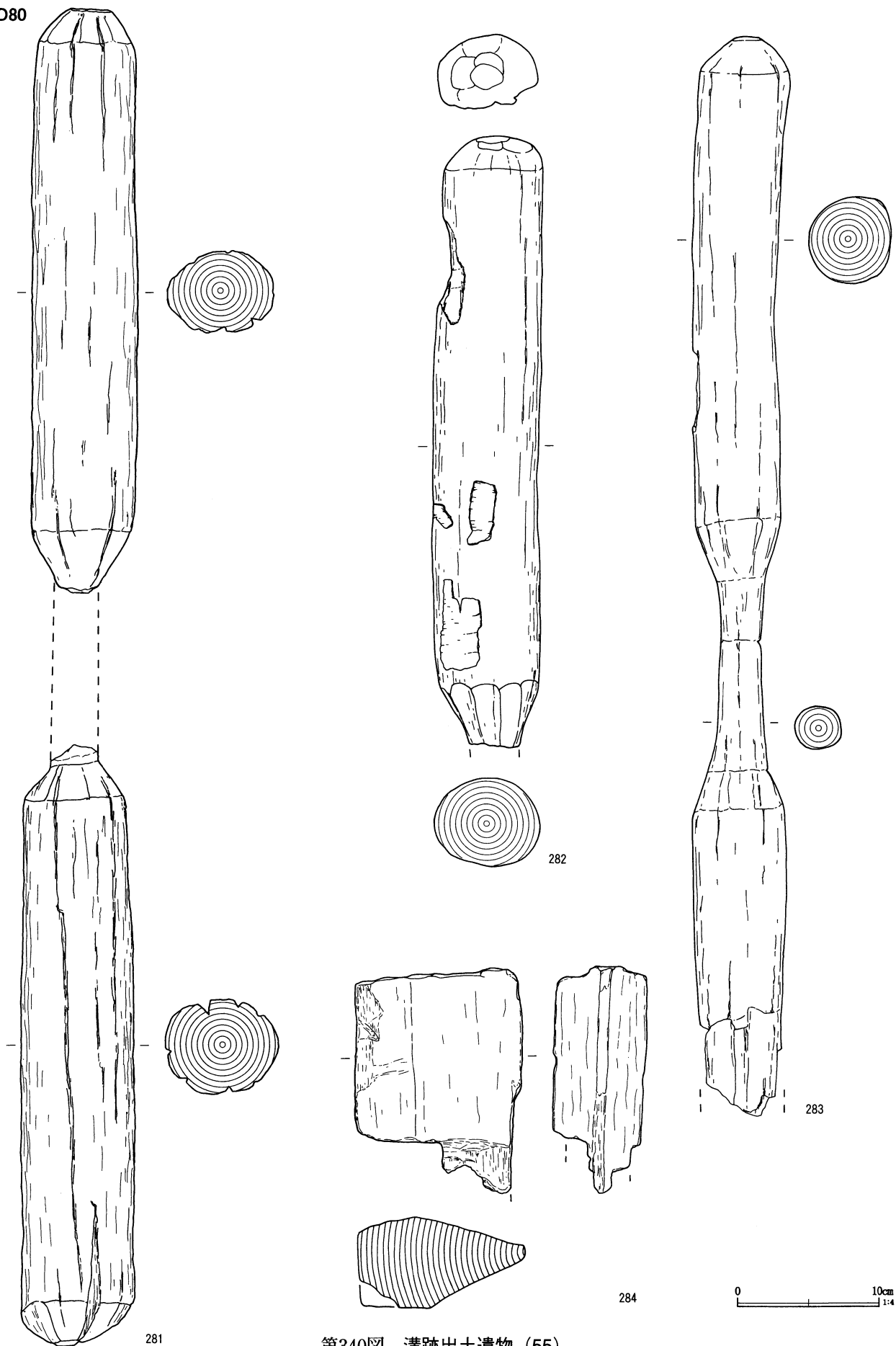
第338图 沟跡出土遺物 (53)

SD80

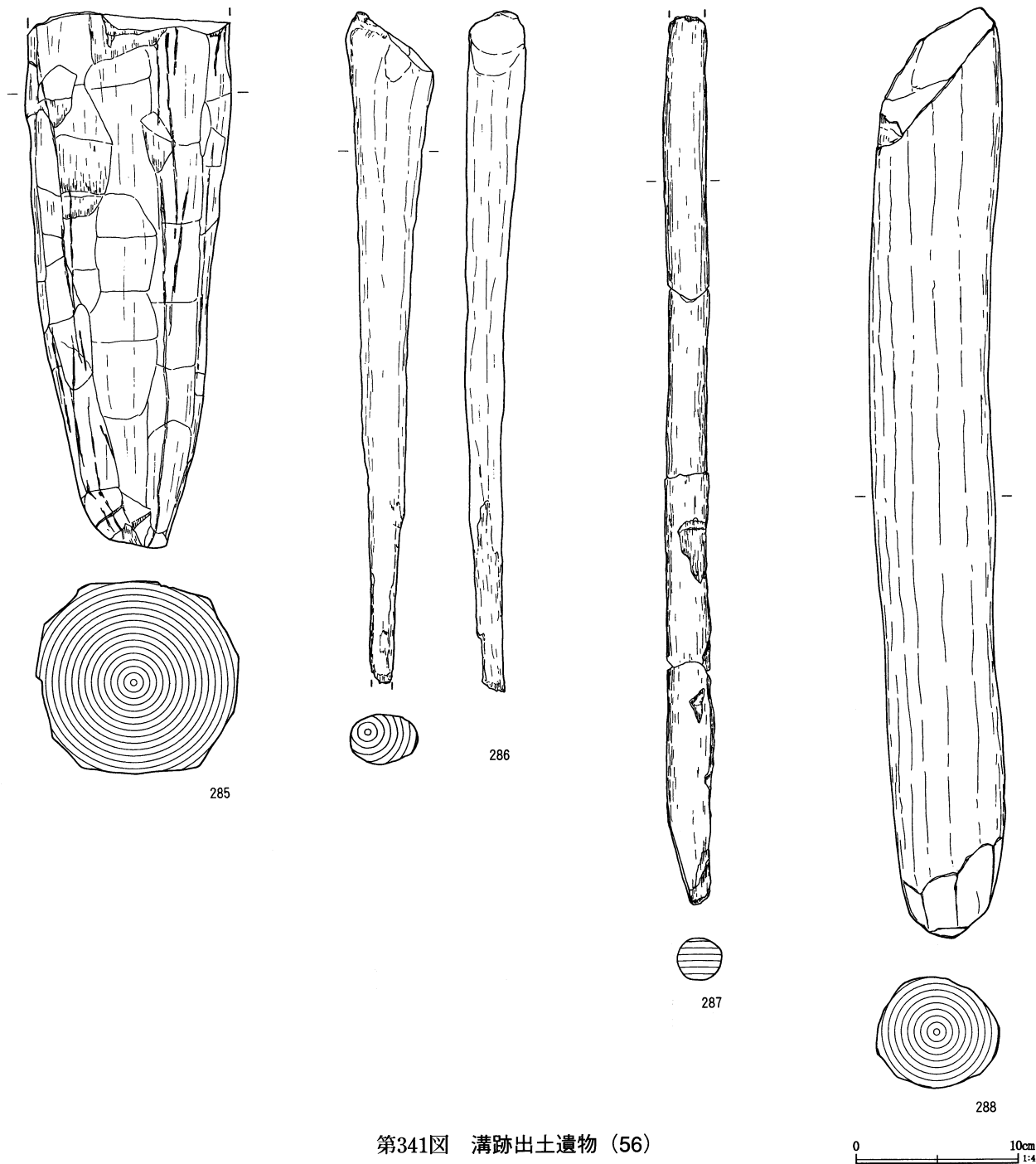


第339图 沟迹出土遗物 (54)

SD80



第340图 溝跡出土遺物 (55)



第341図 溝跡出土遺物 (56)

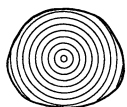
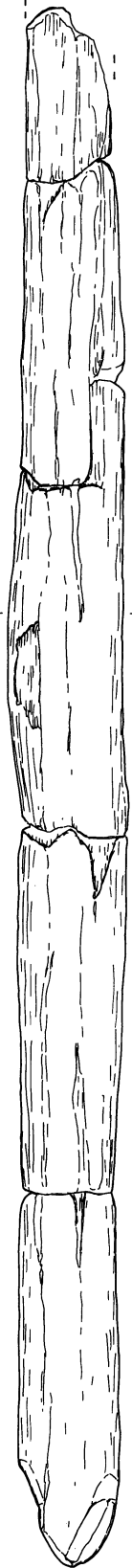
をとどめている。先端は次第に薄くなるように加工し、図の裏面は平坦になるように調整している。身部の断面が分厚い感じはあるが、平鍬のような農具の一部と推定される。

280は木杭。先端部付近で切断されているが、同一個体のものである。断面を丸く調整するため、ゆるやかに面取りされる。

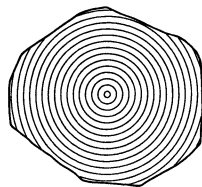
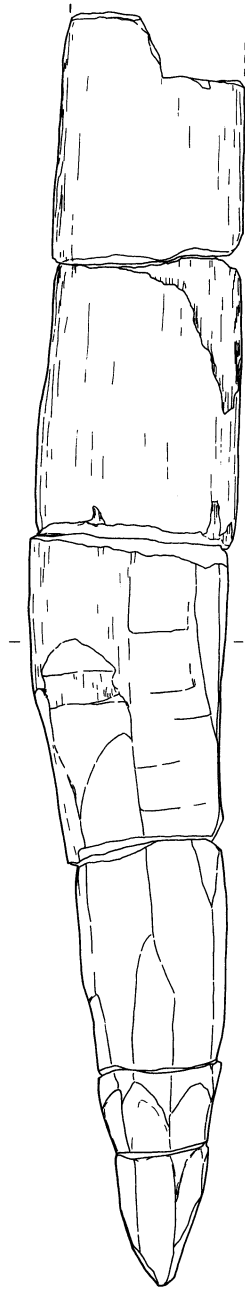
281～283は豎杵である。281は握部が欠失してい

るが同一のものである。搗き部はやや扁平な円柱形で、搗き部端および握り部との接合部は斜めに加工している。搗き部のそれぞれの長さはいずれも41.0cmである。282は片方の搗き部のみ残存する。一部に樹皮が付着したまま残る。やや扁平な円柱形で搗き部端は丸く加工している。283は片方の搗き部半分が欠失している。搗き部・握り部とも円柱形で、搗き部端は丸く加工する。搗き部の長さは38.0cm、

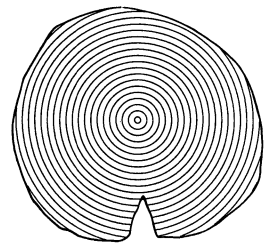
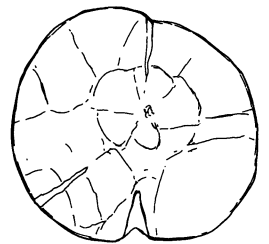
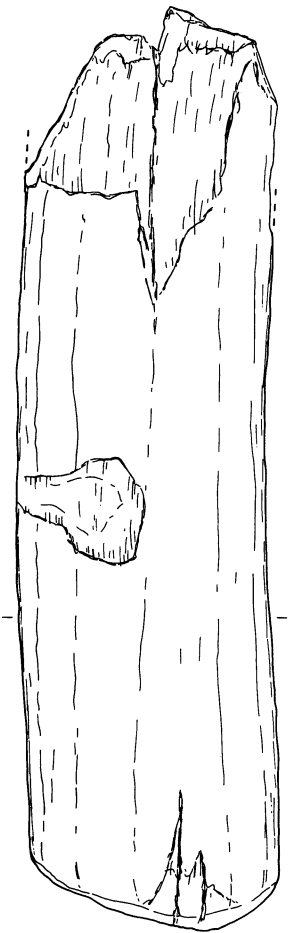
SD80



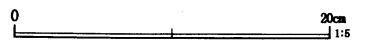
289



290

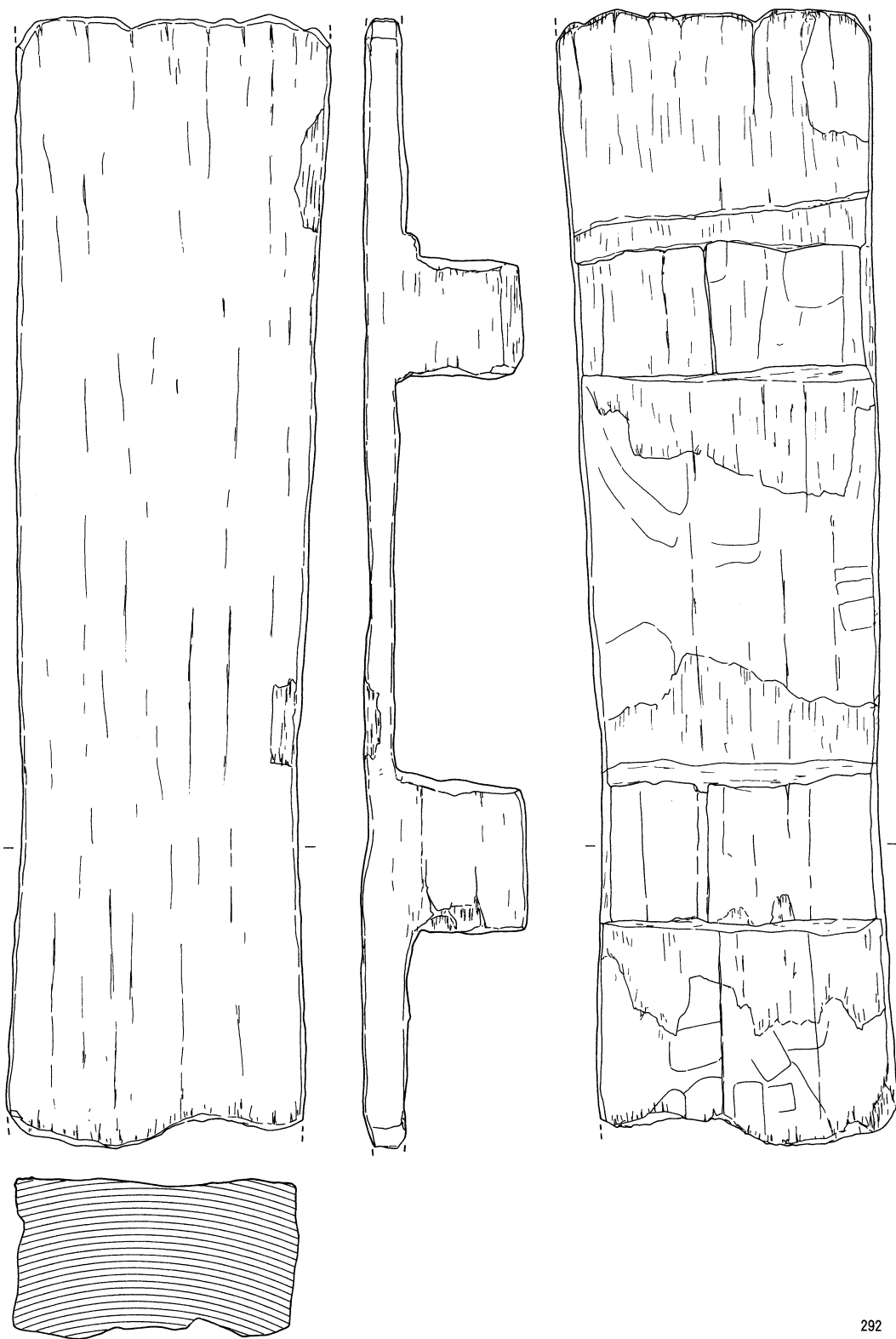


291



第342図 溝跡出土遺物 (57)

SD80

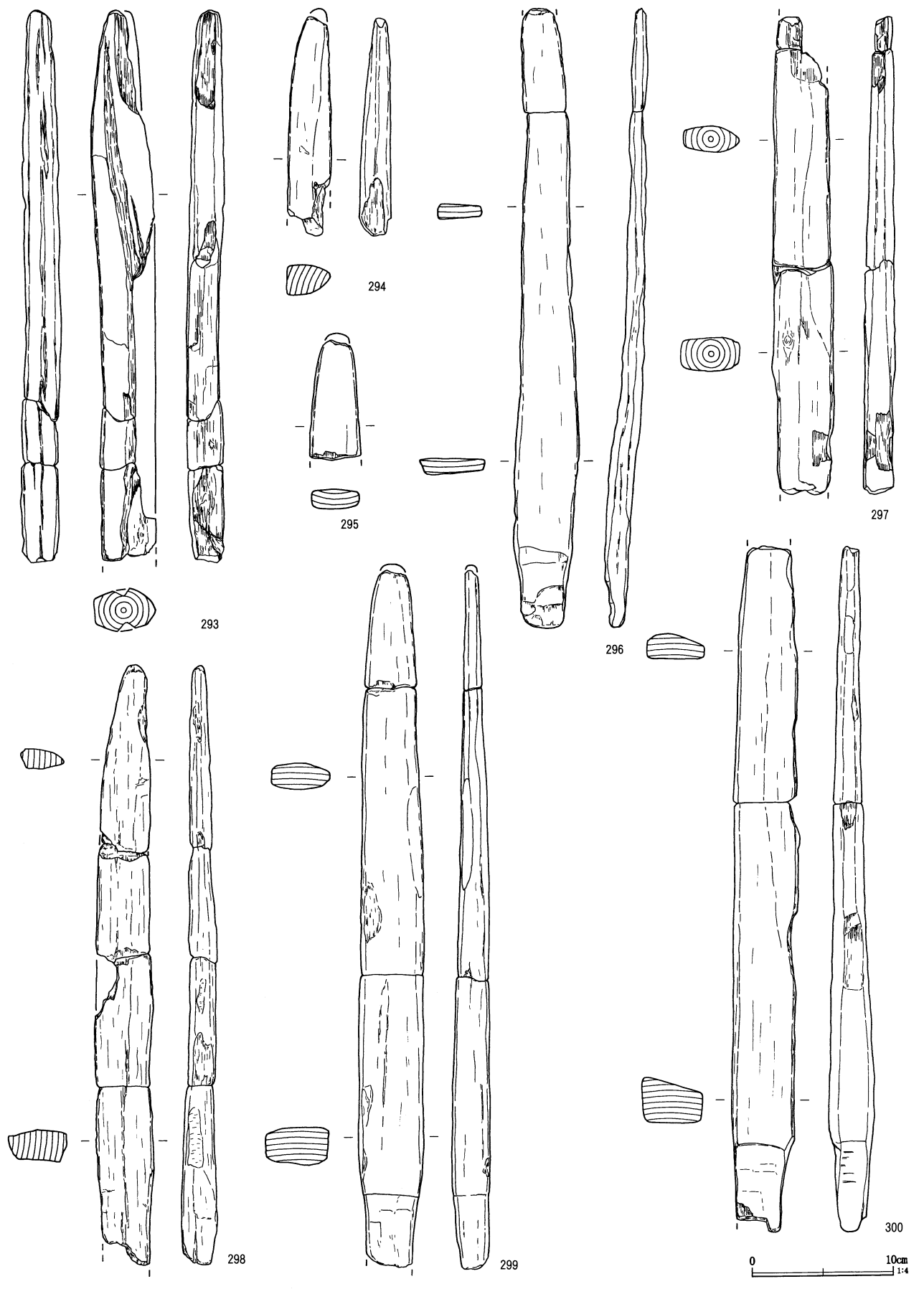


292



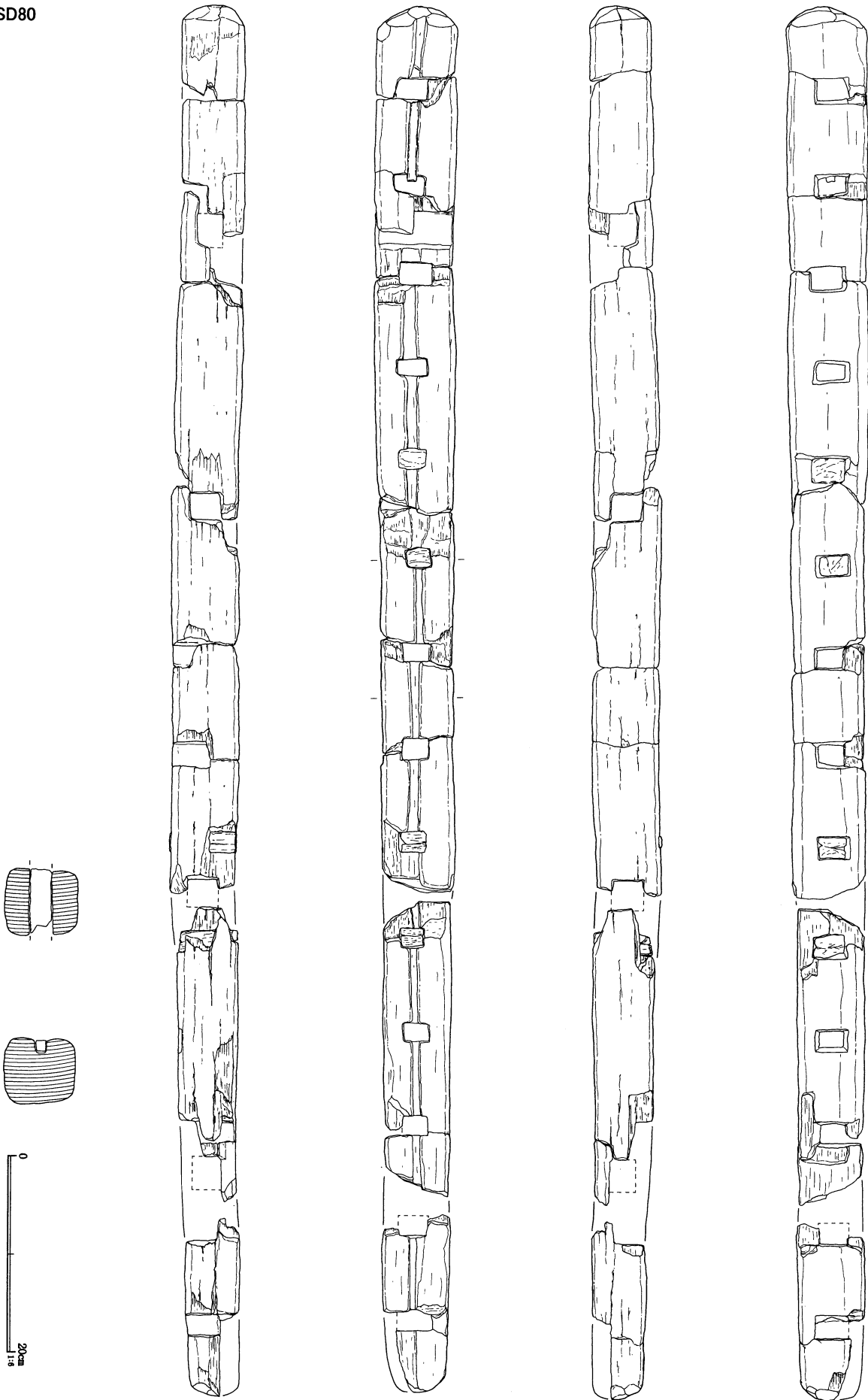
第343図 溝跡出土遺物 (58)

SD80



第344図 溝跡出土遺物 (59)

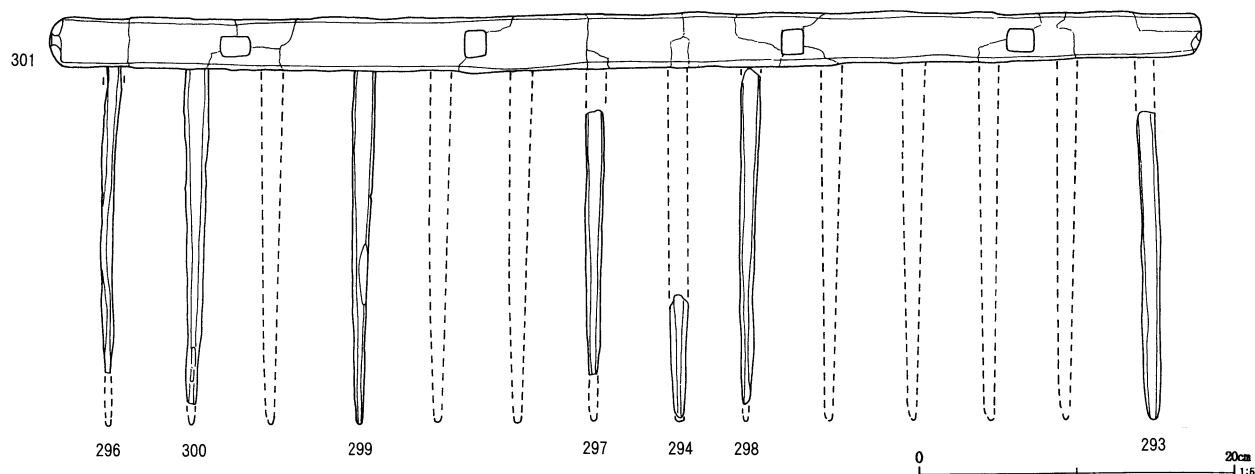
SD80



第345図 溝跡出土遺物 (60)

301

SD80



第346図 溝跡出土遺物 (61)

握り部の長さ13.6cmなので、復元長は約90cmである。

284は断面五角形の身部に柄のような突起部を作り出す。柄の先は欠失しているが、身部はほぼ完形である。用途は不明。

285～290は木杭。285と290は280と類似した大型の杭。先端部を細かくはつっている。286は枝を加工して作った杭。ゆるやかな面取りがみられ、図の上端部は斜めに切断した痕跡がみられる。287、289は断面円形の杭。288は全体に面取り加工がみられ、図の上端部は斜めに切断した痕跡がみられる。

291はゆるやかに面取りを施した円柱形で、端部は丸く加工している。柱材であろうか。

292は机(案)と想定される。一木からなっており、下駄歯状の脚を2箇所作り出している。天板は平坦で、両端部は欠失しているが、側面は原型が残る。表面の風化が激しく、加工痕は天板裏側で見られる程度である。

293～301は馬鍬で、293～300は歯部、301は歯を取り付ける台木にあたる。台木は多くのパーツに分解しているが、復元すると長さ147cmとなる。断面は辺の中央がわずかに膨らむ形態をなし、歯を植え込む角孔がある側の辺がやや長い。歯の孔は14あり、約10cm間隔でほぼ均等に並ぶ。片側には歯の孔を連結するように断面方形の溝が彫られ、一部では溝にはめこまれた角材が残っていた。歯はこの溝と反対

の側に植え込まれ、溝に角材をはめこんで歯を固定させたようである。この歯孔とは直角方向に4個の角孔があるが、外側の2孔は牛馬が引くための引手が、内側の2孔は人が握る把手をつけるための柄が、それぞれはめ込まれていたようである。引手と柄は出土していない。

歯は刀形をしており、片側面は刃のように厚みを減じている。耕作の進行方向を示すのであろう。また歯の基部は細く加工し、台木の孔に差し込まれる。歯の全体が残っているのは299であり、長さは50cmをはかる。他の歯も同様の長さとするれば、第346図のような復元となる。なお前述のように、250～252、258も馬鍬の歯になる可能性がある。

第81号溝跡

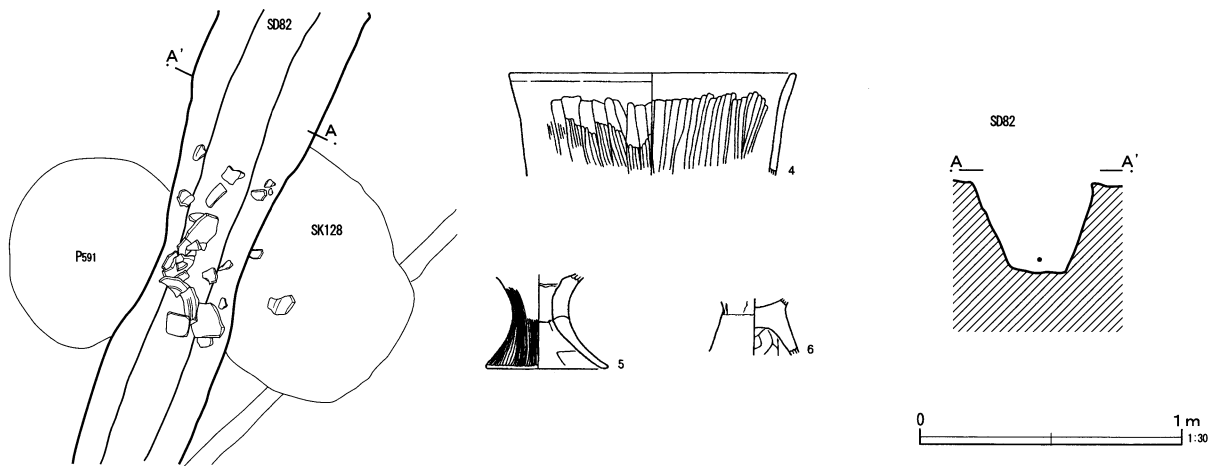
F-10グリッドに位置する。南北方向に伸びる溝跡を検出した。北側に第59号溝跡、南側に第115号土壌が位置する。また、第90号溝跡と重複し、本遺構が古い。

規模は、長さ15.6m、幅25～50cm、深さ17～25cmである。

出土遺物は古墳時代に後期の破片を検出した。また、貝窠穴岩1点を検出。図示した第349図1は須恵器跡である。

第82号溝跡

C-10グリッドに位置する。北東から南西方向に



第347図 第82号溝跡遺物出土状況

伸びる短い溝跡を検出した。北側は第74号溝跡、南側は第44号溝跡に繋がる。第28号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。

規模は、長さ6.13m、幅45～52cm、深さ27～38cmである。

出土遺物は、古墳時代後期の遺物を少量検出し、第349図4は内外面にヘラミガキされた甕である。

第83号溝跡

E-9グリッドに位置する。南北方向に伸びる溝跡を検出した。北側は第85号溝跡、南側には第93号溝跡が位置する。

規模は、長さ16.1m、幅55～65cm、深さ5～13cmである。

出土遺物は、凸面に縄叩きを部分的に施し、凹面には布目と布綴じが見られる平瓦と須恵器甕の底部を検出した。

第84号溝跡

F-9グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝跡を検出し、西側の第85号溝跡から分岐し、東側調査区域外に伸びる。

規模は、長さ12m、幅45～50cm、深さ11～17cmである。

出土遺物は、湖西産坏H、外周回転ヘラケズリの須恵器坏、灰釉陶器碗、常滑の甕の破片が出土した。混入品が多いが中世の溝跡と判断した。

第85号溝跡

B・C・D-7、D・E-8、F-8・9グリッドに位置する。調査区の北側を東西方向に伸びる。

規模は、長さ47.5m、幅65～130cm、深さ5～15cmである。

出土遺物は、第349図12は常滑の甕底部、14は聖宋元寶を検出した。

第86号溝跡

E-8・9、F-9グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝跡を検出し、西側は第37号住居跡が位置し、東側は第59号溝跡が位置する。

規模は、長さ11m、幅100～130cm、深さ10～90cmである。

出土遺物は少なく、土師器破片、灰釉陶器甕を検出し、溝跡の時期は平安時代と見られる。

第87号溝跡

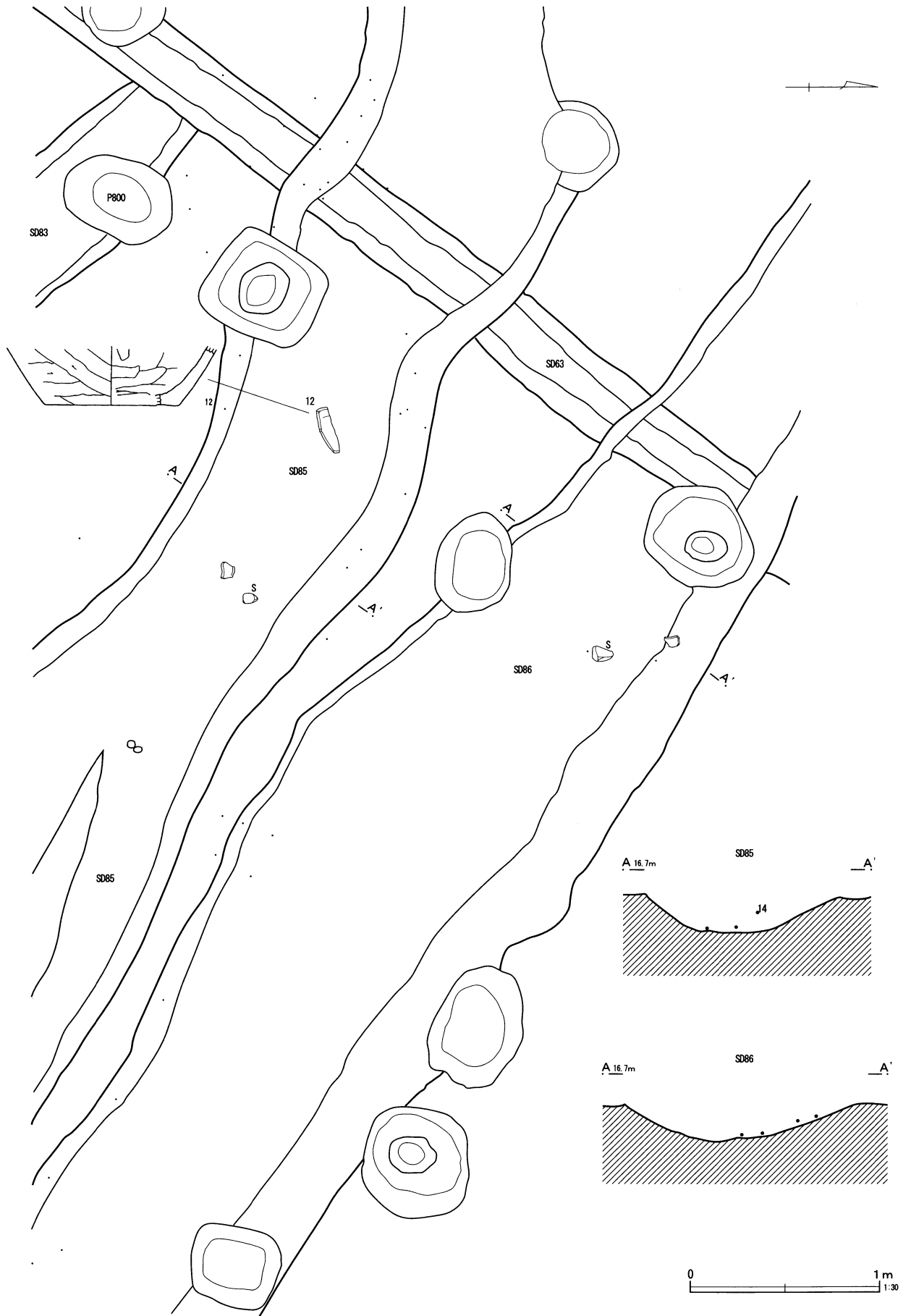
E・F-9グリッドに位置する。北西から南東方向に伸びる溝跡を検出した。北側は第63号溝跡、南側は第59号溝跡と交叉し、調査区域外に伸びる。

規模は、長さ17.5m、幅60～65cm、深さ11～20cmである。

出土遺物は土師器破片を少量検出した。

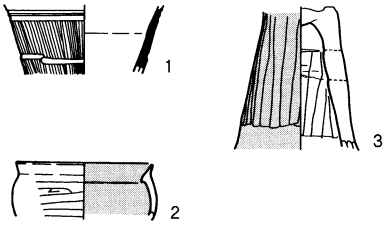
第88号溝跡

E・F-9グリッドに位置する。北西から南東方向に伸びる溝跡を検出した。重複遺構は第59号溝跡、

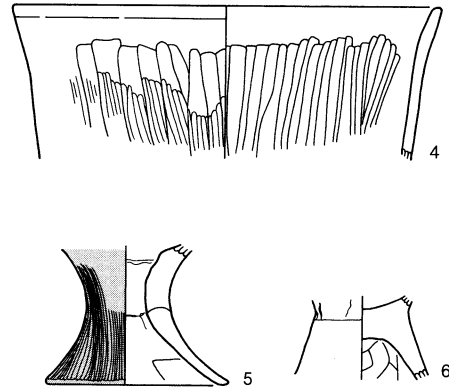


第348图 沟迹 (15)

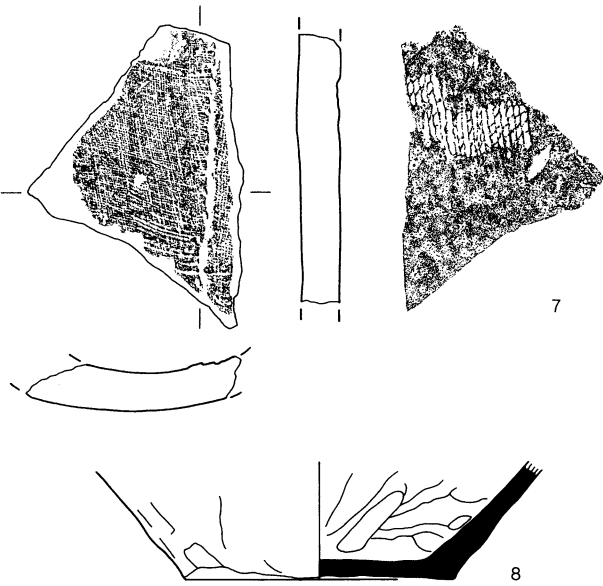
SD81



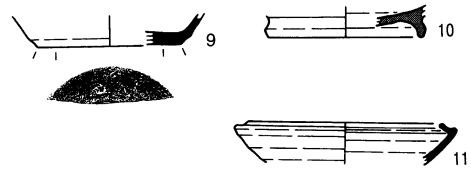
SD82



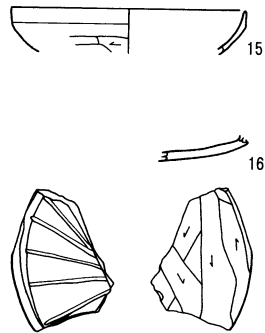
SD83



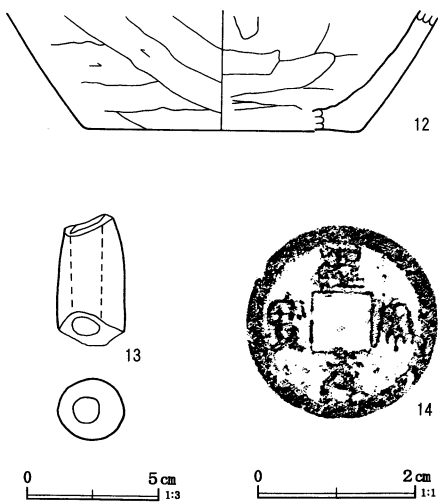
SD84



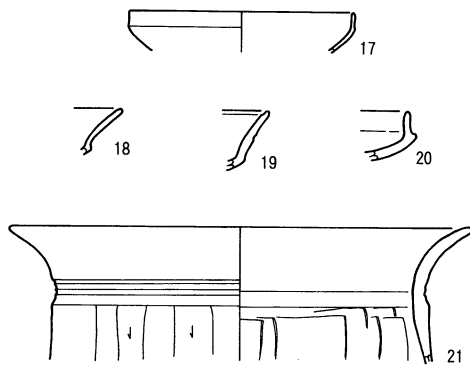
SD88



SD85



SD89



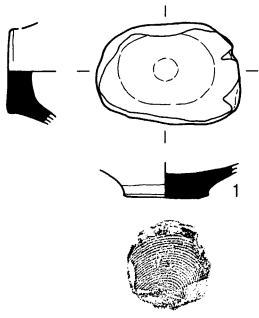
0 5 cm 1:3

0 2 cm 1:1

0 10cm 1:4

第349图 溝跡出土遺物 (62)

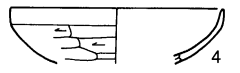
SD93



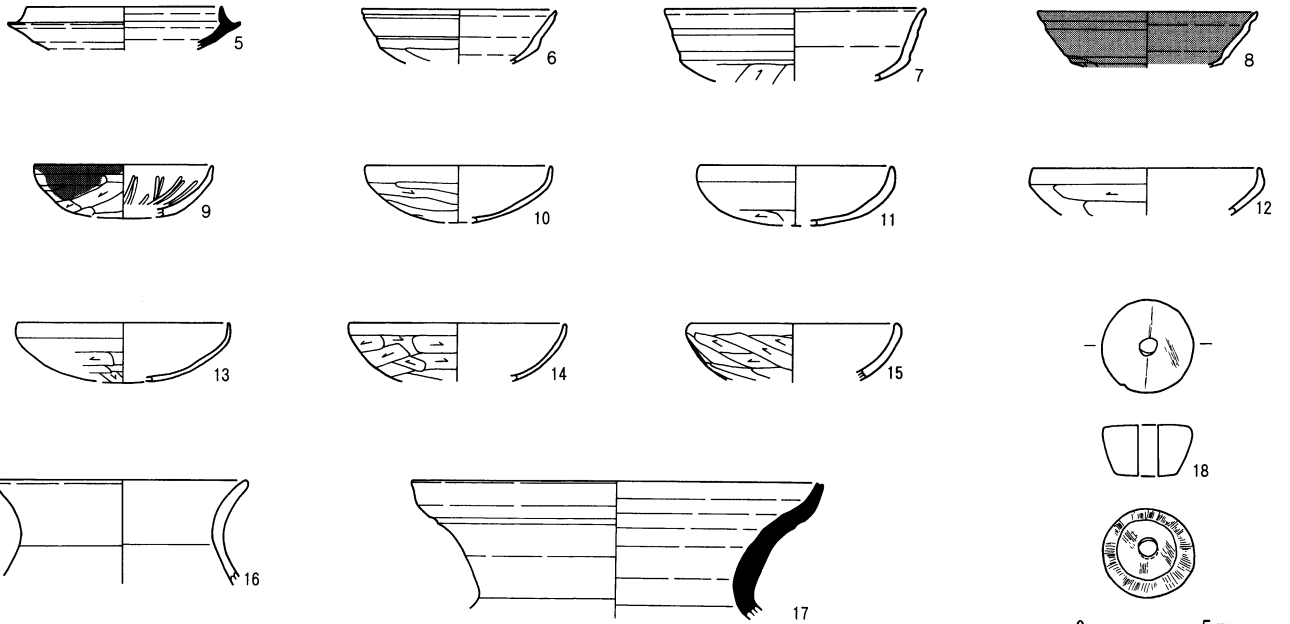
SD95



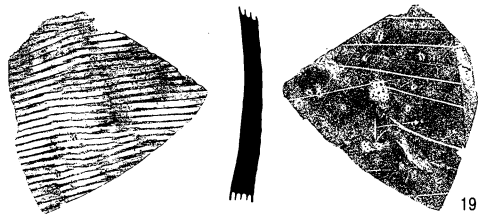
SD97



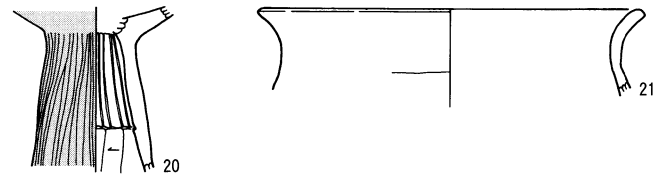
SD94



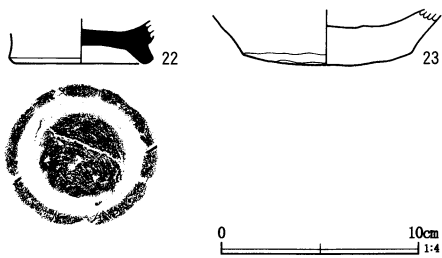
SD99



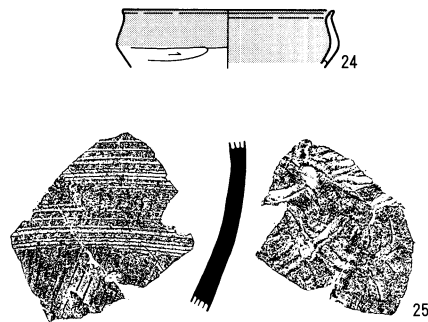
SD100



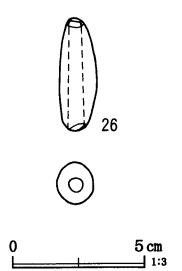
SD102



SD104



SD106



第350图 溝跡出土遺物 (63)

第123・124号溝跡と交叉し、第87号溝跡に繋がる。

規模は、長さ9.8m、幅28cm、深さ12cmである。

出土遺物は、内屈口縁環、暗文環を検出した。

第89号溝跡

F-10グリッドに位置する。東西方向に伸びる短い溝跡を検出した。

規模は、長さ23.8m、幅45cm、深さ18cmである。

出土遺物は土師器甕、坏、有段口縁環などである。

第90号溝跡

F-10グリッドに位置する。南北方向に伸びる溝跡を検出した。北側に第59号溝跡、南側に第118号土壇が位置する。また、第81号溝跡と重複し、本遺構が新しい。

規模は、長さ11.5m、幅35～50cm、深さ17～22cmである。出土遺物は、古墳時代後期の土師器破片が少量検出された。

第91号溝跡

F-11グリッドの東端に位置する。南北方向に伸びる短い溝跡を検出した。第90号溝跡の南側で分岐し、第62号井戸跡に繋がる。第81・90・91はほぼ同時期の溝跡とみられ、造り替えの可能性があり第59号溝跡と繋がる。

規模は、長さ2.4m、幅25cm、深さ8cmである。

出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第92号溝跡

F-10グリッドに位置する。南北方向に伸びわずかに湾曲する溝跡を検出した。北側は調査区域外に伸び、南側には、第44～48号住居跡が位置する。

規模は、長さ6.7m、幅25～40cm、深さ11～13cmである。出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第93号溝跡

E-10・11グリッドに位置する。南北方向に直線的に伸びる溝跡を検出した。途中でわずかに途切れる。また、本溝跡の北側には類似した第83号溝跡が位置する。南側は第4号溝跡と重複する。

規模は、長さ10m、幅60～80cm、深さ6～9cmと浅い。出土遺物は、須恵器耳皿、高台付壺が検出さ

れた。

第94号溝跡

C・D-7グリッドに位置する。北西から南東方向に直線的に伸びる溝跡を検出した。北側は第80号溝跡の上層辺りと重複する。中央付近で第37号住居跡と重複し溝跡が新しい。南側は第63・59号溝跡と交叉する。南端は調査区域外に伸びる。

規模は、長さ36.5m、幅140～180cm、深さ11～16cmである。

出土遺物は、土師器破片を多く出土し、第350図5は須恵器坏身である。6～8は土師器有段口縁環、10～15は北武蔵型坏、17は須恵器壺の口縁である。

第95号溝跡

C・D・E-5グリッドに位置する。西側および東側は調査区域外にわずかに湾曲しながら伸びる。南側には第80号溝跡が位置する。北側は第27号住居跡が位置し、この住居跡を切る。断面観察によると、溝跡の覆土は自然堆積層である。1・2層は堆積後に掘削し、3～10層は溝跡の堆積層で、1・2・4・6層は砂を主体とした層である。また、3層には黄褐色ブロックを多く含む。7～9層は粘土質である。

規模は、長さ24.5m、幅360cm、深さ100cmである。

出土遺物はほとんど検出されなかった。須恵器甕の口縁部破片を第350図に示した。

第96号溝跡

C-7グリッドに位置する。北西から南東方向に直線的に伸びる溝跡を検出した。本溝跡の南端には、第102・57号溝跡が続くと考えられる。

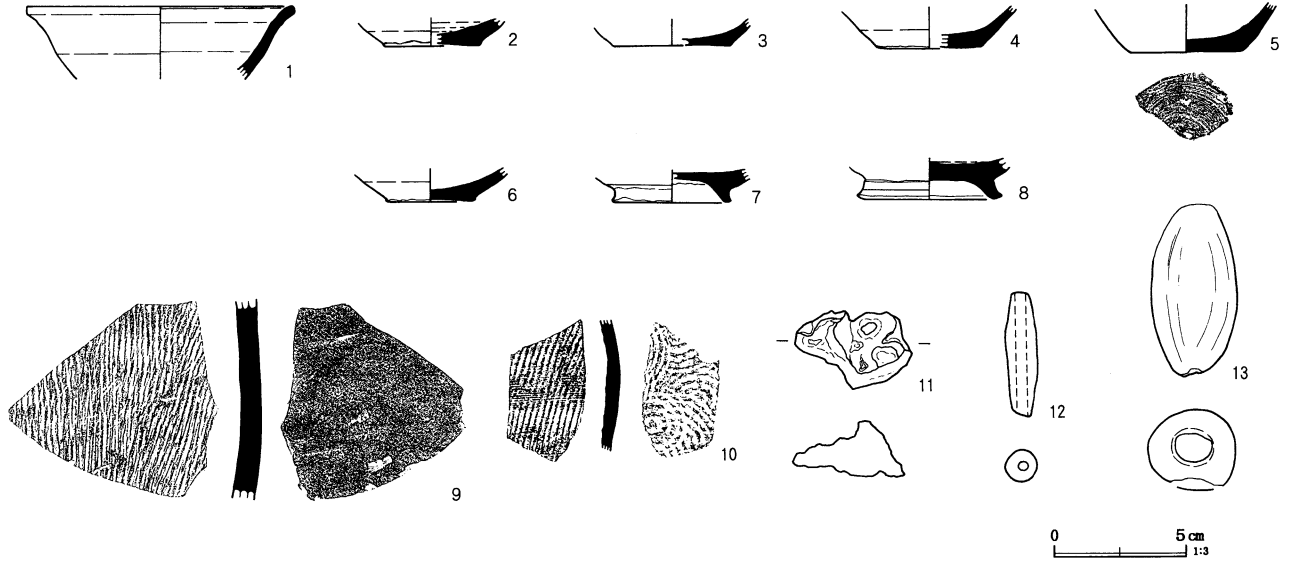
規模は、長さ14.5m、幅90～120cm、深さ20～25cmである。出土遺物は、平安時代の須恵器坏、甕の破片を少量検出した。

第97号溝跡

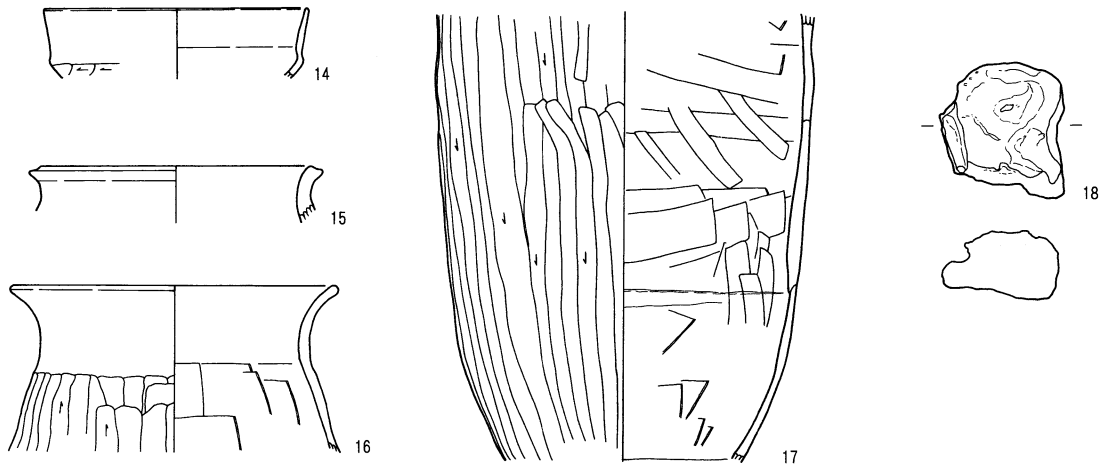
E-10・11グリッドに位置する。南北方向に直線的に伸びる溝跡である。北側は第79号溝跡と関連があると考えられる。南側は第4号溝跡に切られる。

規模は、長さ10.1m、幅40cm、深さ9～11cmであ

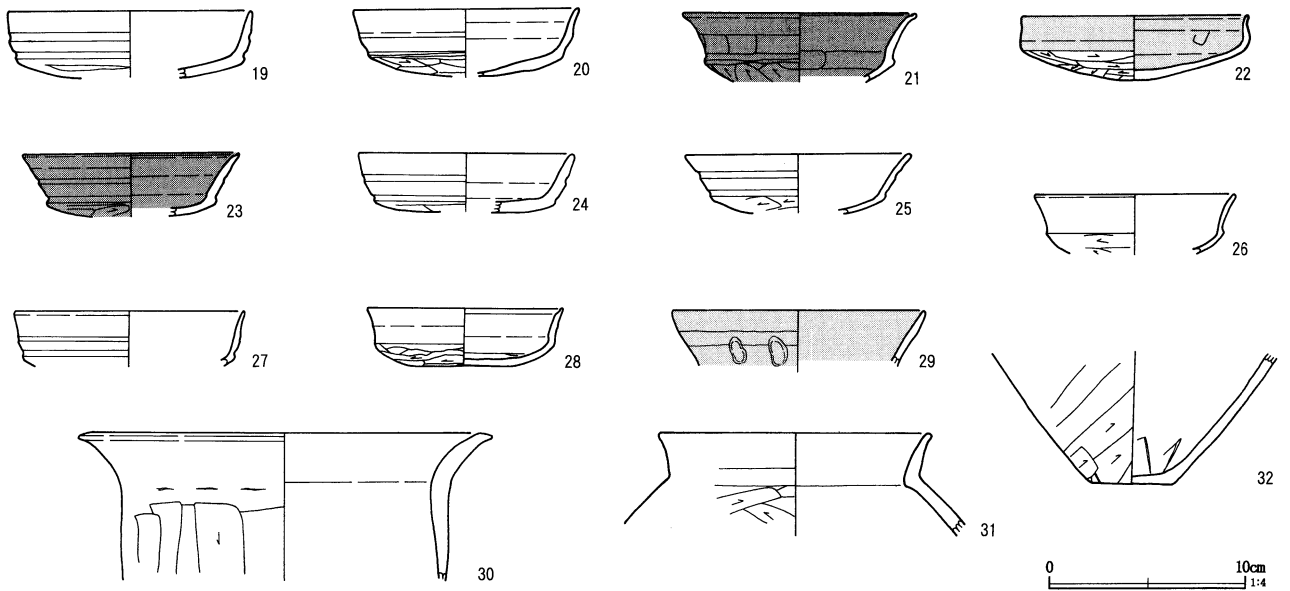
SD107



SD108



SD109



第351図 溝跡出土遺物 (64)

る。出土遺物は、土師器破片を少量出土、北武蔵型
坏を第350図に示した。奈良時代直前の遺物である。

第98号溝跡

C-7・D-8グリッドに位置する。北西から南
東方向に直線的に伸びる溝跡である。北西には、第
96号溝跡が重複し切られる。本溝跡はさらに西の第
102号溝跡に続くと考えられる。

規模は、長さ10.6m、幅30~45cm、深さ3~5cm
と非常に浅い。

第99号溝跡

C・D-7グリッドに位置する。北西の第80号溝
跡から南東方向に伸びる直線的な溝跡を検出した。
東側には第37号住居跡が位置する。

規模は、長さ18.5m、幅50~70cm、深さ7~11cm
である。出土遺物は、少量の土師器破片と須恵器甕
の破片であり古墳時代後期と考えられる。

第100号溝跡

D-6・7・8グリッドに位置する。南北方向に
やや湾曲しながら伸びる溝跡である。北側は第80号
溝跡に繋がる。南側はD-8グリッドで立ち上がり
途切れる。本溝跡の西側には第122号溝跡が存在し、
また、南側には第16号溝跡が位置する。

規模は、長さ19.4m、幅35~40cm、深さ13~20cm
である。出土遺物は、土師器破片を検出した。古墳
時代後期の溝跡と考えられる。

第101号溝跡

E-6・7グリッドに位置する。第100号溝跡の
東側に検出した。南北方向に直線的に伸びる溝跡で
ある。南側に位置する住居跡の周溝から連続する排
水溝の可能性が考えられる。

規模は、長さ6m、幅18cm、深さ17cmである。出
土遺物は、土師器破片を検出した。

第102号溝跡

B-7・C-8グリッドに位置する。北西から南
東方向に湾曲する溝跡を検出した。北側には第96号
溝跡、南側は第4号溝跡が切る。さらに南には第57
号溝跡が検出され繋がる可能性が高い。

規模は、長さ18m、幅50~120cm、深さ7~16cm
である。出土遺物は須恵器高台付塊を検出した。

第103号溝跡

D-7グリッドに位置する。東西方向に伸びる短
い溝跡で第99号溝跡から分岐する溝跡と見られる。

規模は、長さ4.2m、幅18cm、深さ7cmである。

第104号溝跡

F-10グリッドに位置する。南北方向に伸びる短
い溝跡を検出した。

規模は、長さ3.6m、幅30~45cm、深さ27~28cm
である。出土遺物は土師器破片を少量、比企型坏1
点を検出した。

第105号溝跡

F-12グリッドに位置する。調査区中央東寄り
である。東側は調査区域外に伸びる。西側は第4号溝
跡と重複し切られる。しかし、第4号溝跡の西側
には第60号溝跡が位置し本溝跡と繋がるものと考えら
れる。両溝跡は、第44号溝跡から分岐し集落内を南
東方向に流れ、F-12グリッド付近で北東方向に向
きを変え、第80号溝跡まで伸びるものと考えられる。

規模は、長さ17.7m、幅35~43cm、深さ17~25cm
である。出土遺物は少量であった。

第106号溝跡

F-12グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝
跡である。

規模は、長さ9.4m、幅30~40cm、深さ3~7cm
である。出土遺物は土師器破片少量。土錘を出土。

第107号溝跡

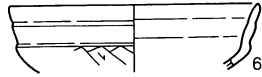
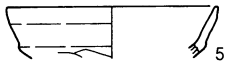
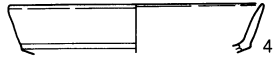
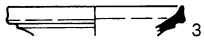
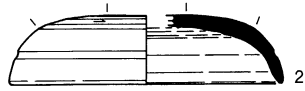
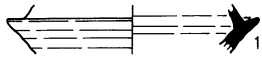
F-15、G-15・16・17グリッドに位置する。南
北方向にほぼ直線的に伸びる溝跡である。

規模は、長さ44.5m、幅20~30cm、深さ5~13cm
である。出土遺物は須恵器坏、高台付塊、甕の破片、
大小の土錘などである。

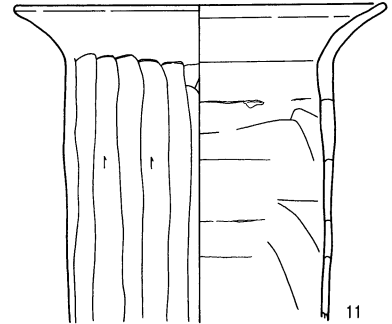
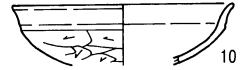
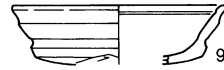
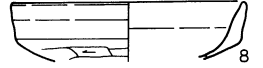
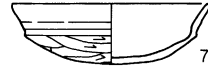
第108号溝跡

F-13グリッドに位置する。東西方向に湾曲しな
がら伸びる溝跡を検出した。東側は調査区域外に伸
びる。中央部分に試掘調査時のトレンチの痕跡を確

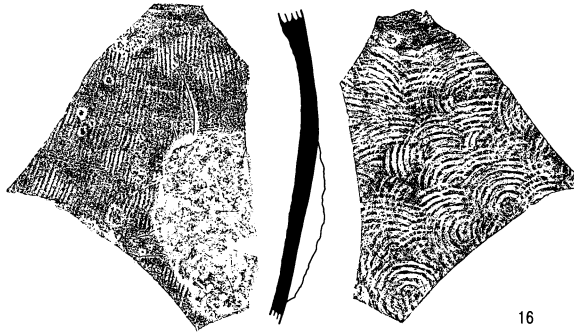
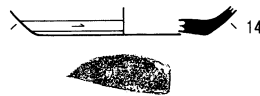
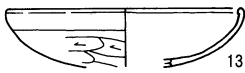
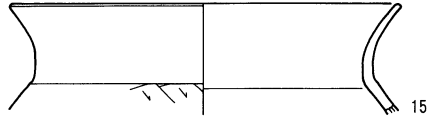
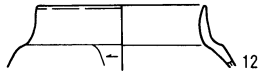
SD112



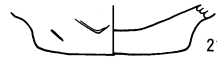
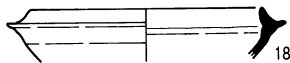
SD115



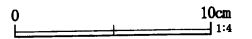
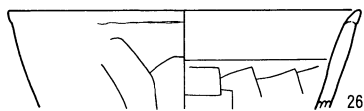
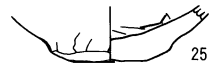
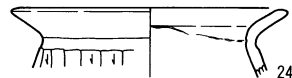
SD117



SD123



SD126



第352図 溝跡出土遺物 (65)

認した。

規模は、長さ13m、幅80～96cm、深さ8～24cmである。

出土遺物は、第351図14は土師器模倣坏、15・16は土師器甕で、15は口縁部角型である。16の口縁部形態は丸型である。18は鍛冶滓である。

第109号溝跡

F-7グリッドに位置する。第37号住居跡に取り付く住居排水溝の可能性が高い。南西から北東方向にわずかに湾曲しながら第80号溝跡に繋がる。

規模は、長さ6.8m、幅30～60cm、深さ22～34cmである。出土遺物は第351図に掲載した。19から29は土師器坏である。有段口縁坏を主体とし、比企型坏、小型の模倣坏を共伴させる。このほか、土師器甕、壺が出土した。

第110号溝跡

F-13グリッドに位置する。調査区中央東寄りで東西方向に伸びる短い溝跡を検出した。

規模は、長さ2.3m、幅50cm、深さ6cmである。出土遺物は土師器破片を少量検出した。

第111号溝跡

調査区中央東寄りのG-14グリッドに位置する。南北方向に伸びる細長い溝跡を検出した。北側は第43号住居跡の東コーナー部分と重複する。南側は第21号溝跡に繋がる。

規模は、長さ10.6m、幅40cm、深さ21cmである。出土遺物は、土師器破片を少量検出した。

第112号溝跡

F-14グリッドに位置する。第31号溝跡と第21号溝跡に挟まれた位置である。

規模は、長さ8m、幅25～40cm、深さ8～18cmである。出土遺物は、須恵器坏身・坏蓋・壺の口縁部破片、土師器模倣坏・有段口縁坏を出土した。

第113号溝跡

G-14グリッドに位置する。東西方向の短い溝跡を検出した。中央部分に第117号溝跡が重複する。

規模は、長さ5.8m、幅20～25cm、深さ7～8cm

である。

第114号溝跡

F-14グリッドに位置する。南北方向に伸びる細長い溝跡を検出。東に第112号、西に第44号溝跡に挟まれ、第115号溝跡とほとんど重複している。

規模は、長さ3m、幅25cm、深さ13cmである。

第115号溝跡

F-14・15グリッドに位置する。南北方向に伸びる細長い溝跡を検出。東に第112号、西に第44号溝跡に挟まれ、第114号溝跡とほとんど重複する。

規模は、長さ4.6m、幅30cm、深さ14cmである。

出土遺物は、第352図7～11である。土師器模倣坏の7は、口縁部が大きく「ハ」の字状に開く坏、8は口縁部やや短く直線的に開く坏、9は有段口縁坏、10は口縁が短く、ヨコナデが丁寧である。このほかに土師器長胴甕が検出された。

第116号溝跡

G-15グリッドに位置する。東西方向に伸びる短い溝跡を検出した。西側で第177号溝跡と重複する。

規模は、長さ2.4m、幅25cm、深さ5cmである。出土遺物は、土師器破片、甑の底部破片を検出。

第117号溝跡

G-14・15グリッドに位置する。南北方向に伸びる幅のある溝跡である。北側は第21号溝跡、南側は第127号溝跡に切られている。

規模は、長さ14.2m、幅80～120cm、深さ7～13cmである。

出土遺物は、土師器小型甕、北武蔵型坏、須恵器では底部および体部下端から回転ヘラケズリをほどこす坏、須恵器甕の破片を検出した。

第118号溝跡

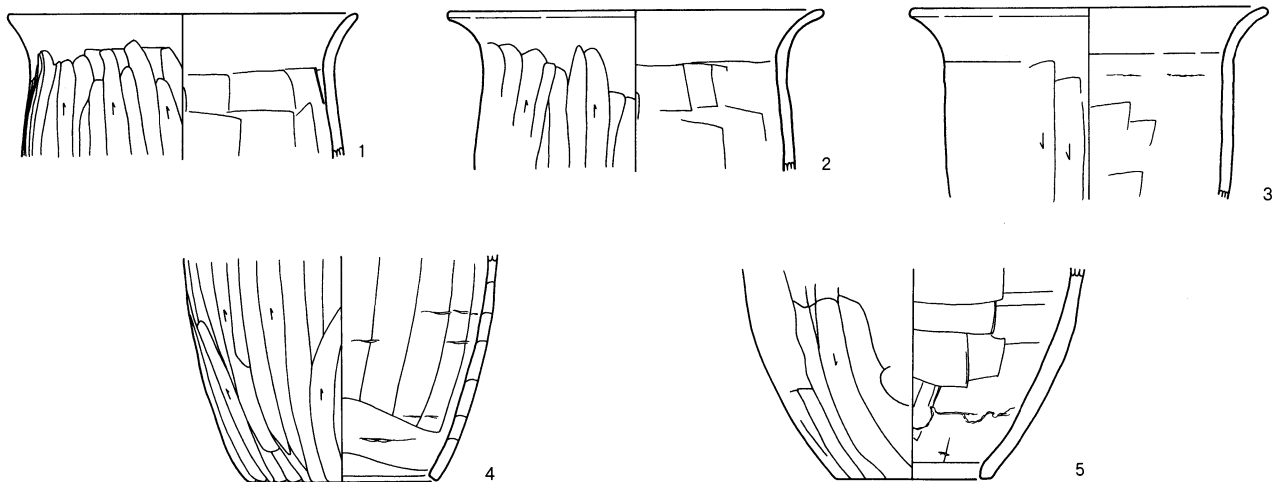
G-15グリッドに位置する。南北方向に伸びる細長い溝跡を検出した。

規模は、長さ16.6m、幅20～35cm、深さ10～14cmである。出土遺物は、土師器少量、模倣坏破片。

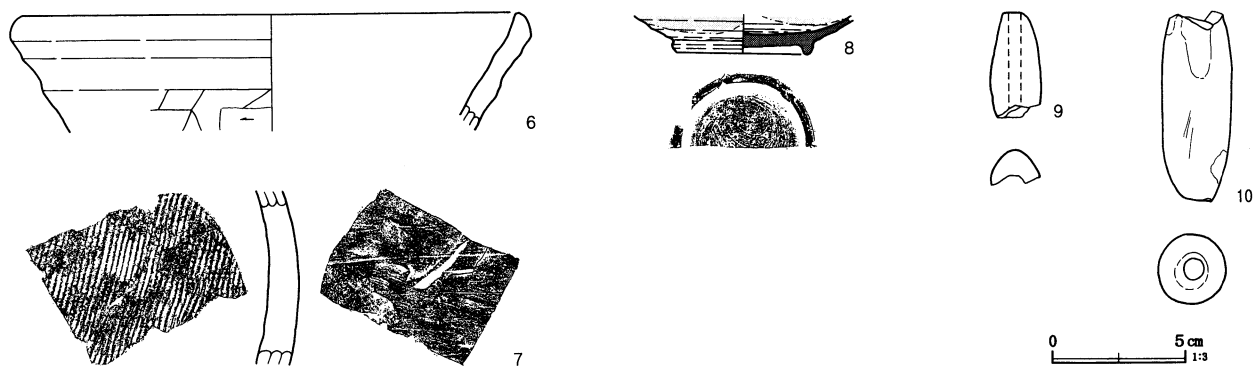
第119号溝跡

G-17グリッドに位置する。東西方向に伸びる短

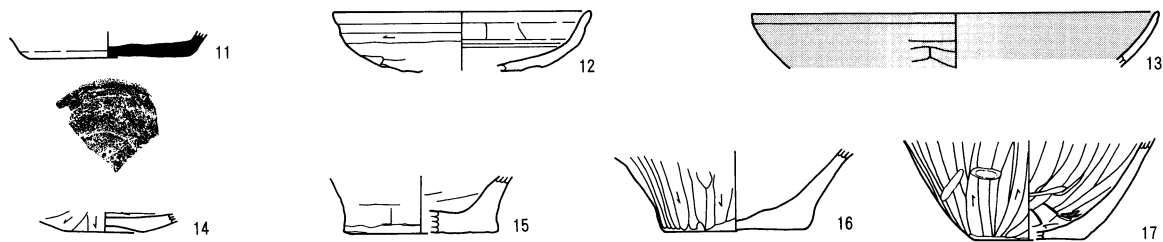
SD126



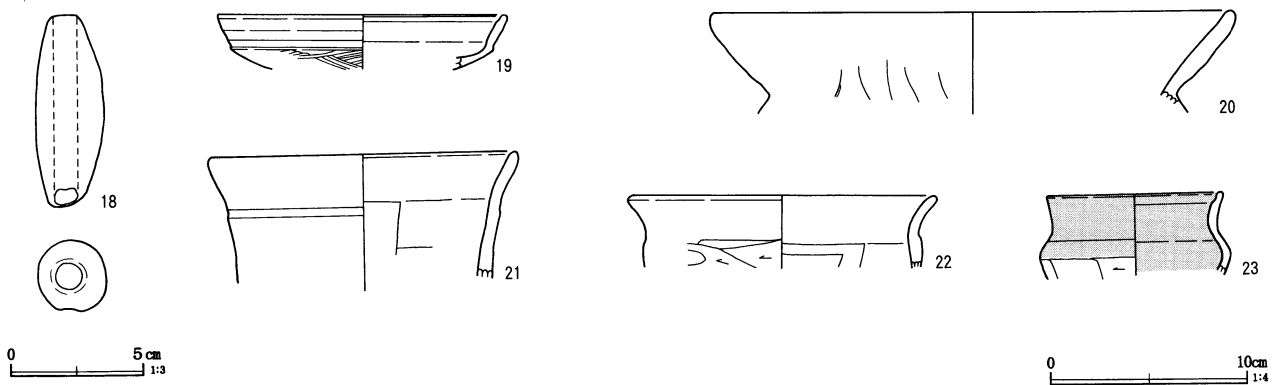
SD127



SD128



SD132



第353图 溝跡出土遺物 (66)

い溝跡である。

規模は、長さ5.3m、幅25cm、深さ6cmである。

出土遺物は土師器破片少量。

第120号溝跡

E-7グリッドに位置する。東西方向に伸びる短い溝跡を検出した。第109号溝跡の西側先端部分から分岐している。

規模は、長さ2.4m、幅25cm、深さ35cmである。遺物は検出されなかった。

第121号溝跡

G-12グリッドに位置する。南北方向に伸びる短い溝跡を検出した。第105号溝跡に繋がる。

規模は、長さ4.5m、幅45cm、深さ4cmである。

出土遺物は土師器破片を検出した。壺の底部外面には木葉痕が残る。このほか高杯を検出した。

第122号溝跡

C-7・8グリッドに位置する。南北方向に伸びる溝跡である。北側は第102号溝跡と重複する。南側は途切れ、東側の第100号溝跡との関連が考えられる。

規模は、長さ5.8m、幅30～35cm、深さ2～7cmである。

出土遺物は、模倣杯を検出した。

第123号溝跡

F-9・10グリッドに位置する。南北方向に伸びる溝跡である。北側は第59号溝跡と、南側は第42号住居跡と重複する。周囲には同じ規模、時期、方向の溝跡が多く検出された。

規模は、長さ5.3m、幅40cm、深さ25cmである。

出土遺物は、須恵器坏身を検出した。

第124号溝跡

F-9・10グリッドに位置する。南北方向に伸びる溝跡である。第123号溝跡と交叉する。北側は第59号溝跡と、南側は第4号竪穴状不明遺構と重複する。

規模は、長さ5.3m、幅30cm、深さ18cmである。

第125号溝跡

E-9・10グリッドに位置する。南北方向に伸びる溝跡である。北側は第4号溝跡と重複する。東側に第83号溝跡が位置する。

規模は、長さ7.7m、幅60cm、深さ12cmである。出土遺物は須恵器高台付碗を検出した。

第126号溝跡

F-12グリッドに位置する。東西方向の短い溝跡である。

規模は、長さ3.3m、幅75cm、深さ18cmである。

出土遺物は、土師器有段口縁杯、小型甕、鉢、甕、甑などである。

第127号溝跡

F・G-15グリッドに位置する。第2号溝跡のF-15グリッド辺りから分岐する。北西から南東方向に伸び、東側は調査区域外に伸びる。

規模は、長さ16m、幅156～200cm、深さ48～78cmである。

出土遺物は、在地産の鉢、常滑産の甕胴部の破片を検出した。

第128号溝跡

G-16・17グリッドに位置する。南北方向に伸びる溝跡である。周囲には同じ規模、時期、方向の溝跡が数条検出され重なり合う。

規模は、長さ23.2m、幅40～65cm、深さ16～21cmである。

出土遺物は、第353図11が底部外面へラ起こしの須恵器杯Gである。12は有段口縁杯、13は赤彩の杯である。14～17は時期的にやや古い遺物であり、混入品の可能性が考えられる。

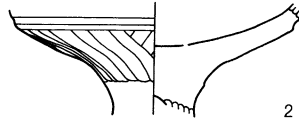
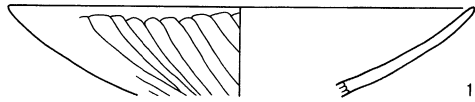
第129号溝跡 欠番

第130号溝跡

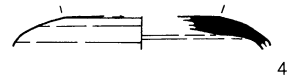
G-16・17グリッドに位置する。南北方向に伸びる。北側に検出した第118号溝跡に繋がるものと考えられる。また、第130・128・44号溝跡が平行して検出された。微妙に重複しながら調査区域外に伸びる。

規模は、長さ8.6m、幅80～100cm、深さ3～8cm

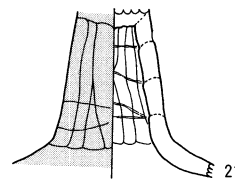
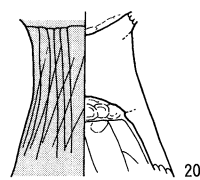
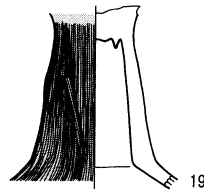
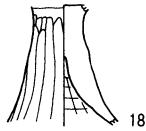
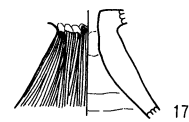
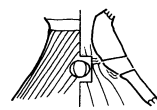
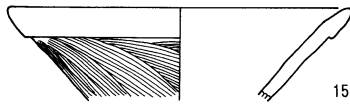
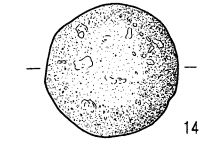
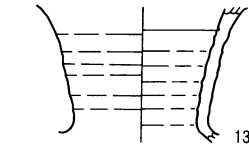
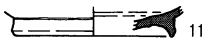
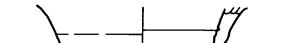
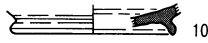
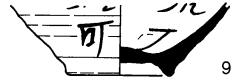
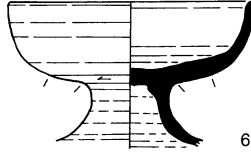
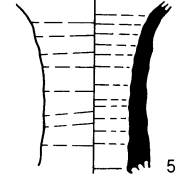
SD149



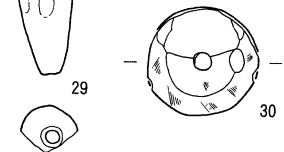
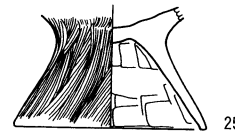
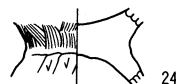
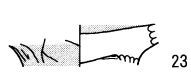
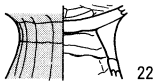
SD151



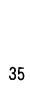
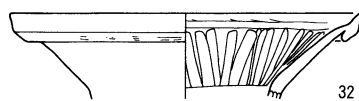
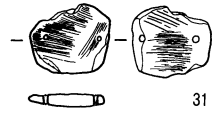
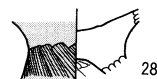
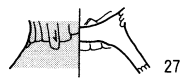
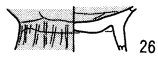
溝跡混入遺物



0 5 cm 1:3



0 5 cm 1:2



0 10 cm 1:4

第355图 溝跡出土遺物 (68)

坏を出土した。

第141号溝跡

G-16グリッドに位置する。北東から南西方向に伸びる溝跡を検出した。南側には第3号方形周溝墓が位置する。

規模は、長さ9.8m、幅45～50cm、深さ9～27cmである。

出土遺物はほとんど検出されなかった。

第142号溝跡

G-13グリッドに位置する。南北方向に伸びる溝跡である。南側は第155号土坑から北に伸び、第108号溝跡と重複する。本溝跡の西側にも同規模の第145号溝跡が走る。

規模は、長さ4.2m、幅35cm、深さ16cmである。

出土遺物は、古墳時代後期の土師器甕、甑、壺などである。

第143号溝跡

E-12グリッドに位置する。南北方向に伸びる溝跡を検出した。第2・4号溝跡に挟まれて検出された。本溝跡は北側に伸びる第97号溝跡と連続する溝跡と考えられる。

規模は、長さ5.8m、幅45～50cm、深さ12～15cmである。

出土遺物は須恵器甕の破片を検出した。

第144号溝跡

F-13・14グリッドに位置する。東西方向に伸びる非常に短い溝跡を検出した。溝跡中央付近で第150号溝跡と交叉するが、新旧関係は不明である。

規模は、長さ2.6m、幅30～50cm、深さ10～13cmである。

出土遺物は、古墳時代後期の土師器破片を少量検出した。

第145号溝跡

G-13グリッドに位置する。南北方向に伸びる溝跡を検出した。北側は第49号住居跡と重複関係にあるが新旧は不明である。南側は第108号溝跡と重なる。

規模は、長さ6m、幅46cm、深さ9cmである。

出土遺物は第354図24～26に示した。24・25は土師器甕である。26は比企型坏である。

第146号溝跡

G-12グリッドに位置する。南北方向に伸びる短い溝跡で、第145号溝跡の北側から枝状に伸びる。

規模は、長さ2.1m、幅48cm、深さ12cmである。

第147号溝跡

G-14グリッドに位置する。東西方向に伸びる短い溝跡を検出した。西側は第117号溝跡と重複するが新旧関係は不明である。

規模は、長さ2.2m、幅25cm、深さ5cmである。

第148号溝跡

C・D・E-12グリッドに位置する。ほぼ東西方向に直線的に伸びる幅広の溝跡である。本溝跡は中背の区画割りを示す大溝と考えられる。第1号溝跡と第4号北側溝跡と平行する。また、東側の第2・4号溝跡と直交する。覆土の堆積はいずれも近似し青灰色の粘土層を主体とする。底面付近に堆積する黒褐色土層から中世の遺物を少量検出した。

規模は、長さ24.5m、幅180～240cm、深さ50～71cmである。

出土遺物は、常滑の甕の破片、鉢を検出した。

第149号溝跡

F-18グリッドに位置する。南北方向に伸びる短い溝跡である。南側は調査区域外に伸びる。北側は第134号溝跡に切られる。

規模は、長さ6.1m、幅30～40cm、深さ13～18cmである。

出土遺物は、古墳時代前期の遺物で第355図の1～3である。1は高坏の口縁部破片である。2は脚部の破片である。

第150号溝跡

F-13・14グリッドに位置する。南北方向に伸びる非常に短い溝跡を検出した。溝跡中央付近で第144号溝跡と交叉するが、新旧関係は不明である。

規模は、長さ2.2m、幅40cm、深さ18cmである。

出土遺物は、土師器破片少量と古墳時代後期の高
 坏の破片を検出した。

第151号溝跡

F-17、G-17・18グリッドに位置する。北西から南東方向に伸びる直線的な溝跡を検出した。本溝跡の中央付近で第133号溝跡と交叉する。新旧関係は不明である。南側は調査区域外に伸びる。

規模は、長さ16m、幅20~30cm、深さ3~8cmである。

出土遺物は須恵器坏Hの坏蓋を検出した。

第152号溝跡

G-13・14グリッドに位置する。南北方向にわずかに湾曲して伸びる溝跡を検出した。本溝跡の北側には、第31号溝跡、南側には第111号溝跡と重複する。さらに南3mの位置に第21号溝跡が存在する。

規模は、長さ8.2m、幅20cm、深さ8~15cmである。

出土遺物はほとんど検出されなかった。

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
264 1	SD 3	須恵器	坏	11.8	3.9	5.9	ほぼ完形	雲角赤粒針	良好	灰白		42
264 2	SD 3	須恵器	坏	11.8	3.7	5.0	完形	雲角赤粒針	不良	にぶい橙		42
264 3	SD 3	須恵器	坏	12.1	3.7	5.4	完形	雲角針	普通	灰白		42
264 4	SD 3	須恵器	坏	11.8	3.7	5.8	完形	雲角赤粒針	不良	にぶい橙		42
264 5	SD 3	須恵器	坏	12.1	3.5	5.9	完形	雲角赤粒針	不良	にぶい黄橙		42
264 6	SD 3	須恵器	坏	11.7	3.3	5.8	完形	雲角赤粒針	不良	灰白		42
264 7	SD 3	須恵器	坏	11.7	3.8	5.0	完形	雲角赤粒針	普通	灰		42
264 8	SD 3	須恵器	坏	12.6	3.6	5.4	完形	雲角針	良好	灰		42
264 9	SD 3	須恵器	坏	12.2	3.8	5.5	完形	雲角赤粒針	不良	灰白		
264 10	SD 3	須恵器	坏	12.2	3.4	5.9	ほぼ完形	雲角針	良好	黒		42
264 11	SD 3	須恵器	坏	11.5	4.3	5.3	ほぼ完形	雲角針	不良	黒色		42
264 12	SD 3	須恵器	坏	11.4	3.9	5.6	完形	雲角針	良好	灰		43
264 13	SD 3	須恵器	坏	11.0	3.5	5.1	完形	雲角赤粒針	不良	灰白		43
264 14	SD 3	須恵器	坏	11.5	3.9	5.4	完形	雲片角赤粒	良好	灰		43
264 15	SD 3	須恵器	坏	12.3	3.9	4.9	2/3	雲角赤粒針	不良	灰白		
264 16	SD 3	須恵器	坏	12.5	3.4	5.2	2/3	雲角針	良好	黄灰		
264 17	SD 3	須恵器	坏	12.1	3.7	5.9	2/3	雲角赤粒針	不良	黒		
264 18	SD 3	須恵器	坏	12.9	4.1	5.2	2/3	雲角赤粒針	不良	にぶい黄橙		
264 19	SD 3	須恵器	坏	11.4	3.6	5.7	ほぼ完形	雲角赤粒針	不良	にぶい橙		
264 20	SD 3	須恵器	坏	12.3	3.7	5.5	完形	雲角赤粒針	不良	にぶい黄橙		43
264 21	SD 3	須恵器	坏	12.1	3.3	6.0	完形	雲角赤粒針	良好	灰白		43
264 22	SD 3	須恵器	坏	12.0	3.5	5.5	完形	雲角針	良好	灰		43
264 23	SD 3	須恵器	坏	12.4	3.5	5.6	完形	雲角針	良好	暗灰		43
264 24	SD 3	須恵器	坏	12.9	4.1	6.3	完形	雲角針	良好	灰		43
264 25	SD 3	須恵器	坏	12.0	4.0	5.5	完形	雲角赤粒針	不良	褐灰		43
264 26	SD 3	須恵器	坏	12.1	3.8	5.5	完形	雲角針	不良	灰白		43
264 27	SD 3	須恵器	坏	11.8	4.3	6.1	完形	雲角赤粒針	不良	にぶい黄橙		44
264 28	SD 3	須恵器	坏	11.5	3.6	5.5	完形	雲角赤粒針	普通	暗灰		44
265 29	SD 3	須恵器	坏	11.9	3.7	5.3	完形	雲角針	良好	灰白		44
265 30	SD 3	須恵器	坏	12.6	3.5	5.8	完形	雲角針	普通	灰		44
265 31	SD 3	須恵器	坏	11.5	3.9	5.5	完形	雲角赤粒針	不良	にぶい橙		44
265 32	SD 3	須恵器	坏	11.1	3.4	5.1	完形	雲角赤粒針	普通	明褐		44
265 33	SD 3	須恵器	坏	11.1	4.1	5.2	完形	雲角赤粒針	不良	褐灰		44
265 34	SD 3	須恵器	坏	11.9	3.5	5.4	完形	雲角針	普通	灰		44
265 35	SD 3	須恵器	坏	10.9	3.8	5.1	完形	雲角赤粒針	普通	にぶい黄橙		44

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版		
265	36	SD	3	須恵器	坏	11.3	4.1	5.8	完形	雲角赤粒針	普通	灰		44
265	37	SD	3	須恵器	坏	10.8	4.2	4.6	完形	雲角赤粒針	普通	にぶい黄橙		45
265	38	SD	3	須恵器	坏	(12.4)	3.9	(5.8)	1/4	雲角針	良好	暗灰褐		
265	39	SD	3	須恵器	坏	(12.5)	3.3	(5.8)	1/5	雲角針	不良	灰褐		
265	40	SD	3	須恵器	坏	11.9	3.4	5.8	完形	雲角赤粒針	不良	暗灰褐		
265	41	SD	3	須恵器	坏	(11.0)	3.3	(4.4)	1/4	雲角赤粒針	普通	暗灰褐		
265	42	SD	3	須恵器	坏	(11.9)	3.7	(5.0)	1/5	雲角針	普通	暗灰褐		
265	43	SD	3	須恵器	坏	(12.8)	3.9	(4.4)	1/3	雲角黒粒針	普通	灰		
265	44	SD	3	須恵器	坏	(13.0)	3.5	(5.4)	1/4	雲角針	普通	灰		
265	45	SD	3	須恵器	坏	10.8	3.2	4.6	2/3	雲角針	普通	灰褐		
265	46	SD	3	須恵器	坏	12.4	3.6	5.2	1/2	雲角赤粒針	普通	灰褐		
265	47	SD	3	須恵器	坏	(11.8)	4.0	4.9	1/2	雲角赤粒針	普通	灰褐		
265	48	SD	3	須恵器	坏	11.6	3.4	5.7	4/5	雲片角赤粒	普通	灰		
265	49	SD	3	須恵器	坏	12.1	3.5	6.4	1/2	雲角赤粒針	不良	灰褐		
265	50	SD	3	須恵器	坏	(12.0)	3.6	4.8	2/5	雲角赤粒針	良好	暗灰褐		
265	51	SD	3	須恵器	坏	(13.1)	3.3	5.4	1/2	雲角赤粒針	良好	暗灰褐		
265	52	SD	3	須恵器	坏	(13.0)	3.6	(6.3)	1/2	雲角赤粒針	普通	明灰		
265	53	SD	3	須恵器	坏	(11.5)	3.6	(5.2)	1/2	雲角赤粒	普通	暗灰褐		
265	54	SD	3	須恵器	坏	(12.9)	3.6	(6.1)	1/3	雲角赤粒針	不良	淡灰褐		
265	55	SD	3	須恵器	坏	(11.9)	4.3	(6.1)	1/3	雲角赤粒針	不良	灰褐		
265	56	SD	3	須恵器	坏	12.5	3.8	4.8	1/2	雲角赤粒針	不良	明褐		
266	57	SD	3	須恵器	坏	11.6	3.8	5.9	4/5	雲角針	普通	暗灰		
266	58	SD	3	須恵器	坏	12.7	3.8	5.7	4/5	雲角赤粒針	普通	明灰		
266	59	SD	3	須恵器	坏	12.0	3.7	5.5	ほぼ完形	雲片角赤粒	普通	灰		45
266	60	SD	3	須恵器	坏	12.0	3.5	4.5	4/5	雲角針	普通	暗灰		
266	61	SD	3	須恵器	坏	11.6	3.6	5.9	2/5	雲角赤粒	普通	黄灰褐		
266	62	SD	3	須恵器	坏	12.4	3.5	5.9	2/3	雲角針	普通	黒灰		
266	63	SD	3	須恵器	坏	11.6	4.3	5.2	3/4	雲角	普通	黒灰		
266	64	SD	3	須恵器	坏	11.4	3.4	5.6	3/5	雲角針	良好	灰白		
266	65	SD	3	須恵器	坏	12.6	4.0	5.6	4/5	雲角赤粒針	良好	灰白、褐灰		
266	66	SD	3	須恵器	坏	11.8	3.7	5.2	ほぼ完形	雲角針	良好	灰白		
266	67	SD	3	須恵器	坏	12.4	3.3	6.0	2/3	雲角赤粒針	普通	褐灰		
266	68	SD	3	須恵器	坏	12.4	3.8	5.8	3/4	雲角赤粒針	普通	にぶい橙		
266	69	SD	3	須恵器	坏	12.3	4.0	5.2	4/5	雲角赤粒針	普通	灰		
266	70	SD	3	須恵器	坏	(11.5)	3.6	(5.3)	1/2	雲角赤粒針	良好	黄灰		
266	71	SD	3	須恵器	坏	12.2	3.5	5.4	3/4	雲角針	普通	灰白		
266	72	SD	3	須恵器	坏	(11.6)	4.2	(6.2)	1/3	雲角赤粒針	普通	明褐灰色		
266	73	SD	3	須恵器	坏	(12.5)	4.0	(5.6)	1/4	雲角赤粒針	普通	にぶい黄橙		
266	74	SD	3	須恵器	坏	(11.8)	3.3	(6.2)	1/3	雲角赤粒針	普通	内灰白、外黒		
266	75	SD	3	須恵器	坏	(11.6)	3.3	5.6	2/3	雲角赤粒針	普通	にぶい黄橙		
266	76	SD	3	須恵器	坏	(10.6)	3.0	5.0	1/2	雲角赤粒針	普通	にぶい黄橙		
266	77	SD	3	須恵器	坏	10.6	3.7	4.8	2/3	雲角赤粒針	普通	灰黄		
266	78	SD	3	須恵器	坏	(12.4)	4.0	(6.2)	1/3	雲角赤粒針	普通	明褐灰		
266	79	SD	3	須恵器	坏	(11.5)	3.7	(5.3)	1/4	雲角赤粒針	良好	灰白		
266	80	SD	3	須恵器	坏	(10.6)	3.3	(4.4)	1/3	雲角赤粒針	普通	にぶい黄橙		
266	81	SD	3	須恵器	坏	(12.0)	3.9	(5.7)	1/2	雲角赤粒針	普通	灰		
266	82	SD	3	須恵器	坏	(11.8)	3.1	(5.4)	1/2	雲角赤粒針	普通	黄灰		
266	83	SD	3	須恵器	坏	(12.6)	4.2	6.2	1/2	雲角赤粒針	普通	灰黄		
266	84	SD	3	須恵器	坏	(12.0)	3.5	(4.9)	1/4	雲角赤粒針	普通	灰白		
267	85	SD	3	須恵器	坏	(11.4)	3.9	(4.8)	1/2	雲角赤粒針	普通	にぶい黄橙		

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
267 86	SD	3	須恵器	坏	11.7	3.7	5.5	ほぼ完形	雲片角	良好	灰色	墨書
267 87	SD	3	須恵器	坏	12.2	3.4	5.6	4/5	雲角赤粒針	普通	灰白	
267 88	SD	3	須恵器	坏	12.0	4.2	6.2	2/3	雲角赤粒針	不良	にぶい黄橙	
267 89	SD	3	須恵器	坏	(11.5)	3.2	(5.7)	1/2	雲角針	普通	灰白	
267 90	SD	3	須恵器	坏	11.7	4.0	5.4	3/4	雲角針	普通	褐灰	
267 91	SD	3	須恵器	坏	12.0	3.6	5.1	3/4	雲角針	普通	褐灰	
267 92	SD	3	須恵器	坏	12.2	3.9	5.1	ほぼ完形	雲角赤粒針	普通	灰白	
267 93	SD	3	須恵器	坏	12.6	3.8	5.2	3/4	雲角赤粒針	不良	にぶい黄橙	
267 94	SD	3	須恵器	坏	12.0	3.4	6.0	ほぼ完形	雲角赤粒針	不良	にぶい黄橙	
267 95	SD	3	須恵器	坏	(12.6)	3.6	(6.2)	1/2	雲角赤粒針	普通	明褐灰	
267 96	SD	3	須恵器	坏	(12.1)	3.3	(5.6)	1/4	雲角赤粒針	普通	灰	
267 97	SD	3	須恵器	坏	(11.8)	3.3	(5.2)	1/3	雲角赤粒針	普通	黄灰	
267 98	SD	3	須恵器	坏	(12.2)	3.1	(6.2)	1/3	雲角赤粒針	普通	灰白	
267 99	SD	3	須恵器	坏	(12.4)	3.6	(5.8)	1/3	雲角赤粒針	普通	灰黄	
267 100	SD	3	須恵器	坏	(12.0)	3.3	(5.8)	1/3	雲角赤粒針	不良	灰黄	
267 101	SD	3	須恵器	坏	(12.0)	4.0	(4.9)	1/3	雲角赤粒針	良好	灰白	
267 102	SD	3	須恵器	坏	(13.0)	3.5	(6.0)	1/3	雲角赤粒針	普通	灰白	
267 103	SD	3	須恵器	坏	(12.2)	3.4	(5.7)	1/3	雲角赤粒針	普通	灰黄	
267 104	SD	3	須恵器	坏	(12.2)	3.1	5.7	1/2	雲角赤粒針	普通	灰白	
267 105	SD	3	須恵器	坏	(11.8)	4.0	5.8	2/3	雲角赤粒針	不良	灰白	
267 106	SD	3	須恵器	坏	(11.4)	5.6	5.7	3/4	雲角赤粒針	普通	にぶい黄橙	
267 107	SD	3	須恵器	坏	(11.6)	3.6	5.7	2/3	雲角赤粒針	普通	灰	
267 108	SD	3	須恵器	坏	(11.8)	3.1	5.9	1/3	雲角赤粒針	普通	褐灰	
267 109	SD	3	須恵器	坏	12.0	3.4	5.5	2/3	雲角赤粒針	普通	褐灰	
267 110	SD	3	須恵器	坏	(11.8)	3.8	(5.8)	1/4	雲角赤粒針	良好	灰白	
267 111	SD	3	須恵器	坏	(11.6)	3.5	(5.8)	1/4	雲角赤粒針	不良	灰黄褐	
267 112	SD	3	須恵器	坏	(11.8)	3.5	(5.6)	1/3	雲角赤粒針	普通	明褐灰	
268 113	SD	3	須恵器	坏	(11.3)	3.9	(4.1)	1/4	雲角赤粒針	普通	灰褐	
268 114	SD	3	須恵器	坏	(12.0)	3.4	(4.9)	1/3	雲片角赤粒	普通	にぶい橙	
268 115	SD	3	須恵器	坏	(11.6)	3.1	4.0	2/3	雲角赤粒針	普通	褐黄灰	
268 116	SD	3	須恵器	坏	(12.2)	4.0	(6.0)	1/3	雲角赤粒針	普通	灰白	
268 117	SD	3	須恵器	坏	(12.0)	3.7	(5.6)	2/5	雲角赤粒針	普通	にぶい黄橙	
268 118	SD	3	須恵器	坏	(12.2)	3.2	(5.4)	1/3	雲角赤粒針	普通	褐灰	
268 119	SD	3	須恵器	坏	(11.8)	2.8	(6.2)	1/3	雲角赤粒針	普通	褐灰	
268 120	SD	3	須恵器	坏	(12.6)	3.9	(6.0)	1/3	雲片角	良好	灰	
268 121	SD	3	須恵器	坏	(11.8)	3.4	(5.0)	1/3	雲角赤粒針	普通	褐灰	
268 122	SD	3	須恵器	坏	(10.8)	2.9	(5.2)	1/2	雲角赤粒針	普通	にぶい黄	
268 123	SD	3	須恵器	坏	(11.4)	3.6	(5.6)	1/3	雲角赤粒針	普通	灰黄褐	
268 124	SD	3	須恵器	坏	(11.0)	3.5	(5.0)	1/3	雲角赤粒針	普通	灰白	
268 125	SD	3	須恵器	坏	(12.4)	3.9	(5.6)	1/3	雲角砂粒赤粒	普通	褐灰	
268 126	SD	3	須恵器	坏	(13.0)	3.7	(6.2)	1/4	雲角赤粒針	普通	褐灰	
268 127	SD	3	須恵器	坏	(12.1)	3.6	(5.8)	1/3	雲角針	普通	灰白	
268 128	SD	3	須恵器	坏	(12.1)	3.3	(5.7)	破片	雲角赤粒針	普通	褐灰	
268 129	SD	3	須恵器	坏	(10.6)	4.1	(5.2)	1/4	雲角赤粒針	普通	褐灰	
268 130	SD	3	須恵器	坏	(11.7)	3.6	5.8	2/3	雲角赤粒針	普通	灰白	
268 131	SD	3	須恵器	坏	(13.5)	3.9	(4.8)	1/4	雲角赤粒針	普通	黒褐	
268 132	SD	3	須恵器	坏	(12.8)	3.3	5.6	1/3	雲角赤粒針	不良	灰黄褐	
268 133	SD	3	須恵器	坏	(12.0)	3.6	5.4	1/2	雲角針	普通	灰白	
268 134	SD	3	須恵器	坏	(11.8)	3.5	(6.0)	1/2	雲角針	普通	灰白	
268 135	SD	3	須恵器	坏	(11.7)	3.5	4.5	2/3	雲角赤粒針	普通	暗灰	

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版	
268	136	SD	3	須恵器	坏	(12.1)	3.2	(4.8)	1/3	雲角赤粒	普通	灰白	
268	137	SD	3	須恵器	坏	(9.8)	3.4	(6.0)	1/3	雲角赤粒針	普通	灰白	
268	138	SD	3	須恵器	坏	(12.0)	[3.4]	(6.0)	1/5	雲角赤粒針	不良	にぶい黄橙	
268	139	SD	3	須恵器	坏	12.2	3.5	4.8	3/4	雲角赤粒針	普通	灰白	
268	140	SD	3	須恵器	坏	(11.8)	3.9	(5.4)	1/2	雲片角赤粒	普通	灰	
269	141	SD	3	須恵器	坏	(10.8)	3.7	5.4	1/2	雲角赤粒針	普通	灰黄褐	
269	142	SD	3	須恵器	坏	(12.8)	4.0	(5.2)	1/3	雲角赤粒針	普通	褐灰	
269	143	SD	3	須恵器	坏	12.0	3.4	5.3	3/4	雲角赤粒針	普通	にぶい黄橙	
269	144	SD	3	須恵器	坏	(11.2)	3.7	(5.0)	1/2	雲角赤粒針	普通	黒褐	
269	145	SD	3	須恵器	坏	(12.3)	4.1	(6.1)	1/4	雲角赤粒針	普通	灰	
269	146	SD	3	須恵器	坏	(11.6)	3.3	5.8	1/2	雲角赤粒針	普通	灰褐	
269	147	SD	3	須恵器	坏	(11.5)	3.7	(5.0)	1/2	雲片角赤粒	良好	灰	
269	148	SD	3	須恵器	坏	(11.3)	3.2	(5.6)	1/4	雲角赤粒針	普通	灰白	
269	149	SD	3	須恵器	坏	(12.6)	3.6	(7.0)	1/4	雲角赤粒針	普通	灰白	
269	150	SD	3	須恵器	坏	(11.6)	2.7	(6.0)	1/3	雲角赤粒針	普通	褐	
269	151	SD	3	須恵器	坏	(11.8)	3.3	(5.6)	1/2	雲角赤粒針	普通	明褐灰	
269	152	SD	3	須恵器	坏	(11.4)	3.5	(4.9)	2/5	雲角赤粒針	普通	暗灰褐	内面黒漆
269	153	SD	3	須恵器	坏	(13.2)	3.0	5.8	1/2	雲角赤粒針	不良	灰褐	
269	154	SD	3	須恵器	坏	(12.2)	3.4	6.0	1/2	雲角赤粒針	普通	明褐	
269	155	SD	3	須恵器	坏	(12.2)	3.5	4.7	3/5	雲角赤粒針	普通	灰	
269	156	SD	3	須恵器	坏		[1.8]	5.6	1/3	雲角赤粒針	普通	内暗灰、外灰	
269	157	SD	3	須恵器	坏	(11.8)	3.0	5.8	1/3	雲角赤粒針	普通	灰白	
269	158	SD	3	須恵器	坏		[3.4]	5.6	1/3	雲片角赤粒	普通	にぶい橙	
269	159	SD	3	須恵器	坏		[3.1]	5.8	1/4	雲角針	普通	灰	
269	160	SD	3	須恵器	坏	9.4	[2.2]	5.0	1/4	雲角赤粒針	普通	にぶい橙	
269	161	SD	3	須恵器	坏	(11.0)	3.6	4.8	1/2	雲角赤粒針	不良	黄灰	
269	162	SD	3	須恵器	坏	11.1	3.6	5.8	2/5	雲角赤粒針	良好	明褐	
269	163	SD	3	須恵器	坏	11.8	3.9	5.6	4/5	雲角赤粒針	普通	にぶい橙	
269	164	SD	3	須恵器	坏	(11.8)	4.0	(6.0)	2/5	雲角赤粒針	良好	明褐	
270	165	SD	3	須恵器	高台付壺	(13.4)	5.0	(6.6)	1/4	雲角赤粒針	普通	灰	
270	166	SD	3	須恵器	高台付壺	(13.4)	4.8	(6.8)	1/2	雲片角赤粒	普通	灰	
270	167	SD	3	須恵器	高台付壺	13.4	5.8	6.3	2/3	雲角赤粒針	普通	灰黄褐	46
270	168	SD	3	須恵器	高台付壺	(13.1)	5.0	6.9	1/4	雲角赤粒針	不良	にぶい黄橙	
270	169	SD	3	須恵器	高台付壺	13.5	4.9	6.7	3/4	雲角赤粒針	普通	灰白	
270	170	SD	3	須恵器	高台付壺	(14.6)	5.7	6.6	3/4	雲角赤粒針	普通	灰	
270	171	SD	3	須恵器	高台付壺	(13.8)	5.4	7.2	3/5	雲角赤粒針	普通	にぶい橙	45
270	172	SD	3	須恵器	高台付壺	(13.2)	5.3	6.8	1/2	雲片角赤粒	良好	灰	
270	173	SD	3	須恵器	高台付壺	13.7	5.0	7.4	3/4	雲片角赤粒	普通	灰、内暗灰	
270	174	SD	3	須恵器	高台付壺	13.8	5.1	7.3	2/3	雲片角赤粒	普通	灰	
270	175	SD	3	須恵器	高台付壺	12.7	4.6	6.4	1/2	雲角赤粒針	普通	にぶい橙	
270	176	SD	3	須恵器	高台付壺	(13.6)	4.9	6.6	1/3	雲角黒粒針	良好	灰	
270	177	SD	3	須恵器	高台付壺	12.8	4.8	6.8	ほぼ完形	雲角黒粒針	良好	灰	45
270	178	SD	3	須恵器	高台付壺	13.2	5.5	6.9	2/3	雲角赤粒針	普通	にぶい黄橙	45
270	179	SD	3	須恵器	高台付壺	(13.6)	5.1	7.2	1/2	雲片角赤粒	普通	内灰、外暗灰	
270	180	SD	3	須恵器	高台付壺	13.5	5.2	6.8	4/5	雲片角赤粒	普通	黒褐	45
270	181	SD	3	須恵器	高台付壺	(13.4)	4.9	6.7	1/2	雲片角黒粒	良好	灰	
270	182	SD	3	須恵器	高台付壺	(13.5)	5.2	5.8	1/2	雲角針	普通	灰黄	
270	183	SD	3	須恵器	高台付壺	(14.0)	4.9	6.1	1/3	雲角針	良好	灰白	
270	184	SD	3	須恵器	高台付壺	(12.8)	5.2	6.5	1/3	雲角赤粒針	普通	灰白	
270	185	SD	3	須恵器	高台付壺	14.6	5.8	6.7	完形	雲角赤粒針	不良	にぶい橙	45

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
270 186	SD 3	須恵器	坏	(13.9)	4.4	6.9	2/3	雲角赤粒針	普通	灰		
270 187	SD 3	須恵器	高台付埴	(14.0)	6.0	7.2	1/2	雲角赤粒針	普通	灰白		
270 188	SD 3	須恵器	高台付埴	(16.2)	5.2	(8.0)	1/4	雲角赤粒針	普通	黄橙		
271 189	SD 3	須恵器	高台付埴	15.2	6.2	8.6	1/2	雲角赤粒針	普通	灰黄	墨書	45
271 190	SD 3	須恵器	高台付埴	13.6	4.9	6.6	1/2	雲角黒粒針	普通	灰白		45
271 191	SD 3	須恵器	高台付埴	(13.1)	5.0	(7.0)	1/3	雲角黒粒針	普通	灰白		
271 192	SD 3	須恵器	高台付埴	12.8	5.3	(6.0)	1/2	雲片角赤粒	良好	褐灰		
271 193	SD 3	須恵器	高台付埴	(12.5)	4.9	(6.9)	1/3	雲片角赤粒	普通	灰黄		
271 194	SD 3	須恵器	高台付埴	(13.4)	4.6	(6.9)	1/3	雲角赤粒針	普通	灰		
271 195	SD 3	須恵器	高台付埴	(13.9)	4.8	6.9	1/3	雲角赤粒針	普通	灰黄		
271 196	SD 3	須恵器	高台付埴	(13.4)	5.1	(7.2)	1/4	雲角赤粒	普通	灰白		
271 197	SD 3	須恵器	高台付埴	(13.4)	5.1	(7.2)	1/5	雲角針	普通	灰白		
271 198	SD 3	須恵器	高台付埴	(13.7)	[4.5]		1/4	雲角赤粒針	不良	灰黄褐		
271 199	SD 3	須恵器	高台付埴	(13.5)	5.0	(7.2)	1/2	雲角赤粒針	良好	灰白		
271 200	SD 3	須恵器	高台付埴	(13.8)	5.0		1/2	雲角赤粒針	不良	褐灰		
271 201	SD 3	須恵器	高台付埴	(14.1)	5.2	(6.5)	1/5	雲片角赤粒	普通	灰		
271 202	SD 3	須恵器	高台付埴	(12.4)	4.8	(7.1)	破片	雲角黒粒	普通	灰		
271 203	SD 3	須恵器	高台付埴		[4.8]	(6.2)	1/5	雲角赤粒針	普通	灰		
271 204	SD 3	内黒土器	高台付埴		[3.2]		破片	雲角赤粒針	不良	にぶい黄橙		
271 205	SD 3	須恵器	高台付埴		[3.1]	(6.8)	1/4	雲角赤粒針	普通	灰白		
271 206	SD 3	須恵器	高台付埴		[2.2]	6.8	底部のみ	雲角赤粒針	普通	灰		
271 207	SD 3	須恵器	高台付埴		[2.9]	6.3	1/4	雲角赤粒針	普通	内暗灰、外灰		
271 208	SD 3	須恵器	足高高台埴		[2.8]	8.5	底部のみ	雲角砂粒赤粒	普通	灰黄褐		
271 209	SD 3	須恵器	足高高台埴		[2.8]	7.8	底部のみ	雲角赤粒針	普通	灰黄		
271 210	SD 3	須恵器	足高高台埴		[2.9]	7.2	底部のみ	雲角赤粒針	普通	灰黄		
271 211	SD 3	須恵器	足高高台埴		[3.3]	8.5	底部のみ	雲角黒粒針	普通	灰		
271 212	SD 3	須恵器	足高高台埴		[3.2]	7.9	底部のみ	雲角赤粒針	良好	灰白		
271 213	SD 3	須恵器	足高高台埴		[2.6]	6.6	底部のみ	雲角赤粒針	普通	黄灰		
271 214	SD 3	須恵器	高台付埴		[3.1]	6.4	1/3	雲角赤粒針	普通	灰		
271 215	SD 3	須恵器	高台付埴		[2.7]	6.8	1/4	雲角赤粒針	不良	にぶい黄橙		
272 216	SD 3	須恵器	高台付埴		[1.7]		1/5	雲角赤粒針	不良	にぶい黄橙	ヘラ記号	
272 217	SD 3	須恵器	高台付埴		[3.1]	6.7	底部のみ	雲角黒粒	普通	灰		
272 218	SD 3	須恵器	高台付埴		[3.8]	7.2	1/2	雲角赤粒針	普通	灰		
272 219	SD 3	須恵器	高台付埴		[2.9]	7.0	1/3	雲角赤粒針	良好	黒灰		
272 220	SD 3	須恵器	高台付埴		[4.0]	(6.5)	1/4	雲角赤粒	普通	灰白		
272 221	SD 3	須恵器	高台付埴		[3.9]	6.0	1/4	雲角針	普通	灰白		
272 222	SD 3	須恵器	高台付埴		[3.4]	(6.3)	1/3	雲角赤粒針	普通	灰		
272 223	SD 3	須恵器	足高高台埴		[3.8]	8.8	1/4	雲角赤粒	普通	黒		
272 224	SD 3	須恵器	高台付埴	(12.2)	7.2	7.6	1/2	雲角赤粒	普通	橙褐		45
272 225	SD 3	須恵器	足高高台埴	14.0	5.9	7.7	4/5	雲角赤粒針	普通	灰白		46
272 226	SD 3	須恵器	高台付埴	(13.0)	5.0	7.0	1/3	雲片角赤粒	不良	橙		
272 227	SD 3	須恵器	高台付埴	(13.0)	[4.4]		1/3	雲角赤粒針	不良	にぶい黄橙		
272 228	SD 3	須恵器	高台付埴	(13.1)	5.2	6.6	1/2	雲片角赤粒	不良	にぶい橙		
272 229	SD 3	須恵器	足高高台埴	13.6	6.0	8.2	完形	雲角赤粒針	普通	にぶい橙		46
272 230	SD 3	須恵器	高台付埴	14.2	6.1	7.6	完形	雲角赤粒針	普通	黄灰		46
272 231	SD 3	須恵器	足高高台埴	15.2	[6.2]		2/3	雲角赤粒針	普通	黄灰	漆付着	46
272 232	SD 3	内黒土器	高台付埴	15.2	5.9	7.0	2/3	雲角赤粒針	良好	にぶい黄橙		46
272 233	SD 3	内黒土器	高台付埴	(14.4)	6.1	(6.6)	1/3	雲角赤粒針	良好	にぶい橙		
272 234	SD 3	内黒土器	高台付埴	(13.8)	5.4	(6.8)	1/3	雲角赤粒針	普通	にぶい橙		46
272 235	SD 3	内黒土器	高台付埴		[5.3]	(7.6)	1/2	雲角赤粒針	普通	にぶい橙		46

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版		
272	236	SD	3	内黒土器	高台付埴	14.0	5.5		ほぼ完形	雲角赤粒針	不良	にぶい橙		46
272	237	SD	3	内黒土器	高台付埴	(10.8)	[4.5]		1/3	雲角赤粒針	普通	にぶい橙		
272	238	SD	3	須恵器	足高高台埴		[3.7]	7.9	底部のみ	雲角赤粒針	普通	にぶい黄橙		
272	239	SD	3	須恵器	足高高台埴		2.4	7.8	底部のみ	雲角赤粒針	普通	にぶい橙		
273	240	SD	3	須恵器	耳皿	12.2	3.5	5.9	2/3	雲角針	普通	灰		
273	241	SD	3	須恵器	耳皿	(10.6)	2.0	(6.0)	1/3	雲角赤粒針	不良	暗灰黄		
273	242	SD	3	須恵器	高台付皿	(13.0)	[2.1]		破片	雲角赤粒針	不良	にぶい黄橙		
273	243	SD	3	内黒土器	高台付埴		[4.5]		破片	雲角砂粒赤粒	普通	内黒、外暗褐		
273	244	SD	3	須恵器	坏				破片	雲角針	普通		へラ記号	
273	245	SD	3	須恵器	高台付埴				1/5	雲角針	普通	内灰白、外灰		
273	246	SD	3	須恵器	高台付埴		[1.3]	(4.2)	破片	雲片赤粒白粒	普通	黒褐		
273	247	SD	3	須恵器	高台付埴		[1.3]	(4.2)	破片	雲赤粒白粒	普通	黒褐		
273	248	SD	3	須恵器	長頸壺	9.8	[5.3]		破片	白粒	良好	灰	自然釉	
273	249	SD	3	須恵器	短頸壺		[5.7]		破片	長石	良好	灰		
273	250	SD	3	須恵器	紡錘車	径6.8	孔0.5		完形	雲角赤粒針			転用紡錘車	95
273	251	SD	3	石製品	紡錘車	厚1.4	上3.0	頭2.3	2/3					47
273	252	SD	3	須恵器	甕				破片	白粒	良好	灰	自然釉	98
273	253	SD	3	須恵器	甕				破片	白粒 黒粒	良好	灰		98
273	254	SD	3	須恵器	甕				破片	雲 黒粒	良好	灰		98
273	255	SD	3	土師器	坏	13.2	3.7	5.3	2/3	雲片角砂粒	普通	黒		47
273	256	SD	3	土師器	坏	11.3	3.8	4.6	2/3	雲石英砂粒赤粒	普通	にぶい橙		47
273	257	SD	3	土師器	坏	(11.8)	[4.2]		破片	雲角砂粒黒粒	良好	灰		
273	258	SD	3	土師器	坏	(11.8)	[2.3]		破片	雲片角	普通	灰褐	漆付着	
273	259	SD	3	土師器	羽釜	(23.8)	[6.6]		破片	雲角赤粒針	普通	にぶい橙		
273	260	SD	3	土師器	蓋				つまみ	角砂粒赤粒	普通	黒褐		
274	261	SD	3	緑釉陶器	香炉	(13.7)	[6.6]	(15.6)	破片	白粒	良好	緑灰	猿投	63
274	262	SD	3	緑釉陶器	皿	(12.8)	2.5	(6.9)	1/3	白粒	良好	灰 釉オリブ灰	猿投	47
274	263	SD	3	緑釉陶器	輪花皿	(13.4)	[2.9]	(7.3)	1/4	白粒	良好	灰 釉オリブ灰	尾北	87
274	264	SD	3	緑釉陶器	皿	(12.9)	[1.7]		破片	白粒	良好	灰 釉オリブ灰	猿投	88
274	265	SD	3	緑釉陶器	椀	(13.9)	[4.2]		1/5	白粒 黒粒	良好	灰 釉オリブ灰	猿投	88
274	266	SD	3	緑釉陶器	輪花埴	(16.0)	[4.4]		破片	白粒	良好	灰 釉オリブ灰	東濃	88
274	267	SD	3	緑釉陶器	椀	(17.0)	[1.2]		破片	黒粒	良好	灰 釉明赤褐	二次被熱 猿投	88
274	268	SD	3	緑釉陶器	椀	(15.8)	[3.3]		破片	赤粒	普通	にぶい橙 釉オリブ	猿投	88
274	269	SD	3	緑釉陶器	椀	(14.9)	[3.5]		1/5	白粒	良好	灰 釉オリブ灰	尾北	88
274	270	SD	3	緑釉陶器	皿				破片	黒粒	普通	灰 釉オリブ灰	尾北	
274	271	SD	3	緑釉陶器	耳皿				破片	黒粒	良好	灰 釉オリブ灰	猿投	88
274	272	SD	3	緑釉陶器	段皿				破片	白粒	普通	灰白	猿投	88
274	273	SD	3	緑釉陶器	唾壺	(19.8)	[3.1]		破片	白粒	良好	灰 釉オリブ灰	猿投	88
274	274	SD	3	緑釉陶器	輪花埴				破片	白粒	良好	灰 釉オリブ灰	猿投	88
274	275	SD	3	緑釉陶器	輪花皿				破片	黒粒	普通	灰 釉オリブ灰	トチン跡 猿投	88
274	276	SD	3	緑釉陶器	埴		[2.2]	(6.7)	破片	黒粒	良好	灰 釉オリブ灰	尾北	87
274	277	SD	3	緑釉陶器	埴		[3.5]	(7.0)	破片	白粒	良好	灰 釉オリブ灰	尾北	87
274	278	SD	3	緑釉陶器	埴		[1.8]		破片	白粒	良好	灰 釉オリブ灰	トチン跡 東濃	87
274	279	SD	3	緑釉陶器	埴か				破片	白粒	良好	灰黄褐 釉オリブ灰	緑彩文か 猿投	88
274	280	SD	3	緑釉陶器	埴		[1.9]	(8.2)	破片	白粒	良好	灰 釉オリブ灰	圏線 猿投	87
274	281	SD	3	緑釉陶器	皿		[1.8]	7.1	1/3	黒粒	良好	灰 釉オリブ灰	圏線 猿投	87
274	282	SD	3	緑釉陶器	埴		[2.6]	(8.3)	1/5	白粒 黒粒	良好	灰 釉オリブ灰	トチン跡 猿投	87
274	283	SD	3	緑釉陶器	埴		[2.2]	(9.4)	破片	白粒	良好	灰 釉灰白	二次被熱 猿投	87
274	284	SD	3	灰釉陶器	段皿		[2.9]	(12.0)	破片	白粒 黒粒	普通	灰白	ハケ塗 東遠江	91
274	285	SD	3	灰釉陶器	埴	(14.0)	[2.6]		破片	長石 石英 黒粒	良好	灰白	漬け掛け 浜北	91

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
274 286	SD 3	灰釉陶器	埴	(12.9)	[2.2]		破片	白粒 黒粒	良好	灰白	漬け掛け 東濃	91
274 287	SD 3	灰釉陶器	埴		[2.1]	(7.7)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	漬け掛け 浜北	91
274 288	SD 3	灰釉陶器	埴		[2.2]	(7.9)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	東遠江	91
274 289	SD 3	灰釉陶器	埴		[2.4]	(7.5)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	漬け掛け 東遠江	91
274 290	SD 3	灰釉陶器	埴		[1.1]	7.2	底部完存	白粒 黒粒	良好	灰白	浜北	91
274 291	SD 3	灰釉陶器	埴	(12.3)	[2.6]		破片	白粒 黒粒	良好	灰白	漬け掛け 東濃	91
274 292	SD 3	灰釉陶器	埴		[4.3]		破片	白粒 黒粒	良好	灰白	漬け掛け 東遠江	91
274 293	SD 3	灰釉陶器	埴	(23.8)	[3.6]		破片	砂粒	良好	灰	漬け掛け 東濃	91
274 294	SD 3	灰釉陶器	長頸壺		[5.6]	(14.4)	破片	砂粒	普通	灰	ハケ塗り 東遠江	91
274 295	SD 3	灰釉陶器	長頸壺	(9.8)	[1.1]		破片	白粒 黒粒	良好	灰白	ハケ塗り 東濃	91
274 296	SD 3	灰釉陶器	小瓶	(4.2)	[1.4]		破片	白粒 黒粒	良好	灰	ハケ塗り 東濃	91
275 297	SD 3	鉄製品	鉄釘	断0.7	長9.7	頭1.5						94
275 298	SD 3	鉄製品	鉄釘	断0.6	長10.8	頭0.9						
275 299	SD 3	鉄製品	鉄釘	断0.5	長[5.0]	頭0.5						94
275 300	SD 3	鉄製品	鉄釘	断0.6	長[4.4]	頭0.6						
275 301	SD 3	鉄製品	鉄釘	断0.6	長[5.1]	頭0.6						
275 302	SD 3	土製品	土錘	幅3.6	長7.9	孔1.2	完形	雲 赤粒 白粒	普通	黄灰～灰		97
275 303	SD 3	鉄滓	碗形滓	幅6.7	長5.3	厚2.1						94
275 304	SD 3	鉄滓	碗形滓	幅6.8	長5.1	厚2.3						94
275 305	SD 3	鉄滓	碗形滓	幅6.5	長4.7	厚2.5					D-15g	94
275 306	SD 3	鉄滓	碗形滓	幅5.6	長4.8	厚2.1						94
275 307	SD 3	鉄滓	碗形滓	幅5.0	長3.3	厚2.1						94
275 308	SD 3	鉄滓	碗形滓	幅4.6	長2.4	厚1.9						94
275 309	SD 3	石	貝巢穴岩	幅3.0	長3.9							
275 310	SD 3	土製品	羽口	幅5.4	長6.0	厚2.6					D-15g	94
275 311	SD 3	土製品	羽口	幅6.1	長7.6	孔2.1					No284	94
276 1	SD 2	在地	鉢	(29.0)	[9.0]		破片	長石 赤粒 白粒	普通	灰白		100
276 2	SD 2	常滑	甕				破片	長石 白粒	良好			100
276 3	SD 2	在地	壺	(23.0)	[5.8]		破片	白粒 黒粒	普通	灰白		100
276 4	SD 2	渥美	甕	48.0	[5.1]		破片	白粒 礫	良好	褐灰		100
276 5	SD 4	在地	片口鉢	(40.2)	[6.2]		破片	雲 砂粒 黒粒	普通	褐灰		
276 6	SD 4	在地	片口鉢	(30.2)	10.9	(11.4)	1/5	雲 角 赤粒 白粒	普通	黒	すす付着	100
276 7	SD 4	在地	片口鉢	(30.6)	[6.9]		破片	雲 角 赤粒 白粒	良好	にぶい褐		
276 8	SD 4	陶器	内耳鍋	(30.0)	[13.8]		1/5	長石 黒粒	普通	黒灰	すす付着	100
276 9	SD 4	青磁	埴		[1.8]	(6.0)	破片	黒粒	良好	灰白		
276 10	SD 4	常滑	甕				破片	赤粒 白粒	良好	明褐		
276 11	SD 4	陶器	長頸瓶		[4.4]	(14.0)	底部破片	赤粒 白粒	良好	灰		
276 12	SD 4	石製品	砥石	幅2.8	長7.0	厚2.9						99
276 13	SD 4	石製品	砥石	幅3.3	長6.1	厚1.5						99
276 14	SD 4	石製品	砥石	幅1.5	長4.0	厚1.6						99
276 15	SD 4	古銭	元豐通宝								1078年	100
277 1	SD 5	須恵器	甕	(41.0)	[7.9]		破片	雲 長石 砂粒	良好	灰	末野	98
277 2	SD 5	須恵器	甕				破片	砂粒 白粒	良好	灰	末野	
277 3	SD 5	須恵器	甕				破片	雲 砂粒 礫	良好	黒	末野 自然釉	98
277 4	SD 5	須恵器	坏	(12.8)	[3.2]		破片	雲 赤粒 白粒 針	普通	にぶい橙	南比企	
277 5	SD 5	須恵器	高台付埴		[2.3]	(6.6)	1/5	雲 角 黒粒 針	普通	灰黄褐	南比企	
277 6	SD 5	灰釉陶器	埴		[1.4]	(6.6)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	漬け掛け 東遠江	91
277 7	SD 6	土師器	甕	(20.0)	[3.6]		破片	雲 石英 白粒 礫	普通	にぶい橙		
277 8	SD 7	須恵器	坏	11.2	3.6	5.6	3/4	雲 長石 赤粒	普通	橙	土師質	47
277 9	SD 7	須恵器	坏	11.0	3.9	6.0	1/2	雲 長石 砂粒 赤粒	普通	にぶい橙	土師質	

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版	
277	10	SD	7	須恵器	高台付壺		[2.8]	6.4	底部のみ	雲 角 赤粒 黒粒	普通	灰黄褐	
277	11	SD	7	須恵器	坏		[1.2]	5.5	底部のみ	雲 赤粒 黒粒 針	普通	灰黄	
277	12	SD	7	土師器	坏	(10.7)	2.8	(7.2)	破片	角 白粒	普通	にぶい黄橙	
277	13	SD	7	須恵器	高台付壺	11.9	[3.8]		破片	雲 角 白粒	普通	灰	末野
277	14	SD	7	須恵器	甕		[14.2]		破片	長石 石英 白粒	良好	灰	末野
277	15	SD	7	土師器	坏	(12.0)	[3.1]		破片	雲 砂粒	良好	橙	内面線刻
277	16	SD	7	須恵器	坏	(11.5)	[3.6]		破片	雲 角 白粒	不良	にぶい橙	土師質
277	17	SD	9	須恵器	坏蓋	(9.8)	[3.1]		破片	雲 白粒	良好	灰	胎土緻密
277	18	SD	9	土師器	坏	(10.9)	[2.5]		破片	白粒	普通	にぶい橙	
277	19	SD	9	土師器	坏	(14.0)	[2.6]		破片	雲 角 白粒	不良	にぶい黄橙	
277	20	SD	9	土師器	鉢	(8.9)	[2.6]		破片	雲 白粒	普通	橙	
278	1	SD	11	須恵器	壺	(7.6)	[6.4]		口縁破片	雲 角 石英 赤粒	普通	にぶい橙	末野
278	2	SD	11	土師器	壺				破片	石英 砂粒 赤粒	普通	にぶい橙	
278	3	SD	13	土師器	小型甕	(14.0)	[2.3]		破片	雲 砂粒	普通	褐	
278	4	SD	13	土師器	甕	(18.3)	[3.8]		破片	雲 砂粒	普通	褐	
278	5	SD	13	土製品	土錘	幅2.8 長8.4 孔0.8		ほぼ完形	雲	普通	明赤褐		
278	6	SD	14	須恵器	坏	(11.8)	3.9	(5.3)	1/2	雲 角 砂粒 赤粒	不良	にぶい赤褐	土師質
278	7	SD	14	緑釉陶器	皿	(13.7)	[1.4]		破片	白粒	良好	黄灰	オリブ灰 猿投
278	8	SD	14	金属製品	刀装具	幅(3.5) 長5 厚1.4							
278	9	SD	15	土師器	高坏	(16.7)	[6.0]		1/2	雲 角 白粒	良好	にぶい橙	
278	10	SD	15	土師器	甕	12.2	[3.6]		破片	雲 角 石英 砂粒	普通	にぶい褐	
278	11	SD	16	土師器	坏	(12.0)	[2.8]		破片	雲 角 白粒	普通	明赤褐	C-11 g
278	12	SD	16	土師器	坏	(10.6)	[2.7]		破片	雲 角 長石 赤粒 礫	普通	暗赤褐	D-13 g
278	13	SD	16	土師器	坏	(11.6)	[2.6]		破片	雲 角 白粒	普通	明赤褐	D-13 g
278	14	SD	16	土師器	坏				破片	角 白粒	普通	橙	
278	15	SD	16	須恵器	坏蓋	(13.2)	[3.0]		破片	白粒	普通	灰褐	
278	16	SD	16	土師器	台付甕		[6.0]	(9.8)	1/5	雲 角 白粒 礫	普通	にぶい黄橙	
278	17	SD	16	土師器	台付甕		[3.5]	(7.3)	1/5	雲 赤粒 白粒	普通	黒褐	
278	18	SD	16	土師器	手づくね		[3.3]	4.0	1/3	雲 赤粒 礫	普通	灰白	黒斑あり
278	19	SD	16	土器	カワラケ	(8.2)	1.2	(6.1)	1/2	雲 赤粒	普通	にぶい黄橙	
279	1	SD	18	土師器	鉢	(9.7)	[6.0]		1/5	雲 角 石英 赤粒	普通	にぶい橙	
279	2	SD	18	土師器	鉢	10.0	[4.2]		1/4	雲 角 石英 赤粒	普通	黒褐	
279	3	SD	18	土師器	鉢	(19.8)	[3.9]		1/4	石英 砂粒	普通	赤橙	
279	4	SD	18	土師器	小型甕	(14.0)	4.3		破片	砂粒	普通	明褐	
279	5	SD	18	土師器	小型甕	8.7	[7.5]		2/3	角 石英 砂粒	良好	にぶい黄橙	75
279	6	SD	18	土師器	小型甕	(8.3)	[6.2]		1/5	石英 白粒 礫	良好	にぶい黄橙	
279	7	SD	18	土師器	甕	(13.0)	[4.3]		破片	砂粒 赤粒	普通	褐	
279	8	SD	18	土師器	甕	(12.0)	[2.9]		破片	雲 長石 赤粒	普通	にぶい黄橙	
279	9	SD	18	土師器	甕	13.8	[15.6]		2/3	雲 角 赤粒 白粒 礫	普通	橙	75
279	10	SD	18	土師器	甕	(15.3)	[13.2]		3/4	砂粒 赤粒	良好	橙	75
279	11	SD	18	土師器	甕	(15.7)	[9.3]		1/4	角 石英	普通	橙	
279	12	SD	18	土師器	甕		[14.5]		破片	雲 角 石英 赤粒	普通	暗茶褐	
279	13	SD	18	土師器	甕	(21.6)	[4.2]		破片	雲 角 石英 赤粒	普通	にぶい黄橙	
279	14	SD	18	土師器	甕	(16.2)	[6.0]		破片	角 石英	普通	暗茶褐	
279	15	SD	18	土師器	甕	(14.7)	[2.7]		破片	雲 石英 赤粒	普通	にぶい黄橙・赤	赤彩
279	16	SD	18	土師器	甕	12.5	[6.2]		口縁完存	砂粒 赤粒	普通	にぶい黄橙	75
279	17	SD	18	土師器	甕	(13.2)	[4.9]		破片	長石 赤粒 礫	良好	にぶい黄橙	
279	18	SD	18	土師器	甕	(15.0)	[4.0]		破片	雲	普通	灰褐	
279	19	SD	18	土師器	台付甕	(14.0)	[4.7]		破片	石英	良好	赤橙	
279	20	SD	18	土師器	台付甕	(16.7)	[4.7]		破片	雲 角 石英 砂粒	普通	にぶい黄橙	

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
279 21	SD 18	土師器	甕		[3.3]		破片	雲 角 石英	良好	橙		
279 22	SD 18	土師器	甕	(14.3)	[4.8]		破片	角 赤粒 針	普通	にぶい橙		
279 23	SD 18	土師器	台付甕	(14.0)	4.3		破片	砂粒	普通	明褐		
279 24	SD 18	土師器	甕	(16.6)	[4.0]		破片	雲 角 赤粒	普通	にぶい黄橙		
279 25	SD 18	土師器	甕	(15.8)	[4.5]		破片	雲 石英 赤粒	普通	にぶい橙		
279 26	SD 18	土師器	甕	(16.4)	[6.3]		破片	角 赤粒 礫	普通	にぶい褐		
279 27	SD 18	土師器	甕	(19.5)	[5.0]		破片	雲 角 石英 赤粒	普通	にぶい橙		
279 28	SD 18	土師器	高坏	(15.7)	[4.5]		破片	石英 砂粒 赤粒	良好	にぶい橙		
280 29	SD 18	土師器	高坏	21.7	12.7	12.3	4/5	角 石英 赤粒 礫	良好	にぶい黄橙	三方透	75
280 30	SD 18	土師器	特殊器台		[3.6]		破片	石英 赤粒 礫 軽石	良好	橙	四方透	
280 31	SD 18	土師器	特殊器台	(19.8)	[3.9]		1/4	石英 砂粒	普通	赤橙		
280 32	SD 18	土師器	特殊器台		[3.9]		破片	砂粒 赤粒	良好	褐灰		
280 33	SD 18	土師器	特殊器台		[3.4]		破片	雲 砂粒	普通	黄褐		
280 34	SD 18	土師器	器台		[1.7]		破片	片 角 石英 赤粒	普通	橙		
280 35	SD 18	土師器	器台		[7.7]		1/3	雲 角 石英 赤粒	普通	にぶい黄橙	三方透	75
280 36	SD 18	土師器	器台		[6.7]		脚部のみ	雲 砂粒	普通	褐	三方透	76
280 37	SD 18	土師器	器台		[5.5]		1/2	雲 片 石英	普通	橙	四方透	76
280 38	SD 18	土師器	台付甕		[5.1]		破片	石英 砂粒 赤粒	普通	橙		
280 39	SD 18	土師器	台付甕		[4.5]		破片	角 石英 赤粒	普通	にぶい橙		
280 40	SD 18	土師器	器台		[8.3]	(10.9)	1/5	雲 石英 礫	普通	にぶい橙		
280 41	SD 18	土師器	台付甕		[3.2]	6.4	台部完存	雲 角 石英	普通	灰黄褐		
280 42	SD 18	土師器	台付甕		[4.3]		脚部のみ	砂粒 赤粒	普通	赤褐		
280 43	SD 18	土師器	台付甕		[4.6]		破片	雲 石英 赤粒	普通	灰黄褐		
280 44	SD 18	土師器	台付甕		[3.8]		破片	片 石英 赤粒	普通	にぶい橙		
280 45	SD 18	土師器	台付甕		[4.6]		台部完存	角 石英 砂粒	良好	黄灰		
280 46	SD 18	土師器	台付甕		[5.3]	9.0	破片	赤粒	普通	褐		
280 47	SD 18	土師器	台付甕		[4.9]	(7.3)	破片	石英 砂粒 赤粒	良好	にぶい橙		
280 48	SD 18	土師器	台付甕		[4.2]		破片	石英 白粒	普通	にぶい褐		
280 49	SD 18	土師器	台付甕		[7.6]		破片	雲 石英 砂粒 赤粒	普通	にぶい橙		
280 50	SD 18	土師器	台付甕		[5.0]		破片	雲 角 赤粒 礫	普通	にぶい黄橙		
280 51	SD 18	土師器	台付甕		[4.1]		台部完存	雲 角 石英 赤粒	普通	明赤褐		
280 52	SD 18	土師器	台付甕		[6.2]	9.1	台部完存	雲 角 石英 赤粒	良好	にぶい橙		76
280 53	SD 18	土師器	台付甕		[5.9]	(8.4)	破片	角 石英 砂粒	普通	にぶい黄橙		
280 54	SD 18	土師器	壺		[2.8]	5.0	底部完存	角 石英 白粒	普通	橙	赤彩	
280 55	SD 18	土師器	壺		[2.9]	(6.8)	破片	雲 石英 赤粒 礫	良好	にぶい黄橙		
280 56	SD 18	土師器	壺		[2.5]	10.0	破片	片 石英 赤粒	普通	にぶい褐		
280 57	SD 18	土師器	壺		[2.6]	(11.8)	破片	片 石英 赤粒	普通	にぶい黄橙		
280 58	SD 18	土師器	壺		3.0	5.5	底部完存	雲 角 石英 赤粒	普通	にぶい橙		
280 59	SD 18	土師器	壺		[5.5]	6.9	底部のみ	雲 砂粒	普通	褐		
280 60	SD 18	土師器	壺		[23.4]		4/5	雲 砂粒	良好	にぶい橙		76
278 20	SD 19	土師器	甕	(13.0)	[1.8]		破片	雲 砂粒	普通	褐	[S]字状口縁	
278 21	SD 19	土師器	甕	(18.0)	[2.1]		破片	角 赤粒	普通	褐		
278 22	SD 19	土師器	甕	(13.6)	[2.5]		破片	角 赤粒	普通	褐		
278 23	SD 19	土師器	甕		[1.5]	(5.0)	破片	雲 砂粒	良好	褐		
278 24	SD 19	土師器	台付甕		[4.0]		破片	雲 砂粒	普通	褐		
287 1	SD 21	須恵器	蓋	(12.0)	4.5		1/4	石英 白粒 礫	普通	黄橙	末野	
287 2	SD 21	須恵器	坏身	(12.2)	[2.7]		破片	白粒 黒粒	良好	灰	湖西	
287 3	SD 21	須恵器	壺脚部		[2.4]		破片	雲 白粒	良好	灰	末野	
287 4	SD 21	須恵器	有蓋高坏	(11.7)	[3.9]		1/5	白粒	普通	灰		47
287 5	SD 21	須恵器	坏身	(11.5)	[2.9]		破片	雲 角 石英 白粒	不良	にぶい黄橙		

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版		
287	6	SD	21	須恵器	壺		[5.0]		破片	砂粒 赤粒 白粒	良好	黄灰	末野	
287	7	SD	21	須恵器	高坏		[11.4]		脚部1/3	雲 白粒 黒粒	良好	灰	末野長脚二段	
289	8	SD	21	土師器	坏	12.1	4.5		3/4	雲 角 赤粒 礫	普通	にぶい橙		47
289	9	SD	21	土師器	坏	(11.6)	[4.4]		2/3	赤粒 白粒 礫	普通	橙	赤彩	47
289	10	SD	21	土師器	坏	(10.8)	[3.9]		4/5	雲 石英 針	普通	黒褐		47
289	11	SD	21	土師器	坏	11.1	3.7		4/5	雲 角 石英 赤粒	普通	明赤褐		47
289	12	SD	21	土師器	坏	(12.2)	[3.9]		1/4	角 石英 赤粒 白粒	普通	にぶい赤褐		
289	13	SD	21	土師器	坏	(12.0)	[4.5]		1/2	角 石英 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
289	14	SD	21	土師器	坏	(11.6)	[3.2]		1/3	角 赤粒 白粒	普通	明赤褐		
289	15	SD	21	土師器	坏	(11.2)	[3.5]		1/5	砂粒 赤粒	普通	赤褐	赤彩	
289	16	SD	21	土師器	坏	(11.4)	3.7		1/2	雲 角 長石 礫	普通	橙		48
289	17	SD	21	土師器	坏	(10.6)	[3.5]		1/3	雲 石英 白粒	普通	橙		
289	18	SD	21	土師器	坏	11.6	3.7		4/5	赤粒 白粒 黒粒	普通	浅黄橙		48
289	19	SD	21	土師器	坏	(11.4)	3.3		2/3	雲 角 石英 赤粒	普通	にぶい橙		48
289	20	SD	21	土師器	坏	(11.6)	[3.7]		1/4	雲 角 赤粒	良好	灰白		
289	21	SD	21	土師器	坏	(12.4)	[4.5]		1/4	石英 砂粒 赤粒	普通	にぶい橙		
289	22	SD	21	土師器	坏	(11.6)	[4.3]		1/3	雲 角 砂粒 赤粒 白粒	普通	黒		
289	23	SD	21	土師器	坏	(11.0)	3.7		2/3	角 白粒	普通	にぶい黄橙		
289	24	SD	21	土師器	坏	(12.2)	[3.2]		1/4	雲 赤粒	普通	浅黄橙		
289	25	SD	21	土師器	坏	(10.8)	[3.4]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい黄褐		
289	26	SD	21	土師器	坏	(10.5)	[3.5]		2/3	角 赤粒 白粒	普通	橙		
289	27	SD	21	土師器	坏	(10.2)	[3.2]		1/5	雲 角 赤粒	普通	黒褐		
289	28	SD	21	土師器	坏	(12.0)	[3.5]		破片	角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
289	29	SD	21	土師器	坏	11.4	5.2		3/4	雲 赤粒 白粒	普通	橙	暗文	48
289	30	SD	21	土師器	坏	(12.0)	[3.3]		破片	雲 赤粒 白粒	普通	橙		
289	31	SD	21	土師器	坏	(11.2)	[2.9]		1/5	角 砂粒 白粒	普通	橙		
289	32	SD	21	土師器	坏		[3.7]		1/4	角 石英 赤粒 白粒	普通	浅黄	暗文	
289	33	SD	21	土師器	坏	13.7	[5.3]		ほぼ完形	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙		48
289	34	SD	21	土師器	坏	11.0	3.2		完形	雲 角 赤粒	普通	橙		48
290	35	SD	21	土師器	坏	12.2	[3.0]		破片	雲 角 赤粒 白粒	不良	橙		
290	36	SD	21	土師器	坏	(13.4)	[4.4]		破片	角 石英 白粒	良好	にぶい橙		
290	37	SD	21	土師器	坏	(12.4)	[4.3]		1/4	角 石英 赤粒 白粒	普通	橙	黒斑	48
290	38	SD	21	土師器	坏	(11.5)	[5.3]		破片	雲 角 石英 赤粒	普通	灰褐		
290	39	SD	21	土師器	甕	(18.3)	[6.0]		破片	雲 赤粒 白粒	普通	暗灰		
290	40	SD	21	土師器	甕	(15.8)	[6.0]		破片	雲 角 石英 砂粒	普通	にぶい褐	J-14g	
290	41	SD	21	土師器	甕	(13.0)	[6.1]		破片	雲 石英 白粒	普通	にぶい橙		
290	42	SD	21	土師器	甕	(20.3)	[6.7]		破片	角 砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
290	43	SD	21	土師器	甕	(17.0)	[7.7]		破片	雲 石英 赤粒 黒粒	普通	にぶい黄橙		
290	44	SD	21	土師器	甕	(20.6)	[7.9]		破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	灰黄		
290	45	SD	21	土師器	甕	(18.9)	[5.2]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
290	46	SD	21	土師器	甕	(21.8)	[10.5]		破片	雲 角 白粒	普通	明赤褐		
290	47	SD	21	土師器	甕	(16.4)	[12.0]		破片	雲 砂粒 赤粒	普通	褐		
290	48	SD	21	土師器	甕	(17.2)	[6.5]		破片	雲 角 赤粒	普通	にぶい黄橙		
290	49	SD	21	土師器	甕	(21.8)	[5.5]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙	F-14g	
290	50	SD	21	土師器	甕	(20.7)	[11.2]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい黄褐	F-14g	
290	51	SD	21	土師器	甕	(20.8)	[9.8]		破片	雲 砂粒 白粒	普通	灰白		
290	52	SD	21	土師器	壺	(17.0)		(10.8)	1/4	雲 角 赤粒	普通	にぶい黄橙		
290	53	SD	21	土師器	甕				把手のみ	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい褐		
290	54	SD	21	土製品	土錘	幅3.8	長[6.3]			雲 角 赤粒 白粒	普通	灰白～暗灰		
290	55	SD	21	土製品	土錘	幅1.7	長[3.8]		1/2	雲 赤粒	普通	にぶい橙		

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
291 1	SD 22	須恵器	罍	(6.5)	[2.6]		破片	白粒	良好	灰	胎土緻密	
291 2	SD 23	土師器	台付甕		[2.6]		破片	砂粒 赤粒	普通	褐		
291 3	SD 23	土師器	甕				破片	砂粒 赤粒	普通	褐		
291 4	SD 24	土師器	台付甕		[3.6]		破片	角 赤粒 礫	普通	褐		
291 5	SD 24	土師器	甕		[3.2]	5.8	底部のみ	雲 石英 赤粒 白粒 礫	普通	にぶい黄橙		
291 6	SD 24	土師器	壺		[3.8]	(6.8)	破片	雲 角 砂粒	普通	褐		
291 7	SD 26	土師器	壺	(6.5)	[3.1]		破片	砂粒	良好	黒褐		
291 8	SD 26	弥生土器	壺				破片	雲 白粒	普通	黄褐		
291 9	SD 26	弥生土器	壺				破片	砂粒	普通	褐		
291 10	SD 28	須恵器	壺	7.7	[6.7]		口縁部	長石 赤粒 白粒	良好	褐灰	赤粒顯著	63
291 11	SD 28	土師器	坏	(12.8)	[3.8]		1/3	雲 角 白粒	良好	褐灰		
291 12	SD 28	須恵器	罍		[7.4]		破片	白粒 黒粒	普通	灰	胎土緻密	
291 13	SD 28	土師器	高坏		[5.7]		1/5	雲 長石 石英 赤粒	普通	赤褐	赤彩	
291 14	SD 28	土師器	壺		[2.4]	(7.4)	破片	雲 石英 白粒	普通	明赤褐	E-14g	
291 15	SD 28	土師器	甕		[2.4]	4.5	底部破片	雲 角 赤粒	普通	にぶい黄橙		
291 16	SD 28	土師器	鉢	(22.6)	[9.0]		破片	雲 角 砂粒	良好	褐灰		
291 17	SD 28	土師器	鉢	(26.2)	[10.6]	(9.6)	1/3	雲 角 赤粒 白粒	普通	浅黄橙		
291 18	SD 29	土師器	坏	(11.8)	[2.3]		破片	雲 赤粒 白粒 礫	普通	明赤褐	比企型 赤彩	
291 19	SD 29	土師器	坏	11.6	3.5		1/4	雲 角 赤粒 針	普通	浅黄橙		
291 20	SD 29	土師器	坏	(11.4)	[3.3]		1/3	雲 角 赤粒 白粒	普通	褐		
291 21	SD 29	土師器	坏	(12.5)	4.4		1/2	雲 角 白粒	普通	にぶい黄橙		
291 22	SD 29	土師器	坏	(12.9)	[3.4]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	褐		
291 23	SD 29	土師器	坏	(12.8)	[4.0]		破片	雲 角 石英 白粒	普通	にぶい黄橙		
291 24	SD 29	土師器	甗				把手のみ	雲 石英 赤粒 礫	普通	にぶい褐	すす付着	
291 25	SD 29	土師器	甕	(17.3)	[6.7]		破片	雲 角 砂粒 赤粒	普通	にぶい橙		
291 26	SD 29	土師器	甕	(22.8)	[7.8]		破片	雲 角 石英 赤粒 白粒	普通	にぶい褐		
291 27	SD 29	土師器	甕		[2.6]	(9.8)	破片	石英 白粒 礫	普通	灰白		
294 1	SD 31	須恵器	蓋		[1.9]		1/5	白粒 礫 胎土緻密	良好	灰	へラ記号「×」	
294 2	SD 31	土師器	坏	(11.5)	[2.8]		破片	雲 角	普通	浅黄橙		
294 3	SD 31	土師器	坏	(10.9)	[2.1]		破片	雲 赤粒 白粒	普通	橙		
294 4	SD 31	土師器	坏	(10.8)	[2.1]		破片	雲 白粒	普通	にぶい褐		
294 5	SD 31	土師器	坏	(12.7)	[2.2]		破片	雲 角 赤粒	不良	浅黄橙		
294 6	SD 31	土師器	坏	(13.0)	[3.4]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙		
294 7	SD 31	土師器	坏	(12.9)	[2.2]		破片	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
294 8	SD 31	土師器	小型甕	(10.0)	[6.4]		破片	長石 赤粒 白粒 礫	普通	にぶい黄橙		
294 9	SD 31	土師器	坏	(20.0)	[4.0]		破片	角 石英 白粒	普通	にぶい黄橙	赤彩	
294 10	SD 31	土師器	甕	(16.4)	[4.2]		破片	雲 角 石英 赤粒	普通	褐		
294 11	SD 31	土師器	甕	(20.0)	[6.5]		破片	雲 角 砂粒 赤粒	普通	灰褐		
294 12	SD 31	土師器	甗				把手のみ	雲 角 石英 赤粒	普通	にぶい赤褐		
294 13	SD 31	土師器	甕	(20.0)	[5.2]		破片	雲 砂粒 赤粒	普通	にぶい橙		
294 14	SD 31	土師器	壺		[7.8]	8.1	1/5	雲 角 石英 赤粒	普通	灰黄褐	底部木葉痕 模造品	
294 15	SD 31	石製品	剣形品	長2.3	幅4.1	厚0.3		滑石製				93
294 16	SD 32	土師器	坏	(10.9)	[2.6]		破片	雲 石英 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
294 17	SD 32	土師器	坏	(13.9)	[4.0]		破片	雲 石英 白粒	不良	橙		
294 18	SD 32	土師器	甕	(18.2)	[3.5]		破片	雲 角 砂粒 赤粒	普通	にぶい黄橙		
294 19	SD 32	土師器	甕	(12.4)	[4.0]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙		
294 20	SD 32	土師器	鉢	(12.8)	[5.8]		破片	雲 角 石英 白粒	普通	明赤褐	赤彩	
294 21	SD 32	土師器	甗	(24.2)	[6.8]		破片	砂粒 赤粒 白粒 礫	良好	にぶい橙	赤彩	
294 22	SD 32	土師器	甕	(14.6)	[7.0]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	褐灰		
294 23	SD 32	土師器	甕	(15.8)	[11.0]		破片	雲 石英 赤粒 礫	良好	にぶい黄橙		

溝跡出土遺物観察表

挿入番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版	
294	24	SD 32	土師器	大型甑	(22.0)	[15.4]		破片	雲角石英白粒	良好	にぶい橙		
294	25	SD 32	石製品	有孔円板	径(2.9)	厚0.4					模造品		
295	1	SD 28-31	土師器	坏	(12.1)	[2.7]		破片	雲角赤粒白粒	良好	褐		
295	2	SD 28-31	土師器	坏	(12.0)	[3.7]		1/4	雲角砂粒白粒	普通	橙	有段口縁	
295	3	SD 28-31	土師器	小型鉢	(10.9)	[5.3]		破片	雲角砂粒赤粒白粒	普通	浅黄橙	一括	
295	4	SD 28-31	土師器	碗	10.9	[5.9]		3/5	石英砂粒赤粒	良好	赤褐	一括	48
295	5	SD 28-31	土師器	坏	(12.3)	[3.1]		破片	雲角赤粒白粒	良好	にぶい赤褐	比企型赤彩	
295	6	SD 28-31	土師器	坏	(11.0)	[2.6]		破片	雲角赤粒白粒	普通	赤褐	一括	赤彩
295	7	SD 28-31	土師器	甕	(19.3)	[6.3]		破片	雲角赤粒白粒	普通	にぶい黄橙	一括	
295	8	SD 28-31	土師器	甑			把手のみ	石英砂粒赤粒	普通	にぶい橙	一括		
295	9	SD 30	須恵器	坏	(12.0)	3.5	5.6	1/2	石英針	良好	灰	ヘラ記号「X」	48
295	10	SD 30	須恵器	坏	11.8	3.9	7.2	4/5	砂粒黒粒針	良好	灰	南比企	48
295	11	SD 30	須恵器	坏	(10.7)	[3.7]	(6.2)	1/4	長石黒粒針	良好	灰	南比企	
295	12	SD 30	須恵器	高台付碗		[1.6]	7.4	底部のみ	長石黒粒針	普通	暗青灰	南比企	
295	13	SD 30	須恵器	坏	(11.2)	[2.8]		破片	白粒針	良好	灰	南比企	
295	14	SD 30	須恵器	坏	(12.5)	[3.3]		破片	雲白粒針礫	普通	灰	南比企	
295	15	SD 30	土師器	坏	(11.9)	[2.0]		破片	角白粒	普通	橙		
295	16	SD 30	須恵器	坏	(14.8)	[4.5]		破片	白粒黒粒針	普通	灰	南比企	
295	17	SD 30	須恵器	甕				破片	雲白粒黒粒	良好	灰	胎土緻密	
295	18	SD 34	土師器	坏	(13.2)	[3.4]		破片	雲角赤粒白粒	普通	にぶい黄橙	比企型赤彩	
295	19	SD 34	土師器	甕	(18.1)	[3.4]		破片	雲角砂粒赤粒白粒	普通	にぶい黄橙		
295	20	SD 35	土師器	坏	(9.8)	[3.0]		破片	雲角赤粒白粒	普通	橙		
295	21	SD 35	土師器	坏		[2.9]		破片	雲角長石赤粒	良好	明赤褐		
295	22	SD 43	土師器	甕	(20.0)	[5.7]		破片	雲角赤粒白粒	普通	にぶい褐		
295	23	SD 43	土師器	甕	(23.1)	[3.2]		破片	雲角赤粒白粒	普通	にぶい橙		
300	1	SD 44	須恵器	隼	11.2	[10.6]		1/2	白粒黒粒	良好	灰 自然釉	胎土緻密	
300	2	SD 44	須恵器	高坏	(11.2)	[3.1]		破片	雲角石英白粒	普通	褐灰	透明石英	
300	3	SD 44	須恵器	蓋	(14.8)	[4.4]		1/4	赤粒白粒礫	不良	灰白	胎土粉ばい	
300	4	SD 44	須恵器	坏身	(12.0)	[2.9]		1/5	石英白粒黒粒	良好	灰	胎土緻密	
300	5	SD 44	須恵器	短頸壺	(6.8)	[3.6]		破片	白粒黒粒	普通	褐灰	胎土緻密	
300	6	SD 44	土師器	坏	(14.6)	[3.9]		1/5	雲角赤粒白粒	普通	明赤褐		
300	7	SD 44	土師器	坏	(15.2)	[2.6]		破片	雲赤粒白粒	普通	にぶい橙		
300	8	SD 44	土師器	坏	(14.6)	[3.6]		破片	雲角赤粒白粒	普通	橙		
300	9	SD 44	土師器	坏	(13.1)	[3.4]		破片	雲赤粒白粒礫	普通	にぶい橙	比企型赤彩	
300	10	SD 44	土師器	坏	(13.0)	[2.8]		破片	雲礫赤粒白粒	普通	にぶい橙	比企型赤彩	
300	11	SD 44	土師器	坏	11.1	4.2		ほぼ完形	雲角石英礫	普通	橙		49
300	12	SD 44	土師器	坏	(14.8)	[3.1]		1/5	角赤粒白粒	普通	褐	有段口縁	
300	13	SD 44	土師器	坏	(15.7)	[5.0]		1/5	雲角赤粒	良好	褐	有段口縁	
300	14	SD 44	土師器	坏	(18.4)	[4.5]		1/5	雲角砂粒赤粒	普通	にぶい橙	有段口縁	
300	15	SD 44	土師器	鉢	(20.8)	[5.7]		破片	雲角石英赤粒	不良	暗褐		
300	16	SD 44	土師器	鉢	(12.8)	[7.2]		1/3	角赤粒白粒	普通	橙		
300	17	SD 44	土師器	壺	(8.6)	[4.2]		破片	角石英白粒	普通	橙		
300	18	SD 44	土製品	土錘	長5.2	幅2.1	厚0.9	4/5	角赤粒白粒黒粒	普通	暗褐		97
300	19	SD 44	土師器	甑				把手のみ	雲片角赤粒	普通	橙		
300	20	SD 44	土師器	埴		[5.0]		ほぼ完形	雲角長石白粒	普通	橙		63
300	21	SD 44	土師器	手づくね	(9.0)	4.4		2/3	角石英赤粒白粒	普通	橙		49
300	22	SD 44	土師器	甑				把手のみ	雲角赤粒白粒	普通	黒褐		
300	23	SD 44	土師器	甑				把手のみ	雲赤粒白粒礫	良好	橙		
300	24	SD 44	石製品	勾玉	幅1.2	長4.2	厚0.6	完形	滑石				93
300	25	SD 44	土師器	甑				把手のみ	角石英赤粒礫	普通	橙		

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版	
300	26	SD 44	土師器	甗			把手のみ	雲 角 赤粒 礫	普通	にぶい橙			
301	27	SD 44	土師器	甗	(18.4)	[5.1]	破片	雲 石英 赤粒 礫	普通	橙			
301	28	SD 44	土師器	甗	(22.6)	[6.7]	破片	赤粒 白粒 礫	普通	にぶい橙			
301	29	SD 44	土師器	甗	(18.8)	[5.5]	破片	石英 砂粒 赤粒	普通	明赤褐			
301	30	SD 44	土師器	甗	(25.2)	[11.2]	破片	角 石英 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙			
301	31	SD 44	土師器	甗	(15.6)	[13.5]	破片	雲 角 赤粒 礫	普通	褐			
301	32	SD 44	土師器	甗	(23.6)	[6.5]	破片	角 赤粒 白粒 礫	普通	にぶい黄橙			
301	33	SD 44	土師器	甗	(17.7)	[9.0]	口縁1/3	石英 砂粒	普通	褐		63	
301	34	SD 44	土師器	甗	(16.4)	[10.5]	破片	角 石英 赤粒 白粒	普通	にぶい橙			
301	35	SD 44	土師器	甗	(19.6)	[5.8]	破片	雲 赤粒 白粒 礫	良好	にぶい黄橙			
301	36	SD 44	土師器	甗	(15.4)	[5.7]	破片	雲 角 赤粒 白粒 礫	普通	にぶい橙			
301	37	SD 44	土師器	甗	(17.8)	[7.9]	破片	雲 角 砂粒 赤粒	普通	明褐灰			
301	38	SD 44	土師器	甗	(19.8)	[5.9]	破片	角 石英 赤粒 白粒	普通	橙			
302	39	SD 44	土師器	甗	17.7	37.0	6.0	完形	石英 赤粒 礫	良好	橙褐	すす付着底部木葉痕	69
302	40	SD 44	土師器	甗	20.5	36.7	5.8	3/4	砂粒 赤粒	普通	褐	すす付着底部木葉痕	70
302	41	SD 44	土師器	甗	[3.7]	7.4	底部のみ	角 石英 赤粒 礫	普通	橙	底部木葉痕		
302	42	SD 44	土師器	甗	[2.1]	(9.2)	底部のみ	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙	底部木葉痕		
302	43	SD 44	土師器	甗	[2.4]	(9.3)	破片	角 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙	底部木葉痕		
302	44	SD 44	土師器	甗	[1.9]	(5.5)	破片	長石 赤粒 白粒	不良	橙	底部木葉痕		
302	45	SD 44	土師器	甗	[1.5]	(7.8)	底部のみ	雲 角 石英 赤粒 礫	普通	にぶい黄橙	赤彩		
302	46	SD 44	土師器	甗	[1.7]	(6.4)	破片	雲 石英 赤粒 白粒	普通	橙			
302	47	SD 44	土師器	甗	[1.9]	(4.0)	破片	雲 石英 赤粒 礫	普通	にぶい黄橙			
302	48	SD 44	土師器	甗	[3.1]	(6.2)	破片	石英 赤粒 白粒 礫	普通	にぶい黄橙			
302	49	SD 44	土師器	甗	[3.6]	4.2	底部のみ	雲 角 石英	普通	にぶい橙			
302	50	SD 44	土師器	甗	[2.1]	(6.0)	底部破片	雲 角 白粒 礫	普通	にぶい黄橙			
302	51	SD 44	土師器	埴	[11.6]		口縁欠	角 砂粒 赤粒 白粒	普通	橙		63	
303	52	SD 44	土師器	小壺	(7.0)	[3.0]	破片	角 赤粒 白粒 礫	普通	褐	赤彩		
303	53	SD 44	土師器	器台	[4.2]		脚部のみ	雲 石英 赤粒 礫	普通	明褐	三方透		
303	54	SD 44	土師器	器台	[6.6]		脚部のみ	石英 砂粒 赤粒	良好	褐	四方透		
303	55	SD 44	土師器	器台	[5.6]		脚部のみ	雲 片 石英 赤粒	普通	にぶい褐			
303	56	SD 44	土師器	器台	[5.7]		脚部のみ	雲 角 赤粒 白粒	普通	明褐	赤彩		
303	57	SD 44	土師器	高坏	[7.5]		脚部のみ	角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	赤彩		
303	58	SD 44	土師器	高坏	[7.9]		脚部のみ	雲 角 石英 赤粒	普通	橙褐	赤彩		
303	59	SD 44	土師器	高坏	[6.3]		脚部のみ	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙			
303	60	SD 44	土師器	高坏	[7.2]		脚部のみ	角 赤粒 礫	普通	褐			
303	61	SD 44	土師器	高坏	[5.3]		脚部のみ	雲 砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	三方透し内面黒色		
303	62	SD 44	土師器	高坏	[7.6]		脚部のみ	角 石英 赤粒	普通	にぶい橙			
303	63	SD 44	土師器	高坏	[7.2]		脚部のみ	角 砂粒 赤粒 白粒	普通	赤褐	赤彩		
303	64	SD 44	土師器	高坏	[6.3]		脚部のみ	角 赤粒	不良	にぶい橙			
303	65	SD 44	土師器	高坏	[4.7]		脚部のみ	角 赤粒 白粒	普通	赤褐	赤彩		
303	66	SD 44	土師器	台付甗	[2.7]		脚部破片	角 石英 砂粒	普通	褐			
303	67	SD 44	土師器	台付甗	[6.9]	(8.8)	脚部のみ	雲 角 赤粒 砂粒	普通	褐		64	
303	68	SD 44	土師器	台付甗	[5.1]		脚部のみ	角 赤粒 白粒	普通	褐			
303	69	SD 44	土師器	台付甗	[4.7]		脚部のみ	角 礫	普通	黄褐			
303	70	SD 44	土師器	台付甗	[5.9]		脚部のみ	雲 角 砂粒 赤粒	普通	橙			
303	71	SD 44	土師器	台付甗	[3.4]		脚部のみ	角 砂粒 赤粒 白粒	普通	褐			
303	72	SD 44	土師器	壺	[3.0]	(7.6)	底部1/3	雲 角 砂粒 白粒	普通	にぶい橙			
303	73	SD 44	土師器	壺	[5.0]	(10.0)	破片	雲 角 石英 赤粒 礫	普通	にぶい黄橙			
303	74	SD 44	土師器	壺	[2.0]	7.0	底部のみ	雲 片 角 赤粒	普通	灰黄褐			
303	75	SD 44	土師器	壺	[2.9]	(7.6)	底部1/2	雲 角 砂粒 赤粒	普通	にぶい橙			

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版		
303	76	SD	44	土師器	壺		[2.5]	8.6	底部のみ	角 石英 砂粒	普通	淡褐		
303	77	SD	44	土師器	壺		[2.2]	6.0	底部のみ	角 石英 砂粒	普通	にぶい赤褐		
303	78	SD	44	土師器	壺		[3.3]	6.2	底部のみ	雲 角 赤粒 針	普通	橙		
303	79	SD	44	土師器	壺		[3.3]	(10.0)	底部のみ	角 片 砂粒 赤粒	普通	褐		
303	80	SD	44	土師器	壺		[3.5]	(9.2)	底部1/2	雲 角 石英 赤粒 礫	普通	黒褐		
304	1	SD	45	土師器	甕	19.4	[15.9]		1/2	砂粒 赤粒 白粒 礫	普通	にぶい橙		64
304	2	SD	45	土師器	甕	(20.5)	[13.0]		1/3	雲 石英 赤粒	普通	にぶい橙		
304	3	SD	45	土師器	甕	(20.5)	[6.8]		破片	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
304	4	SD	45	土師器	甕	(18.0)	[9.3]		破片	雲 角 長石 赤粒	普通	にぶい橙		
304	5	SD	45	土師器	甕		[1.7]		底部のみ	雲 片 赤粒 礫	普通	明褐灰		
304	6	SD	50	土師器	甕	(19.5)	[5.6]		破片	角 赤粒 白粒	普通	淡褐		
304	7	SD	50-82	土師器	鉢	20.8	[4.5]		破片	雲 角 砂粒 赤粒	普通	暗褐		
304	8	SD	50-82	土師器	甗				把手のみ	角 長石 赤粒	普通	淡褐		
304	9	SD	50	土師器	甕		[3.6]	(12.0)	破片	角 砂粒 赤粒 白粒	普通	淡褐		
304	10	SD	50	土師器	坏				破片	雲 角 赤粒 白粒	普通			
304	11	SD	50	土師器	坏				破片	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
304	12	SD	50	土師器	坏				破片	雲 角 赤粒	普通	にぶい橙		
304	13	SD	50	土師器	坏				破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	灰白		
304	14	SD	50	土師器	坏				破片	雲 角	良好	浅黄		
304	15	SD	50	土師器	甕		[2.1]	6.0	破片	角 砂粒 赤粒 白粒	普通	橙		
304	16	SD	50	土師器	坏	(15.0)	[3.0]		破片	角 赤粒 白粒	普通	橙		
304	17	SD	50	須恵器	壺				破片	白粒 黒粒 緻密	良好	黒灰	自然釉	
304	18	SD	50	須恵器	壺	(16.2)	[6.1]		破片	白粒 黒粒 粉っぽい	普通	灰黄褐		
304	19	SD	50	須恵器	坏		[2.8]	(9.6)	1/5	黒粒 針	普通	灰	南比企	
304	20	SD	50	須恵器	甕				破片	石英 白粒 黒粒	普通	灰	胎土緻密	
304	21	SD	50	須恵器	壺	(20.0)	[5.2]		破片	白粒 黒粒	良好	青灰	ヘラ記号 自然釉	
304	22	SD	51	土師器	壺	(17.6)	[7.1]		破片	雲 角 砂粒	普通	茶褐		
304	23	SD	51	土師器	高坏		[6.9]		脚部1/3	雲 角 砂粒 赤粒	普通	赤褐		
304	24	SD	51	灰釉陶器	壺				把手				ハケ塗り 不明	91
304	25	SD	51	石製品	石錘	幅6.4	長10.8	厚1.7	ほぼ完形	砂岩				78
305	1	SD	52	土師器	甕	(16.5)	[3.1]		口縁1/4	砂粒 赤粒 礫	普通	褐		
305	2	SD	52	土師器	甕				破片	雲 角 礫	普通	褐		
305	3	SD	52	土師器	甕	7.0	[2.6]		底部1/2	雲 砂粒 赤粒	普通	橙褐		
305	4	SD	52	土師器	甕		[2.4]	8.0	底部破片	雲 角 礫	普通	褐		
305	5	SD	52	土師器	甕	(7.8)	[2.4]		底部1/3	雲 赤粒 白粒	不良	橙		
305	6	SD	52	土師器	甗	孔(2.0)	[3.0]	(5.8)	底部のみ	角 砂粒 赤粒	普通	褐		
305	7	SD	53	土師器	小型甕	(12.0)	[1.9]		破片	雲 角 石英 砂粒	普通	褐		
305	8	SD	53	土師器	壺		[1.7]	(4.7)	破片	赤粒 砂粒	普通	褐		
305	9	SD	53	土師器	小型甕		[5.2]		破片	雲 角 石英 赤粒	普通	褐		
305	10	SD	54	土師器	甕			(8.6)	破片	雲 角 石英 砂粒	普通	褐		
305	11	SD	55	土師器	鉢	(12.0)	[4.6]		破片	雲 砂粒 赤粒 白粒	普通	褐		
305	12	SD	57	カワラケ	坏	(11.6)	3.9	6.0	2/3	雲 白粒 黒粒	普通	橙		49
305	13	SD	57	カワラケ	皿	(8.6)	[1.8]	(6.8)	破片	雲 赤粒	不良	黄褐		
305	14	SD	57	常滑	甕	(21.5)	[3.8]		破片	白粒 黒粒	良好	褐灰		100
305	15	SD	57	常滑	甕				破片	砂粒 黒粒	普通	灰	自然釉	100
305	16	SD	57	木製品	椀		[3.2]	6.9	破片	トネリコ属		黒漆	D-9 G	108
305	17	SD	57	常滑	甕	(25.8)	[5.5]		破片	石英 白粒 黒粒	普通	灰赤		100
305	18	SD	57	常滑	鉢		[7.6]	(15.0)	底部のみ	砂粒 赤粒 白粒	良好	にぶい橙		100
305	19	SD	57	在地産	鉢		[3.2]	(14.0)	破片	角 赤粒 礫	普通	灰		
305	20	SD	57	石製品	砥石	幅8.2	長[10.8]	厚6.2	1/2					

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
305	21	SD	57	石製品	石錘	幅3.8 長9.8 厚2.5		ほぼ完形				
305	22	SD	57	石製品	石錘	幅7.1 長9.3 厚4.2		ほぼ完形				
305	23	SD	57	石製品	砥石	幅6.0 長11.4 厚4.9	1/2					
306	1	SD	57	須恵器	坏		[1.5] (4.4) 1/5	角 石英 赤粒 白粒	普通	浅黄橙	内面穿孔	
306	2	SD	57	須恵器	坏		[1.4] 6.8 底部のみ	白粒 黒粒 針	良好	灰	南比企	
306	3	SD	57	須恵器	蓋		[3.0] 1/4	白粒 黒粒	普通	灰		
306	4	SD	57	古銭	天聖元寶						1023年	100
306	5	SD	58	土師器	坏	(13.2) [2.3]	破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	暗褐		
306	6	SD	58	土師器	坏	12.0 [1.6]	破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	褐		
306	7	SD	58	土師器	甕		[3.6] (8.0) 破片	角 黒粒 礫	普通	淡褐		
307	1	SD	59	須恵器	有蓋高坏	(12.2) [4.0]	1/5	雲 石英 白粒 黒粒	普通	灰	透明石英	
307	2	SD	59	須恵器	短頸壺		[8.3] 1/5	赤粒 白粒 礫	良好	灰	胎土緻密	
307	3	SD	59	須恵器	短頸壺		[2.7] 破片	白粒	良好	肺	胎土緻密	
307	4	SD	59	須恵器	短頸壺		[3.6] 破片	白粒	良好	肺	胎土緻密	
307	5	SD	59	須恵器	壺	(6.4) [4.7]	破片	石英 白粒	良好	内褐、外黒褐	胎土緻密	
307	6	SD	59	須恵器	長頸壺		[4.0] 頸部破片	砂粒 白粒 黒粒	普通	暗褐		
307	7	SD	59	須恵器	蓋		[1.4] 破片	白粒	良好	灰		
307	8	SD	59	須恵器	坏		[2.2] (6.0) 1/5	雲 石英 黒粒	普通	灰白	ヘラ起こし	
307	9	SD	59	須恵器	無蓋高坏	(18.3) [7.5]	1/5	石英 白粒 黒粒	良好	灰	石英粒多し	
307	10	SD	59	須恵器	壺		破片	角 石英 白粒	良好	灰	胎土緻密	
307	11	SD	59	須恵器	提瓶		破片	雲 白粒 黒粒	普通	灰	胎土緻密	
307	12	SD	59	須恵器	甕		破片	赤粒 白粒	良好	灰	胎土緻密	
307	13	SD	59	須恵器	甕		破片	角 長石 白粒 黒粒	不良	灰		
307	14	SD	59	鉄製品	刀子	刃0.9 長3.9 背0.3						
308	15	SD	59	土師器	坏	(12.3) 4.1	1/2	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙		
308	16	SD	59	土師器	坏	(13.4) [3.0]	1/4	雲 砂粒 赤粒 白粒	普通	褐	黒色模倣	
308	17	SD	59	土師器	坏	(15.4) [3.2]	1/5	石英 砂粒 赤粒 針	普通	灰黄		
308	18	SD	59	土師器	坏		破片	雲 角 白粒	普通	褐		
308	19	SD	59	土師器	坏	(14.0) [3.5]	破片	雲 赤粒 白粒	普通	暗褐	黒色有段	
308	20	SD	59	土師器	坏		破片	雲 砂粒 赤粒 白粒	普通	赤褐	比企型 赤彩	
308	21	SD	59	土師器	坏	(12.7) [3.0]	破片	角 石英 赤粒 白粒	普通	橙		
308	22	SD	59	土師器	坏	(12.4) [3.3]	破片	角 石英 赤粒 白粒	普通	橙		
308	23	SD	59	土師器	坏	(11.4) [3.2]	破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	褐		
308	24	SD	59	土師器	坏	(11.7) [2.9]	破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙		
308	25	SD	59	土師器	坏	(11.0) 3.7	1/3	雲 石英 赤粒 白粒	普通	褐		
308	26	SD	59	土師器	坏	(14.0) [2.2]	破片	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい褐		
308	27	SD	59	土師器	坏	(10.4) [3.8]	破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙		
308	28	SD	59	土師器	坏	(12.1) [3.0]	破片	雲 赤粒 白粒	普通	橙		
308	29	SD	59	土師器	坏	(14.8) [3.8]	破片	雲 赤粒	普通	明赤褐		
308	30	SD	59	土師器	鉢	(10.8) [4.0]	破片	角 石英 赤粒 白粒	普通	橙		
308	31	SD	59	土師器	鉢	12.0 9.0	4/5	砂粒 赤粒	普通	淡褐		64
308	32	SD	59	土師器	小型甕	(13.7) [11.6]	1/3	雲 角 赤粒 白粒	普通	赤褐		
308	33	SD	59	土師器	高坏		[9.9] 脚部2/3	砂粒 白粒	普通	にぶい橙	赤彩	
308	34	SD	59	土師器	高坏		[9.2] 脚部3/4	雲 角 石英 白粒	普通	橙		
308	35	SD	59	土師器	甕	(19.4) [5.8]	破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい黄褐		
308	36	SD	59	土師器	甕	(19.0) [8.1]	1/2	雲 赤粒 礫	普通	褐		
308	37	SD	59	土師器	甕	(20.3) [6.7]	破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
308	38	SD	59	土師器	甕	(19.0) [6.5]	破片	雲 角 赤粒 礫	普通	褐灰		
308	39	SD	59	土師器	甕	(23.3) [6.3]	破片	雲 角 砂粒 赤粒	普通	灰褐		
308	40	SD	59	土師器	甕	(18.0) [17.0]	1/5	雲 石英 白粒	普通	灰褐		64

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
309 41	SD 59	土師器	甌	(25.4)	[21.9]		1/5	雲 砂粒 赤粒 白粒	良好	にぶい黄橙		
309 42	SD 59	土師器	甌	24.2	27.3	6.6	ほぼ完形	石英 砂粒 赤粒	良好	黄褐		70
309 43	SD 59	土師器	壺	17.6	[9.0]		2/3	砂粒	普通	暗褐		49
309 44	SD 59	土師器	甕	(19.8)	[13.1]		破片	角 石英 赤粒 礫	不良	褐灰		
309 45	SD 59	土師器	甌	(22.0)	[12.7]		1/5	雲 角 赤粒 白粒	普通	黒褐橙		
309 46	SD 59	土師器	壺		[6.7]	6.9	底部のみ	角 石英 砂粒 赤粒	普通	黒褐		
309 47	SD 59	土師器	壺		[9.3]	10.0	底部4/5	角 砂粒	普通	淡褐		
309 48	SD 59	土師器	甌		[3.9]	(6.8)	底部1/3	雲 角 赤粒	普通	にぶい橙		
309 49	SD 59	土師器	甌		[2.6]	(5.8)	破片	雲 石英 白粒 礫	普通	灰黄橙	木葉痕	
309 50	SD 59	土師器	甕		[2.6]	4.8	底部のみ	雲 角 石英 白粒	普通	にぶい黄橙		
309 51	SD 59	土師器	甕		[2.9]	6.8	底部のみ	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙		
309 52	SD 59	土師器	鉢		[3.9]	(5.0)	破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	赤彩	
309 53	SD 59	土師器	甕		[1.8]	(6.0)	底部破片	角 赤粒 白粒	普通	橙	底部木葉痕	
309 54	SD 59	土師器	甕		[1.5]	(8.2)	底部1/2	雲 角 赤粒 礫	普通	黒	煤付着	
309 55	SD 59	土師器	甕		[2.4]	(8.0)	底部1/2	砂粒 赤粒 白粒	普通	褐灰		
310 1	SD 60	土師器	高坏		[2.5]		破片	雲 角 赤粒 白粒 礫	普通	にぶい黄橙	赤彩	
310 2	SD 60	土師器	甌		[4.5]	(6.0)	底部1/3	雲 赤粒 白粒	普通	明赤褐		
310 3	SD 60	土師器	坏	(12.2)	[2.9]		破片	雲 石英 赤粒 白粒	普通	橙		
310 4	SD 60	土師器	坏				破片	雲 赤粒 白粒	良好	橙褐		
310 5	SD 60	土師器	坏				破片	角 砂粒 赤粒 白粒	良好	赤褐		
310 6	SD 63	須恵器	壺	(6.0)	[4.5]		破片	赤粒 白粒	良好	灰	赤粒顕著	
310 7	SD 63	土師器	坏	(10.8)	[4.0]		1/2	雲 角 赤粒	普通	黒褐		
310 8	SD 63	土師器	坏	(12.8)	[3.9]		破片	角 白粒	普通	褐灰		
310 9	SD 63	土師器	坏	(12.3)	[2.7]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	黄灰		
310 10	SD 63	土師器	坏	(11.9)	[3.1]		破片	雲 黒粒	普通	褐灰		
310 11	SD 63	土師器	坏	(11.5)	[3.0]		破片	雲 角 砂粒	普通	にぶい黄橙		
310 12	SD 63	土師器	坏	(14.0)	[3.2]		1/3	雲 角 白粒	普通	黒褐		
310 13	SD 63	土師器	坏				破片	雲 赤粒 白粒	不良	茶褐	黒色土器	
310 14	SD 63	土師器	坏	(14.0)	[3.7]		破片	雲 赤粒 白粒 針	普通	褐	外面赤彩	
310 15	SD 63	土師器	坏	(13.1)	[2.1]		破片	雲 白粒 針	普通	赤褐	比企型 赤彩	
310 16	SD 63	土師器	坏	(11.9)	[1.8]		破片	雲 角 白粒	普通	灰		
310 17	SD 63	土師器	鉢	(10.4)	[3.1]		破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	赤彩	
310 18	SD 63	土師器	甕	(19.0)	[4.3]		1/3	雲 砂粒 赤粒 礫	普通	淡褐		
310 19	SD 63	土師器	壺	(19.4)	[4.4]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	明赤褐		
310 20	SD 67	須恵器	高台付埴		[3.6]	(6.0)	破片	雲 白粒	不良	灰～暗灰	在地	
310 21	SD 67	須恵器	高台付埴		[2.0]	(7.0)	破片	雲 角 白粒	不良	暗灰	在地	
310 22	SD 67	須恵器	坏		[1.7]	(4.2)	破片	雲 赤粒 白粒	不良	灰黄	在地	
310 23	SD 67	土製品	土錘	幅3.7	長8	孔1.9	完形	雲 石英 赤粒	普通	灰白	黒斑あり	
310 24	SD 68	土師器	坏	(11.8)	[4.0]		破片	雲 角 白粒	普通	橙		
310 25	SD 68	土師器	坏	(11.3)	[3.5]		破片	角 白粒	不良	灰褐		
310 26	SD 68	土師器	甕	(19.8)	[7.1]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	明褐灰		
310 27	SD 68	土師器	甌		[4.0]	(8.8)	底部破片	雲 角 白粒 礫	普通	浅黄橙		
310 28	SD 68	土師器	坏	(11.6)	[2.6]		破片	砂粒 赤粒 白粒	良好	赤褐	比企型 赤彩	
310 29	SD 68	土師器	甕		[1.4]	7.0	底部1/2	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
310 30	SD 69	土師器	甕	(17.4)	[7.6]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	赤褐		
310 31	SD 71	土師器	坏	(16.8)	[3.4]		破片	雲 角 石英 礫	良好	にぶい橙	D-17g	
310 32	SD 76	土師器	坏	(13.2)	[2.3]		1/5	雲 赤粒 白粒	普通	茶褐		
320 1	SD 80	土師器	坏	10.8	3.3		3/4	雲 白粒	良好	橙褐	模倣坏B	49
320 2	SD 80	土師器	坏	11.2	3.4		2/3	雲 白粒	普通	褐	模倣坏B	49
320 3	SD 80	土師器	坏	11.8	[3.6]		2/3	雲 白粒	良好	褐	模倣坏B	49

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版	
320	4	SD	80	土師器	坏	(11.4)	2.9	1/2	雲 砂粒	良好	褐	模倣坏B	49
320	5	SD	80	土師器	坏	11.4	3.3	ほぼ完形	雲 白粒	良好	橙褐	模倣坏B	49
320	6	SD	80	土師器	坏	12.0	3.9	3/4	雲 白粒	良好	橙褐	模倣坏B	49
320	7	SD	80	土師器	坏	(10.4)	3.5	1/2	雲 砂粒	良好	橙褐	模倣坏B	50
320	8	SD	80	土師器	坏	(13.6)	[4.6]	1/3	雲 砂粒	普通	淡褐	模倣坏B	50
320	9	SD	80	土師器	坏	11.2	[3.9]	1/4	砂粒 白粒	良好	褐色	模倣坏A	
320	10	SD	80	土師器	坏	(11.5)	[3.6]	1/3	雲 白粒	良好	橙褐	北武蔵型	
320	11	SD	80	土師器	坏	11.2	3.7	完形	雲 石英 黒粒 白鈹	良好	褐	模倣坏B	50
320	12	SD	80	土師器	坏	13.6	5.1	ほぼ完形	雲 石英 砂粒 白鈹	普通	灰黄褐	模倣坏	50
320	13	SD	80	土師器	坏	11.2	3.3	4/5	雲 砂粒 白粒	良好	明赤褐	模倣坏B	50
320	14	SD	80	土師器	坏	(11.2)	3.7	1/4	雲 赤粒 白粒	良好	橙褐	模倣坏A	
320	15	SD	80	土師器	坏	(12.2)	3.8	1/4	白粒	良好	赤褐	模倣坏A	
320	16	SD	80	土師器	坏	(14.4)	[3.7]	1/4	砂粒 白粒	普通	褐	模倣坏	
320	17	SD	80	土師器	坏	(13.1)	[3.9]	1/8	白粒 黒粒	普通	にぶい赤褐	有段口縁	
320	18	SD	80	土師器	坏	(12.2)	4.1	1/4	白粒 黒粒	普通	明赤褐	有段口縁	
320	19	SD	80	土師器	坏	11.6	4.3	完形	雲 赤粒 白粒	良好	明赤褐	黒色有段口縁	50
320	20	SD	80	土師器	坏	(12.0)	4.0	1/4	砂粒 白粒	普通	茶褐	模倣坏A	
320	21	SD	80	土師器	坏	11.9	3.5	ほぼ完形	雲 白粒 赤粒	良好	黒	黒色有段口縁	50
320	22	SD	80	土師器	皿	12.7	3.2	ほぼ完形	雲 長石 石英 砂粒	良好	黒褐	有段口縁	50
320	23	SD	80	土師器	皿	(12.5)	3.3	ほぼ完形	雲 角 砂粒 赤粒	良好	赤褐	有段口縁	50
320	24	SD	80	土師器	坏	12.6	3.0	ほぼ完形	雲 白粒	良好	黒色	黒色有段口縁	
321	25	SD	80	土師器	坏	11.2	4.4	完形	雲 角 石英 白粒	良好	赤褐	有段口縁	50
321	26	SD	80	土師器	坏	11.3	3.8	4/5	雲 角 赤粒 白粒	良好	赤褐	有段口縁	51
321	27	SD	80	土師器	坏	11.4	4.1	完形	雲 砂粒 黒粒	普通	明赤褐	有段口縁	51
321	28	SD	80	土師器	坏	11.0	4.2	ほぼ完形	角 砂粒 白粒	良好	暗褐	有段口縁	51
321	29	SD	80	土師器	坏	11.5	3.9	ほぼ完形	雲 砂粒 赤粒 白粒	普通	暗赤褐	有段口縁	51
321	30	SD	80	土師器	坏	11.4	4.3	ほぼ完形	雲 砂粒 赤粒 白粒	良好	暗褐	有段口縁	51
321	31	SD	80	土師器	坏	(11.6)	4.0	2/3	雲 白粒 黒粒	普通	橙褐	有段口縁	
321	32	SD	80	土師器	坏	(12.0)	4.0	1/2	白粒 黒粒 白鈹	普通	にぶい赤褐	有段口縁	
321	33	SD	80	土師器	坏	(11.8)	4.0	1/2	白粒 黒粒	普通	にぶい褐色	有段口縁	
321	34	SD	80	土師器	坏	(11.6)	4.5	2/3	赤粒 白粒 黒粒	普通	にぶい赤褐	有段口縁	
321	35	SD	80	土師器	坏	(12.2)	4.6	2/3	雲 砂粒 黒粒 白鈹	普通	灰黄	有段口縁	51
321	36	SD	80	土師器	坏	(12.0)	4.4	ほぼ完形	赤粒 白粒 黒粒	普通	明赤褐	有段口縁	51
321	37	SD	80	土師器	坏	(12.8)	4.8	2/3	白粒 黒粒	普通	にぶい赤褐	有段口縁	51
321	38	SD	80	土師器	坏	(11.8)	3.4	ほぼ完形	雲 角 赤粒	普通	にぶい赤褐	有段口縁	51
321	39	SD	80	土師器	坏	11.2	4.3	ほぼ完形	砂粒 白粒 黒粒	普通	褐	有段口縁	51
321	40	SD	80	土師器	坏	10.8	4.8	ほぼ完形	砂粒 赤粒 黒粒	普通	にぶい赤褐	有段口縁	52
321	41	SD	80	土師器	坏	(12.8)	4.9	1/2	白粒 黒粒	普通	にぶい褐	有段口縁	52
321	42	SD	80	土師器	坏	(11.0)	4.1	2/3	砂粒 赤粒 黒粒	普通	明赤褐	黒色有段口縁	
321	43	SD	80	土師器	坏	(10.4)	3.7	2/3	雲 赤粒 白粒	普通	明赤褐	黒色有段口縁	52
321	44	SD	80	土師器	坏	(10.8)	3.2	1/2	赤粒 黒粒	普通	にぶい褐色	黒色有段口縁	
322	45	SD	80	土師器	坏	12.0	4.3	ほぼ完形	雲 砂粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	52
322	46	SD	80	土師器	坏	11.8	4.7	ほぼ完形	雲 砂粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	52
322	47	SD	80	土師器	坏	11.8	3.5	4/5	雲 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	52
322	48	SD	80	土師器	坏	11.8	3.8	ほぼ完形	砂粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	52
322	49	SD	80	土師器	坏	12.0	4.1	ほぼ完形	雲 砂粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	52
322	50	SD	80	土師器	坏	12.7	4.4	4/5	砂粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	52
322	51	SD	80	土師器	坏	12.4	4.3	4/5	砂粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	52
322	52	SD	80	土師器	坏	11.6	4.5	ほぼ完形	白粒 黒粒	良好	黒褐	黒色有段口縁	53
322	53	SD	80	土師器	坏	12.3	4.6	3/4	白粒 黒粒	良好	黒褐	黒色有段口縁	53

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版	
322	54	SD	80	土師器	坏	(12.0)	4.2	2/3	赤粒 白粒 黒粒	良好	灰黄褐	黒色有段口縁	
322	55	SD	80	土師器	坏	11.7	3.8	4/5	赤粒 白粒 黒粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
322	56	SD	80	土師器	坏	10.4	[4.0]	2/3	赤粒 白粒 黒粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
322	57	SD	80	土師器	坏	(12.6)	4.3	2/3	白粒 黒粒	普通	灰褐 明赤褐	有段口縁	53
322	58	SD	80	土師器	坏	11.7	4.2	2/3	白粒 黒粒	良好	黒褐	黒色模倣坏	
322	59	SD	80	土師器	坏	11.0	3.8	2/3	白粒 黒粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
322	60	SD	80	土師器	坏	10.8	4.2	2/3	雲 角 赤粒 白粒	普通	灰褐	黒色有段口縁	
322	61	SD	80	土師器	坏	(12.0)	[4.7]	1/3	雲 白粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
322	62	SD	80	土師器	坏	(11.8)	[3.8]	1/4	雲 白粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
322	63	SD	80	土師器	坏	(12.0)	[4.3]	1/3	雲 砂粒 白粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
322	64	SD	80	土師器	坏	(11.2)	[3.7]	1/3	赤粒 白粒	普通	黒褐	黒色模倣坏	
323	65	SD	80	土師器	坏	11.0	4.2	ほぼ完形	雲 白粒 黒粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	53
323	66	SD	80	土師器	坏	11.0	3.9	ほぼ完形	雲 角 赤粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	53
323	67	SD	80	土師器	坏	11.2	4.1	完形	雲 角 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	53
323	68	SD	80	土師器	坏	12.5	3.8	ほぼ完形	砂粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	53
323	69	SD	80	土師器	坏	10.4	3.4	ほぼ完形	白粒 黒粒	普通	黒	黒色有段口縁	53
323	70	SD	80	土師器	坏	10.6	4.3	完形	砂粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	53
323	71	SD	80	土師器	坏	11.3	4.1	完形	雲 砂粒 赤粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	53
323	72	SD	80	土師器	坏	10.6	4.2	完形	砂粒 赤粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	54
323	73	SD	80	土師器	坏	11.3	4.3	ほぼ完形	雲 砂粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	54
323	74	SD	80	土師器	坏	12.0	4.3	4/5	雲 砂粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	54
323	75	SD	80	土師器	坏	12.0	4.5	ほぼ完形	雲 砂粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	54
323	76	SD	80	土師器	坏	11.8	4.1	完形	雲 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	54
323	77	SD	80	土師器	坏	11.5	4.2	完形	白粒	良好	黒褐	黒色有段口縁	54
323	78	SD	80	土師器	坏	11.6	3.7	完形	雲 砂粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	54
323	79	SD	80	土師器	坏	12.3	4.6	ほぼ完形	砂粒 白粒 黒粒	普通	黒	黒色有段口縁	54
323	80	SD	80	土師器	坏	12.9	4.6	ほぼ完形	砂粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	54
323	81	SD	80	土師器	坏	(10.8)	4.0	1/2	雲 角 白粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
323	82	SD	80	土師器	坏	11.2	3.7	ほぼ完形	雲 砂粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	54
323	83	SD	80	土師器	坏	(10.6)	4.1	1/3	雲 赤粒 白粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
323	84	SD	80	土師器	坏	10.2	4.1	完形	雲 砂粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	55
324	85	SD	80	土師器	坏	(12.0)	[4.1]	1/3	赤粒 白粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
324	86	SD	80	土師器	坏	(13.6)	[3.5]	1/3	雲 白粒	普通	黒褐	黒色模倣坏	
324	87	SD	80	土師器	坏	(12.3)	4.3	1/3	白粒	普通	褐灰	黒色有段口縁	
324	88	SD	80	土師器	坏	(12.0)	3.9	1/3	雲 赤粒 白粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
324	89	SD	80	土師器	坏	(12.4)	[4.2]	1/3	雲 赤粒 白粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
324	90	SD	80	土師器	坏	(9.8)	[3.8]	1/3	雲 赤粒 白粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
324	91	SD	80	土師器	坏	(11.2)	[3.8]	1/3	雲 赤粒 白粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
324	92	SD	80	土師器	坏	(12.3)	[3.8]	1/4	雲 白粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
324	93	SD	80	土師器	坏	(11.0)	[4.1]	1/3	砂粒 白粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
324	94	SD	80	土師器	坏	(11.8)	[4.2]	1/3	雲 赤粒 白粒	普通	黒	黒色有段口縁	
324	95	SD	80	土師器	坏	(11.8)	[3.9]	1/4	砂粒 白粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
324	96	SD	80	土師器	坏	(11.6)	3.5	1/3	雲 白粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
324	97	SD	80	土師器	坏	(12.0)	[3.8]	1/4	雲 砂粒 白粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
324	98	SD	80	土師器	坏	16.0	[5.0]	1/4	砂粒 白粒	普通	黒褐	黒色有段口縁	
324	99	SD	80	土師器	碗	11.8	[5.2]	1/3	砂粒 赤粒 白粒	普通	黒	黒色模倣碗	
324	100	SD	80	土師器	碗	(10.8)	[4.4]	破片	雲 角 砂粒 白粒	普通	明褐	模倣碗	
324	101	SD	80	土師器	坏	9.4	3.4	完形	雲 角 黒粒	普通	褐	模倣坏C	55
324	102	SD	80	土師器	坏	10.8	3.3	完形	雲 角 白粒 黒粒	普通	褐	模倣坏C	55
324	103	SD	80	土師器	坏	10.4	3.4	ほぼ完形	雲 白粒 黒粒	普通	淡褐	模倣坏C	55

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
324 104	SD 80	土師器	坏	(8.7)	3.0		2/3	雲 角 白粒 黒粒	普通	淡褐	模倣坏C	55
324 105	SD 80	土師器	坏	9.1	2.9		ほぼ完形	雲 長石 黒粒 針	普通	褐	模倣坏C	55
324 106	SD 80	土師器	坏	9.8	[3.5]		3/4	雲 角 白粒 黒粒	普通	淡褐	模倣坏C	55
324 107	SD 80	土師器	坏	(9.0)	3.2		2/3	赤粒 白粒 黒粒	普通	淡褐	模倣坏C	55
324 108	SD 80	土師器	坏	8.8	3.1		完形	雲 砂粒 白粒	普通	褐	模倣坏C	55
324 109	SD 80	土師器	坏	10.9	[3.2]		ほぼ完形	雲 砂粒 白粒	普通	黒褐	有段口縁	
325 110	SD 80	土師器	坏	(11.8)	4.0		2/3	赤粒 白粒 黒粒	普通	灰黄褐	有段口縁	
325 111	SD 80	土師器	坏	11.8	4.2		完形	雲 角 赤粒 白粒	普通	褐	有段口縁	55
325 112	SD 80	土師器	坏	11.4	5.8		ほぼ完形	雲 赤粒 白粒	良好	褐	有段口縁	56
325 113	SD 80	土師器	坏	12.0	4.2		2/3	雲 砂粒 黒粒 白粒	普通	灰黄褐	有段口縁	56
325 114	SD 80	土師器	坏	11.0	3.1		ほぼ完形	雲 白粒 針	普通	黒褐	有段口縁	56
325 115	SD 80	土師器	坏	10.8	4.0		完形	雲 赤粒	普通	褐	有段口縁	56
325 116	SD 80	土師器	坏	10.4	[4.2]		ほぼ完形	白粒 黒粒	普通	暗灰黄	有段口縁	56
325 117	SD 80	土師器	坏	10.8	3.5		ほぼ完形	砂粒 赤粒 白粒	良好	赤色	模倣坏	56
325 118	SD 80	土師器	坏	(11.8)	[4.6]		1/3	白粒 黒粒	普通	灰黄褐	有段口縁	
325 119	SD 80	土師器	坏	(10.4)	[4.0]		1/3	雲 赤粒 白粒	普通	褐	有段口縁	
325 120	SD 80	土師器	坏	(10.5)	[4.7]		1/3	雲 赤粒 白粒	普通	褐	有段口縁	
325 121	SD 80	土師器	坏	(15.7)	[3.4]		破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	黒	黒色身模倣	
325 122	SD 80	土師器	坏				1/2	赤粒 白粒	良好	赤褐		
325 123	SD 80	土師器	坏		[2.4]		底部破片	雲 砂粒	普通	赤褐	放射状暗文	
325 124	SD 80	土師器	坏	(15.0)	6.5		1/2	雲 角 白粒	良好	橙		56
325 125	SD 80	土師器	坏	(16.0)			破片	砂粒 白粒	普通	黒	内外黒色	
325 126	SD 80	土師器	坏	(13.5)	[3.7]		1/4	雲 砂粒	良好	橙褐	北武蔵型	
325 127	SD 80	土師器	坏	14.1	[5.0]		1/3	雲 砂粒	良好	橙褐	北武蔵型	56
325 128	SD 80	土師器	鉢	(20.0)			1/3	雲 砂粒	普通	褐		
325 129	SD 80	土師器	坏		[5.4]		1/3	白粒	良好	暗褐		
325 130	SD 80	土師器	坏	(13.4)	5.3		1/4	雲 白粒	良好	橙	北武蔵型	
326 131	SD 80	土師器	坏	10.8	3.5		完形	雲 石英 赤粒 白粒	良好	赤	続比企型坏赤彩	56
326 132	SD 80	土師器	坏	10.8	3.3		2/3	砂粒 赤粒 白粒	良好	赤褐	続比企型坏赤彩	56
326 133	SD 80	土師器	坏	10.2	4.0		3/4	砂粒 赤粒 白粒	良好	赤褐	続比企型坏赤彩	57
326 134	SD 80	土師器	坏	10.8	3.7		1/3	砂粒 赤粒 小石	良好	赤褐	続比企型坏赤彩	57
326 135	SD 80	土師器	坏	10.9	3.8		2/3	砂粒 赤粒 小石	良好	赤褐	続比企型坏赤彩	
326 136	SD 80	土師器	坏	10.6	3.9		4/5	砂粒 赤粒 白粒	良好	赤褐	続比企型坏赤彩	57
326 137	SD 80	土師器	坏	11.0	3.2		ほぼ完形	砂粒 赤粒 白粒	良好	赤褐	続比企型坏赤彩	57
326 138	SD 80	土師器	坏	11.0	[3.7]		4/5	砂粒 赤粒 白粒	良好	赤褐	続比企型坏赤彩	57
326 139	SD 80	土師器	坏	10.8	3.8		完形	雲 白粒	普通	赤	続比企型坏赤彩	57
326 140	SD 80	土師器	坏	11.4	4.0		完形	砂粒 赤粒 軽石	良好	褐	続比企型坏赤彩	57
326 141	SD 80	土師器	坏	8.8	[2.9]		1/3	砂粒 赤粒 白粒	普通	赤褐	続比企型坏赤彩	
326 142	SD 80	土師器	坏	(10.5)	[3.0]		1/4	砂粒 赤粒 小石	良好	赤茶褐	続比企型坏赤彩	
326 143	SD 80	土師器	坏	(11.3)	[3.6]		1/3	砂粒 赤粒 白粒	普通	赤褐	続比企型坏赤彩	
326 144	SD 80	土師器	坏	(11.0)	[3.4]		1/3	砂粒 赤粒 白粒	良好	赤褐	続比企型坏赤彩	
326 145	SD 80	土師器	坏	11.0	[3.3]		3/4	砂粒 赤粒 白粒	良好	赤褐	続比企型坏赤彩	
326 146	SD 80	土師器	坏	(11.1)	[2.1]		1/3	砂粒 赤粒 白粒	良好	赤褐	続比企型坏赤彩	
326 147	SD 80	土師器	皿	13.9	2.8		2/3	雲 赤粒 白粒	普通	赤褐	模倣皿 赤彩	57
326 148	SD 80	土師器	皿	14.0	3.2		2/3	雲 石英 黒粒	普通	赤褐	模倣皿 赤彩 柳庄痕	
326 149	SD 80	土師器	皿	(13.5)	2.8		1/2	雲 砂粒 赤粒	良好	黒褐	黒色模倣皿	
326 150	SD 80	土師器	皿	(13.3)	[2.9]		1/3	砂粒 白粒 黒粒	普通	赤褐	模倣皿 赤彩	
326 151	SD 80	土師器	皿	(14.0)	[2.8]		1/3	石英 赤粒 白粒	普通	茶褐	黒色模倣皿	
327 152	SD 80	土師器	坏	11.0	7.1		ほぼ完形	雲 砂粒 赤粒 白粒	良好	赤褐	模倣碗 赤彩	78
327 153	SD 80	土師器	坏	(10.6)	[5.8]		1/3	石英 砂粒 黒粒	普通	黒色	模倣碗	

溝跡出土遺物観察表

挿入番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版		
327	154	SD	80	土師器	埴	(9.6)	[5.9]		破片	白粒 黒粒	普通	灰黄		78
327	155	SD	80	土師器	埴	(8.8)	[4.4]		破片	赤粒 白粒 黒粒	普通	黒色	赤彩	
327	156	SD	80	土師器	埴	(11.0)	[5.1]		破片	白粒 黒粒	普通	黒褐		
327	157	SD	80	土師器	埴	(12.0)	5.1		破片	雲 砂粒 白粒	普通	淡褐		
327	158	SD	80	土師器	小型甕	(11.6)	[4.2]		破片	雲	普通	にぶい黄橙		
327	159	SD	80	土師器	小型甕	(15.0)	[4.9]		破片	雲 角 石英 白粒	普通	灰褐		
327	160	SD	80	土師器	小型甕	11.8	13.2	6.2	ほぼ完形	白粒 黒粒	良好	灰黄褐		64
327	161	SD	80	土師器	小型甕	(9.4)	10.5		3/4	雲 角 白粒	良好	にぶい橙		64
327	162	SD	80	土師器	小型甕	(14.2)	[5.1]		破片	角 石英	普通	にぶい黄橙		
327	163	SD	80	土師器	鉢	14.4	8.5	(9.4)	1/2	白粒 黒粒	良好	灰黄褐		65
327	164	SD	80	土師器	小型鉢	(9.7)	6.8		2/3	角 石英 赤粒 白粒	普通	灰	底部木葉痕	
327	165	SD	80	土師器	鉢	11.4	4.7		完形	雲 砂粒	普通	褐	底部木葉痕	65
327	166	SD	80	土師器	鉢		[3.7]	6.8	底部のみ	白粒 黒粒	普通	褐	底部木葉痕	78
327	167	SD	80	土師器	手づくね	3.8	3.9		完形	角 石英 赤粒 白粒	良好	灰黄褐		65
327	168	SD	80	土師器	手づくね	(5.8)	4.0	(5.6)	1/2	雲 白粒 黒粒	普通	褐		
327	169	SD	80	土師器	手づくね		[3.0]	(5.2)	1/3	雲 角 白粒	不良	灰褐		
327	170	SD	80	石製品	勾玉	0.4	3.4	1.8					模造品	93
327	171	SD	80	銅製品	うつろ玉	径1.0	孔径0.2		完形	分析値 Si6.96 S12.6 Fe7.24 Cu5.17 Sn65.3 Pb2.73mass%				95
328	172	SD	80	土師器	甕	21.0	39.0	5.2	1/3	石英 白粒	普通	黒褐		70
328	173	SD	80	土師器	甕	21.4	[38.0]		1/2	石英 砂粒 赤粒	良好	褐		70
328	174	SD	80	土師器	甕	(19.6)	26.4		1/2	雲 赤粒	良好	褐		71
328	175	SD	80	土師器	甕	18.4	25.0		1/2	砂粒 白粒	普通	暗褐		71
328	176	SD	80	土師器	甕	(21.0)	[10.2]		口縁一部	砂粒 赤粒 白粒	普通	灰黄褐		
328	177	SD	80	土師器	甕	(19.7)	[10.8]		口縁一部	白粒 黒粒	普通	明赤褐		
328	178	SD	80	土師器	甕	19.8	[37.3]		4/5	雲 黒粒	良好	灰黄		71
329	179	SD	80	土師器	甕	19.4	[19.0]		1/2	白粒 黒粒	良好	灰黄褐		65
329	180	SD	80	土師器	甕	(18.0)	[15.8]		1/3	雲 赤粒	良好	褐		65
329	181	SD	80	土師器	甕	19.4	[14.3]		2/5	白粒 黒粒	普通	灰黄		
329	182	SD	80	土師器	甕	20.6	[12.9]		1/2	砂粒 白粒	普通	褐		65
329	183	SD	80	土師器	甕	18.0	[14.1]		3/4	雲 砂粒 赤粒	良好	褐		66
329	184	SD	80	土師器	甕	(20.0)	[7.6]		口縁1/3	雲 砂粒 白粒	良好	淡褐		
329	185	SD	80	土師器	甕	(20.0)	[11.9]		胴部1/3	雲 石英 砂粒	普通	淡褐		
329	186	SD	80	土師器	甕	20.0	10.7		1/2	砂粒 白粒	普通	暗褐		66
329	187	SD	80	土師器	甕	(20.0)	[9.5]		口縁1/3	雲 白粒	普通	褐		
329	188	SD	80	土師器	甕	20.7	[9.5]		口縁完存	砂粒 白粒	良好	褐		
329	189	SD	80	土師器	甕	18.4	[19.8]		1/2	赤粒 白粒	普通	淡褐		66
329	190	SD	80	土師器	甕	19.6	[6.5]		口縁2/3	雲 白粒	良好	淡褐		
329	191	SD	80	土師器	甕	19.8	[9.2]		口縁1/4	雲 白粒	良好	淡褐		
329	192	SD	80	土師器	甕	(13.8)	[5.2]		破片	雲 角	普通	にぶい褐		
329	193	SD	80	土師器	甕	20.7	[7.0]		口縁部	赤粒 白粒 黒粒	普通	灰黄		
329	194	SD	80	土師器	甕	(18.0)	[6.1]		破片	雲 砂粒	普通	灰褐		
329	195	SD	80	土師器	甕		[5.6]	4.7	底部のみ	雲 白粒 黒粒	普通	褐色		
330	196	SD	80	土師器	甕	(19.4)	[19.0]		口縁一部	白粒 黒粒	普通	灰黄褐		
330	197	SD	80	土師器	甕	(21.2)	[9.5]		口縁一部	白粒 黒粒	普通	黄灰		
330	198	SD	80	土師器	甕		[24.8]		1/3	雲 砂粒	良好	褐		71
330	199	SD	80	土師器	甕	(18.4)	[11.7]		口縁1/3	雲 砂粒 白粒	普通	暗褐		
330	200	SD	80	土師器	甕	(20.4)	[6.1]		口縁1/3	赤粒 白粒	良好	褐		
330	201	SD	80	土師器	甕	24.2	31.5	8.0	4/5	雲 石英	良好	橙褐		72
330	202	SD	80	土師器	鉢型甕	21.6	7.8	3.9	2/3	角 白粒 黒粒	良好	灰白		57
330	203	SD	80	土師器	甕				突手のみ	赤粒	良好	褐		

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
330 204	SD 80	土師器	甑				突手破片	雲 白粒	普通	黒		
330 205	SD 80	土師器	甑				突手のみ	黒粒	良好	褐		
330 206	SD 80	土師器	甑				突手のみ	赤粒 白粒	良好	褐		
330 207	SD 80	土師器	甑		[11.7]	(10.0)	底部破片	雲 角 砂粒 針	普通	明褐灰		
330 208	SD 80	土師器	甑		[10.8]	9.4	破片	雲 石英 白粒	良好	灰白		
330 209	SD 80	土師器	鉢型甑		[3.0]		底部破片	雲 赤粒	普通	褐		78
331 210	SD 80	土師器	鉢	(33.6)	[2.9]		口縁1/8	白粒 黒粒	普通	褐		
331 211	SD 80	土師器	鉢	(25.6)	[7.5]		1/4	白粒	良好	黒褐		
331 212	SD 80	土師器	鉢型甑	(28.4)	11.9	4.8	1/3	赤粒 白粒	良好	褐		78
331 213	SD 80	土師器	壺	20.2	33.8	9.8	3/4	雲 石英	良好	にぶい黄橙		66
331 214	SD 80	土師器	壺	18.3	[33.5]	11.0	1/3	砂粒 白粒	普通	暗褐		
331 215	SD 80	土師器	壺		[35.0]		1/3	石英 砂粒 礫	普通	浅黄橙		
331 216	SD 80	土師器	壺	17.8	[15.7]		1/2	石英 砂粒	普通	淡褐		66
331 217	SD 80	土師器	壺	(22.4)	[11.7]		1/4	雲 砂粒	普通	褐		66
332 218	SD 80	土師器	壺		[14.8]		底部	砂粒	良好	黒褐		
332 219	SD 80	土師器	壺		[9.1]		底部1/2	白粒 黒粒	普通	黒褐		
332 220	SD 80	土師器	壺	19.6	7.7		口縁1/3	石英 白粒	良好	褐		
332 221	SD 80	土師器	壺	(18.6)	[8.3]		口縁1/3	砂粒 白粒	良好	暗褐		
332 222	SD 80	土師器	壺	19.5			口縁のみ	白粒 黒粒	普通	灰白		
332 223	SD 80	土師器	鉢	22.8	[9.0]		口縁1/4	赤粒 白粒 黒粒	良好	黒褐		
332 224	SD 80	土師器	小型甕	11.7	19.8		2/3	雲 砂粒 赤粒	良好	赤褐		72
332 225	SD 80	土師器	台付甕	16.1	[19.9]		2/3	黒粒	普通	褐		72
332 226	SD 80	土師器	台付甕		[10.5]		底部のみ	雲 石英 針	普通	灰		
332 227	SD 80	土師器	台付甕		[7.8]	(13.4)	底部のみ	雲 角 石英 赤粒	普通	褐灰		
332 228	SD 80	土師器	高坏	(11.0)	[4.4]		1/3	雲 角 赤粒 白粒	普通	赤褐		
332 229	SD 80	土師器	高坏	(11.5)	5.9		3/4	角 赤粒 白粒	普通	赤褐		
332 230	SD 80	土師器	高坏		[4.2]		脚部破片	雲	普通	橙		
332 231	SD 80	土師器	高坏		[4.3]		破片	雲 赤粒	普通	黄褐		
332 232	SD 80	土師器	高坏		[4.8]		破片	雲 石英 赤粒 針	普通	にぶい黄橙		
333 233	SD 80	須恵器	蓋	11.4	3.4		ほぼ完形	雲 白粒	良好	灰～灰白	群馬	57
333 234	SD 80	須恵器	蓋	(11.8)	3.3		2/3	白粒 黒粒	良好	青灰	胎土緻密	58
333 235	SD 80	須恵器	蓋	(11.8)	[3.1]		2/3	白粒 黒粒 赤粒	普通	灰	透明石英	58
333 236	SD 80	須恵器	蓋	(16.6)	[4.7]		つまみ欠	雲 長石 白粒 赤粒	良好	褐	群馬	58
333 237	SD 80	須恵器	坏	(13.0)	[3.0]		破片	白粒	良好	紫灰	南比企	
333 238	SD 80	須恵器	高坏	12.8	[5.0]		坏部完形	雲 片 石英 砂粒	普通	淡灰	群馬	58
333 239	SD 80	須恵器	高坏		[9.0]	(16.3)	脚部1/3	黒粒 白粒	良好	茶褐	群馬	
333 240	SD 80	須恵器	小型壺	5.5	13.1		完形	片 石英 軽石	良好	灰褐	群馬	
333 241	SD 80	須恵器	提瓶	(7.1)	[18.7]		口縁部	石英 白粒 黒粒	良好	灰	群馬	
333 242	SD 80	須恵器	横瓶		[21.8]		胴部破片	白粒 黒粒	良好	灰 断面紫灰	群馬	
333 243	SD 80	須恵器	甕	13.8	26.0		ほぼ完形	石英 砂粒 白粒	良好	青灰		72
333 244	SD 80	須恵器	甕		[37.7]		1/2	砂粒 白粒 黒粒	良好	淡灰		
334 245	SD 80	須恵器	大甕	35.8	74.7		3/4	石英 砂粒	良好	灰		73
334 246	SD 80	須恵器	蓋	(15.8)	[5.9]		1/5	雲 白粒	良好	灰	群馬	
334 247	SD 80	須恵器	壺	(21.0)	[3.3]		破片	白粒 黒粒	良好	灰	群馬	
334 248	SD 80	須恵器	甕				頸部破片	白粒	良好	灰	胎土緻密	
挿図番号	遺構	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質			木取	図版	
335 249	SD 80	木製品	ささら状製品	(137.9)	2.8	1.6	モミ属			柾目	109	
335 250	SD 80	木製品	馬鍬の歯	[32.2]	4.6	1.7					109	
335 251	SD 80	木製品	馬鍬の歯	[34.6]	4.6	1.9					109	
335 252	SD 80	木製品	馬鍬の歯	[33.7]	4.3	1.4	コナラ属アカガシ亜属				109	

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	木取	図版
335 253	SD 80	木製品	馬鋤の歯	26.6	4.4	1.2	コナラ属アカガシ亜属	柾目	109
335 254	SD 80	木製品	馬鋤の歯	[37.7]	4	0.9	コナラ属アカガシ亜属	柾目	109
335 255	SD 80	木製品	曲物 底板	[36.3]	2.9	1.2	スギ	板目	110
335 256	SD 80	木製品	不明板状製品	[42.7]	5.7	2	スギ		110
335 257	SD 80	木製品	不明棒状製品	[43.4]	3.6	2.8	スギ	板目	109
335 258	SD 80	木製品	不明棒状製品	[21.7]	長径3.2	短径2.4			
335 259	SD 80	木製品	不明棒状製品	[17.6]	径3.4		コナラ属アカガシ亜属		108
336 260	SD 80	木製品	紡錘車	5.4		1.2	スギ	柾目	110
336 261	SD 80	木製品	不明板状製品	[18.4]	2.6	1.3	モミ属	柾目	110
336 262	SD 80	木製品	不明板状製品	[31.9]	2.7	1.8	モミ属	柾目	110
336 263	SD 80	木製品	不明棒状製品	[16.9]	4	2.7	モミ属	柾目	110
336 264	SD 80	木製品	不明板状製品	[14.7]	8.7	2.3	コナラ属アカガシ亜属	柾目	110
336 265	SD 80	木製品	不明板状製品	[37.9]	9.5	2.5	コナラ属アカガシ亜属	柾目	110
336 266	SD 80	木製品	不明板状製品	[11.9]	9.4	3.5	コナラ属アカガシ亜属	柾目	110
336 267	SD 80	木製品	槽	14.8	[11.7]	1.4	モミ属		110
337 268	SD 80	木製品	田下駄	32.3	14.4	2.1	ヒノキ		111
337 269	SD 80	木製品	田下駄	[38.2]	6.9	1.8	モミ属	板目	111
337 270	SD 80	木製品	不明板状製品	[23.8]	10.5	1.5			111
337 271	SD 80	木製品	不明板状製品	[43.7]	31	3.9			111
337 272	SD 80	木製品	不明板状製品	[40.7]	10.4	3.3	モミ属		111
338 273	SD 80	木製品	鋤	73.5	[11.9]	2.4	コナラ属アカガシ亜属	板目	111
338 274	SD 80	木製品	平鋤	46.5	11.1	1.6	コナラ属アカガシ亜属	柾目	111
338 275	SD 80	木製品	曲物 底板	[56.2]	17	2.4	ヒノキ	板目	112
338 276	SD 80	木製品	不明板状製品	[33.8]	12.2	2	モミ属	板目	112
339 277	SD 80	木製品	槽	[40.9]	[10.2]	1.5			112
339 278	SD 80	木製品	横槌	[18.1]	径10.5				112
339 279	SD 80	木製品	不明木製品	[25.0]		短径6.5			112
339 280	SD 80	木製品	杭	[41.9+16.1]		径11.8			112
340 281	SD 80	木製品	竪杵	[84.0]	長径8.0	短径6.5			113
340 282	SD 80	木製品	竪杵	[43.0]	径7.5		コナラ属アカガシ亜属	丸木	113
340 283	SD 80	木製品	竪杵	[76.0]	径5.8		サカキ	丸木	112
340 284	SD 80	木製品	不明木製品	[16.0]	長径11.9	短径6.3	コナラ属コナラ亜属コナラ節 ミカン割		113
341 285	SD 80	木製品	杭	[33.0]	径12.4				113
341 286	SD 80	木製品	杭	41.2	長径4.2	短径3.1			113
341 287	SD 80	木製品	杭	[54.7]	径2.7				113
341 288	SD 80	木製品	杭	56.8	径7.6				113
342 289	SD 80	木製品	杭	[103.4]	径7.5				113
342 290	SD 80	木製品	杭	[81.0]	径12.3				113
342 291	SD 80	木製品	柱材	[58.8]	径15.6		コナラ属コナラ亜属クヌギ節		113
343 292	SD 80	木製品	机 (案)	[84.6]	23.5	11.8			114
344 293	SD 80	木製品	馬鋤の歯	[39.1]	4.4	2.8	コナラ属アカガシ亜属		
344 294	SD 80	木製品	馬鋤の歯	[15.5]	長径3.1	短径2.1	コナラ属アカガシ亜属	角材、芯持	
344 295	SD 80	木製品	馬鋤の歯	[8.6]	3.6	1.4	コナラ属アカガシ亜属		
344 296	SD 80	木製品	馬鋤の歯	[43.9]	4.5	1.2	コナラ属アカガシ亜属	柾目、板状	
344 297	SD 80	木製品	馬鋤の歯	[33.3]	長径4.2	短径2.3		角材、芯持	
344 298	SD 80	木製品	馬鋤の歯	[42.4]	長径4.0	短径2.1	コナラ属アカガシ亜属	角材、芯持	
344 299	SD 80	木製品	馬鋤の歯	[49.5]	長径4.5	短径2.7		柾目、角材	114
344 300	SD 80	木製品	馬鋤の歯	[48.7]	長径4.3	短径3.2	コナラ属アカガシ亜属	柾目、角材	114
345 301	SD 80	木製品	馬鋤	[147.0]	長径3.7	短径3.4	コナラ属アカガシ亜属		115・116

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
349 1	SD 81	須恵器	罍		[7.3]		破片	石英 黒粒	良好	黒灰	胎土緻密	
349 2	SD 81	土師器	鉢	(7.0)	[3.5]		破片	砂粒	普通	黒褐	口縁部赤彩	
349 3	SD 81	土師器	高坏		[7.0]		脚部のみ	角 赤粒 白粒	普通	橙	外面赤彩	
349 4	SD 82	土師器	甗	(22.0)	[7.8]		破片	雲 赤粒 白粒	普通	橙		
349 5	SD 82	土師器	器台		[7.1]	(9.4)	脚部のみ	雲 角 石英 白粒	普通	橙	外面赤彩	
349 6	SD 82	土師器	台付甗		[4.3]		破片	角 赤粒 白粒	不良	橙		
349 7	SD 83	瓦	平瓦	幅(10.2)	長[13.5]	厚2.1	破片		普通	灰黄褐	凹面桢板痕	79
349 8	SD 83	須恵器	甗		[6.0]	(13.8)	底部1/5	白粒 黒粒	普通	褐		
349 9	SD 84	須恵器	坏		[1.6]	(7.4)	破片	雲 長石 針	普通	灰		
349 10	SD 84	灰釉陶器	壺		[1.6]	(8.0)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	東濃	91
349 11	SD 84	須恵器	坏身	(10.0)	[2.1]		破片	石英 白粒	良好	灰	湖西産	
349 12	SD 85	常滑	甗		[6.1]	(14.0)	破片	石英 砂粒	普通	褐		
349 13	SD 85	土製品	土錘	幅2.6	長[5.0]	孔1.1	1/2	砂粒	普通	茶褐		97
349 14	SD 85	古銭	聖宋元寶								1101年	100
349 15	SD 88	土師器	坏	(12.0)	[2.3]		破片	雲 砂粒	普通	褐		
349 16	SD 88	土師器	坏				破片	雲 赤粒 白粒	普通	橙	放射状暗文	
349 17	SD 89	土師器	坏	(11.5)	[2.1]		破片	砂粒	普通	淡褐		
349 18	SD 89	土師器	坏				破片	雲 白粒	良好	橙褐		
349 19	SD 89	土師器	坏				破片	角 石英 砂粒	普通	黒褐		
349 20	SD 89	土師器	坏				破片	雲 赤粒	普通	黒褐	黒色土器	
349 21	SD 89	土師器	甗	(23.6)	[6.8]		破片	雲 赤粒 白粒 黒粒	普通	灰黄		
350 1	SD 93	須恵器	耳皿		[1.8]	4.3	1/2	石英 白粒 針	普通	灰白	在地	
350 2	SD 93	須恵器	高台付壺		[2.3]	(6.8)	破片	雲 角 石英 礫	普通	灰	末野	
350 3	SD 95	須恵器	甗				破片	赤粒 白粒	良好	灰	末野	
350 4	SD 97	土師器	坏	(10.8)	[2.8]		破片	雲 白粒	普通	橙	北武蔵型	
350 5	SD 94	須恵器	坏身	(10.0)	[2.2]		破片	白粒	普通	灰	末野	
350 6	SD 94	土師器	坏	(9.9)	[2.8]		破片	雲 角 白粒	普通	灰黄		
350 7	SD 94	土師器	坏	(13.3)	[3.7]		破片	角 白粒	普通	橙		
350 8	SD 94	土師器	坏	(11.2)	[2.8]		破片		普通	黒褐	黒色土器	
350 9	SD 94	土師器	坏	(9.2)	[2.7]		破片	雲	普通	にぶい橙	油煙	
350 10	SD 94	土師器	坏	(9.4)	[2.9]		1/4	角 石英 白粒 黒粒	普通	橙		
350 11	SD 94	土師器	坏	(9.8)	[3.8]		破片	雲 石英 砂粒	普通	橙		
350 12	SD 94	土師器	坏	(11.6)	[2.4]		破片	雲 角 砂粒	普通	橙		
350 13	SD 94	土師器	坏	(11.0)	[3.1]		1/4	雲 砂粒 赤粒 黒粒	普通	にぶい橙		
350 14	SD 94	土師器	坏	(11.1)	[2.8]		1/5	砂粒 赤粒 白粒	普通	橙		
350 15	SD 94	土師器	坏	(10.5)	[3.0]		破片	角 石英	普通	橙		
350 16	SD 94	土師器	甗	(12.7)	[5.3]		破片	石英	普通	橙		
350 17	SD 94	須恵器	甗	(21.1)	[6.9]		破片	雲 石英 白粒 黒粒	普通	明褐灰	群馬	
350 18	SD 94	石製品	紡錘車	厚20.0	上23.0	底33.0	ほぼ完形					79
350 19	SD 99	須恵器	甗				破片	雲 赤粒 黒粒	良好	灰	東海	
350 20	SD 100	土師器	高坏		[8.4]		脚部のみ	角 白粒 礫	普通	橙	赤彩	
350 21	SD 100	土師器	甗	(19.2)	[5.0]		破片	砂粒	普通	にぶい橙		
350 22	SD 102	須恵器	高台付壺		[2.3]	7.4	底部のみ	雲	普通	にぶい橙	土師質	
350 23	SD 102	土師器	甗		[2.8]	8.6	底部のみ	雲 赤粒 白粒 小石	普通	にぶい橙		
350 24	SD 104	土師器	坏	(10.7)	[2.9]		破片	雲 赤粒 白粒 礫	普通	赤、黒褐	比企型 赤彩	
350 25	SD 104	須恵器	甗				破片	石英 砂粒 白粒	普通	灰	透明石英	
350 26	SD 106	土製品	土錘	幅1.6	長4.1		完形	赤粒 白粒 黒粒	普通	にぶい橙		97
351 1	SD 107	須恵器	坏	(13.5)	[3.7]		破片	雲 白粒 針	不良	にぶい黄橙	土師質	
351 2	SD 107	須恵器	坏		[1.4]	(5.0)	破片	白粒 黒粒	普通	灰		
351 3	SD 107	須恵器	坏		[1.4]	(4.0)	破片	雲 角 白粒	不良	にぶい黄橙		

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
351 4	SD	107	須恵器	坏	[2.1]	(5.6)	1/3	雲 石英	普通	褐灰		
351 5	SD	107	須恵器	坏	[2.4]	(5.8)	底部のみ	雲 砂粒 赤粒	普通	にぶい黄褐		
351 6	SD	107	須恵器	坏	[1.7]	(4.6)	破片	角 赤粒	不良	にぶい黄橙		
351 7	SD	107	須恵器	高台付碗	[1.8]	(6.1)	破片	角 赤粒 白粒	不良	褐灰		
351 8	SD	107	須恵器	高台付碗	[2.1]	(7.4)	破片	角 白粒 針	普通	褐灰		
351 9	SD	107	須恵器	甕			破片	砂粒 白粒	普通	灰		
351 10	SD	107	須恵器	甕			破片	砂粒 白粒 黒粒	普通	灰		
351 11	SD	107	鉄滓	椀形滓	幅3.8 長6 厚2.8							94
351 12	SD	107	土製品	土錘	幅1.2 長4.7 厚1.2		完形	雲 角 白粒	普通	にぶい赤褐	G-17 g	97
351 13	SD	107	土製品	土錘	幅3.3 長[6.5] 厚(2.6)		2/3	雲 石英 赤粒 礫	普通	灰黄褐	G-18 g	97
351 14	SD	108	土師器	坏	(13.4)	[3.7]	破片	雲 角 白粒	不良	褐		
351 15	SD	108	土師器	甕	(13.8)	[2.9]	破片	雲 角 砂粒	普通	赤褐		
351 16	SD	108	土師器	甕	16.4	[8.5]	口縁部2/3	石英 砂粒 赤粒	普通	茶褐		
351 17	SD	108	土師器	甕	[22.9]		1/2	砂粒 赤粒	普通	橙褐	F-13 g	
351 18	SD	108	鉄滓	椀形滓	幅6.1 長6.2 厚3.5							94
351 19	SD	109	土師器	坏	(12.4)	[3.4]	1/5	石英	普通	浅黄橙		
351 20	SD	109	土師器	坏	(11.5)	[3.5]	1/4	砂粒 赤粒	普通	にぶい黄橙		
351 21	SD	109	土師器	坏	(12.0)	[3.5]	破片	角 白粒	普通	褐灰	黒色土器	
351 22	SD	109	土師器	坏	(11.6)	3.3	1/2	石英	普通	橙	赤彩比企型坏	
351 23	SD	109	土師器	坏	(11.0)	[3.2]	1/5	雲 角 石英 白粒	普通	褐灰	黒色土器	
351 24	SD	109	土師器	坏	(10.8)	[3.0]	破片	雲	普通	黒褐		
351 25	SD	109	土師器	坏	(11.6)	[3.0]	破片	砂粒 白粒	普通	明赤褐		
351 26	SD	109	土師器	坏	(10.2)	[3.1]	破片	角 赤粒	普通	橙		
351 27	SD	109	土師器	坏	(11.7)	[2.8]	破片	雲 赤粒 黒粒	普通	灰黄		
351 28	SD	109	土師器	坏	(10.0)	[3.9]	1/4	赤粒 白粒	普通	明赤褐		
351 29	SD	109	土師器	坏	(12.8)	[3.1]	破片	黒粒	普通	浅黄橙	赤彩	
351 30	SD	109	土師器	甕	(20.0)	[7.5]	破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
351 31	SD	109	土師器	壺	(13.8)	[5.2]	破片	雲 角 白粒	普通	橙	黒班有り	
351 32	SD	109	土師器	甕	[6.8]	(4.2)	底部	雲 砂質	普通	褐灰		
352 1	SD	112	須恵器	坏身	[2.4]		破片	石英 赤粒 白粒	普通	灰	末野	
352 2	SD	112	須恵器	坏蓋	(13.8)	[3.5]	1/5	雲 白粒	普通	灰	末野	
352 3	SD	112	須恵器	壺	(9.0)	[1.5]	破片	白粒	良好	黄灰	湖西	
352 4	SD	112	土師器	坏	(12.9)	[2.5]	破片	角 赤粒 白粒	普通	橙		
352 5	SD	112	土師器	坏	(10.8)	[2.6]	破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
352 6	SD	112	土師器	坏	(12.6)	[3.3]	破片	雲 角 砂粒 赤粒	普通	橙	有段口縁	
352 7	SD	115	土師器	坏	(10.0)	[3.1]	2/3	雲 砂粒 赤粒	普通	にぶい橙		
352 8	SD	115	土師器	坏	(11.8)	[3.0]	破片	雲	普通	橙		
352 9	SD	115	土師器	坏	(10.8)	[3.0]	破片	石英	普通	明赤褐	有段口縁	
352 10	SD	115	土師器	坏	(11.2)	[3.1]	破片	雲 角 赤粒	普通	橙		
352 11	SD	115	土師器	甕	(18.8)	[16.1]	1/5	石英 赤粒	普通	にぶい橙		
352 12	SD	117	土師器	小型壺	(10.4)	[3.3]	破片	雲 赤粒	普通	橙褐		
352 13	SD	117	土師器	坏	(12.0)	[3.0]	破片	雲 角 砂粒	普通	明赤褐	北武蔵型	
352 14	SD	117	須恵器	坏	[1.4]	(8.6)	破片	針	普通	黄灰	南比企	
352 15	SD	117	土師器	甕	(19.8)	[5.6]	破片	雲 赤粒	普通	褐		
352 16	SD	117	須恵器	甕			破片	赤粒 黒粒 礫	普通	オリーブ灰		
352 17	SD	117	土師器	壺	[5.1]	(10.8)	底部のみ	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
352 18	SD	123	須恵器	坏身	(12.0)	[2.7]	破片	白粒	普通	灰	末野	
352 19	SD	123	土師器	坏			破片	雲 赤粒	普通	褐	身模倣	
352 20	SD	123	土師器	坏			破片	雲 赤粒	普通	黒	黒色有段口縁	
352 21	SD	123	土師器	壺	[2.5]	7.8	底部のみ	雲 角 石英 小石	普通	にぶい橙		

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
352 22	SD 126	土師器	坏	(13.6)	[3.4]		破片	雲 角	普通	褐	有段口縁	
352 23	SD 126	土師器	坏		[2.7]		破片	雲	普通	褐		
352 24	SD 126	土師器	小型甕	(13.2)	[3.5]		破片	砂粒	普通	暗褐		
352 25	SD 126	土師器	壺		[2.8]	(6.0)	破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	内橙 外黒褐		
352 26	SD 126	土師器	鉢	(18.0)	[5.0]		破片	雲 石英	普通	橙		
352 27	SD 126	土師器	甑		[4.6]	(8.0)	破片	雲 角 赤粒	普通	にぶい橙		
353 1	SD 126	土師器	甕	(17.9)	[7.4]		破片	雲 角 白粒	普通	褐		
353 2	SD 126	土師器	甕	(19.0)	[8.2]		破片	雲 角 赤粒	普通	にぶい橙		
353 3	SD 126	土師器	甕	(18.0)	[9.7]		破片	角 石英 砂粒 赤粒	普通	にぶい橙		
353 4	SD 126	土師器	甑		[11.5]	(9.8)	1/3	石英 砂粒	普通	黄褐		
353 5	SD 126	土師器	甑		[10.7]	(8.0)	底部破片	雲 石英 赤粒	普通	橙		
353 6	SD 127	陶器	鉢	(25.2)	[6.0]		破片	白粒 小石	普通	灰白		
353 7	SD 127	常骨	甕				破片	白粒 黒粒	普通	灰		
353 8	SD 127	灰釉陶器	皿		[2.0]	(6.8)	1/4	白粒 黒粒	良好	灰白	浜北	91
353 9	SD 127	土製品	土錘	幅[2.0]	長[4.1]		1/3	雲 白粒 黒粒	普通	灰		97
353 10	SD 127	土製品	土錘	幅2.7	長7.3		4/5	雲 角	普通	橙		97
353 11	SD 128	須恵器	坏		[1.3]	(8.4)	破片	白粒 黒粒 針	普通	灰	底部竈起こし	
353 12	SD 128	土師器	坏	(13.1)	[3.0]		破片	雲 石英	普通	橙		
353 13	SD 128	土師器	坏	(20.8)	[2.8]		破片	雲 角	普通	赤	赤彩	
353 14	SD 128	土師器	甕		[1.0]	(4.0)	破片	赤粒 白粒	普通	橙		
353 15	SD 128	土師器	甕		[2.8]	(8.0)	底部1/2	長石 砂粒 白粒	不良	灰白		
353 16	SD 128	土師器	甕		[4.0]	7.4	底部のみ	雲 片 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
353 17	SD 128	土師器	甕		[5.1]	(5.8)	底部のみ	雲 砂粒 小石	普通	黒褐		
353 18	SD 132	土製品	土錘	幅2.6	長7.3		完形	雲 角 砂粒	普通	褐		97
353 19	SD 132	土師器	坏	(14.6)	[2.3]		破片	雲 角	普通	灰褐		
353 20	SD 132	土師器	壺	(26.6)	[5.1]		破片	雲	普通	にぶい橙		
353 21	SD 132	土師器	甑	(15.6)	[6.4]		破片	角 石英 砂粒	普通	内黒、外赤褐		
353 22	SD 132	土師器	鉢	(15.5)	[3.7]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
353 23	SD 132	土師器	鉢	(9.0)	[4.2]		破片	雲 角 砂粒	普通	橙	赤彩	
354 1	SD 133	土師器	甕		[2.9]	(9.4)	破片	石英 砂粒	普通	にぶい褐		
354 2	SD 133	須恵器	提瓶				破片	砂粒	良好	灰		
354 3	SD 134	須恵器	蓋		[1.4]		つまみ	角 石英 白粒	普通	灰	南比企	
354 4	SD 134	須恵器	蓋	(18.2)	[1.5]		破片	白粒	普通	灰	南比企	
354 5	SD 134	須恵器	坏	14.4	4.0	8.3	ほぼ完形	雲 赤粒 針	普通	灰白	へラ記号「一」	58
354 6	SD 134	須恵器	坏	(14.8)	[3.5]	(9.4)	1/3	長石 白粒 針	普通	灰	南比企	78
354 7	SD 134	須恵器	坏	(13.1)	[3.6]	(8.0)	1/2	白粒 黒粒 針	普通	灰	南比企	78
354 8	SD 134	須恵器	坏	(13.3)	[3.4]		破片	白粒 針	普通	灰	南比企	
354 9	SD 134	須恵器	坏		[1.1]	7.4	底部のみ	雲 長石 針	普通	青灰	へラ記号「×」	78
354 10	SD 134	須恵器	壺		[7.7]	(13.6)	1/3	砂粒 白粒 小石	普通	灰	南比企	58
354 11	SD 134	土師器	坏	13.0	3.5		ほぼ完形	雲 角	普通	橙	北武蔵型	58
354 12	SD 134	須恵器	壺		[2.6]		破片	砂粒	普通	灰		
354 13	SD 134	須恵器	甕				破片	白粒	普通	灰		
354 14	SD 134	土師器	坏	(12.2)	[2.9]		1/3	雲 角 石英	普通	にぶい橙	北武蔵型	
354 15	SD 134	土師器	坏	(12.4)	[2.2]		破片	雲 角 白粒	普通	橙	北武蔵型	
354 16	SD 142	土師器	甕	(19.0)	[8.7]		破片	角 金雲	普通	灰白		
354 17	SD 142	土師器	甕	(18.0)	[3.0]		破片	角 長石 白粒	不良	褐灰		
354 18	SD 142	土師器	甕		[3.2]	(5.8)	破片	角 赤粒 白粒	普通	黒褐	底部木葉痕	
354 19	SD 142	土師器	甑		[3.0]	4.2	底部破片	雲 石英 赤粒	普通	橙		
354 20	SD 142	土師器	甕	(16.0)	[4.7]		破片	雲 石英 砂粒 赤粒	普通	明赤褐		
354 21	SD 142	土師器	坏				破片	砂粒 赤粒	普通	赤褐	比企型 赤彩	

溝跡出土遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
354 22	SD 142	土師器	甕		[3.7]	7.6	底部のみ	雲 角 石英 赤粒	普通	にぶい赤褐		
354 23	SD 142	土師器	甕		[3.1]		底部のみ	雲 石英 赤粒 白粒	普通	褐灰		
354 24	SD 145	土師器	甕	(16.4)	[13.8]		1/4	角 白粒	普通	灰褐	No.1	67
354 25	SD 145	土師器	甕	(16.6)	[4.6]		破片	角 石英 赤粒	不良	灰褐		
354 26	SD 145	土師器	坏	(13.0)	[2.7]		破片	雲	普通	赤褐	比企型 赤彩	
355 1	SD 149	土師器	高坏	(23.8)	[4.5]		破片	石英	普通	明赤褐	No.1	
355 2	SD 149	土師器	高坏		[5.8]		1/3	砂粒	普通	茶褐		
355 3	SD 149	土師器	高坏				破片	雲 赤粒	普通	暗褐		
355 4	SD 151	須恵器	坏蓋		[1.7]		破片	雲 石英 白粒 針	普通	黄橙	東濃	
355 5	SD 82	須恵器	長頸瓶		[8.9]		頸部	白粒	普通	黄灰	湖西	
355 6	SD 4	須恵器	高坏	(12.2)	[7.4]		1/4	雲 石英 砂粒 白粒	良好	灰		
355 7	SD 2	須恵器	坏身	(11.4)			破片	白粒 黒粒	良好	灰		
355 8	SD 4	須恵器	坏身	(12.4)	[2.7]		破片	白粒	良好	灰	胎土緻密	
355 9	SD 1	須恵器	高台付塊		[3.5]	5.5	1/2	針	普通	灰		
355 10	SD 4	灰釉陶器	塊			(8.2)	破片	白粒 黒粒	普通	灰白	東濃	91
355 11	SD 4	灰釉陶器	塊			(8.1)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	東濃	91
355 12	SD 4	灰釉陶器	塊			7.2	1/5	白粒 黒粒	普通	灰白	東遠江	91
355 13	SD 4	須恵器	長頸壺		[6.8]		頸部破片	石英 黒粒	良好	灰		91
355 14	SD 1	石製品	軽石	厚4.8	径6.8		完形	安山岩				
355 15	SD 50	土師器	壺	(17.4)	[4.7]		破片	石英	普通	橙		
355 16	28-31	土師器	器台		[5.5]		破片	雲 石英 赤粒 黒粒	普通	にぶい黄橙	三方透	
355 17	SD 31	土師器	器台		[5.5]		脚部破片	角 長石 小石	良好	赤褐		
355 18	SD 40	土師器	高坏		[6.1]		脚部破片	雲 角 石英 赤粒	普通	橙		
355 19	SD 69	土師器	高坏		[9.3]		脚部のみ	雲 砂粒	良好	赤褐	No.2 赤彩	
355 20	SD 31	土師器	高坏		[8.3]		脚部のみ	角 石英 赤粒	普通	灰黄褐	赤彩	
355 21	SD 4	土師器	高坏		[8.8]		脚部のみ	石英 赤粒 白粒	普通	赤褐	赤彩	
355 22	SD 21	土師器	高坏		[3.7]		破片	白粒 黒粒 礫	普通	赤	赤彩	
355 23	SD 21	土師器	高坏		[2.1]		破片	雲 赤粒 白粒 黒粒	普通	褐灰	赤彩	
355 24	SD 80	土師器	台付甕		[4.0]		台部破片	雲	普通	淡褐		
355 25	SD 57	土師器	台付甕		[6.2]	(9.8)	底部のみ	雲 長石 砂粒 小石	普通	赤褐		
355 26	SD 21	土師器	高坏		[2.3]		破片	白粒 礫	普通	赤	赤彩	
355 27	SD 32	土師器	高坏		[3.4]		脚部のみ	雲 赤粒	普通	浅黄		
355 28	SD 31	土師器	高坏		[3.4]		破片	角 長石 石英 砂粒	良好	赤橙～黒橙	赤彩	
355 29	SD 1	土製品	土錘	幅2.3	長7.4	径5.0	3/5	雲 片 石英	普通	灰～暗灰	P-6	97
355 30	SD 4	石製品	紡錘車	厚1.5	上4.2	底2.3	2/3	滑石				
355 31	SD 3	石製品	有孔円板	幅3.5	長1.8	厚2.0					模造品	93
355 32	SD 3	土師器	壺	(17.9)	[4.3]		破片	雲	普通	黄褐	SD-3F	
355 33	SD 3	土師器	壺		[3.2]		破片	雲 石英	普通	黄橙		
355 34	SD 3	土師器	壺		[3.3]		破片	雲 石英	普通	にぶい黄橙		
355 35	SD 3	土師器	壺		[1.1]		破片	雲 石英	普通	灰白		
355 36	SD 4	土師器	壺		[4.4]		破片	砂粒	良好	にぶい橙		

10. グリッド・表採出土遺物等

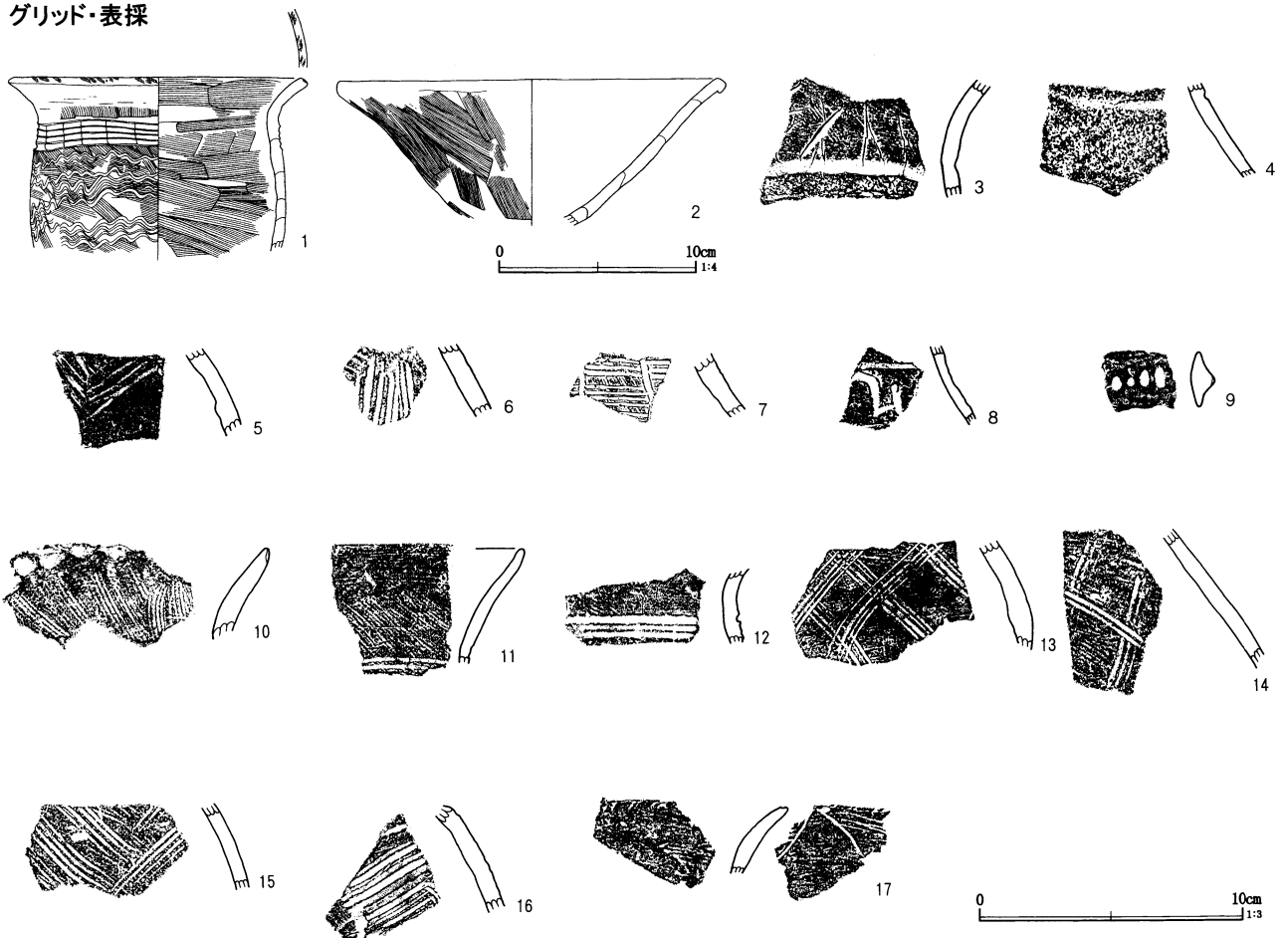
弥生時代中期後半～後期初頭

<包含層出土遺物>

第356図1・6・10～16は甕形土器、2は鉢形土器、3～5・7～9は壺形土器、17は高坏である。1は櫛描文系の甕形土器である。口径15.4cm、頸部径12.4cm、胴部最大径13.2cm、現存高9.0cm。頸部以下をハケ調整の後、頸部に4本1単位の櫛歯状工具による簾状文を時計回りに施す。胴部には同一工具による、3段以上の櫛描波状文を施文。口唇部には単節LRの細かい縄文が施文される。2は、口径19.6cm、現存高7.4cm。全体をナデ調整の後、口縁部以下をタテハケ調整するが、底部付近は一部ナデのみで、下半部の調整はやや雑である。3は壺の頸部

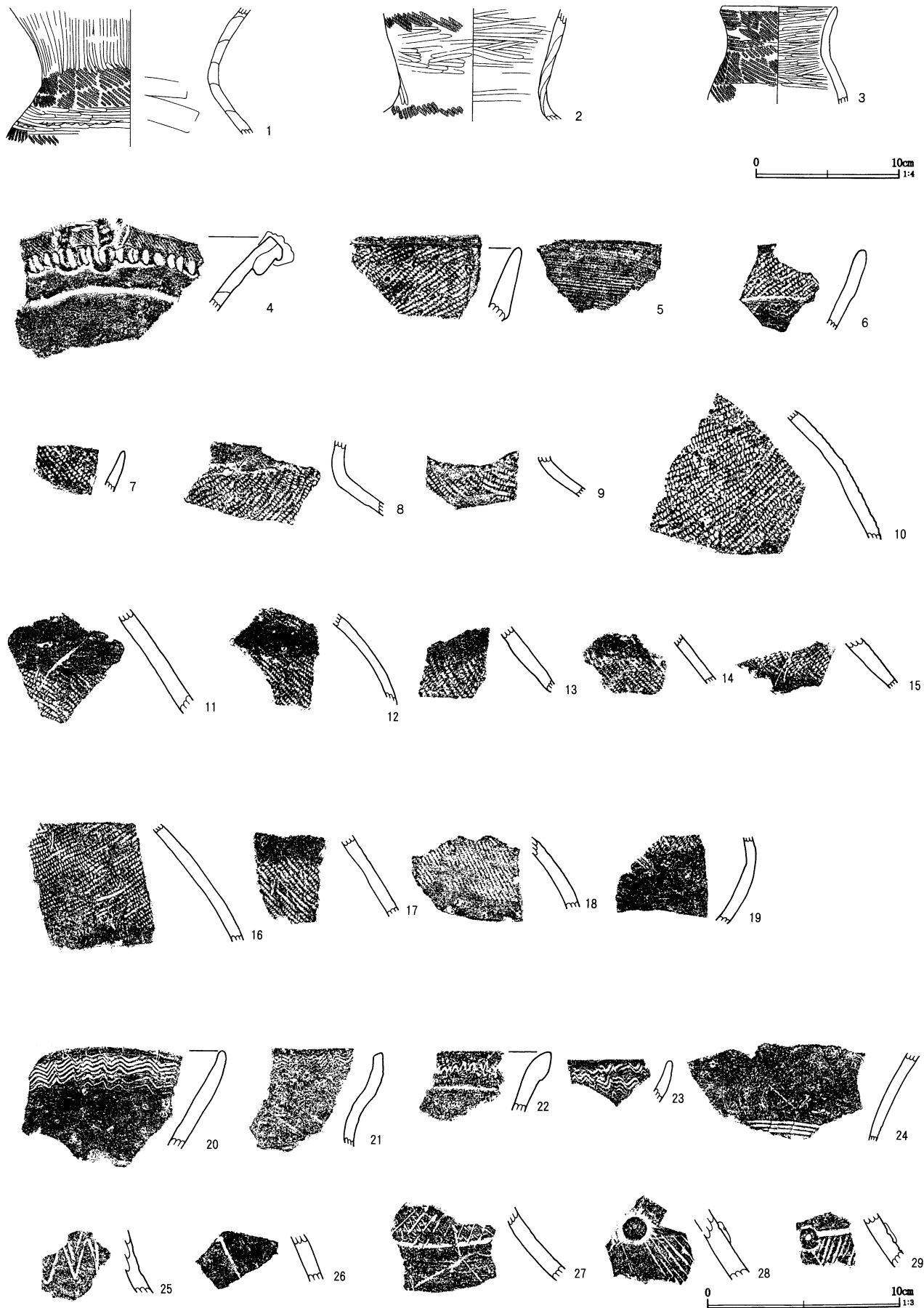
で、幅7mmのつくり出しの文様帯上に細かいLR縄文を施文。4は頸部に一条の沈線がめぐる。5は壺胴部で、4本の細い条線により鋸歯文を施す。6は壺肩部で、細い沈線による「コ」の字重ね文の可能性ある。7も肩部で、櫛歯状工具による直線文の上から縦方向に沈線を垂下させる。8も壺肩部で、平行沈線間に太い沈線による文様を施す。9は壺頸部で棒状突帯を巡らせ、刻みを入れる。10の甕口縁部は縦ハケ調整を施し、口唇部に外側から押捺を加えている。内側もハケ調整される。11の甕口縁部は頸部に簾状文、12は、頸部に太い櫛歯状工具による簾状文を施す。13は4本1単位、14は3本1単位の櫛歯状工具による斜格子文を胴部に施す。15は4本

グリッド・表採



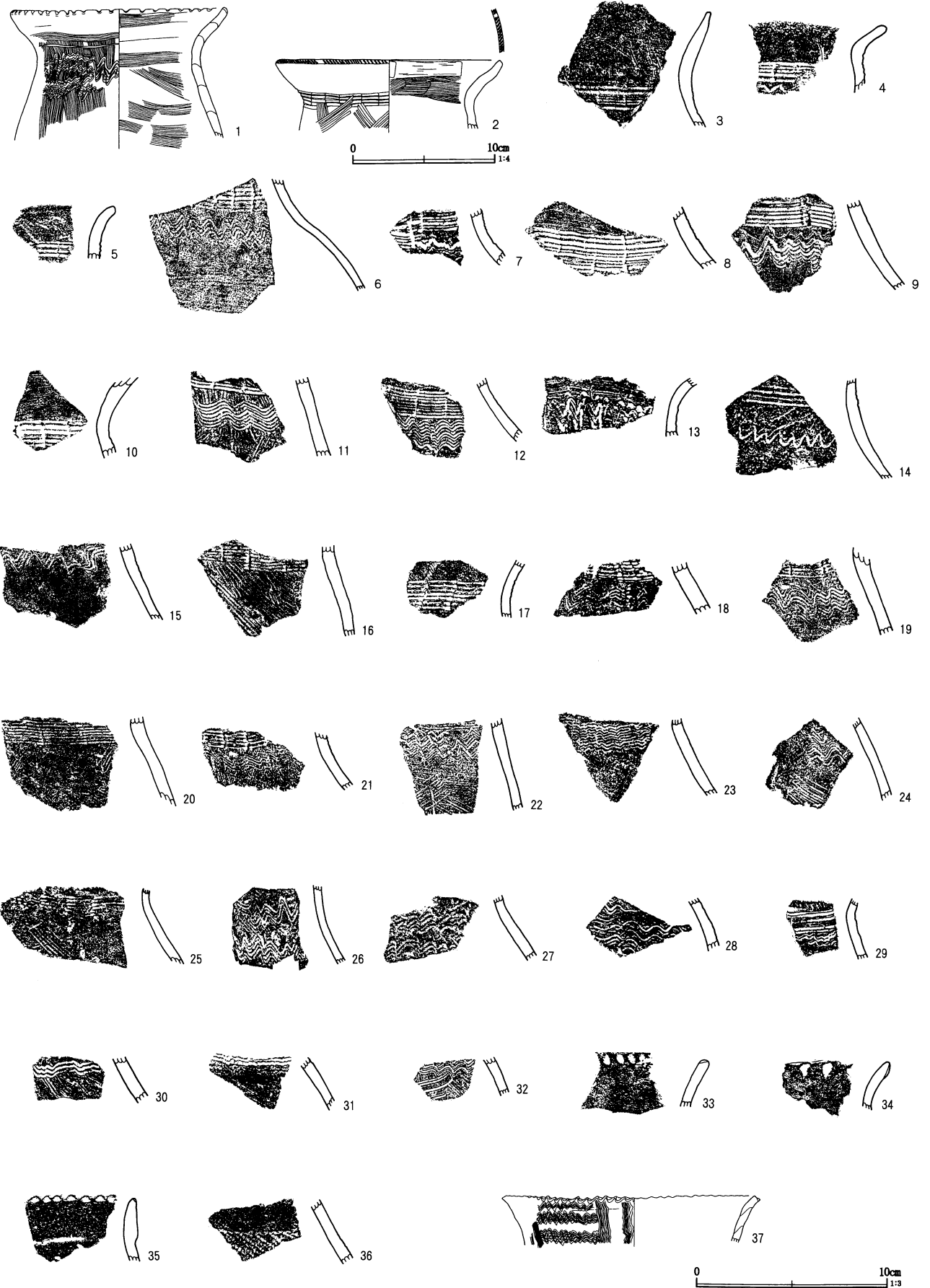
第356図 グリッド・表採出土遺物 (1)

グリッド・表採



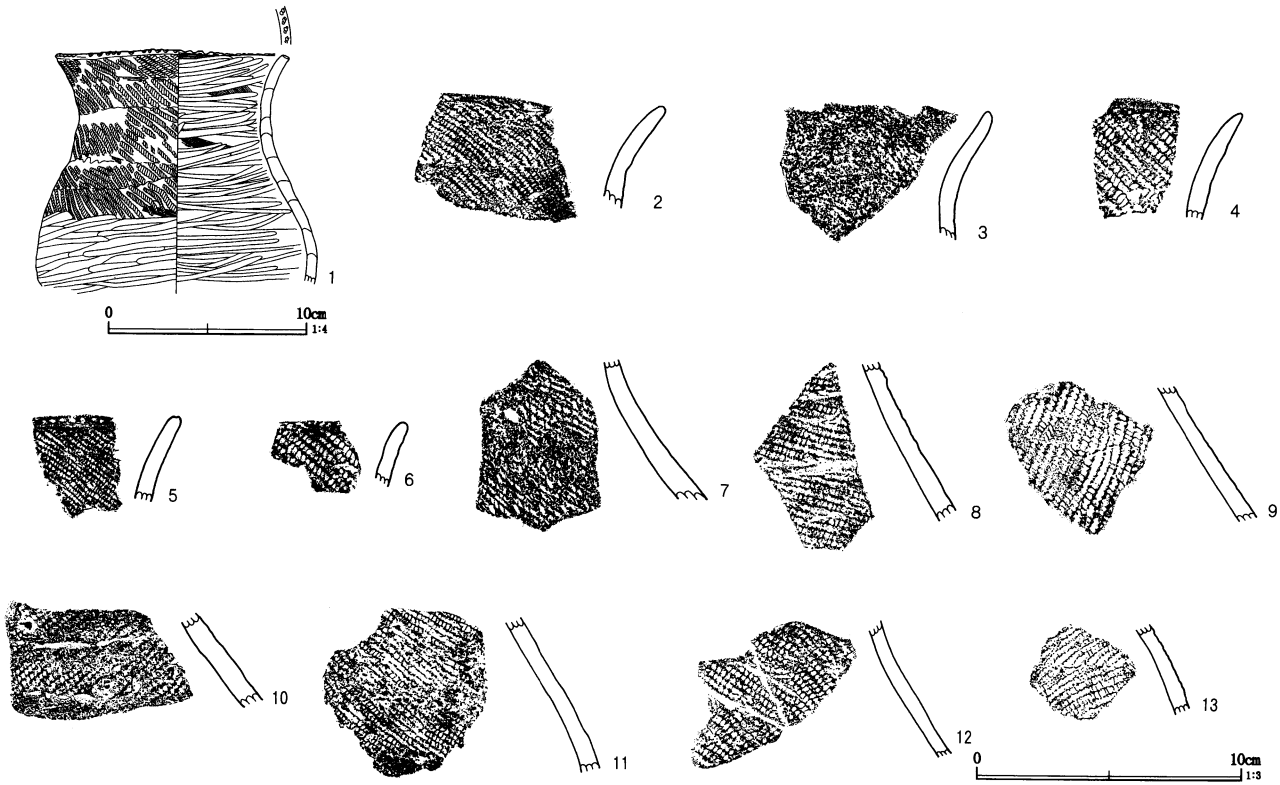
第357図 グリッド・表採出土遺物 (2)

グリッド・表採



第358図 グリッド・表採出土遺物 (3)

グリッド・表採



第359図 グリッド・表採出土遺物 (4)

1 単位、16は 5 本 1 単位の櫛歯状工具による縦走羽状文を施す。17の高環口縁部は内面に細い沈線で鋸歯文を描き、鋸歯文内部に横方向の細い条線を粗く施す。

弥生時代後期～古墳時代初頭

<包含層出土遺物>

第357図 1～27は壺形土器である。1～19は吉ヶ谷式土器、20～27は櫛描文系土器。28、29は櫛描文系の甕形土器である。

1は頸部、肩部に縄文帯を施し、口縁部にかけて赤彩、縦ミガキ、文様帯間に赤彩、ヨコミガキを施す。頸部径は12.4cm。2は縄文系土器群のなかでも極めて良好な焼成で、異なる胎土をもつ。口縁部および肩部に縄文帯を施し、文様帯間および内面にヨコミガキを施す。3の小型壺形土器は外面に一部輪積み痕を残し、外面にRL縄文、内面に丁寧なヨコミガキを施す。口径8.1cm、頸部径7.2cm、現存高6.5cm。4は折り返し口縁を持つ壺の口縁部で、口唇部

に細かいRL縄文、口唇部下端に刻みを施し、口唇部に2本1単位の棒状浮文を貼付けて刻みを入れる。5～7も口縁部で、5、6は肥厚口縁で肥厚部分に縄文を施し、5には棒状浮文を貼付けた形跡がある。8～19は吉ヶ谷式の壺形土器の肩部から胴部の縄文帯部分で、13、14は文様帯間に赤彩を施す。

20～23は口縁部に櫛描波状文を施す。20は口縁部が直線的に開く器形、21、23の口縁部はやや内湾する。22は口縁部を折り返す。24は頸部に簾状文、25は頸部に2本1単位の櫛歯状工具で波状文を施す。26は沈線による鋸歯文とみられ、沈線の上部が赤彩される。27は、肩部に沈線区画の斜格子文帯を施し、以下を赤彩する。28、29は頸部沈線下に鋸歯文を施して文様内部に斜条線を施し、沈線上に円形浮文を貼付ける甕形土器である。

第358図および第359図は甕形土器である。第358図 1～32、37は櫛描文系、33、34は南関東系、35、36は北東関東系とみられる土器群、第359図 1～13は吉ヶ谷式の甕形土器である。壺形土器と甕形土器

の区別がつけ難いものもあり、8、14、15、17、18は壺形土器の可能性もある。

1はハケ調整後、頸部に一条の条線、肩部に6本1単位の櫛歯状工具による2段の櫛描波状文を施す。櫛目は細く、波状文の単位は不規則。2は口唇部にRL縄文、頸部に簾状文、肩部以下に4本1単位の櫛歯状工具による縦羽状文を施す。3～5は口縁部で、頸部に簾状文が施される。4、5は櫛目が太めで、口縁部が短く外に開く器形である。6～15、17～24、29は同様に、頸部に簾状文、肩部以下に櫛描波状文を持つ胴部片である。10は簾状文部分のみ、15、24は波状文の部分のみであるが、本来は簾状文と波状文の組み合わせをもつ土器とみられる。櫛歯状工具には4本1単位のもの(15)、5本1単位のもの(8、9)、8本1単位のもの(11)、9本1単位のもの(12)、10本1単位のもの(22、23)がある。櫛描波状文には、櫛目の揃ったもの(11、12、23)と、揃わずに波状単位も不規則なもの(6、9、13、14、15)がある。16、25は頸部に簾状文のみを施すもので、25には以下に縦羽状文を施す。26～28、30、31は櫛描波状文の胴部片である。櫛目が不揃いで波状の単位が不規則のもの(26～28)と、櫛目が揃い、波状文の振れ幅の短いもの(30、31)がある。32は、細いが単位の揃った櫛歯状工具による波状文と縦羽状文を施している。

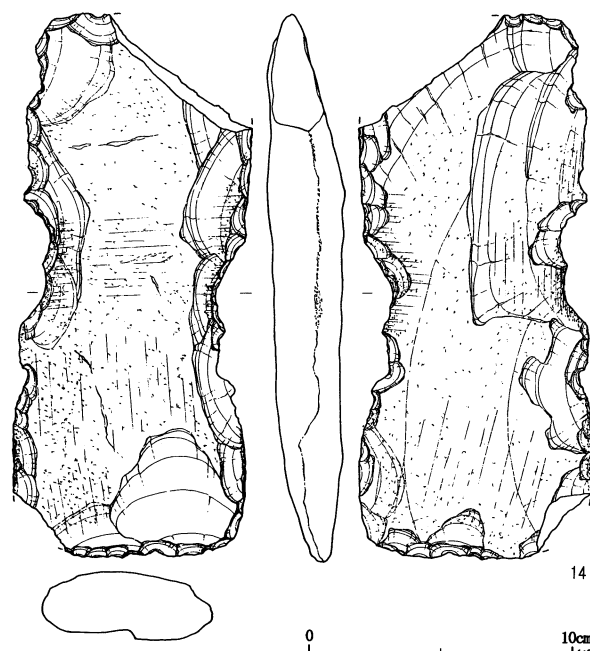
33、34は口唇部および口縁部にキザミをいれる。器面はナデ。

35、36は千葉県北部・茨城県方面の土器とみられ、35は口縁部を折り返して口唇部を工具押圧、36は頸部に無文帯を持ち、胴部以下にRL縄文を施す。

37は、5本1単位の櫛歯状工具で口縁部に3段以上の波状文を施し、同一工具で2条を1単位として縦方向に櫛描波状文を垂下させる。

第359図1の吉ヶ谷式の甕形土器は、口径11.2cm、頸部径9.8cm、胴部最大径14.4cm、現存高12.1cm。ハケ調整の後、輪積み痕に合わせ、6段に分けてRL縄文を施す。胴部下半部は丁寧にヨコミガキをかけ

グリッド・表採



第360図 グリッド・表採出土遺物(5)

る。内面にもヨコミガキを施す。口唇部にもRL縄文を施文。外面には一部煤の付着がみられる。3～6は吉ヶ谷式の甕の口縁部で、3の口唇部には縄文、5にはキザミが施される。7～13は吉ヶ谷式の甕胴部である。

第360図14は弥生時代のものとみられる打製石斧である。長さ20.7cm、幅9.0cm、厚さ3.0cm、重さ616.5gの石質砂岩製である。

グリッド出土遺物

第361図1～18が各遺構内に混入した遺物で、第362図1～第367図128はグリッド出土遺物である。

第361図1・2は器台、3は赤彩の施された鉢、4・5高坏、7～12および18は台付甕である。13～17は壺である。

第362図1～第367図128のうち古墳時代前期の遺物は、12・34の甕底部破片、17の高坏、68の器台などである。古墳時代後期の遺物は9の湖西産須恵器甕、90の坏H蓋、1・24・31の模倣坏、4・10・36・94の土師器甕、37・105の甗、21・27の高坏を

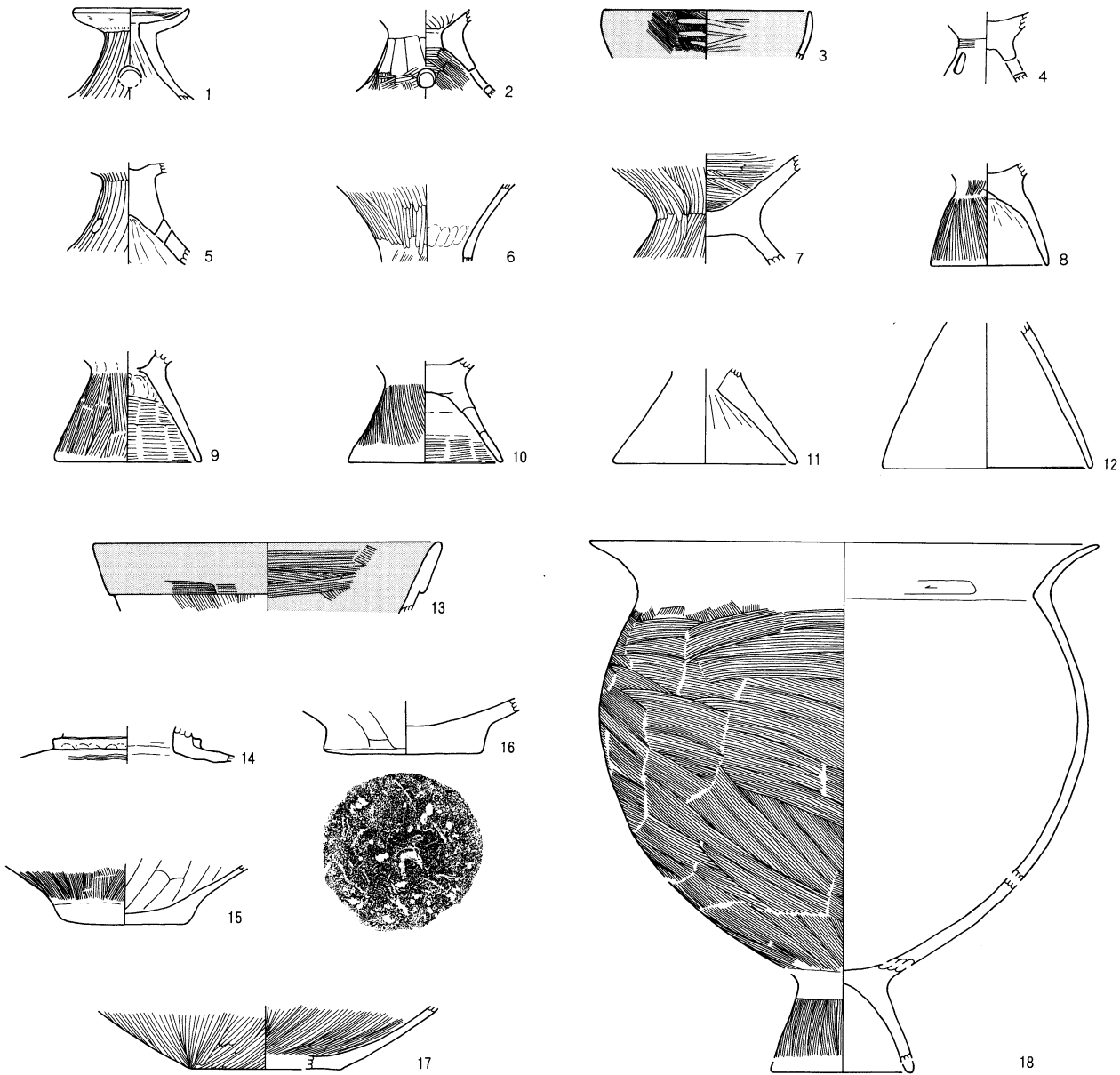
図示した。奈良時代の遺物には、95の須恵器高台坏で東海産のでっちタイプである。この他、2・8・15・32・33・44~45の武蔵型坏などがある。また、平安時代の遺物としては、49・50の須恵器坏、7・38~40・51~54の高台付埴、羽釜、25の平瓦などである。灰釉陶器は41・73・74・89・92・97・102・103である。土鍾は3個を掲載した。また、石製模造品は11点である。117のような未製品も検出されている。中世の遺物は、104の内耳鍋、125~126は古銭で、いずれも鎌倉時代に明から輸入されたものである。125は判読できず不明である。126は

皇宋通宝（初年1068年）、127は大観通宝（初年976年）である。

表採遺物

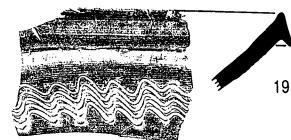
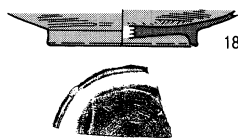
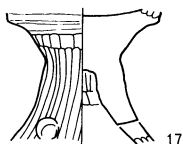
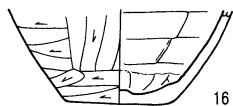
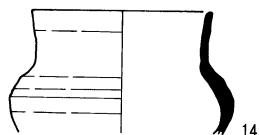
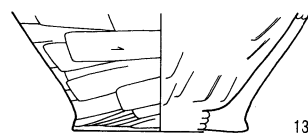
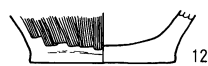
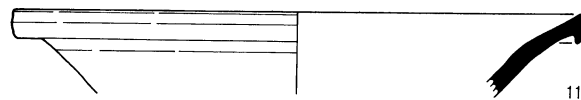
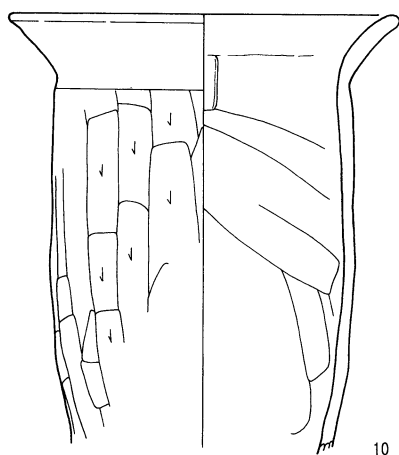
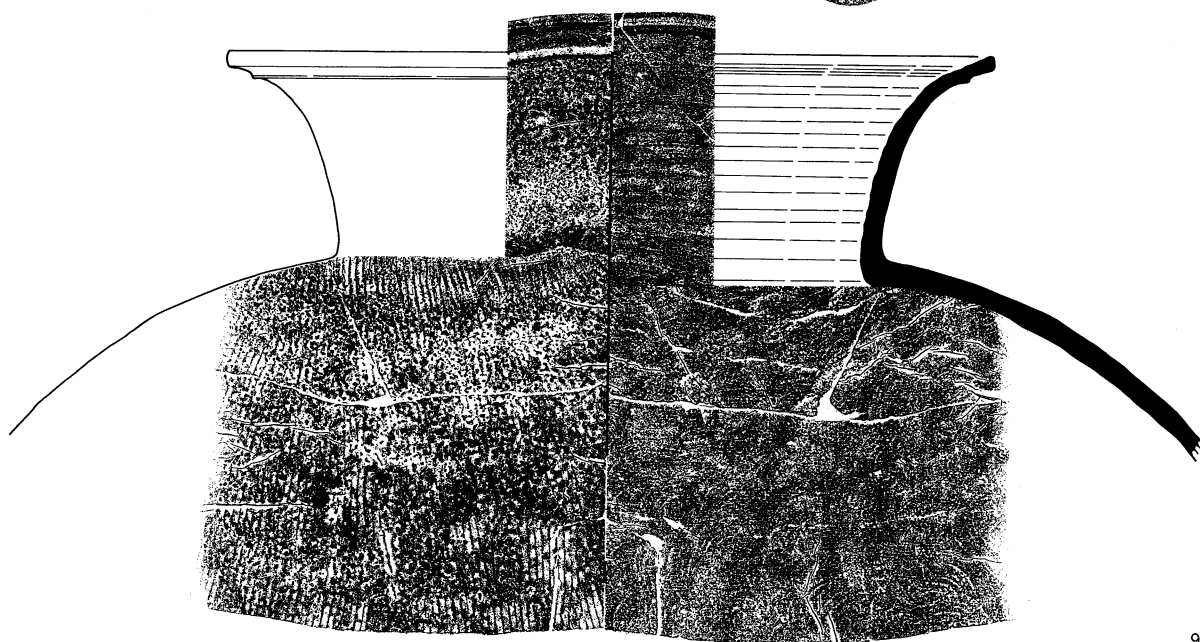
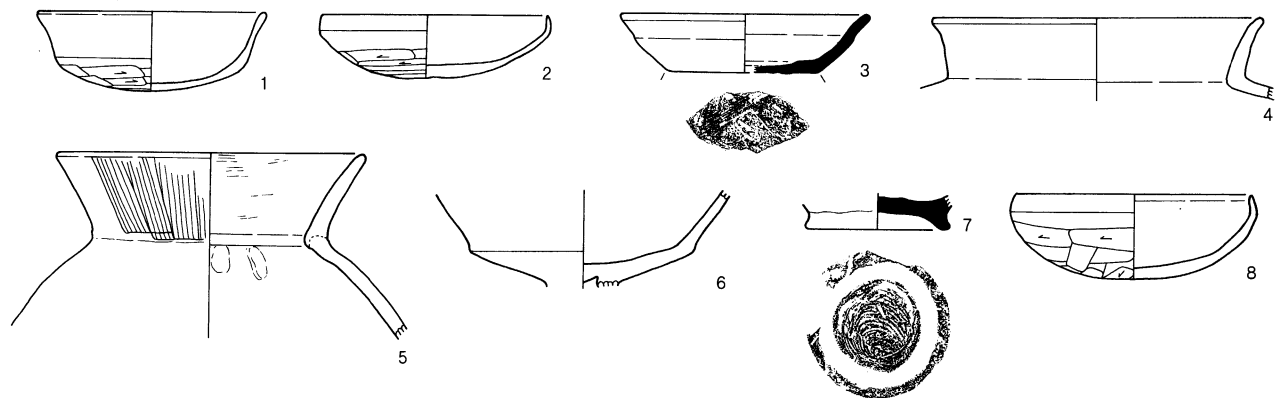
第368図1から371図119である。古墳時代後期の遺物には、1の須恵器坏H蓋、2の坏G蓋、3・5の湖西産坏身などがみられる。土師器には、31~35・45の模倣坏、36~38の比企型坏、39~44の北武蔵型坏、53~56の高坏がある。奈良時代の遺物には、43の北武蔵型坏、47の皿がある。また、平安時代の遺物としては、11~20の須恵器坏、21~26の高台付埴、27の羽釜、29の壺などである。30は巨大な脚部で時

グリッド・表採



第361図 グリッド・表採出土遺物（6）

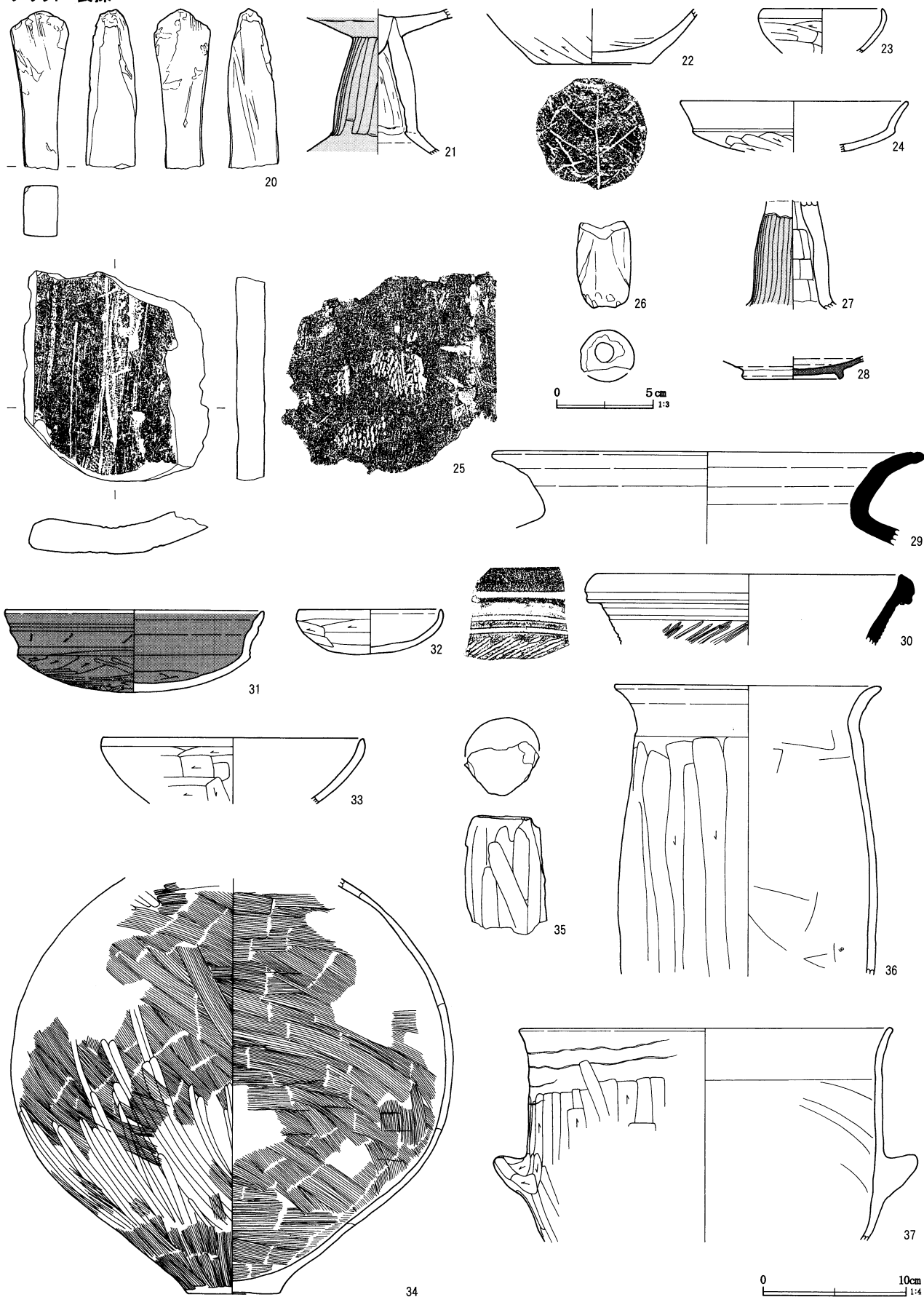
グリッド・表採



0 10cm 1:4

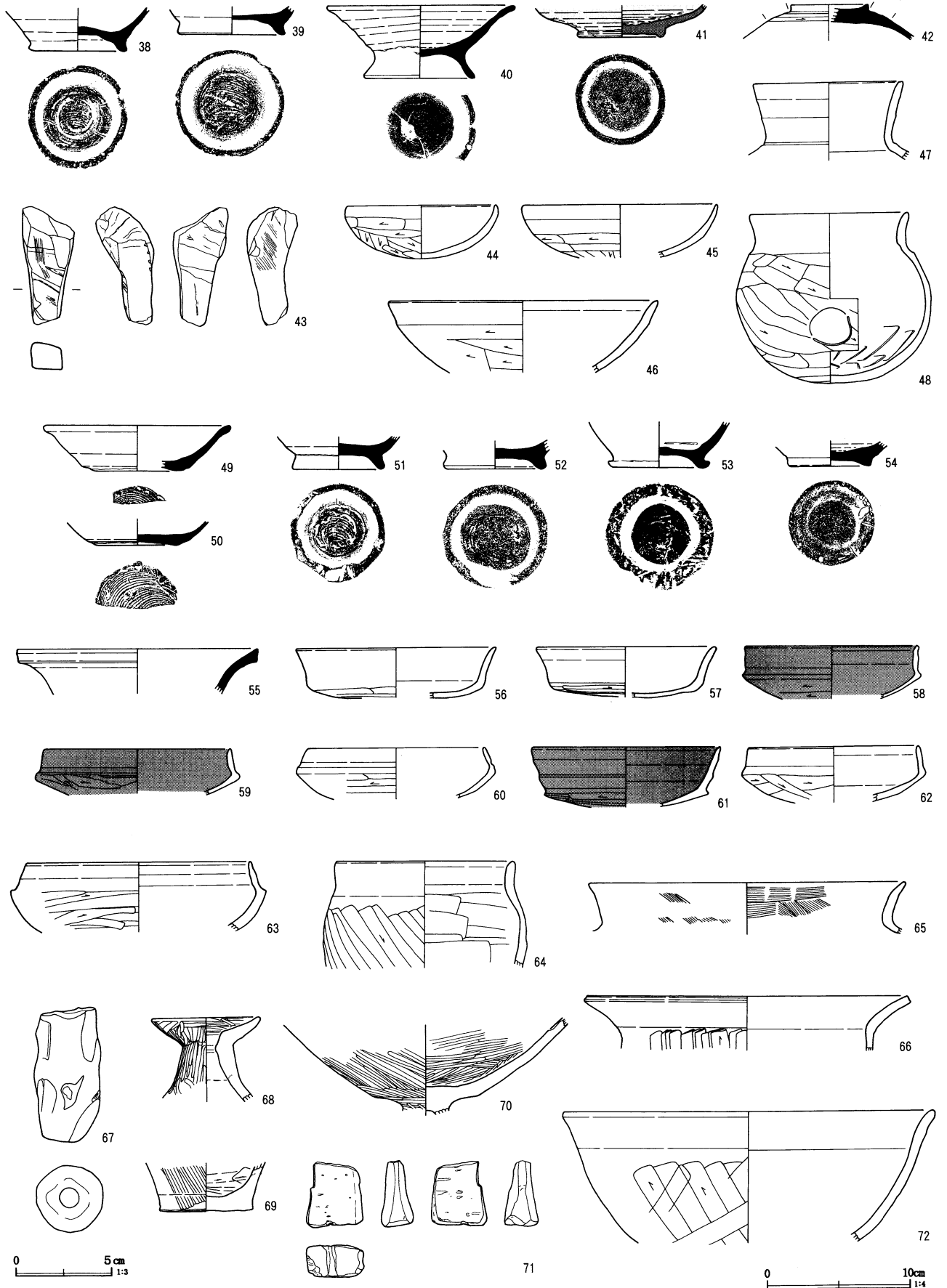
第362図 グリッド・表採出土遺物 (7)

グリッド・表採



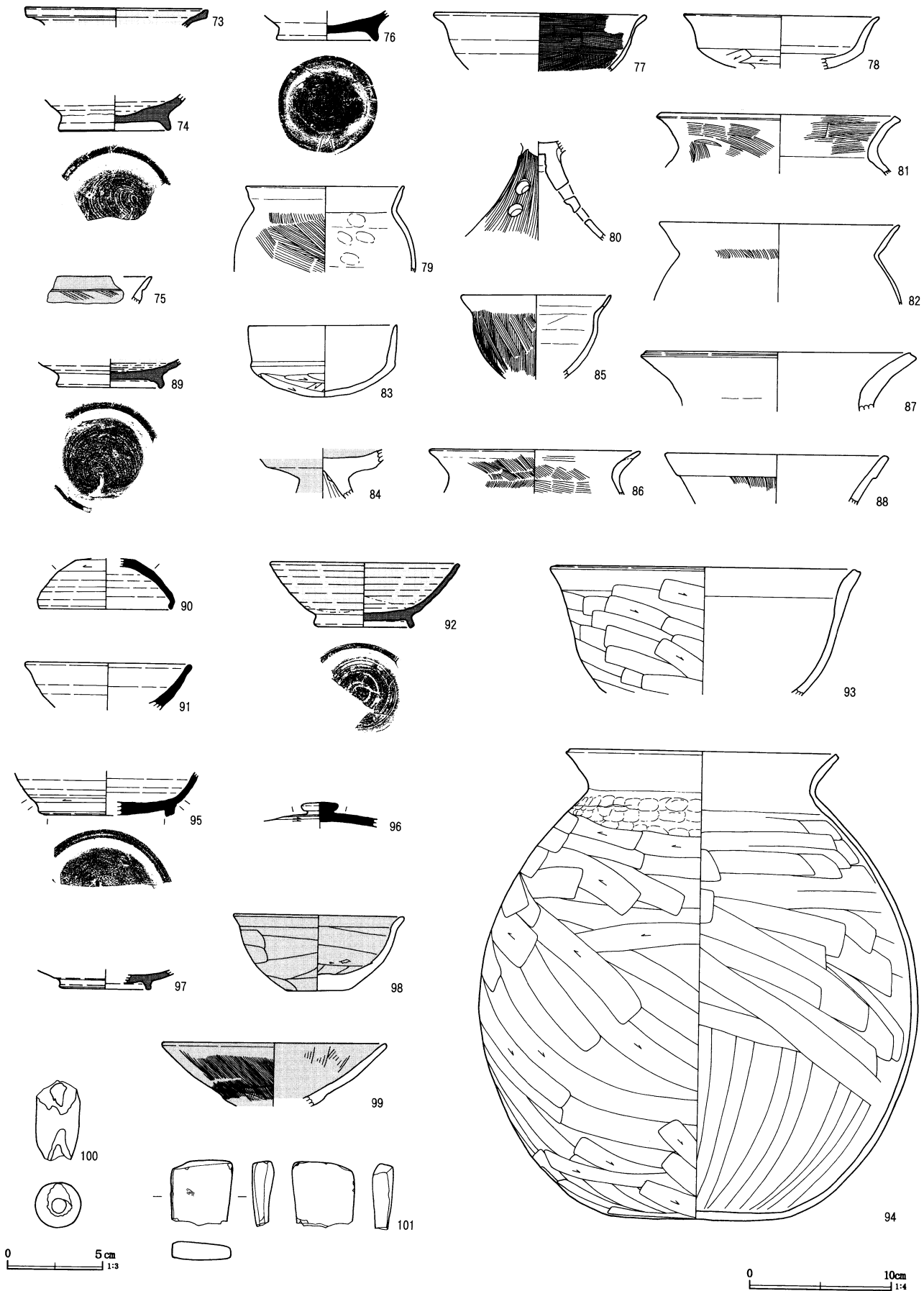
第363図 グリッド・表採出土遺物 (8)

グリッド・表採



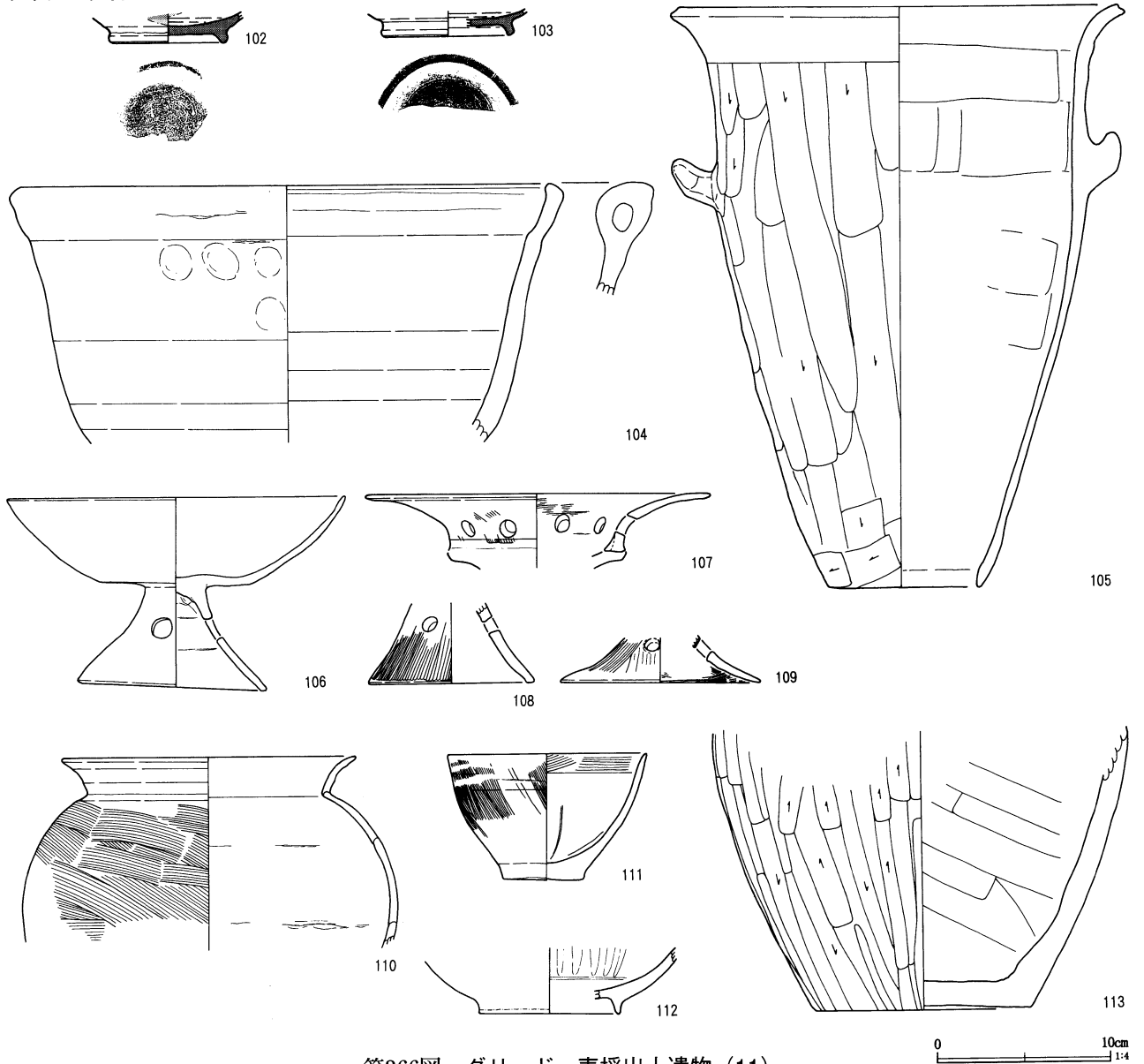
第364図 グリッド・表採出土遺物 (9)

グリッド・表採



第365図 グリッド・表採出土遺物 (10)

グリッド・表採

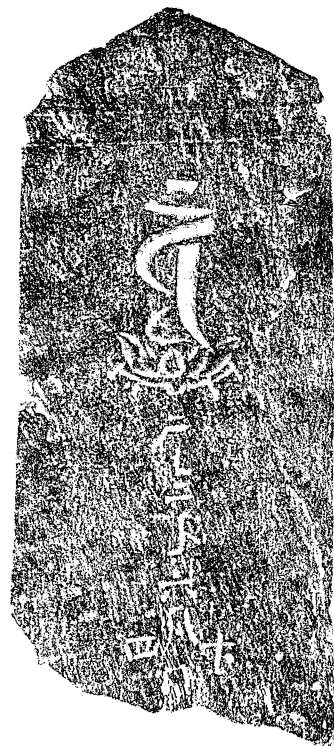
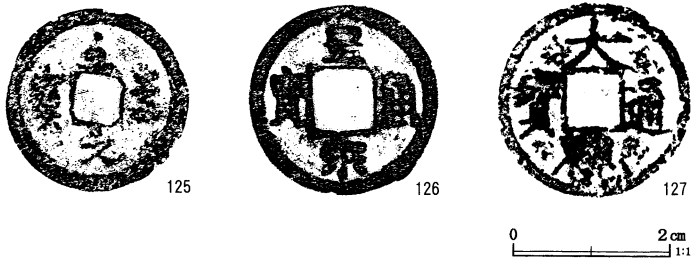
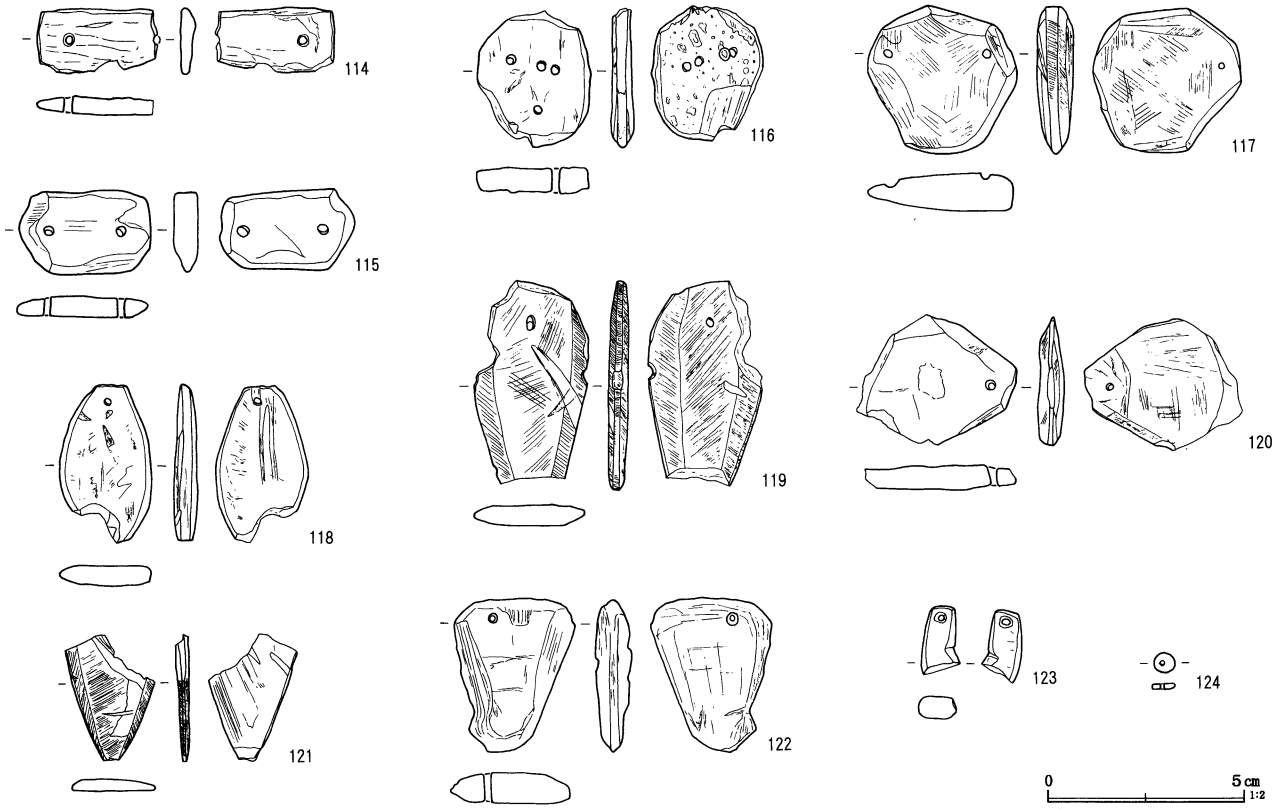


第366図 グリッド・表採出土遺物 (11)

期不明である。緑釉陶器は80から85、99の香炉蓋である。この蓋は、宝珠つまみで、四枚の花弁に間弁に透かし巡る。外縁にも花弁が刻まれ、4個一単位になる猪の目の透かしがつく。灰釉陶器は、86～101の皿、碗、輪花碗、段皿、耳皿である。土錘は9個を掲載した。遺跡全体で検出した土錘は33個である。川本町の如意遺跡では古墳時代後期の集落から3258個の土錘を検出した。本遺跡が和田吉野川の流域であっても生業が漁労でないこと示唆する。ま

た、石製模造品は遺跡全体で15点である。未製品も検出されており、玉造工房は発見されていないが、近接した場所にあると考えられる。鉄製品は極めて少なく、第371図117は小型の鎌の刃部である。中世の遺物は、74が小皿、77は常滑甕、78は鉢である。118・119は古銭で、いずれも鎌倉時代に明から輸入されたものである。118は熙寧元宝（初年1068年）、119は太平通宝（初年976年）である。

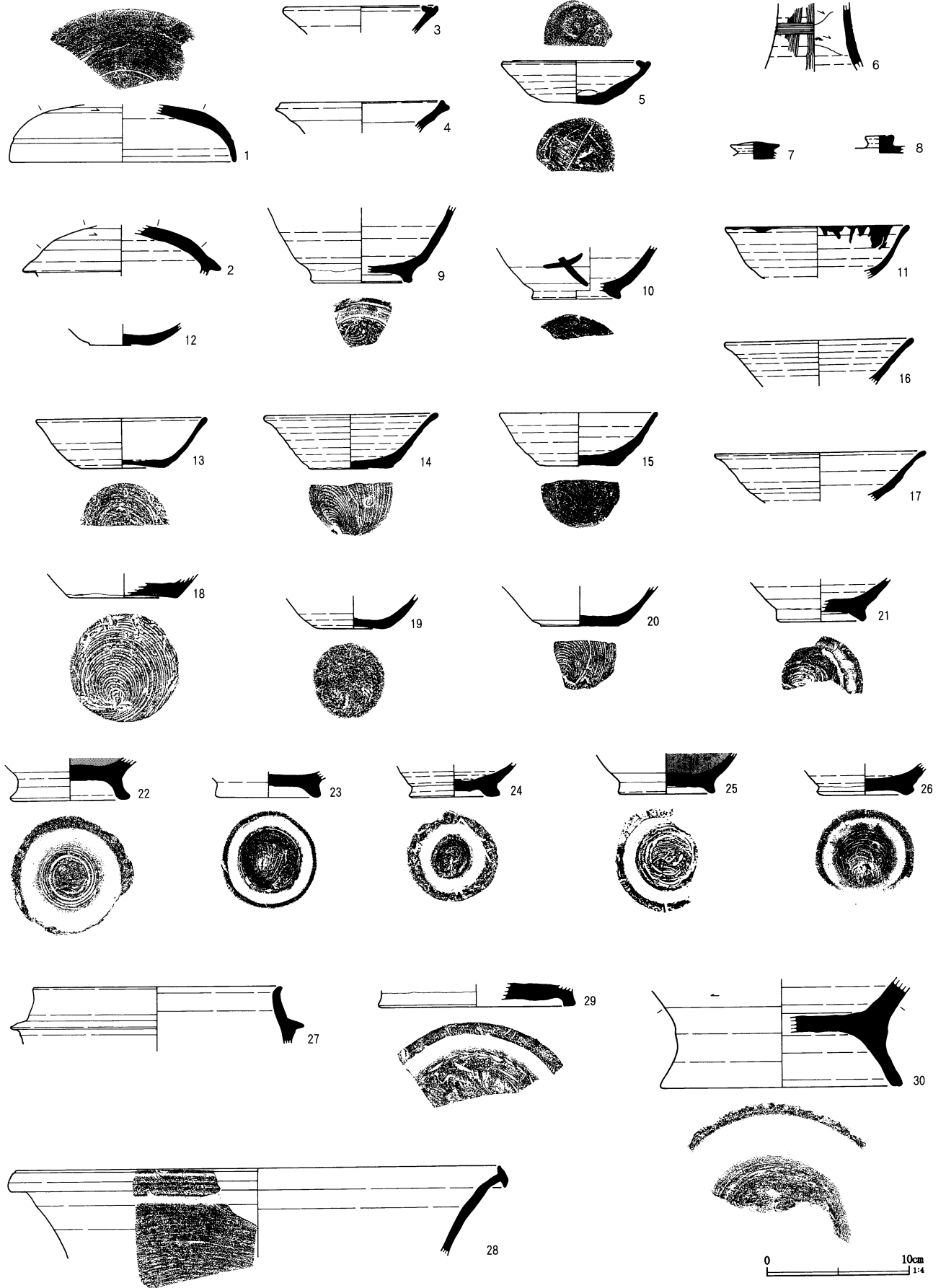
グリッド・表採



0 10cm 1:4

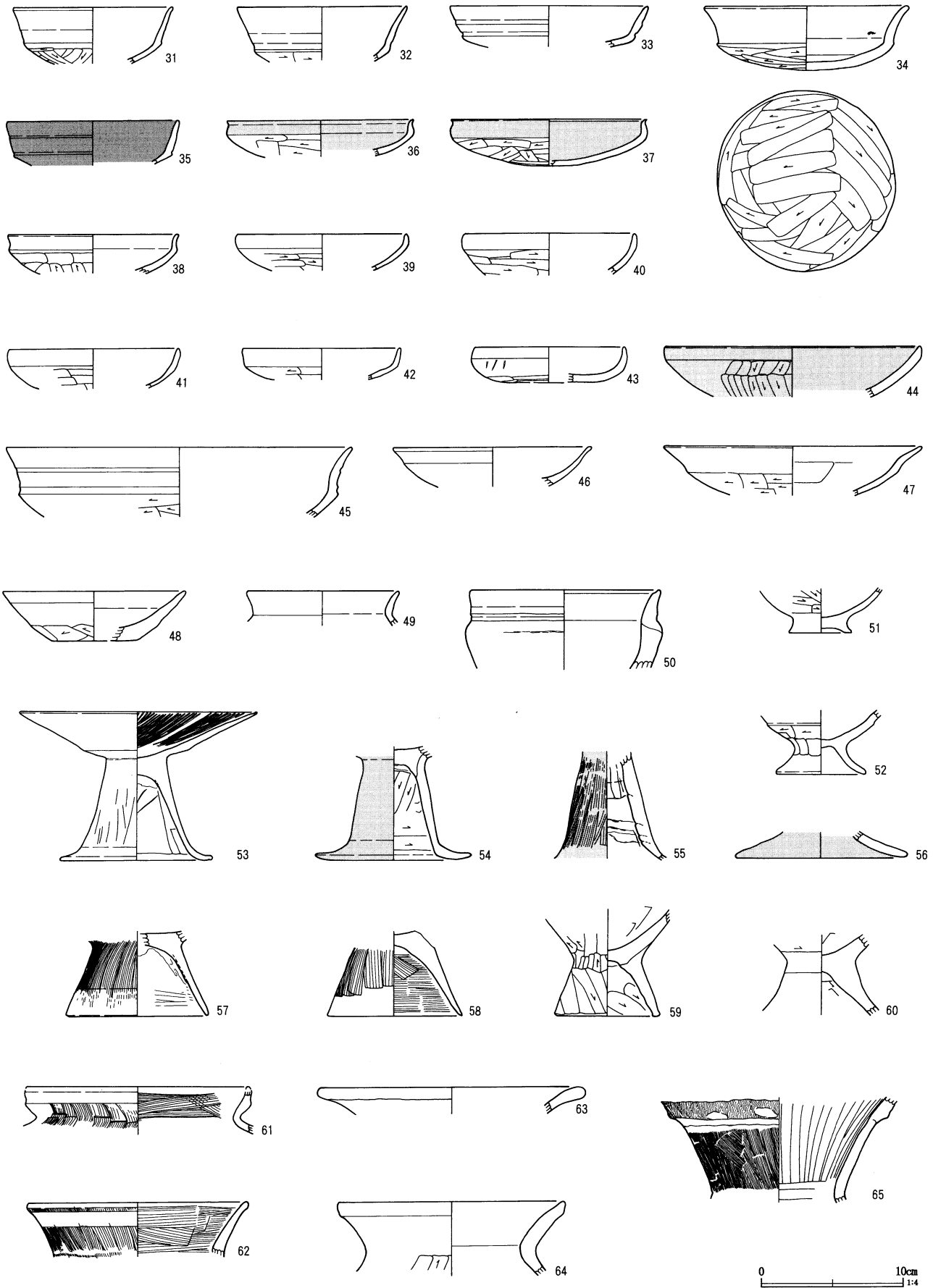
第367図 グリッド・表採出土遺物 (12)

グリッド・表採



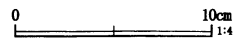
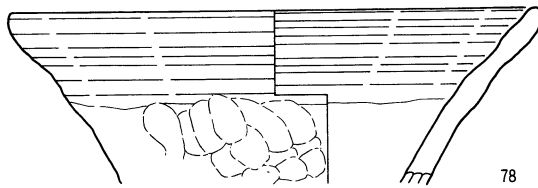
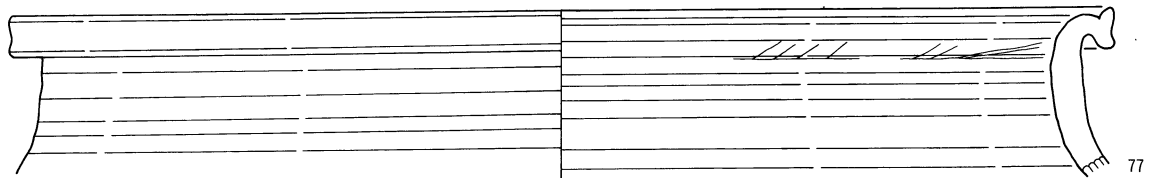
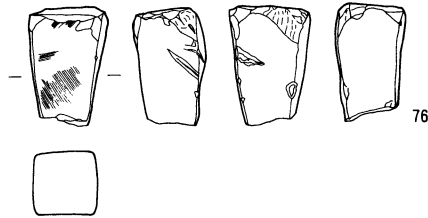
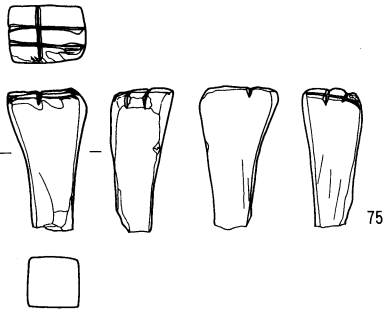
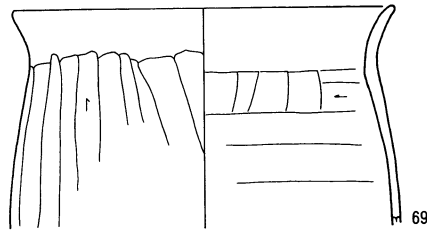
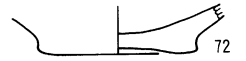
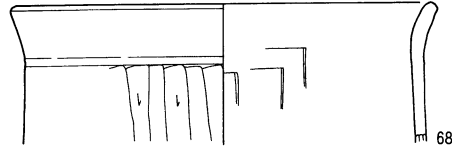
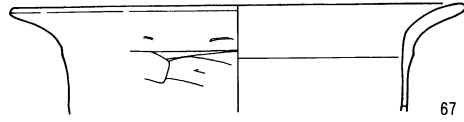
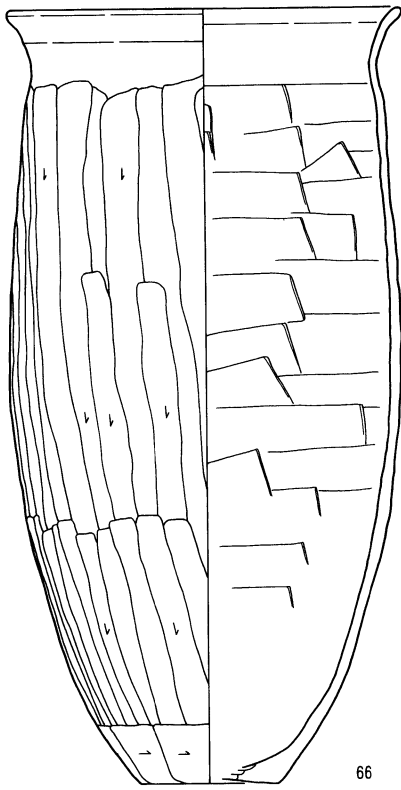
第368図 グリッド・表採出土遺物 (13)

グリッド・表採



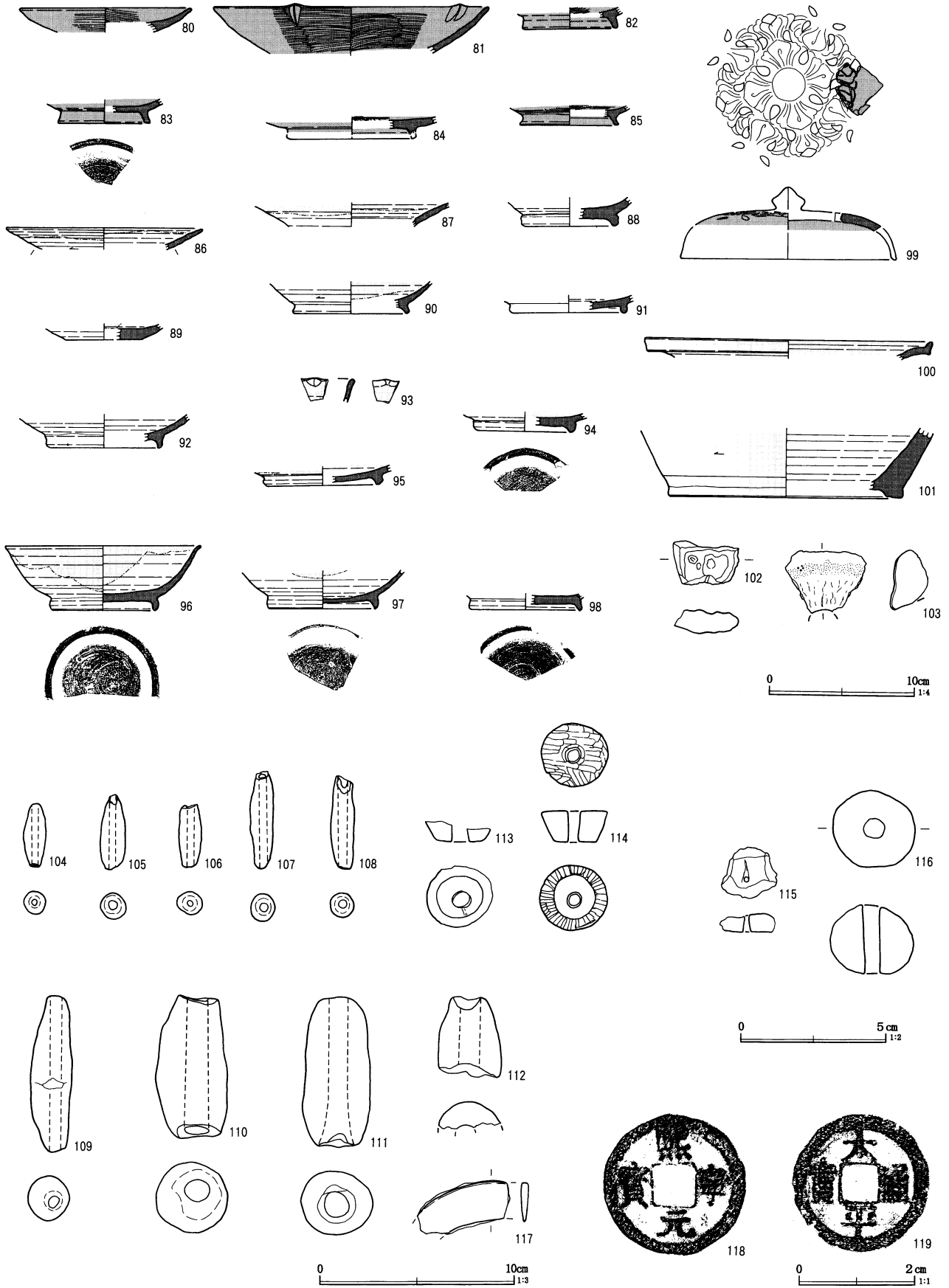
第369図 グリッド・表採出土遺物 (14)

グリッド・表探



第370図 グリッド・表探出土遺物 (15)

グリッド・表採



第371図 グリッド・表採出土遺物 (16)

グリッド・表採等遺物観察表

挿図番号	種別	器種	備考	残存	胎土	焼成	色調	出土位置	図版
356 1	弥生土器	甕	胴部櫛描波状文、頸部櫛描簾状文	破片	雲 白粒	良好	褐灰	SH-2	82
356 2	弥生土器	鉢	タテハケ調整	破片	雲 砂粒 白粒	良好	にぶい橙	SE-77	82
356 3	弥生土器	壺	頸部突帯に縄文施文	破片	砂粒	普通	にぶい橙	SD-16	82
356 4	弥生土器	壺	頸部沈線	破片	砂粒 白粒	普通	橙	SH-3北側	82
356 5	弥生土器	壺	細い条線による鋸歯文	破片	砂粒 赤粒	良好	淡黄橙	E-13g	82
356 6	弥生土器	甕	ヘラによる「コ」の字重ね	破片	砂粒 雲	普通	暗褐	SJ-18	82
356 7	弥生土器	壺	櫛描直線文にヘラ描垂下文	破片	砂粒	良好	橙	SD-50	82
356 8	弥生土器	壺	ヘラ描沈線文	破片	白粒 砂粒	普通	灰黄褐	SD-16・C-10g	82
356 9	弥生土器	壺	頸部突帯にキザミ	破片	赤粒 砂粒	普通	浅黄橙	粉っぼい	82
356 10	弥生土器	甕	ハケ調整、口唇部外面押圧	破片	角 砂粒	普通	灰黄褐	内、外面ハケ	82
356 11	弥生土器	甕	頸部櫛描簾状文	破片	白粒 角	良好	褐灰	SD-16・16	82
356 12	弥生土器	甕	頸部櫛描簾状文	破片	砂粒 白粒	普通	灰黄褐	SE-43・C-9g	82
356 13	弥生土器	甕	櫛描斜格子文	破片	雲 砂粒	良好	にぶい橙	D-13g	82
356 14	弥生土器	甕	櫛描斜格子文	破片	雲 白粒	普通	にぶい褐	SD-16	82
356 15	弥生土器	甕	櫛状工具による縦羽状文	破片	黒粒 白粒	良好	灰褐	西区表採	82
356 16	弥生土器	甕	櫛状工具による縦羽状文	破片	雲 砂粒	良好	にぶい褐	SD-16	82
356 17	弥生土器	高坏	口縁内面鋸歯文内線状痕	破片	赤粒 砂粒	良好	橙	SJ-18	82
357 1	弥生土器	壺	頸部、肩部縄文帯、文様帯間赤彩ミガキ	破片	砂粒	普通	にぶい橙	SE-39	83
357 2	弥生土器	壺	口縁部、頸部縄文帯	破片	砂粒	良好	にぶい橙	SE-4	83
357 3	弥生土器	小型壺	R L縄文、内面ミガキ	破片	雲 石英	良好	赤黒	SE-39	83
357 4	弥生土器	壺	折返しに縁、内面赤彩	破片	雲 石英 砂粒	良好	灰黄褐	SD-80	83
357 5	弥生土器	壺	肥厚口縁部R L縄文施文	破片	砂粒	普通	灰褐	SD-16	83
357 6	弥生土器	壺	肥厚口縁部L R縄文施文	破片	雲 砂粒	普通	にぶい黄橙	SK-98	83
357 7	弥生土器	壺	口縁部外面R L縄文施文	破片	石英 砂粒	普通	にぶい橙	SJ-13	83
357 8	弥生土器	壺	肩部L R縄文施文	破片	雲 白粒	良好	浅黄橙	C-13g	83
357 9	弥生土器	壺	肩部R L縄文施文	破片	雲 石英 砂粒	普通	橙	西区表採	83
357 10	弥生土器	壺	胴部L R縄文施文	破片	石英 砂粒	普通	にぶい黄橙	D-18g	83
357 11	弥生土器	壺	胴部L R縄文帯	破片	砂粒	普通	浅黄橙	外面縄文	83
357 12	弥生土器	壺	胴部R L縄文帯	破片	砂粒 石英	普通	灰白	C-13g	83
357 13	弥生土器	壺	R L縄文帯、文様帯間赤彩	破片	雲 石英	普通	にぶい黄橙	外面赤色	83
357 14	弥生土器	壺	R L縄文帯、文様帯間赤彩	破片	雲 砂粒	普通	にぶい浅黄	外面赤彩	83
357 15	弥生土器	壺	胴部R L縄文帯	破片	石英 雲	良好	灰黄褐	SJ-13	83
357 16	弥生土器	壺	胴部L R縄文帯	破片	雲 石英	普通	にぶい黄橙	SE-13	83
357 17	弥生土器	壺	胴部R L縄文帯	破片	砂粒	普通	にぶい橙	SB-4・P-1	83
357 18	弥生土器	壺	胴部R L縄文帯	破片	石英 砂粒	良好	にぶい橙	P-500	83
357 19	弥生土器	壺	胴部R L縄文帯	破片	砂粒 雲	良好	灰白	SD-18	83
357 20	弥生土器	壺	口縁部櫛描波状文、外面赤彩	破片	砂粒 白粒	普通	灰白	SD-50	83
357 21	弥生土器	壺	口縁部櫛描波状文	破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	浅黄	SD-50	83
357 22	弥生土器	壺	肥厚口縁部櫛描波状文内・外面赤彩	破片	石英 白粒 砂粒	普通	にぶい橙	SD-16	83
357 23	弥生土器	壺	口縁部櫛描波状文	破片	砂粒	普通	橙	SJ-13	83
357 24	弥生土器	壺	頸部簾状文	破片	砂粒 赤粒	良好	橙	SJ-18	83
357 25	弥生土器	壺	頸部櫛描波状文	破片	石英 砂粒	普通	灰白	SD-18	83
357 26	弥生土器	壺	胴部鋸歯文、赤彩	破片	砂粒 白粒	普通	にぶい橙	SD-18	83
357 27	弥生土器	壺	沈線区画文帯内斜格子文、赤彩	破片	砂粒 赤粒	普通	にぶい橙	表採	83
357 28	弥生土器	甕	肩部鋸歯文、円形浮文	破片	赤粒 白粒 砂粒	普通	橙	SD-44	83
357 29	弥生土器	甕	肩部鋸歯文、円形浮文	破片	砂粒	普通	にぶい黄橙	SJ-3	83
358 1	弥生土器	甕	口唇部キザミ、肩部櫛描波状文	破片	砂粒 小礫	良好	褐灰	SD-10	84
358 2	弥生土器	甕	口唇部縄文、頸部簾状文、胴部櫛描縦羽状文	破片	砂粒 黒粒	良好	灰黄褐	C-11g・表採	84
358 3	弥生土器	甕	頸部簾状文	破片	雲 石英 赤粒	良好	明赤褐	表採	84
358 4	弥生土器	甕	頸部簾状文、肩部波状文	破片	砂粒 角	普通	にぶい赤褐	SE-39	84
358 5	弥生土器	甕	頸部簾状文	破片	砂粒 角	普通	黒褐	SD-6	84
358 6	弥生土器	甕	頸部簾状文、肩部櫛描波状文	破片	砂粒 角 白粒	普通	灰黄褐	SD-18	84
358 7	弥生土器	甕	頸部簾状文、肩部櫛描波状文	破片	赤粒 砂粒	良好	にぶい橙	SJ-22	84

グリッド・表採等遺物観察表

挿図番号	種別	器種	備考	残存	胎土	焼成	色調	出土位置	図版
358 8	弥生土器	甕	頸部簾状文2段、肩部櫛描波状文	破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	SD-50	84
358 9	弥生土器	甕	頸部簾状文、肩部櫛描波状文	破片	砂粒	良好	黒	SJ-18	84
358 10	弥生土器	甕	頸部簾状文	破片	砂粒 赤粒	良好	橙	SJ-22・P-5	84
358 11	弥生土器	甕	頸部簾状文、肩部櫛描波状文	破片	雲 砂粒	普通	黒	SJ-13	84
358 12	弥生土器	甕	頸部簾状文、肩部櫛描波状文	破片	赤粒 砂粒	普通	にぶい黄橙	SE-39	84
358 13	弥生土器	甕	頸部櫛描簾状文、肩部櫛描波状文	破片	砂粒	良好	褐灰	SJ-13	84
358 14	弥生土器	甕	頸部簾状文、肩部櫛描波状文	破片	赤粒 砂粒	普通	にぶい橙	SJ-15	84
358 15	弥生土器	甕	肩部櫛描波状文	破片	雲 砂粒	普通	淡黄橙	SD-44	84
358 16	弥生土器	甕	頸部簾状文、胴部櫛描縦波状文	破片	雲 砂粒	普通	にぶい黄橙	SD-44	84
358 17	弥生土器	甕	頸部簾状文、肩部櫛描波状文	破片	砂粒	良好	褐灰	SD-18	84
358 18	弥生土器	甕	頸部簾状文、肩部櫛描波状文	破片	砂粒 赤粒	良好	橙	P-47g	84
358 19	弥生土器	甕	頸部簾状文、肩部櫛描波状文	破片	砂粒 白粒	良好	灰褐	内面黒色	84
358 20	弥生土器	甕	頸部簾状文、肩部櫛描波状文	破片	赤粒 砂粒	普通	にぶい橙	D-16g	84
358 21	弥生土器	甕	頸部簾状文、肩部櫛描波状文	破片	砂粒 赤粒	普通	にぶい橙	SJ-13	84
358 22	弥生土器	甕	頸部簾状文、肩部櫛描波状文	破片	石英 砂粒	良好	明赤褐	C-11g	84
358 23	弥生土器	甕	肩部櫛描波状文	破片	赤粒 砂粒	普通	にぶい黄橙	SD-3 I	84
358 24	弥生土器	甕	肩部櫛描波状文・胴部櫛描縦羽状文	破片	砂粒 赤粒	普通	にぶい橙	3D-3 I	84
358 25	弥生土器	甕	頸部簾状文、胴部櫛描羽状文	破片	角 砂粒	普通	黄橙	SJ-29・P-3	84
358 26	弥生土器	甕	胴部櫛描波状文	破片	雲 砂粒	普通	にぶい褐	SD-44・G-15.16g	84
358 27	弥生土器	甕	胴部櫛描波状文	破片	雲 白粒 砂粒	普通	褐灰	SE-45・C-9g	84
358 28	弥生土器	甕	胴部櫛描波状文	破片	砂粒 赤粒	普通	褐灰	SJ-18	84
358 29	弥生土器	甕	頸部簾状文、肩部櫛描波状文	破片	砂粒 白粒	普通	にぶい橙	SJ-12	84
358 30	弥生土器	甕	胴部櫛描波状文	破片	砂粒	普通	浅黄	SE-39	84
358 31	弥生土器	甕	胴部櫛描波状文	破片	砂粒 赤粒	良好	にぶい赤褐	SE-39	84
358 32	弥生土器	甕	胴部櫛描波状文、縦羽状文	破片	砂粒	普通	にぶい黄橙	SJ-18	84
358 33	弥生土器	甕	口唇部キザミ	破片	砂粒 白粒	普通	にぶい橙	SR-2	84
358 34	弥生土器	甕	口唇部外面キザミ	破片	砂粒 角 白粒	普通	にぶい橙	SJ-3	84
358 35	弥生土器	甕	肥厚口縁、口唇部工具押圧	破片	砂粒	普通	褐灰	SJ-24	84
358 36	弥生土器	甕	肩部無文帯、R L縄文	破片	砂粒 石英	良好	灰黄褐	C-13g	84
358 37	弥生土器	甕	口縁部櫛描波状文、櫛描波状垂下文	破片	砂粒 赤粒 白粒	良好	にぶい橙	SD-50	84
359 1	弥生土器	甕	口唇部、胴部R L縄文、ヨコミガキ	1/2	砂粒	普通	灰黄褐	SE-39	81
359 2	弥生土器	甕	口唇部、口縁部R L縄文	破片	砂粒 白粒	良好	にぶい赤褐	S H-2	82
359 3	弥生土器	甕	口縁部R L縄文	破片	砂粒 白粒	普通	にぶい黄橙	C-10g	82
359 4	弥生土器	甕	口縁部R L縄文	破片	雲 砂粒	良好	にぶい橙	SJ-13	82
359 5	弥生土器	甕	口唇部キザミ、口縁部R L縄文	破片	砂粒 石英	普通	にぶい黄橙	C-16g	82
359 6	弥生土器	甕	口縁部R L縄文	破片	砂粒	良好	にぶい橙	西区表採	82
359 7	弥生土器	甕	胴部R L縄文	破片	砂粒 石英	普通	にぶい黄橙	C-10g	82
359 8	弥生土器	甕	胴部R L縄文	破片	石英 砂粒	良好	灰黄褐	SJ-22	82
359 9	弥生土器	甕	胴部L R縄文	破片	石英 砂粒	普通	にぶい黄橙	SD-18・SJ-3	82
359 10	弥生土器	甕	胴部L R縄文	破片	石英 砂粒	良好	にぶい褐	B-9g・SK-110	82
359 11	弥生土器	甕	胴部R L縄文、外面煤	破片	砂粒	良好	黒	外面炭化物付着	82
359 12	弥生土器	甕	胴部R L縄文、外面煤	破片	砂粒 白粒	普通	にぶい橙	C-11g	82
359 13	弥生土器	甕	胴部L R縄文	破片	砂粒 白粒	良好	橙	SD-18	82

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
361 1	SJ	13	土師器	器台	6.6	[5.2]	2/3	黒粒	良好	褐	二方透	
361 2	SJ	13	土師器	器台		[5.1]	1/3	雲 石英 赤粒	普通		四方透	
361 3	P	410	土師器	鉢	(12.0)	[2.8]	破片	雲 角 赤粒	良好	赤	赤彩	
361 4	D	16	土師器	高坏		[4.1]	脚部のみ	雲 石英 赤粒	普通	淡褐	三方透	
361 5	D	16	土師器	高坏		[5.8]	1/3	雲 石英	普通	赤褐	三方透	
361 6	SJ	29	土師器	台付甕		[4.4]	台部のみ	角 砂粒	普通	褐		
361 7	SE	39	土師器	台付甕		[6.3]	台部のみ	雲 砂粒	普通	灰黄	煤付着	
361 8	SJ	19	土師器	台付甕		[5.9]	(6.8) 台部のみ	角 石英 赤粒 礫	普通	橙褐		

グリッド・表採等遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版	
361	9	SJ	3	土師器	台付甕		[6.4]	(8.4)	上部のみ	雲 角	普通	褐	
361	10	SJ	19	土師器	台付甕		[5.9]	(9.0)	上部のみ	雲 角 石英	普通	褐	No11
361	11	SJ	12	土師器	台付甕		[5.4]	(10.8)	上部1/4	雲 石英 砂粒	普通	褐	
361	12	SE	39	土師器	台付甕		[8.3]	(12.2)	上部破片	砂粒 白粒	普通	にぶい黄橙	
361	13	SJ	37	土師器	壺	(20.0)	[4.0]		破片	角 砂粒 赤粒	良好	にぶい橙	赤彩
361	14	SJ	37	土師器	壺		[2.2]		破片	雲 赤粒 礫	普通	褐	
361	15	SE	28	土師器	壺		3.4	7.2	底部のみ	雲 石英 赤粒	普通	茶褐	
361	16	SK	24	土師器	壺		[3.0]	9.3	底部のみ	片 石英 赤粒	普通	淡褐	No1
361	17	SE	39	土師器	壺		[3.6]	(8.8)	底部破片	雲	良好	褐	煤付着
361	18	F	17	土師器	台付甕	(29.0)	[29.8]		2/3	砂粒 赤粒 礫	普通	橙	
362	1	B	8	土師器	坏	(11.8)	[3.9]		1/2	雲 角 砂粒	良好	浅黄橙	
362	2	B	9	土師器	坏	(11.5)	3.3		1/2	角 石英 白粒	普通	橙	
362	3	C	8	須恵器	坏	(12.4)	[2.9]	(8.0)	1/3	石英 黒粒	良好	灰	手持ちヘラ
362	4	C	8	土師器	甕	(16.6)	[4.2]		破片	雲 角 砂粒	普通	黒褐	
362	5	C	9	土師器	壺	(15.7)	[9.4]		口縁破片	雲 角 石英 赤粒	普通	にぶい褐	
362	6	C	9	土師器	高坏		[5.0]		坏部1/3	雲 角 赤粒 白粒	不良	にぶい橙	
362	7	C	10	須恵器	高台付壺		[1.8]	7.4	底部のみ	砂粒 白粒 針	良好	褐灰	
362	8	C	11	土師器	坏	(12.0)	4.3		1/3	雲 角 石英 赤粒	普通	橙	
362	9	C	12	須恵器	甕	38.5	[20.5]		口縁1/4	砂粒 白粒	良好	灰白	自然釉
362	10	C	12	土師器	甕	19.6	[22.0]		1/3	雲 角 赤粒 白粒 礫	普通	にぶい橙	
362	11	C	12	須恵器	甕	(29.0)	[4.2]		口縁破片	白粒	普通	黒褐	自然釉
362	12	C	12	土師器	甕		[2.6]	(7.4)	底部破片	角 砂粒	普通	にぶい橙	
362	13	C	13	土師器	壺		[6.0]	(9.0)	底部破片	雲 石英 赤粒	普通	内橙 外褐	
362	14	C	14	須恵器	短頸壺	(9.2)	[6.2]		破片	石英 砂粒	良好	黒	
362	15	C	15	土師器	坏	(9.4)	[3.3]		1/3	雲 赤粒 礫	普通	橙	
362	16	C	12	土師器	甕		[4.8]	(5.4)	底部のみ	角 砂粒 赤粒	普通	にぶい橙	
362	17	C	14	土師器	高坏		[6.8]		2/3	石英 砂粒	良好	浅黄	三方透
362	18	C	15	緑釉陶器	皿		[1.8]	(7.6)	破片	白粒	良好	灰 釉暗オリブ	猿投
362	19	C	17	須恵器	甕		[4.0]		口縁破片	石英 白粒	普通	褐灰	
363	20	D	7	石製品	砥石	長11.1	幅2.4	厚3.5					
363	21	D	8	土師器	高坏		[10.1]		脚部1/2	砂粒 白粒 礫	普通	にぶい橙	赤彩
363	22	D	8	土師器	甕		[3.9]	7.8	底部のみ	角 石英 砂粒 赤粒	普通	橙	底部木葉痕
363	23	D	9	土師器	坏	(8.4)	[3.1]		破片	雲 角 砂粒	普通	橙	
363	24	D	10	土師器	坏	(15.9)	[3.5]		破片	角 赤粒 白粒	普通	明赤褐	
363	25	D	10	瓦	平瓦	長[14.5]	幅[12.6]	厚[2.2]		角 砂粒 赤粒	普通	灰	
363	26	D	10	土製品	土錘	長[4.7]	幅2.8	孔1.0	1/4	角 赤粒 白粒 針	普通	褐	
363	27	D	11	土師器	高坏		[7.5]		脚部のみ	角 砂粒 赤粒	普通	橙	赤彩
363	28	D	11	灰釉陶器	皿		[1.6]	(6.8)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	転用碗 東濃
363	29	D	11	須恵器	甕	(30.0)	[6.4]		口縁破片	雲 白粒	良好	褐灰	
363	30	D	11	須恵器	甕	(21.4)	[4.9]		口縁破片	砂粒 白粒	普通	灰	
363	31	D	13	土師器	坏	18.0	5.7		1/2	雲 角 石英 赤粒	良好	黒褐	黒色有段口縁
363	32	D	13	土師器	坏	(10.0)	[3.1]		1/2	雲 角 石英 白粒	普通	橙	風化著しい
363	33	D	13	土師器	坏	(18.2)	[4.6]		破片	角 赤粒 白粒	良好	橙	
363	34	D	13	土師器	壺		[28.9]	6.5	1/4	砂粒 赤粒	普通	にぶい橙	風化著しい
363	35	D	13	土製品	支脚	長[8.1]	幅[5.3]		1/4	雲 赤粒	不良	赤褐	
363	36	D	13	土師器	甕	(18.5)	[20.2]		1/4	雲 石英 砂粒 赤粒	普通	にぶい橙	
363	37	D	13	土師器	甗	(26.0)	[14.8]		破片	雲 角 石英 赤粒	良好	にぶい橙	
364	38	D	14	須恵器	高台付壺		[2.9]	6.9	底部完形	雲 角 赤粒 白粒	普通	灰黄	
364	39	D	14	須恵器	高台付壺		[1.9]	(7.6)	底部	雲 角 石英 赤粒 針	普通	にぶい黄橙	
364	40	D	14	須恵器	足高台壺	13.0	5.1	(7.8)	4/5	雲 角 赤粒	普通	明褐灰	ロクロ土師
364	41	D	14	灰釉陶器	皿		[2.2]	5.9	1/2	長石 白粒 黒粒	良好	灰白	漬け掛け 東遠江
364	42	D	14	須恵器	蓋		[2.5]	(5.4)	1/3	雲 白粒 黒粒 針	普通	褐灰	南北比企
364	43	D	14	石製品	砥石	長[8.3]	幅2.1	厚1.7					

グリッド・表採等遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
364 44	D 14	土師器	坏	10.4	3.7		4/5	雲角赤粒白粒	普通	にぶい橙		58
364 45	D 14	土師器	坏	(13.6)	[3.7]		1/4	雲角長石	普通	橙		
364 46	D 14	土師器	高台付埴	(18.8)	[5.0]		破片	角長石石英赤粒	不良	橙		
364 47	D 14	土師器	壺	(10.4)	[5.5]		破片	角赤粒白粒	普通	橙		
364 48	D 14	土師器	小型甕	(11.0)	11.9		1/2	雲角砂粒赤粒	良好	褐灰	胴部穿孔	67
364 49	D 15	須恵器	坏	(12.8)	[3.2]	(6.5)	1/5	雲赤粒針	普通	にぶい橙	在地	
364 50	D 15	須恵器	坏		[1.8]	(7.1)	底部1/2	雲角赤粒針	普通	黄灰	在地	
364 51	D 15	須恵器	高台付埴		[2.3]	(6.5)	底部のみ	雲角赤粒白粒	普通	黄褐	在地	
364 52	D 15	須恵器	高台付埴		[2.0]	7.2	底部のみ	雲角砂粒赤粒	普通	灰黄褐	在地	
364 53	D 15	土師器	高台付埴		[3.2]	7.0	1/3	雲片角長石赤粒	不良	にぶい赤褐	在地	
364 54	D 15	須恵器	高台付埴		[1.8]	5.7	底部のみ	雲角白粒針	普通	褐灰	在地	
364 55	D 15	須恵器	長頸瓶	(16.9)	[3.2]		口縁破片	白粒黒粒針	良好	灰	在地 自然釉	
364 56	D 15	土師器	坏	(14.0)	[3.5]		1/3	雲角赤粒針	普通	明赤褐		
364 57	D 15	土師器	坏	(12.4)	[3.5]		1/3	雲角赤粒針	普通	明赤褐		
364 58	D 15	土師器	坏	(12.0)	[3.7]		破片	角赤粒白粒	普通	にぶい橙	黒色有段口縁	
364 59	D 15	土師器	坏	(12.0)	[3.2]		1/5	雲角赤粒	普通	褐	黒色土器	
364 60	D 15	土師器	坏	(12.4)	[3.6]		破片	雲角赤粒白粒	普通	橙		
364 61	D 15	土師器	坏	(13.2)	[4.2]		1/2	雲角石英赤粒	普通	にぶい黄橙	黒色有段口縁	
364 62	D 15	土師器	坏	(11.8)	[4.0]		1/3	雲角白粒	普通	灰黄褐		
364 63	D 15	土師器	坏	(15.6)	[4.8]		破片	雲角赤粒	普通	にぶい橙		
364 64	D 15	土師器	小型甕	(12.2)	[7.4]		破片	雲角赤粒白粒	普通	赤褐		
364 65	D 15	土師器	甕	(22.2)	[3.6]		口縁破片	雲角石英	普通	にぶい黄橙		
364 66	D 15	土師器	甕	(22.4)	[3.8]		口縁破片	雲角赤粒白粒	良好	にぶい橙		
364 67	D 15	土製品	土錘	長7.1 幅3.5 孔1.0			完形	雲白粒	普通	黒褐		97
364 68	D 15	土師器	器台	7.6	[5.8]		1/2	石英砂粒赤粒	良好	にぶい橙		
364 69	D 15	土師器	壺		[3.4]	(6.5)	破片	角石英赤粒	良好	灰褐		
364 70	D 15	土師器	高坏		[6.2]		2/3	砂粒赤粒	普通	にぶい黄橙		
364 71	D 15	石製品	砥石	長[4.6] 幅3.6 厚2.2								99
364 72	D 15	土師器	鉢	(26.0)	[9.2]		破片	雲長石石英赤粒	普通	橙		
365 73	D 10	灰釉陶器	長頸壺	(13.0)	[1.3]		破片	黒粒	良好	灰白	東濃	92
365 74	D 16	灰釉陶器	埴		[2.5]	(7.9)	1/5	白粒黒粒	普通	黄灰	東遠江	92
365 75	D 16	土師器	鉢				破片	赤粒	普通	にぶい橙	赤彩	
365 76	D 16	須恵器	高台付埴		[2.1]	7.4	底部のみ	雲角赤粒針	普通	褐灰	南比企	
365 77	D 16	内黒土器	坏	(15.0)	[4.0]		1/5	雲赤粒針	普通	褐		
365 78	D 16	土師器	坏	(14.0)	[3.7]		1/4	雲角赤粒白粒	普通	橙		
365 79	D 16	土師器	甕	(11.2)	[6.1]		破片	角砂粒	普通	褐		
365 80	D 16	土師器	高坏		[7.0]		脚部1/2	雲石英砂粒赤粒	普通	橙	二段三方透	
365 81	D 16	土師器	甕	(16.6)	[4.2]		破片	角石英砂粒赤粒	良好	橙		
365 82	D 16	土師器	甕	(17.0)	[5.5]		破片	石英砂粒	普通	褐		
365 83	D 17	土師器	坏	(10.6)	5.0		2/3	角砂粒赤粒	普通	橙		
365 84	D 17	土師器	高坏		[3.4]		破片	角石英赤粒	不良	明赤褐	赤彩	
365 85	D 17	土師器	鉢	(10.5)	[5.9]		1/5	砂粒赤粒	普通	暗褐		
365 86	D 17	土師器	甕	(15.0)	[3.1]		破片	雲角砂粒	普通	にぶい橙		
365 87	D 17	土師器	甕	(18.8)	[4.2]		破片	雲角白粒赤粒	普通	にぶい黄橙		
365 88	D 17	土師器	鉢	(15.4)	[3.5]		破片	角砂粒赤粒	普通	にぶい橙		
365 89	D 18	灰釉陶器	埴		[2.0]	7.4	底部完存	白粒黒粒	良好	灰白	漬け掛け 東遠江	92
365 90	E 9	須恵器	蓋	(9.3)	[3.6]		1/4	黒粒	良好	褐灰	湖西	
365 91	E 15	須恵器	坏	(11.6)	[3.2]		破片	雲角赤粒針	良好	灰	在地	
365 92	E 15	灰釉陶器	埴	(13.2)	4.2	7.1	1/3	白粒黒粒	良好	灰白	漬け掛け 東濃	59
365 93	E 16	土師器	鉢	(21.1)	[9.0]		1/5	雲砂粒赤粒白粒	普通	暗褐	すす付着	
365 94	E 16	土師器	甕	(18.6)	33.0		1/2	雲石英砂粒赤粒	普通	鈍い黄橙		74
365 95	E 17	須恵器	高台付埴		[3.1]	(9.6)	破片	雲白粒	良好	灰	湖西	
365 96	E 17	須恵器	蓋		[1.8]		ツマミ	雲長石石英	普通	暗青灰	末野	

グリッド・表採等遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
365 97	グリッド	灰釉陶器	皿		[1.4]	(6.5)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	東濃	92
365 98	E 17	土師器	埴	12.0	5.4	4.5	完形	角 石英 赤粒	良好	橙	内外面赤彩	59
365 99	E 17	土師器	高坏	(15.6)	[4.5]		破片	雲 石英 赤粒	普通	橙	赤彩	
365 100	E 17	土製品	土錘	長[4.2]	幅2.5	孔0.8	1/2	角 砂粒 赤粒 白粒	普通	明赤褐		97
365 101	E 17	石製品	砥石	長[4.6]	幅4.3	厚1.3						99
366 102	グリッド	灰釉陶器	埴		[1.7]	(6.7)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	内面朱墨 東遠江	92
366 103	E 18	灰釉陶器	皿		[1.5]	(7.4)	1/5	白粒 黒粒	良好	灰白	転用硯 東濃	92
366 104	E 19	瓦質陶器	内耳埴	(30.0)	[14.8]		破片	雲 片 角 石英	普通	褐灰	煤付着	
366 105	F 11	土師器	甑	25.3	33.3	9.0	ほぼ完形	角 砂粒 赤粒 白粒	良好	にぶい橙		74
366 106	F 17	土師器	高坏	19.6	11.1	10.9	2/3	角 石英 白粒 赤粒	普通	橙	三方透	67
366 107	F 17	土師器	特殊器台	(19.8)	[3.3]		破片	石英 砂粒 白粒	普通	橙	八方透	
366 108	F 17	土師器	器台		[4.6]	9.6	1/4	石英 赤粒 礫	普通	橙	三方透	
366 109	F 17	土師器	高坏		[2.6]	11.5	1/4	雲 角 砂粒	普通	にぶい橙	三方透	
366 110	F 17	土師器	甕	(17.0)	[11.0]		破片	角 石英 赤粒 礫	普通	灰黄褐		
366 111	F 17	土師器	鉢	11.5	7.3	4.7	4/5	石英 赤粒 礫	普通	にぶい橙		67
366 112	F 18	青磁	埴		[3.8]	(8.2)	1/5		良好	緑灰		99
366 113	F 18	在地土器	甕		[16.0]	12.4	胴・底部	砂粒 赤粒	普通	灰褐		
367 114	C 15	石製品	有孔円版	長[3.1]	幅[1.6]	厚0.4	3/4	滑石			模造品	93
367 115	D 13	石製品	有孔円版	長[3.3]	幅[2.1]	厚[0.6]	3/4	滑石			模造品	93
367 116	C 14	石製品	有孔円盤	長4.0	幅2.8	厚0.7	3/4	滑石			模造品	93
367 117	D 15	石製品	有孔円板	長3.8	幅3.9	厚1.0	3/4	滑石			模造品	93
367 118	D 14	石製品	劍	長[4.0]	幅2.3	厚0.5	3/4	滑石			模造品	93
367 119	D 14	石製品	劍	長[5.1]	幅2.8	厚0.5	3/4	滑石			模造品	93
367 120	D 18	石製品	劍	長[3.3]	幅4.1	厚0.5	2/3	滑石			模造品	93
367 121	F 10	石製品	劍	長[3.1]	幅2.1	厚0.3	2/3	滑石			模造品	93
367 122	E 16	石製品	劍	長[3.9]	幅[3.1]	厚[0.9]	2/3	滑石			模造品	93
367 123	E 12	石製品	勾玉	長[1.6]	幅1.0	厚0.5	1/2	滑石			模造品	
367 124	E 18	石製品	白玉					滑石				93
367 125	グリッド	古銭	不明									100
367 126	グリッド	古銭	皇宋通宝								1039年	100
367 127	D 10	古銭	大観通宝								1107年	100
367 128	E 18	板碑		長[30.0]	幅26	厚2.5		緑泥片岩				79
367 129	表採	板碑		長[37.0]	幅16.5	厚1.8		緑泥片岩				79
368 1	表採	須恵器	蓋	(15.8)	[3.9]		1/4	雲 長石 白粒 黒粒	普通	褐灰	末野	
368 2	表採	須恵器	蓋	(14.0)	[3.7]		1/5	砂粒 白粒 黒粒	普通	灰	末野	
368 3	表採	須恵器	坏	(10.2)	[1.8]		破片	白粒 黒粒	良好	灰	湖西	
368 4	表採	須恵器	壺	(11.4)	[2.2]		破片	石英 砂粒 黒粒	普通	灰	湖西 自然釉	
368 5	表採	須恵器	坏	(10.2)	3.1		1/2	雲 白粒 黒粒	良好	灰	湖西 ヘラ記号	
368 6	表採	須恵器	壺		[4.7]		破片	長石 石英 砂粒	良好	青灰	末野	
368 7	表採	須恵器	蓋		[1.0]		つまみ	雲 角 白粒	普通	黄灰	末野	
368 8	表採	須恵器	蓋		[1.2]		つまみ	角 白粒	普通	灰褐	末野	
368 9	表採	須恵器	高台付埴		[5.4]	(6.8)	1/5	角 砂粒 黒粒	良好	青灰	在地	
368 10	表採	須恵器	高台付埴		[3.7]	(6.0)	破片	長石 白粒 黒粒	良好	灰	在地 墨書	
368 11	表採	須恵器	坏	(12.9)	[3.7]		破片	角 石英 針	不良	明灰	在地油煙付着	
368 12	表採	須恵器	坏		[1.5]	(4.8)	1/5	角 赤粒 白粒 針	普通	橙	在地	
368 13	表採	須恵器	坏	(12.0)	3.5	5.8	1/5	雲 白粒 針	普通	黄灰	在地	
368 14	表採	須恵器	坏	(12.0)	[3.9]	(6.0)	1/2	雲 角 赤粒 白粒	普通	灰	在地	
368 15	表採	須恵器	坏	(11.0)	[3.8]	(5.5)	1/3	雲 赤粒 針	普通	にぶい黄橙	在地	
368 16	表採	須恵器	坏	(13.2)	[3.3]		破片	雲 角 白粒 針	普通	灰黄褐	在地	
368 17	表採	須恵器	坏	(14.7)	[3.5]		1/5	雲 角 白粒 針	普通	灰白	在地	
368 18	表採	須恵器	坏		[1.6]	7.6	1/2	石英 砂粒 針	良好	灰	在地	
368 19	表採	須恵器	坏		[2.3]	(4.6)	破片	角 長石 石英 針	不良	明褐	在地	
368 20	表採	須恵器	坏		[2.8]	5.6	1/4	赤粒 白粒 黒粒 針	普通	にぶい黄橙	在地	

グリッド・表採等遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
368 21	表採	須恵器	高台付壺		[2.9]	(6.4)	1/4	雲 白粒	良好	灰	在地	
368 22	表採	内黒土器	高台付壺		[3.0]	(8.0)	高台のみ	雲 角 砂粒 赤粒	普通	にぶい褐	在地	
368 23	表採	須恵器	高台付壺		[1.8]	7.4	底部のみ	雲 赤粒 針	不良	橙	在地	
368 24	表採	須恵器	高台付壺		[2.3]	(6.2)	底部のみ	雲 赤粒 白粒	不良	灰褐	在地	
368 25	表採	内黒土器	高台付壺		[2.9]	(6.8)	1/2	雲 角 赤粒 針	普通	浅黄橙	在地	
368 26	表採	須恵器	高台付壺		[2.2]	6.8	底部のみ	雲 角 赤粒 白粒	普通	灰黄褐	在地	煤付着
368 27	表採	須恵器	羽釜	(17.4)	[4.1]		破片	角 石英 白粒	普通	灰		透明石英
368 28	表採	須恵器	甕	(34.2)	[6.3]		口縁破片	白粒 黒粒	良好	黒褐		自然釉付着
368 29	表採	須恵器	壺		[1.6]	(14.0)	1/3	雲 白粒 針	良好	褐灰		南比企
368 30	表採	須恵器	高台付鉢		[7.6]	(16.7)	破片	片 角 石英 砂粒	普通	灰		
369 31	表採	土師器	坏	(11.2)	[4.0]		1/5	雲 角 白粒	普通	黄灰		
369 32	表採	土師器	坏	(12.0)	[3.8]		破片	雲 角	普通	黒褐色		黒色土器
369 33	表採	土師器	坏	(14.0)	[2.9]		破片	雲 砂粒 赤粒	普通	浅黄橙		
369 34	表採	土師器	坏	14.2	4.6		3/4	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙		59
369 35	表採	土師器	坏	(12.1)	[3.1]		破片	雲 角 白粒	普通	黄灰		黒色有段口縁
369 36	表採	土師器	坏	(13.0)	[2.5]		破片	雲 石英 砂粒 赤粒	良好	橙		赤彩
369 37	表採	土師器	坏	(13.8)	[3.3]		1/4	雲 角 針 礫	良好	明褐色		赤彩
369 38	表採	土師器	坏	(11.7)	[2.8]		破片	雲 角 砂粒 赤粒	普通	にぶい橙		
369 39	表採	土師器	坏	(12.0)	[2.6]		破片	雲 角 白粒	普通	にぶい橙		
369 40	表採	土師器	坏	(12.0)	[2.9]		1/5	雲 角 赤粒	普通	橙		
369 41	表採	土師器	坏	(12.0)	[2.8]		破片	角 石英 赤粒 白粒	普通	橙		
369 42	表採	土師器	坏	(11.1)	[2.2]		破片	雲 角 白粒 黒粒	普通	にぶい橙		
369 43	表採	土師器	坏	(10.6)	[2.5]		1/3	雲 角 赤粒 白粒 黒粒	良好	橙		
369 44	表採	土師器	壺	(18.0)	[3.5]		破片	雲 赤粒 白粒 角	普通	にぶい黄橙		赤彩
369 45	表採	土師器	坏	(24.4)	[5.0]		破片	角 赤粒 白粒	良好	にぶい褐		
369 46	表採	須恵器	坏	(14.0)	[2.8]		破片	雲 角 砂粒 赤粒	普通	橙		
369 47	表採	土師器	皿	(18.0)	[3.5]		破片	角 赤粒 白粒	普通	橙		
369 48	表採	土師器	坏	(13.0)	3.5	(6.2)	1/5	赤粒 白粒 黒粒	普通	明褐灰		
369 49	表採	土師器	小型甕	(10.8)	[2.5]		口縁破片	角 赤粒 白粒 礫	普通	暗褐		
369 50	表採	土師器	鉢	(13.2)	[5.6]		口縁破片	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
369 51	表採	土師器	小型甕		[3.1]	4.2	底部のみ	雲 角 砂粒 赤粒	普通	橙		
369 52	表採	土師器	高坏		[4.4]	(6.2)	脚部のみ	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
369 53	表採	土師器	高坏	(16.7)	10.4	(10.5)	1/2	赤粒 白粒	普通	橙		67
369 54	表採	土師器	高坏		[8.0]	(9.0)	脚部1/3	長石 石英 赤粒	普通	橙		赤彩
369 55	表採	土師器	高坏		[7.5]		1/4	角 赤粒 白粒	良好	明赤褐		赤彩
369 56	表採	土師器	器台		[1.9]	(12.0)	脚部破片	雲 角 白粒	普通	浅黄橙		赤彩
369 57	表採	土師器	台付甕		[5.9]	(10.0)	台部1/3	角 白粒 礫	普通	にぶい橙		すす付着
369 58	表採	土師器	台付甕		[6.0]	(9.6)	台部1/3	雲 角 砂粒	普通	灰黄		
369 59	表採	土師器	台付甕		[7.5]	(7.1)	台部破片	雲 砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
369 60	表採	土師器	台付甕		[5.6]		破片	角 石英 白粒	不良	にぶい橙		
369 61	表採	土師器	甕	(15.6)	[3.4]		口縁破片	角 砂粒 赤粒	普通	にぶい黄橙		「S」字口縁甕
369 62	表採	土師器	甕	(15.4)	[3.8]		口縁破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい褐		
369 63	表採	土師器	甕	(18.4)	[1.9]		破片	雲 石英 赤粒	普通	明赤褐		
369 64	表採	土師器	壺	(15.9)	[4.8]		口縁破片	雲 角 石英 赤粒	不良	にぶい黄橙		
369 65	表採	土師器	壺		[7.4]		口縁1/3	角 石英 白粒 赤粒	普通	浅黄橙		
370 66	表採	土師器	甕	(19.8)	39.3	(7.0)	1/2	雲 石英 黒粒 礫	普通	鈍い褐		74
370 67	表採	土師器	甕	(23.0)	[5.5]		口縁破片	雲 角 白粒 黒粒	普通	にぶい褐		
370 68	表採	土師器	甕	(21.4)	[7.2]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙		
370 69	表採	土師器	甕	(19.4)	[11.2]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
370 70	表採	土師器	甕				把手破片	角 赤粒 礫	普通	橙		
370 71	表採	土師器	甕				把手破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい褐		
370 72	表採	土師器	甕		[2.4]	(8.0)	底部破片	片 石英 赤粒	普通	にぶい黄橙		
370 73	表採	土師器	甕		[2.6]	(8.2)	底部破片	雲 角 赤粒 白粒	不良	灰褐		底部木葉痕

グリッド・表採等遺物観察表

挿図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	備考	図版
370 74	表採	カワラケ	皿	9.2	1.4	2.8	3/4	雲 赤粒 白粒	普通	橙		59
370 75	表採	石製品	砥石	幅2.7	長7.2	厚2.5						99
370 76	表採	石製品	砥石	幅3.3	長6.2	厚3.2						99
370 77	表採	常滑	壺	(56.0)	[8.7]		口縁破片	雲 角 白粒	良好	褐	自然釉	
370 78	表採	須恵質	摺り鉢	(26.5)	[8.8]		破片	片 長石 石英	良好	灰	粘土紐巻上	
370 79	表採	須恵質	摺り鉢		[5.7]	(13.4)	底部破片	雲 角 砂粒 白粒	普通	褐灰	内面滑らか	
371 80	表採	緑釉陶器	皿	(11.8)	[1.7]		破片	白粒	良好	灰 釉オリブ灰	猿投	89
371 81	表採	緑釉陶器	輪花碗	(18.9)	[3.3]		破片	白粒 黒粒	良好	灰黄 釉オリブ黄	猿投	89
371 82	表採	緑釉陶器	碗		[1.4]	(6.6)	破片	白粒	良好	灰 釉オリブ	猿投	89
371 83	表採	緑釉陶器	碗		[1.7]	(6.4)	破片	白粒	良好	灰 釉灰白	二次被熱 猿投	84
371 84	表採	緑釉陶器	碗		[1.2]		破片	白粒	良好	灰 釉オリブ灰	東濃	89
371 85	表採	緑釉陶器	碗		[1.4]	(6.9)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白 釉オリブ灰	東濃	89
371 86	表採	灰釉陶器	皿	(13.6)	[1.5]		破片	白粒 黒粒	良好	灰白	漬け掛け 東濃	92
371 87	表採	灰釉陶器	段皿		[1.6]		破片	白粒 黒粒	良好	灰白	漬け掛け 東濃	92
371 88	表採	灰釉陶器	碗		[2.0]	(6.7)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	東遠江	92
371 89	表採	灰釉陶器	耳皿		[1.1]	(5.4)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	ハケ塗り 東濃	92
371 90	表採	灰釉陶器	碗		[2.2]	(8.1)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	SJ35 東濃	92
371 91	表採	灰釉陶器	碗		[1.2]	(8.0)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	東濃	92
371 92	表採	灰釉陶器	碗		[2.3]	(8.0)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	東濃	92
371 93	表採	灰釉陶器	輪花碗				破片	白粒 黒粒	良好	灰白	SJ3 東濃	
371 94	表採	灰釉陶器	皿		[1.3]	(6.6)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	東濃	92
371 95	表採	灰釉陶器	碗		[1.3]	(7.7)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	転用硯 浜北	92
371 96	表採	灰釉陶器	碗	(13.5)	4.4	7.2	1/2	長石 白粒 黒粒	良好	灰白	漬け掛け 東濃	59
371 97	表採	灰釉陶器	碗		[2.7]	(7.5)	1/5	白粒 黒粒	良好	灰白	漬け掛け 東濃	92
371 98	表採	灰釉陶器	碗		[1.1]	(7.7)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	東濃	92
371 99	表採	緑釉陶器	香炉蓋		[1.2]		破片	白粒	普通	灰白 釉オリブ黄	猿投	89
371 100	表採	灰釉陶器	長頸壺	(20.0)	[1.3]		破片	黒粒	良好	灰白	東濃	92
371 101	表採	灰釉陶器	長頸壺		[4.8]	(16.1)	破片	白粒	普通	灰	ハケ塗り 東遠江	92
371 102	表採	鉄滓	椀型滓	幅3.3	長1.8	厚1.2						
371 103	表採	土製品	羽口	幅[4.2]	長[3.3]	厚[1.9]	破片		普通	橙 緑変	気泡痕有り	
371 104	表採	土製品	土錘	幅1.2	長[3.3]	孔0.4	ほぼ完形	砂粒 赤粒	普通	橙		97
371 105	表採	土製品	土錘	幅1.3	長[3.9]	孔0.5	ほぼ完形	砂粒	普通	にぶい橙		97
371 106	表採	土製品	土錘	幅1.2	長[3.2]	孔0.3	4/5	砂粒 赤粒	普通	にぶい橙		97
371 107	表採	土製品	土錘	幅1.2	長5.0	孔0.4	完形	砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		97
371 108	表採	土製品	土錘	幅1.2	長4.8	孔0.4	ほぼ完形	砂粒 赤粒 白粒	普通	黒褐		97
371 109	表採	土製品	土錘	幅2.1	長8.1	孔0.6	ほぼ完形	砂粒 赤粒 白粒	普通	黄橙		97
371 110	表採	土製品	土錘	幅[3.7]	長7.4	孔1.3	4/5	砂粒 赤粒	普通	褐		97
371 111	表採	土製品	土錘	幅[3.3]	長[7.8]	孔1.0	3/4	砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい黄褐		97
371 112	表採	土製品	土錘	幅[3.2]	長[4.2]	孔[0.8]	1/4	雲 角 赤粒	普通	橙		97
371 113	表採	石製品	紡錘車	厚1.0	上(3.2)	底2.3						79
371 114	表採	石製品	紡錘車	厚1.6	上3.4	底2.1						79
371 115	表採	石製品	有孔円板	厚0.6	長径1.7	短径1.4		滑石			模造品	93
371 116	表採	土製品	土玉	幅2.8	長2.7		完形	雲 黒粒		褐灰		97
371 117	表採	鉄製品	鎌	幅0.3	長(4.5)	幅2.0						
371 118	表採	古銭	熙寧元宝								1068年	100
371 119	表採	古銭	太平通宝								976年	100

V まとめ

下田町遺跡は、発掘調査の結果、弥生時代中期後半の方形周溝墓1基、弥生時代後期～古墳時代初頭の方形周溝墓3基、古墳時代後期の竪穴住居跡42軒、掘立柱建物跡8棟、井戸跡、土壇、溝跡、奈良・平安時代の掘立柱建物跡13棟、井戸跡、土壇、溝跡、中世の井戸跡、土壇墓、溝跡を検出した。以下、各時代の様相についてまとめる。

1 弥生時代中期後半から後期初頭

弥生時代中期後半から後期初頭の遺構として、四隅が切れる形態の方形周溝墓が1基（SR1）、調査区北寄りに単独で検出されている。平成14年度およ

び平成15年度の調査をあわせても、該期の遺構は土壇1基のみで、ほとんど検出されていない。遺構・遺物量が少ないため、ここでは、方形周溝墓SR1および遺構外も含めた遺構・遺物の位置づけをするにとどめる。

方形周溝墓は、荒川流域に分布し、東の元荒川・綾瀬川流域には分布が確認されないことから、南から宮ノ台式土器を伴う文化の一端として荒川を遡上し拡散した墓制と考えられる（松岡2003）。すぐ北に位置する荒川扇状地は、該期の遺跡が集中する地域であり、方形周溝墓のみならず、土器棺墓、土壇墓など異なる地域性をもつ墓制が集中する荒川河川交通の要衝である。下田町遺跡は、南から方形周溝墓を伴う文化が遡上する流れが荒川扇状地に達する一歩手前に位置している。

周辺では、南南西の方向に位置する台地上の集落、船木遺跡で、同時期とみられる方形周溝墓が検出されているようだが、詳細は未報告である。また、他に近隣地域で方形周溝墓が検出されている遺跡に前中西遺跡、池上・小敷田遺跡、西浦遺跡、代正寺遺跡、附島遺跡、木曾免遺跡などがある（第372図）。この時期の方形周溝墓は全て四隅が切れる形態で、下田町遺跡の方形周溝墓は規模・形態においても標準的である。群構成について触れておくと、荒川扇状地の遺跡群では、中期中葉～後半の池上・小敷田遺跡で2～3基が群を構成し、中期後半～末に位置づけられる前中西遺跡でもやはり少なくとも2～3基以上で群を構成している。また、比企丘陵の遺跡群では、西浦遺跡で少なくとも2基以上、代正寺遺跡でも、調査区の形状から遺構の面的な広がりを確認し難い部分もあり、やや間隔を空けた配置も想定されるが、少なくとも3基以上が群を構成する一群もある。

このように、台地か低地かといった立地条件に関わらず、方形周溝墓は群在する傾向を強く示し、下



第372図 弥生時代中期後半の周辺遺跡
地形区分は堀口萬吉ほか1986『新編埼玉県史別冊3 自然』を改変

田町遺跡で調査されたような1基の単独検出は周辺地域ではあまりみられない。該期の遺物は、平成14年度および平成15年度の調査でも少量だが出土しており、周辺の調査区外に続きとなる墓域、およびこれに伴う集落が存在する可能性は高いと思われる。

出土遺物は少ないが、以下に二点だけ指摘しておきたい。一つは、本遺跡の土器群が中期後半のなかでもやや新しい様相を呈すると考えられる点である。例えばグリッド1（第356図）の簾状文と波状文の甕形土器は、器形はやや異なるものの、中期後半～末にかけての前中西遺跡や用土・平遺跡でみられ、主体的にみられるようになるのは中期末以降である（宅間2003）。また、SR3の上面で出土した壺形土器は、頸部以上は欠損しているが、肩部に波状文、それ以下はハケ調整を施すという全体的に簡素化した文様構成をとる。これは地域色である可能性も残るが、前中西遺跡や木曾免遺跡で出土している土器と同様にやや新しい様相であると考えたい。

本遺跡は、荒川扇状地の遺跡分布圏と比企丘陵の遺跡分布圏の中間に位置している。第二に挙げられるのは、本遺跡の土器群が荒川扇状地と比企丘陵の中間の様相をよく示している点である。例えば、グリッド1（第356図）の簾状文と斜格子文の甕形土器は中部高地系の影響を受けており、前中西遺跡や群馬県西迎遺跡など群馬県や埼玉県内でも中・北部に主体的にみられる。また、グリッド3（第356図）の削り出し突帯をもつ壺形土器の頸部、グリッド13、14（第356図）の胴部に斜格子文を持つ甕形土器も荒川中流域以北で主体的にみられる要素である。

その一方では、SR1-3（第17図）の横方向の工具押捺を口縁部に施す甕形土器やグリッド9（第356図）の頸部に刻みを持つ突帯を付けた壺形土器のように、代正寺遺跡や附島遺跡あるいはそれ以南に特にみられ、比企丘陵の特徴と考えられるのがみられる。また、グリッド10（第356図）のように、宮ノ台式の甕形土器も検出されている。

以上のように、荒川扇状地周辺の土器群にやや近

い様相を持ちつつ、宮ノ台式土器や比企丘陵に特徴的な土器が伴うのが下田町遺跡の土器群の特徴といえよう。

河川の氾濫原に形成された自然堤防上の低地に存在するという立地そのものが、下田町遺跡の一つの特徴である。中期後半において、最近特に北島遺跡や前中西遺跡など本遺跡のやや上流に位置する荒川扇状地付近を中心に低地の調査が増加し、中期後半の低地性集落の様相が明らかになりつつあるが、これまで調査された台地上の集落に比べると、該期の低地性遺跡の事例はまだ少ない。荒川扇状地の遺跡群では、確認されている遺跡は全て標高の低い自然堤防上に立地する一方、比企丘陵で確認されている遺跡は全て台地上に立地している。低地の遺跡と台地の遺跡は共存していたと考えられるが、これまで荒川流域において同一地域で両者が明確な遺構を伴って確認された地域はなかった。遺構・遺物量から両者の内容や役割を具体的に比較検討するには、いま少しの資料増加を待たねばならないが、今回の下田町遺跡の調査において、低地性集落と台地上の集落が共存する地域の一例として荒川中流域が示された意義は大きい。（松岡有希子）

2 弥生時代後期から古墳時代前期

弥生時代後期の遺構は、第1次調査では検出されなかった。グリッドの遺物では、後期と考えられる吉ヶ谷式土器、櫛描文系の土器が出土し、比企丘陵や県北部との交流が予想される。第2・3次調査では、該期の遺構が検出されているため、改めて検討することにしたい。

古墳時代前期の方形周溝墓は、調査区の南端から3基検出されている。平面形態はSR2が伊藤敏行氏によるB2・C2類（伊藤1986）の可能性がある。同一の群を構成するSR3・4は一隅切れのC1型である。2・3次調査でも同時期の周溝墓が8基検出されている。いずれも2～3基を1単位として造営されており、各々の群は一定の距離を置いている。本報告の周溝墓群の南側には四隅切れ（伊藤分類A1類）

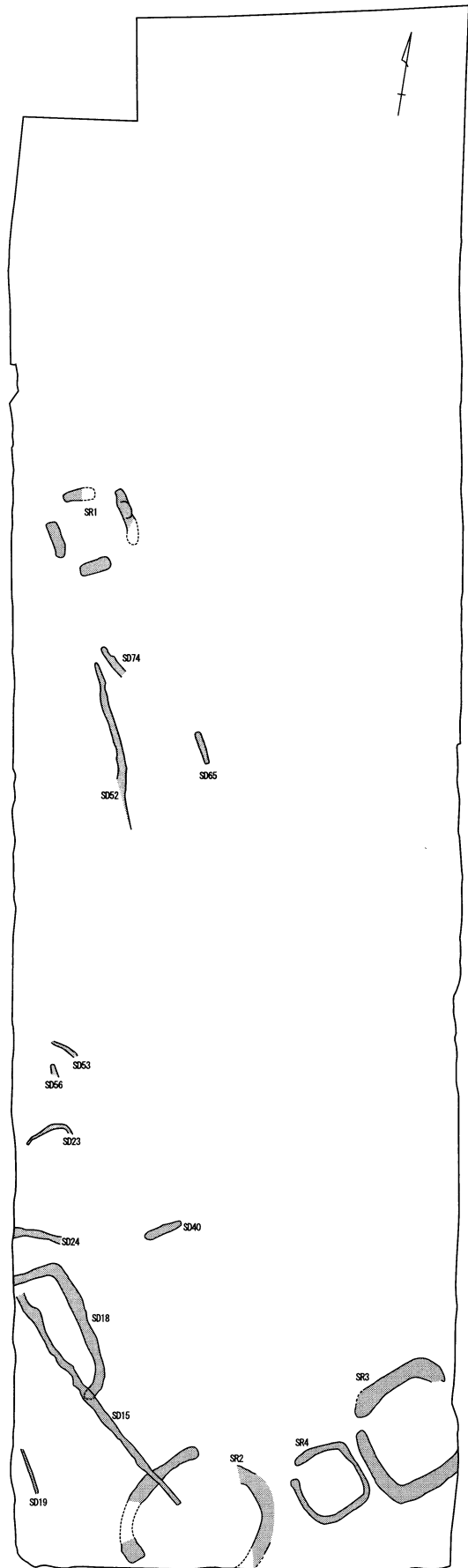
のものが2基連続して造営されている。このA1型とC1型が混在する群のありようは、坂戸市中耕遺跡（杉崎1993）や広面遺跡（村田1990）等でも認められ、前述の吉ヶ谷式土器の存在とともに比企丘陵との交流を窺わせるものである。

また、3次調査では4次調査に継続する前方後方形等の可能性もある大型の周溝墓が検出されている。来年度以降となるが、全容が明らかになり、整理を終えた段階で周溝墓群全体の詳細な検討が必要となるであろう。

古墳時代前期の土器は、壺、小型壺、台付甕、高坏、小型器台、装飾器台、鉢、甑、吉ヶ谷系土器の壺、櫛描文が施された甕が出土している。筆者編年3～4期（福田2000）の資料と考えられるが、量的にも少なく、3次調査でも古墳時代前期の資料が多く出土していることから、これをもって遺跡全体の時期を推し量ることはできない。ここでは、特徴的な遺物について若干取り上げることにした。

SR2—4（第20図）、グリッド107（第366図）は、北陸地方の装飾器台を祖型とする模倣品である。グリッド表採107は所謂「二ツ屋タイプ」（浜岡・吉岡1962）と呼称されるもので、北陸系の土器としては関東地方で最も一般的に見られ、ある意味で在地化した器種の一つと言っても過言ではない。SR2—4とまったく同様の例は見られないが、擬凹線文を意識したと考えられる裾部の刷毛目や上下端の刻み目は、より忠実な模倣の意図を強く感じさせるものである。前者に比して関東地方での出土例はおそらく皆無に近いと思われるが、今後の同様の例の嚆矢として重要なものである。装飾器台と考えられるものは2・3次調査でも出土しており、改めて在地土器群との関係について検討する必要があるだろう。

また、古墳時代前期の低地遺跡で多くの出土例が見られる東海系と考えられる土器は、S字状口縁台付甕を模倣したと考えられるグリッド61のみである。口縁端部のみが模倣されているもので、端部を除けば在地の製品と同様である。2・3次調査でも東海



第373図 弥生後期後半～古墳時代前期の遺構

系と考えられるものは皆無に近く、本遺跡の特徴的な土器群の様相である可能性が高い。北陸系土器同様、また機会を改めて検討したい。(福田 聖)

3 古墳時代後期

古墳時代後期は下田町遺跡において、最も遺構が集中する時期である。今回報告する調査区においては、ほぼ全域で当時期の遺構が分布している。

住居跡はすべて古墳時代後期に属するもので、42軒を検出した。そのうちカマドをもつ住居跡は9軒と、全体の1/5にも満たない。カマドはSJ32を除いて東向きである。カマドをもたない住居の機能は不明であるが、作業場であった可能性がある。貯蔵穴とカマドが共存する例が多いことから、住むための住居と、作業等を行うための住居(?)とに区分されていたのであろう。

周囲を区画するように溝跡が巡る住居跡を4軒検出した。SJ27を除いて、区画溝はSD44に接続している。また、SJ28ではさらにSD80にも連結している。これらの例から、SD129及びSD132に囲まれている区画にも、住居があった可能性が高い。これら区画溝をもつ住居自体は、その形態や出土遺物から集落内で特異な存在であった様子はないが、総柱建物とセットとなる傾向があることは注目される。

住居跡から出土した土器は小片が多く、流れ込みの遺物も多いため、明確に時期区分をするのは難しい。北武蔵型の土師器坏を主体とするSJ3・6は时期的に下がり7世紀後半くらいに、SJ12・40・49は過渡的な様相で7世紀中頃、SJ8・23・30・35・44～48・49で出土している須恵器はTK209型式を大きくずれない時期に該当し、7世紀初頭前後に相当すると考えられる。SJ12・13・24・28などは、出土した土師器に比較的古相がみられる。坏以外の土器しか出土しない住居跡や、ほとんど土器が出土していない住居跡については、時期を想定するのは難しいが、同じく7世紀代におさまる時期である。いずれにしても、集落築造の中心となるのは、SD80から出土する土器と同時期の7世紀初頭前後と考えられる。

掘立柱建物跡のうち、2×2間の総柱建物として復元したSB11・13・14・17・18は、その建物方向が住居跡と類似している。遺物が少ないため、時期を確定できるものが少ないが、SB11出土の耳環は古墳から出土するものと同類であり、またSB18の須恵器罫がTK209型式に比定されることから、住居跡群と同時並存して、倉庫の機能をもっていたと推定できる。いずれもSD44沿いにおいて、また溝が周囲に巡っている住居に近接して築造されている。

また、SD80に隣接しているSB9・10・12は、SD80と方向がほぼ一致し、一般の掘立柱建物に比べ長大であるのが特徴である。後述のようにSD80が運河的な役割を担っていたとすれば、これらの建物が荷物の集積場的な機能をもっていた可能性も考えられる。

井戸跡はSE57・61・82・72がこの時期に該当し、その他にSJ19P5としたものや、P481・P855等は井戸跡となる可能性がある。いずれも平面は小型の円形で、土器がまとまって出土するケースが多い。後述の平安時代に比べると、井戸跡は少ない。

土壌のうち、SK71・87・90・91・94・101・103・106・107・115・117・118・119・122・123・127・129・132・134・138・139・141・148・155・157等はこの時期に相当すると考えられる。これらの土壌は、北武蔵型坏の有無等により時期差を想定できるが、もっとも多いのは、住居跡と同じく7世紀初頭前後につくられたと想定されるものである。また、竪穴状不明遺構としたSX1・4もこの時期である。

溝跡は集落内を縦横無尽に走っているが、SD44を基幹とするものと、SD16を基幹とするものに分類できる。SD44はほぼ等高線に沿って走るもので、それに直角にとりつくSD50・59・63・114等の溝跡があり、SD80に流れ込む。また住居跡の周囲を区画する溝跡が連結するのは、ほとんどがこのSD44である。SD16は地形とは関係なく、ほぼ南北に走ってSD80に流れ込む溝跡でSD21・30・51等が関連すると想定できる。

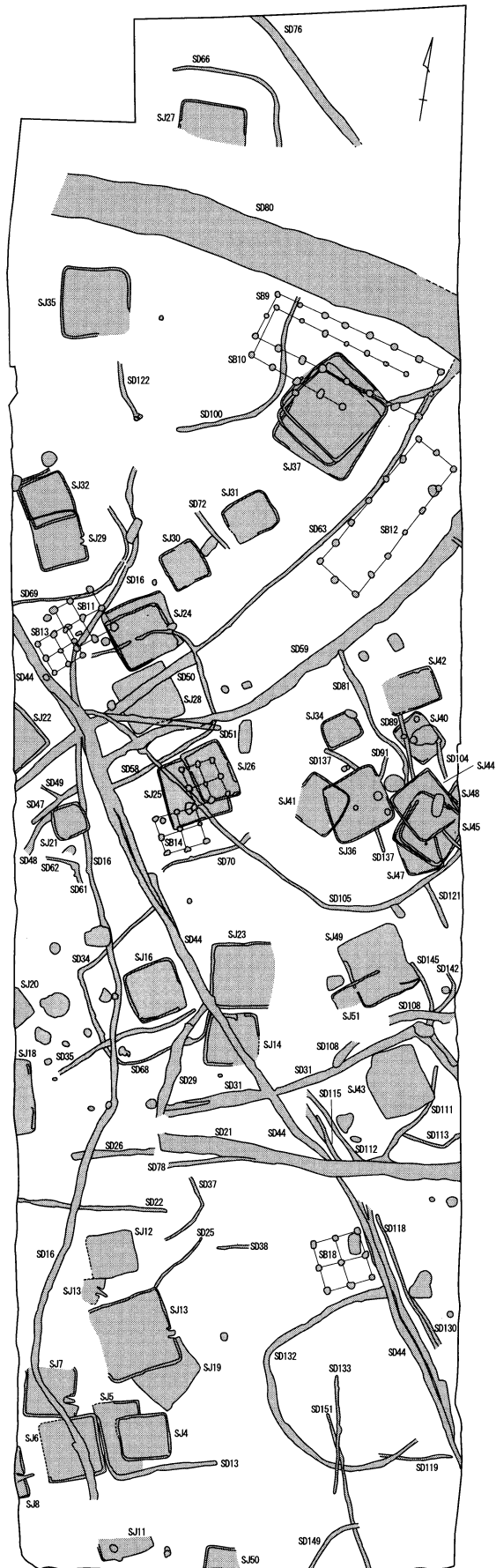
溝跡の時期は、土層の観察からSD16はSJ7よりも新しく、SD21ではSD44よりも土師器坏が小型化し、北武蔵型坏を含んでいることなどから、SD44よりもSD21の方がやや新しいと推定される。自然地形に沿ったSD44群から、方角を意識したSD16群への変化は、後述する平安時代への兆しとしてみることも可能であろう。

また、溝跡の中で特筆すべきは集落の北側を東西に走るSD80である。大量の土器や木器類とともに動物や魚介類の骨などが出土している。元来は自然流路であったものを、生活水路として手を加えて整備した溝と推定される。おそらくは旧荒川の本流と接続し、物資や人の運搬に欠かせない運河的な役割を果たしていたものと思われる。多くの海水棲の貝類やイルカの骨等は、東京湾周辺の人々との直接的な交流を裏付けるものである。SD80から出土する土器は、土師器坏の小型化がみられるが、須恵器はTK209型式に相当し、7世紀を前後する時期であろう。ただし、土器には若干の時期差がみられることから、溝自体は長期にわたって使用されていた可能性がある。

以上のように、古墳時代後期の遺構は、7世紀前半にかけては自然地形に沿ってつくられ、7世紀中ごろには方角を意識したつくりとなる。カマドのある住居、カマドのない住居、倉庫や集積場と想定される掘立柱建物、SD44あるいはSD16を基幹とした溝群を中心とした集落が営まれていた。集落の北側を流れるSD80は、旧荒川、そして東京湾へとつながり、この集落の人々の生活を支えていた。

なお、西へ約800mほど離れた成願遺跡では、5世紀後半から集落が築かれ、7世紀初頭に断絶したとされる（『成願遺跡』事業団報告書第274集、2002）。今回報告の下田町遺跡の集落は、成願遺跡の衰退と前後して築かれ始めていることとなる。

平成14年度以降の調査においては、当該期の遺構だけでなく、古墳時代前中期の住居跡も検出している。字名に残る「玉作」集団との関連ともあわせて、



第374図 古墳時代後期の遺構

集落の全容の解明は今後の調査成果に委ねることとしたい。(岡本健一)

4 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構は、掘立柱建物跡、井戸跡、土壇、溝跡である。ここでは、9世紀末から10世紀にかけての下田町遺跡の様相について検討を行う。

下田町遺跡は、この時期になると、大規模な建物跡が出現する。在地領主層の館跡の可能性が考えられ、窯業、鍛冶、漆工人の存在もうかがわせる。さらに、灰釉陶器、緑釉陶器の供給も多く、木製黒漆塗り鞍や銅鏃、また、刀装具で方頭太刀の柄頭か鞘尻の覆輪金具を出土することから有力領主層の遺跡であった可能性が高い。

掘立柱建物跡は6棟、この他に井戸跡、溝跡が付属する。建物配置は第375図の全体図に示したとおりである。主屋は第2号掘立柱建物跡である。東西棟の桁行7間×梁間2間の母屋に四面庇がめぐる。建物跡の柱穴は、須恵器甕の破片が敷き詰められ柱の沈下を防ぐ繰り石的な根固め構造である。この建物を中心として、南側の東と西に建物跡が並ぶ。西側には第1・3・4号掘立柱建物跡を検出し、さらに南側には第2号井戸跡が位置する。また、東側には第6、7号掘立柱建物跡を検出し、第8号掘立柱建物跡が位置する。主屋の北側には、第19号掘立柱建物跡が存在する。

田中広明氏は「国司の館と地方豪族の家」の中で郡司の家と郡家の館の建物構成について言及し、「上野交替実録帳」によると館は宿屋・向屋・副屋・厨・厩などから構成されているとし、郡司の家にもこのような構成要素が備わっていたと指摘している。また、「今昔物語集」では、寝殿・対屋・厨・厩などから郡司の家は構成されていたと考えている。

下田町遺跡が郡司の家であるかは別とし、この地域の拠点的な遺跡であることは間違いなく、在地領主層の館の可能性が指摘できる。建物の構成要素を見たとき、第2号掘立柱建物跡を寝殿、第6号掘立

柱建物跡を対屋として捉えることができ、このような構成は田中氏が述べる寝殿・対屋の二棟構造を意味していると考えられる。外郭施設は、区画溝によって区分され、東側には、第107号溝跡が南北に走り、その外側に途切れているもののやや幅広の第117号溝跡が位置する。さらに、遺跡全体を画する溝跡は、地形に合わせて北西から南東方向に走る第94号溝跡で、遺跡北限には第95号溝跡が位置する。

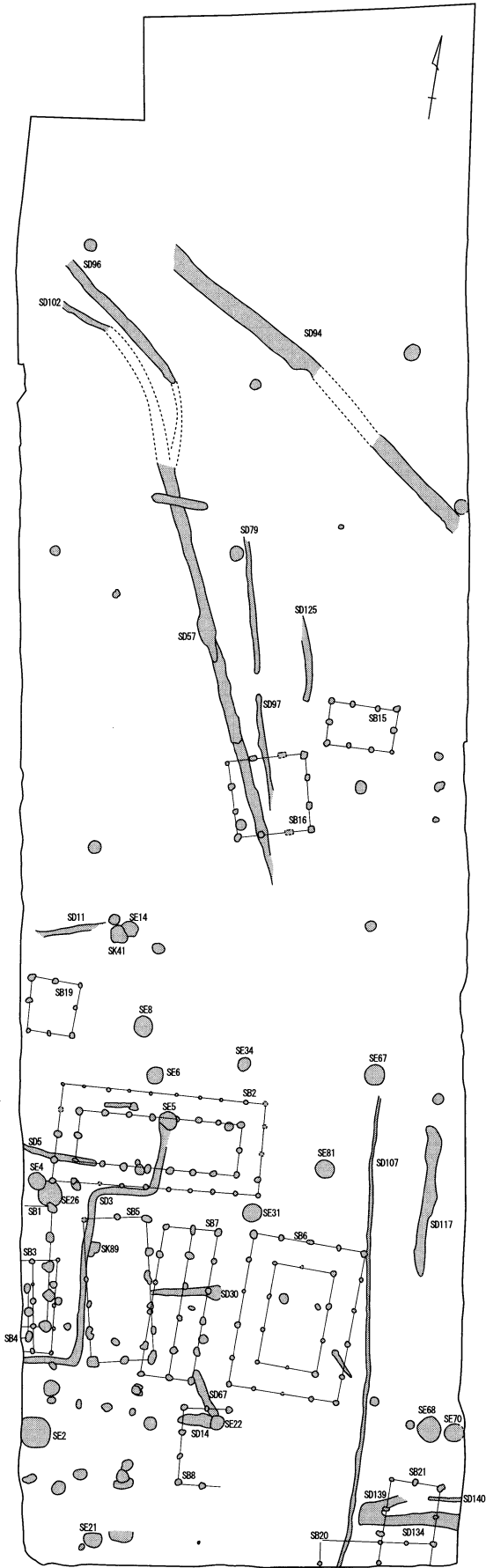
次に、出土遺物は、第1～8号掘立柱建物跡や第2号井戸跡、第3号溝跡から在地産須恵器とともに灰釉陶器、緑釉陶器が検出されている。

灰釉陶器は59点で、静岡県浜北市宮口窯、東遠江地域の大須賀町清ヶ谷窯跡群などで生産された製品と、岐阜県東濃地域の多治見市周辺の窯跡群の供給が見られた。構成比は、椀34点、皿10点、段皿2点、耳皿1点、長頸壺8点、壺3点、小瓶1点。緑釉陶器は48点で、愛知県猿投窯跡群、愛知県尾北地域の小牧市篠岡窯跡群、岐阜県東濃地域の多治見市周辺の窯跡群の製品が見られた。構成比は、香炉1点、香炉蓋1点、椀22点、輪花椀4点、皿9点、段皿1点、耳皿2点、稜皿1点、輪花皿2点、唾壺1点、手付瓶1点、不明1点。

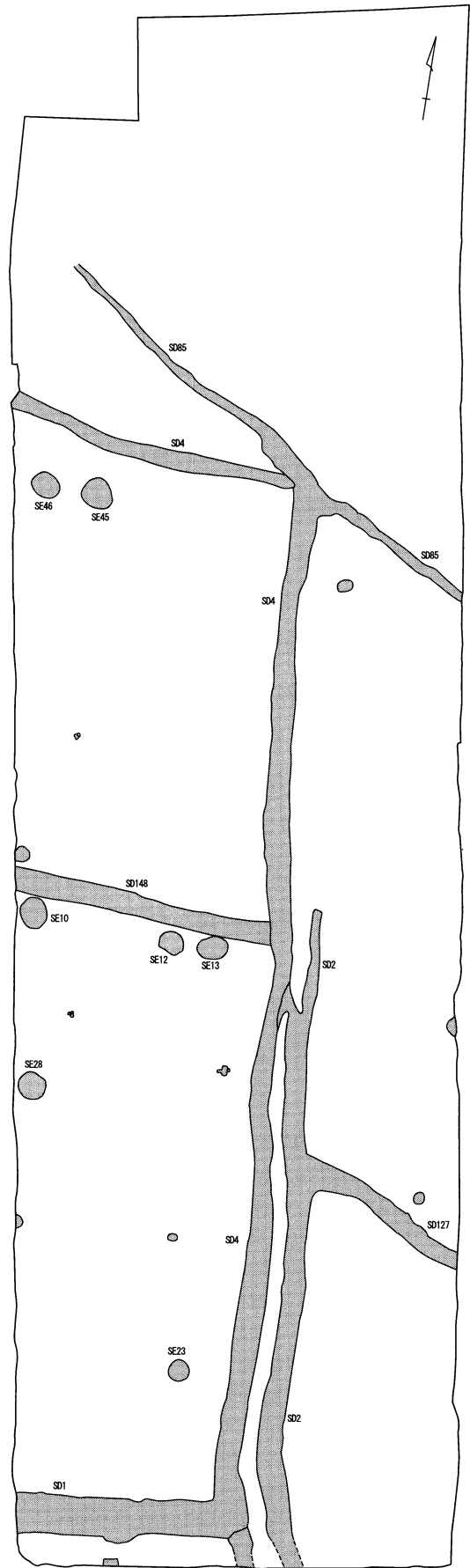
須恵器は、胎土中に白色針状物質を含む在地産を主体とし、末野産が少量供給されている。

ロクロ使用の酸化焰焼成土器は、これまで様々な検討がなされてきた。田中広明氏は、中堀遺跡の土器群や北島遺跡の土器群を検討し、土師器、須恵器、土師質土器、黒色土器に分類した。永井いずみ氏は、大寄遺跡出土の土器群を土師器、須恵器、須恵系土師質土器、土師系土師質土器、ロクロ土師器に分類した。また、富田和夫氏は、大寄遺跡出土の土器を「羽釜出現以降の土器群について」と題して検討し、土師器、須恵器、ロクロ土師器、非ロクロ土師器に分類している。

下田町遺跡では、ロクロ整形で酸化焰焼成された土器を土師質土器とロクロ土師器とに分類した。しかし、須恵器との区分は非常に難しく、いずれもロ



第375図 奈良・平安時代の遺構



第376図 中世の遺構

クロ整形であり、焼成が酸化焰か還元焰かの区別であるが、窯構造、窯内の位置や火のまわりによって焼成具合が変化すると考えられる。

平安期になると、須恵器生産体制に大きな変化が見られこれまでの生産体制から生産単位や生産場所が変わったと考えられる。寄居町箱石遺跡では、古墳の周溝内傾斜部分に窯を構築している。また、寄居町桜沢窯跡では、平坦な地形に半地下式の窯を構築している。川本町如意遺跡では集落内の平坦地に土壇状の窯を構築している。渡辺一氏は、「里の須恵器」と捉え古代的須恵器生産のあり方と区別している。こうした生産体制の変革期に本遺跡はある。

この他、漆の付着椀、椀型鍛冶滓、羽口が出土し、手工業生産に携わる工人の存在をうかがわせる。

年代的な位置付けは、灰釉陶器から、主体は大原2号窯式である。下限は第232図5三日月高台が見られることから光ヶ丘1号窯式、上限は第364図41の小ぶりの高台で虎溪山1号窯式と考えられる。また、在地産須恵器は、還元焰焼成と酸化焰焼成が混在するものの、形態や高台部の造りはやや崩れている。また、足高高台壙も出現する。土師器は、底部小型の平底で体部にケズリが見られる。器肉薄く胎土は砂粒多い。中堀遺跡第Ⅵ～Ⅶ期であり、大寄遺跡第A期より古いと考えられる。概ね10世紀前半を主

体とし、一部後半におよぶ時期である。

5 中世

中世は、井戸跡、溝跡、土壇墓を検出した。

溝跡は、調査区の中央を南北方向に二条の溝跡が平行して走る。西側は第2号溝跡、東側は第4号溝跡である。溝間距離は約1.5mである。やや狭い道路跡の可能性が考えられる。西側の第2号溝跡には、直行して繋がる第1・148・北側4号溝跡が存在する。また、東側の第4号溝跡には、第85・127号溝跡が南東方向に斜めに伸びる。いずれも掘り方規模は大きく、上幅は、約2.5～4.0m前後を計る。溝跡は東西、南北方向を意識した方形の区画溝である。

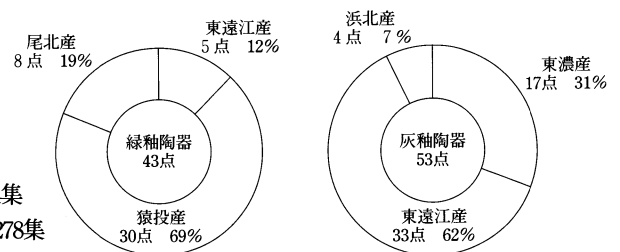
遺跡では井戸跡も多く検出され、建物跡は明瞭に把握できなかったが数多くの柱穴が存在していた。また、土壇墓や火葬墓も確認され、板碑の検出などから遺跡内に供養地が存在していたと考えられる。

検出された遺物は、在地産鉢、内耳鍋、常滑甕、輸入陶磁器の青磁碗、銭貨などで13世紀後半～15世紀にかけてである。

下田町遺跡は大規模な溝跡から中世の居館跡と推定され、平安期の条里地域を活動基盤の背景とし、中世段階においても活発に進行し、新田開発にともなう領主層の存在が推測される。(赤熊浩一)

引用・参考文献 (順不同)

- 福田 聖 2000 『方形周溝墓の再発見』 同成社
 田中広明 2003 『地方の豪族と古代の官人』 柏書房
 鈴木徳雄 1984 『阿知越遺跡』 児玉町文化財報告書第4集
 山本 靖 2002 『成願遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第274集
 田中広明 2002 『北島遺跡Ⅴ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第278集
 村田健二 1990 『広面遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第89集
 杉崎茂樹 1993 『中耕遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第125集
 恋河内昭彦 1998 『向田A・向田B・沓丁田遺跡』 児玉町文化財報告書第27集
 楠 正勝 2003 『装飾器台の成立と展開』 『庄内式土器研究ⅩⅩⅥ』 庄内式土器研究会
 濱岡賢太郎・吉岡康暢 1962 『加賀・能登の古式土師器』 『古代学研究32』 古代学研究会
 川村浩司 1994 『関東南部における北陸系土器の様相について』 『庄内式土器研究Ⅵ』 庄内式土器研究会
 伊藤敏行 1986 『東京湾西岸流域における方形周溝墓の研究Ⅰ』 『研究論集Ⅳ』 (財)東京都埋蔵文化財センター
 富田和夫 2000 『羽釜出現期以降の土器群について』 『大寄遺跡Ⅰ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第268集
 永井いずみ 2002 『ロクロ使用の酸化焰焼成土器の位置付け』 『大寄遺跡Ⅱ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第280集
 宅間清公 2003 『北島式から後期へ』 『北島式土器とその時代—弥生時代の新展開—』 埼玉考古別冊7 埼玉考古学会
 松岡有希子 2003 『北島式と集落』 『北島式土器とその時代—弥生時代の新展開—』 埼玉考古別冊7 埼玉考古学会



附 編

I 下田町遺跡出土の自然遺物分析

県立自然史博物館

- 1 骨の種別同定
- 2 種子の種別同定

II 下田町遺跡出土の自然遺物分析

株式会社パリノ・サーベイ

- 1 木製品の樹種同定
- 2 貝類の種別同定

I 下田町遺跡出土の自然遺物分析

1 骨の種別同定 (写真図版118~121)

下田町遺跡からは64点の骨が出土した。これら資料を自然史博物館の坂本治氏に同定していただいた。中世の井戸跡である第14号からは雉、第23号からは牛の骨を出土した。また、平安時代の井戸跡である第43・58号からは牛の骨を検出。平安時代の第3号

溝からは本州鹿と牛の下顎歯を検出した。古墳時代後期の溝跡である第80号からは、馬の骨が多いが、特筆すべきものに大型鳥類（オオワシ）の上腕骨が見られることである。この他雉、牛が見られる。この他細かい骨について以下のような分析結果をいただいた。

下田町遺跡出土骨の種別同定

資料番号	遺構名	分類名称	部 位	時 期	写真図版番号
1	SB - 2、P - 8	不明	エナメル片	平安	118
2	P - 855	ウマ?	足根骨ほか、骨片	古墳後期	118
3	SJ - 37	不明	骨片	古墳後期	118
4	C - 15G	ウシ?	上顎歯		118
5	表採	不明	骨片		118
6	SX - 4	ウシ	右上顎臼歯	古墳後期	118
7	SJ - 40	ウシ or ウマ	関節部	古墳後期	118
8	SE - 58	ウマ	切歯 (左上顎)・頭蓋骨片	平安	118
9	SE - 23	ウマ	上顎歯 (左側 4本、右側 1本)	中世	118
10	SE - 10	不明 (ウマ?)	腰椎 (第2又は第3)	中世	118
11	SE - 13	ウマ		中世	118
12	SE - 43	ウシ	左脛骨	平安	118
13	SE - 14	キジ	中足骨 (左)	中世	118
14	SE - 85	ホンシュウジカ	頭蓋骨 (♀)	平安	118
15	SD - 3	ウマ	下顎歯 (左 第1前臼歯)	平安	119
16	SD - 4	ウマ	上顎歯	中世	119
17	SD - 21	ウマ	下顎歯	中世	119
18	SD - 21	ウシ or ウマ		古墳後期	119
19	SD - 2	ウマ	中手骨 (完全)・脛骨 (不完全)	中世	119
20	SD - 4	ウマ	脛骨	中世	119
21	SD - 85	ウシ or ウマ	中足骨 or 中手骨	中世	119
22	SD - 43	不明	骨片	古墳後期	119
23	SD - 85	ウマ	上顎臼歯	中世	119
24	SD - 84	不明	骨片	平安	119
25	SD - 85	ウマ?	上顎臼歯	中世	119
26	SD - 95	ウシ?	左上顎歯	不明	119
27	SD - 102	ウマ	下顎歯片	平安	119
28	SD - 29	ウマ	下顎歯	古墳後期	119
29	SD - 85	ウマ	中手骨 (2本)	中世	119
30	SD - 85	不明		中世	119

資料番号	遺構名	分類名称	部位	時期	写真図版番号
31	SD - 127	不明	骨片	中世	119
32	SD - 127	ウマ	下顎 (下顎頭・筋突起・その他)	中世	119
33	SD - 80	不明	骨片	古墳後期	120
34	SD - 80	ウマ	脛骨 (左?・遠位関節部)	古墳後期	120
35	SD - 80	ウマ	撓骨?	古墳後期	120
36	SD - 80	ウマ?		古墳後期	120
37	SD - 80	大型鳥類 (オウソ?)	ほぼ完全な上腕骨	古墳後期	120
38	SD - 80	ウマ	軸椎 (ほぼ完全)	古墳後期	120
39	SD - 80	ウマ	下顎歯 (左第3大臼歯)	古墳後期	120
40	SD - 80	ウシ	左角を含む・断片骨角	古墳後期	120
41	SD - 80	ウマ	右距骨 (ほぼ完全)	古墳後期	120
42	SD - 80	ウシ?		古墳後期	120
43	SD - 80	ウマ	尺骨 (滑車切痕部)	古墳後期	120
44	SD - 80	ウマ	左下顎骨 (下顎体、含臼歯5本)	古墳後期	120
45	SD - 80	ウマ	中手骨 (左 近位関節部)	古墳後期	120
46	SD - 80	ウマ?	基節骨?	古墳後期	120
47	SD - 80	鳥類 (キジ?)	脛骨根骨 (左側 ほぼ完全)	古墳後期	120
48	SD - 80	中型ほ乳類	左肋骨	古墳後期	120
49	SD - 80	ウシ or ウマ	距骨	古墳後期	120
50	SD - 80 (J - 8G)	ウシ	右角含む頭蓋骨片	古墳後期	120
51	SD - 80	不明	骨片	古墳後期	120
52	SD - 80 (J - 9G)	不明	関節部	古墳後期	120
53	SD - 80	ウマ	中手骨 (遠位関節部)・中節骨?	古墳後期	120
54	SD - 80	ウシ	左下顎 第3大臼歯を含む 破片	古墳後期	120
55	SD - 80	ウマ	中手骨	古墳後期	120
56	SD - 80	不明	骨片 (肩胛骨?)	古墳後期	120

■十脚甲殻類

- ・ カニの甲羅 破片 2点
- ・ ハサミ (鉗脚) 可動指と不動指が分離

■フジツボ類 1点

■両生類 (カエル)

- ・ 骨盤 1点
- ・ 足の骨 1点

■鳥類

■魚類

- ・ 魚鱗 (ウロコ) 破片 3点
- ・ 歯 4点
- ・ 種鰓蓋骨 4点
- ・ 下鰓蓋骨 1点
- ・ 前鰓蓋骨 1点
- ・ 鰭条 (背びれ) 1点

■哺乳類

- ・ ハタネズミ 左下顎骨 1点

2種子の種別同定 (写真図版121)

古墳時代後期の溝跡第80号出土の種子について同定をお願いし、モモ・スモモ・ウリ科 (ユウガオ?) の同定結果をいただいた。

■種子

モモ スモモ ウリ科 (ユウガオ?)

■その他

バラ科植物のトゲ

その他 不明

Ⅱ. 下田町遺跡の自然化学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

分析者 高橋 敦

<目次>

はじめに	p. 438
I. 木製品の樹種同定および漆塗膜断面の観察	p. 439
1. 試料	p. 439
(1) 樹種同定	p. 439
(2) 漆塗膜断面の観察	p. 439
2. 分析方法	p. 439
(1) 樹種同定	p. 439
(2) 漆塗膜断面の観察	p. 439
3. 結果	p. 439
(1) 樹種同定	p. 439
(2) 漆塗膜断面の観察	p. 442
4. 考察	p. 442
II. 貝類の同定	p. 445
1. 試料	p. 445
2. 分析方法	p. 445
3. 結果	p. 445
(1) 産出種	p. 445
(2) 総括	p. 446
引用文献	p. 446

<図表・図版一覧>

表 1. 樹種同定結果
表 2. 時期別・器種別種類構成
表 3. 検出動物分類群の一覧
表 4. 貝類同定結果
図 1. ハマグリの殻長分布
図 2. チリメンカワニナの殻高分布
図 3. マルタニシの殻高分布
図 4. マツカサガイの殻長分布
図版 1 木材 (1)
図版 2 木材 (2)
図版 3 木材 (3)
図版 4 木材 (4)
図版 5 木材 (5)
図版 6 漆断面

下田町遺跡の化学分析

はじめに

下田町遺跡は、和田吉野川と荒川が合流する付近の沖積低地から微高地上に位置する。本遺跡では、古墳時代、古代、中世の遺構が検出されている。これらの遺構からは、土器などと共に木製品等も多数出土している。また、古墳時代の溝跡からは、貝類や獣骨・魚骨などの骨、種実遺体など、食物残渣と考えられる遺物も多数出土している。

本報告では、出土した木製品の樹種同定を行い、木材利用に関する資料を得る。木製品のうち、鞍については、漆塗膜の研磨薄片作製・観察を行い、漆塗り技法に関する資料を得る。また、出土した貝類について同定を行い動物食糧に関する資料を得る。

1. 木製品の樹種同定および漆塗膜断面の観察

1. 試料

(1) 樹種同定

試料は、井戸や溝跡などから出土した木製品70点である。各試料の詳細は、樹種同定結果と共に表1に記す。

(2) 漆塗膜断面の観察

試料は、鞍（遺物番号410）から採取した漆塗膜片1点である。

2. 分析方法

(1) 樹種同定

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柁目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

(2) 漆塗膜断面の観察

漆塗膜片を乾燥させた後、プラスチック製の台に接着剤で固定し、漆膜の上下に透明プラスチックの

パリノ・サーヴェイ株式会社

板を当てて塗膜片が動かないように固定する。合成樹脂で塗膜片を包埋し、固化させる。漆膜の断面が出るようにダイヤモンドカッターで切断し、切断面を研磨する。研磨面をスライドガラスに接着後、反対側も切断し、厚さが0.05mm程度になるまで研磨してプレパラートとする。

プレパラートを生物顕微鏡、落射蛍光顕微鏡、偏光顕微鏡、反射顕微鏡等を用いて漆塗膜の構造を観察する。

3. 結果

(1) 樹種同定

樹種同定結果を表1に示す。木製品は、針葉樹5種類（モミ属・スギ・ヒノキ・イヌガヤ・カヤ）と広葉樹8種類（コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・コナラ属アカガシ亜属・クリ・ヤマグワ・カツラ・サカキ・トネリコ属）に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

・モミ属 (*Abies*) マツ科

軸方向組織は、基本的には仮道管のみで構成されるが、傷害樹脂道が認められる試料もある。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で、1分野に1-4個。放射組織は単列、1-20細胞高。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don)

スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞は晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-15細胞高。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.)

Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に限って認められるが、顕著ではない。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1-3個。放射組織は単列、1-15細胞高。

・イヌガヤ (*Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K. Koch f.) イヌガヤ科イヌガヤ属

軸方向高組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。樹脂細胞は早・晩材部の区別無く年輪全体に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成され、分野壁孔はヒノキ型で1分野に1-2個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・カヤ (*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.) イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁には対をなしたらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に1-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら単独で放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組

織とがある。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は1-4列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・ヤマグワ (*Morus australis* Poiret) クワ科クワ属

環孔材で、孔圏部は1-5列、晩材部への移行は緩やかで、年輪界へ向かって管径を漸減させ、のち塊状に複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高で、しばしば結晶を含む。

・カツラ (*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.)
カツラ科カツラ属

散孔材で、管孔はほぼ単独で散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、段数は20以上。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-30細胞高。

・サカキ (*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.) ツバキ科サカキ属

散孔材で、小径の道管が単独または2-3個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、単列、1～20細胞高。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圏部は2-3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、単独または2個が複合、複合部はさ

表1 樹種同定結果

遺構番号	図版番号	木 取	種別	器 種	時 期	材 質	出土位置	備 考	
SB 6	139 8	芯近くの板目板	木製品	柱	平安時代	コナラ属コナラ亜属コナラ節	P24 (P784)		
SB 6	139 7		木製品	柱	平安時代	コナラ属コナラ亜属コナラ節	P16		
SB 6	140 10		木製品	柱	平安時代	クリ	P11		
SB 6	140 9		木製品	梯子	平安時代	ヤマグワ	P12		
SE 2	177 10		木製品	井戸枠	平安時代	クリ	東No.9		
SE 2	175 30		木製品	曲物	平安時代	モミ属	北No.2		黒漆
SE 2	175 28		木製品	鞍	平安時代	コナラ属コナラ亜属クヌギ節			
SE 2	175 36		木製品	杭	平安時代	サカキ	西壁①		底板
SE 10	183 11		木製品	曲物	中世	スギ			
SE 7	188 10		木製品	井戸枠	平安時代	ヒノキ	西壁①		黒漆 黒・赤漆 黒漆 黒漆
SE 21	197 9		木製品	槽	平安時代	スギ			
SE 29	200 5		木製品	横木取	中世	クリ	D-9G No.318		不明带状木製品
SE 29	200 4		木製品	横木取	中世	トネリコ属			
SE 33	200 8		木製品	横木取	中世	カツラ	No.84		河川跡
SD 57	305 16		木製品	横木取	中世	トネリコ属			
SD 80	335 257		木製品	不明棒状製品	古墳時代後期	スギ	No.20		No.20
SD 80	335 254		木製品	不明棒状製品	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属			
SD 80	335 253		木製品	杭	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属	No.84		No.20
SD 80	335 255		木製品	角材	古墳時代後期	スギ			
SD 80	335 249		木製品	ささら	古墳時代後期	モミ属	No.20		No.20
SD 80	335 259		木製品	不明棒状製品	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属			
SD 80	335 252		木製品	杭	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属	No.147		No.88
SD 80	336 260		木製品	紡錘車	古墳時代後期	スギ			
SD 80	336 267		木製品	槽	古墳時代後期	モミ属	No.26		No.9
SD 80	336 261		木製品	不明棒状製品	古墳時代後期	モミ属			
SD 80	336 262		木製品	不明棒状製品	古墳時代後期	モミ属	No.9		No.9
SD 80	336 263		木製品	杭	古墳時代後期	モミ属			
SD 80	336 264		木製品	馬鋸の歯	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属	No.84		No.125
SD 80	336 265		木製品	馬鋸の歯	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属			
SD 80	336 266		木製品	馬鋸の歯	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属	No.130		不明角材
SD 80	337 269	木製品	不明板材	古墳時代後期	モミ属				
SD 80	337 268	木製品	田下駄	古墳時代後期	ヒノキ	No.34	底板		
SD 80	337 272	木製品	板	古墳時代後期	モミ属				
SD 80	338 276	木製品	不明板材	古墳時代後期	モミ属	No.20	No.120		
SD 80	338 275	木製品	桶	古墳時代後期	ヒノキ				
SD 80	338 273	木製品	鋤	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属	No.20	No.120		
SD 80	338 274	木製品	平鋤	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属				
SD 80	340 282	木製品	丸木	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属	No.173	No.178-7		
SD 80	340 283	木製品	丸木	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属				
SD 80	340 284	木製品	馬鋸の歯	古墳時代後期	コナラ属コナラ亜属コナラ節	No.178-6	No.178-2		
SD 80	342 291	木製品	杭	古墳時代後期	コナラ属コナラ亜属クヌギ節				
SD 80	344 296	木製品	馬鋸の歯	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属	No.178-3	No.178-4		
SD 80	344 295	木製品	馬鋸の歯	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属				
SD 80	344 298	木製品	板	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属	No.178-1	No.178-1		
SD 80	344 294	木製品	杭	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属				
SD 80	344 294	木製品	杭	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属	No.178-1	No.178-1		
SD 80	344 293	木製品	馬鋸の歯	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属				
SD 80	345 301	木製品	馬鋸の歯	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属	P4	P5、No.1		
SJ 67	東区	木製品	柱	古墳時代後期	コナラ属コナラ亜属コナラ節				
SB 27	東区	木製品	柱根	平安時代	カヤ	I-15G	I-15G		
SE 103	東区	木製品	板	奈良時代	ヒノキ				
SE 103	東区	木製品	板	奈良時代	スギ	I-15G	I-15G		
SE 103	東区	木製品	板	奈良時代	コナラ属アカガシ亜属				
SE 103	東区	木製品	板	奈良時代	コナラ属アカガシ亜属	I-15G	I-15G		
SE 103	東区	木製品	板	奈良時代	スギ				
SE 103	東区	木製品	板	奈良時代	スギ	No.3、南西	No.3、南西		
SE 103	東区	木製品	板	奈良時代	モミ属				
SE 103	東区	木製品	井戸枠	奈良時代	ヒノキ	No.1	No.1		
SE 103	東区	木製品	井戸枠横木	奈良時代	スギ				
SK 179	東区	木製品	木樋(身)	不明	イヌガヤ	K-10G	火燧しの土台		
SK 179	東区	木製品	木樋(柄)	不明	サカキ				
SK 181	東区	木製品	丸木	奈良時代	サカキ	H-16G	H-16G		
P 881	東区	木製品	板目	不明	ヒノキ				
P 1311	東区	木製品	板目	不明	ヒノキ	J-8G、No.26	J-8G、No.26		
SD 80	東区	木製品	板目	古墳時代後期	コナラ属アカガシ亜属				
SD 80	東区	木製品	板目	古墳時代後期	モミ属	東区No.319	不明板材		
SD 80	東区	木製品	下駄	古墳時代後期	ヒノキ				
SD 80	東区	木製品	丸木	古墳時代後期	ヒノキ	東側調査区	東側調査区		
SD 80	東区	木製品	横杵	古墳時代後期	ヒノキ				
SD 80	東区	木製品	板目	古墳時代後期	スギ	東区西壁	No.327		
SD 80	東区	木製品	板目	古墳時代後期	スギ				
SD 80	東区	木製品	板目	古墳時代後期	スギ	No.327	天びん棒か?		
SD 80	東区	木製品	板目	古墳時代後期	モミ属				

らに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-40細胞高。

(2) 漆塗膜断面の観察

木地の上には下地層が40 μ m-100 μ m程度の厚さで塗布される。下地層は、透過光では黒色不透明、落射蛍光では黒色の粒子や黄褐色の粒子が集合している様子が認められる。これらの粒子の中では、偏光顕微鏡で鈹物粒子が認められるが、大部分の粒子は由来不明である。

下地層の上には漆層が100-150 μ mの厚さで塗布される。漆層は透過光で赤褐色、落射蛍光では黄褐色を呈する。観察した範囲では混和物は認められないことから、透明漆が酸化して赤色化した可能性がある。

4. 考察

樹種同定を行った木製品は、古墳時代後期、奈良時代、平安時代、中世、時期不明に分類される。木製品の時期別・器種別の種類構成を表2に示す。

古墳時代後期では、農具、紡織具、容器、建築部材等について同定を行った。針葉樹のモミ属、スギ、広葉樹のアカガシ亜属が多く利用され、他に針葉樹のヒノキ、広葉樹のクスギ節、サカキが認められる。針葉樹類が利用されている器種をみると、田下駄、ささら、槽、桶、下駄、紡錘車、角材、棒、板類等である。針葉樹の樹種によって器種が異なっているようにもみえるが、槽や板ではスギとモミ属の両方が使用されており、断定はできない。確認された針葉樹類は、いずれも木理が通直で、割裂性が高く加工も容易である。割裂性が高い木材は、楔等を用いることで容易に板などの加工ができるため、鋸が発達する以前の木材加工においては重要な材質であったと考えられる。モミ属は、現在の植生など

を考慮すれば、低標高地にも生育するモミの可能性はある。このモミは扇状地上や山地斜面などの不安定な場所にも生育する種類であることから、遺跡周辺の段丘崖付近等に生育していたと考えられる。一方、スギについては、現在の埼玉県内に一般に天然のスギは無いとされるが(倉田,1971)、自生も認められるという報告例もある(高橋,1998)。遺跡からの出土例をみると、戸田市の鍛冶谷・新田口遺跡、行田市・熊谷市の小敷田遺跡、本庄市の今井川越田遺跡等で古墳時代の木製品にスギが確認されており、県内の広い地域でスギ材が利用されている(能城・鈴木,1986;鈴木・能城,1991;パリノ・サーヴェイ株式会社,1997)。スギが周辺に自生し利用されていたか、他の地域からの搬入によるものなのか、今後の分析例を蓄積し検討したい。ヒノキについては、県

表2 時期別・器種別種類構成

時期・器種	樹種											合計		
	モミ属	スギ	ヒノキ	イヌガヤ	カヤ	クスギ節	コナラ節	アカガシ亜属	クリ	ヤマグワ	カツラ		サカキ	トネリコ属
古墳時代後期	縦杵							1				1	2	
	横杵			1									1	
	平鋤							1					1	
	鋤							1					1	
	馬鍬の歯							11					11	
	田下駄			1									1	
	ささら	1											1	
	槽	1	1										2	
	桶(底板)			1									1	
	下駄			1									1	
	柱							1					1	
	紡錘車		1										1	
	杭	1					1	2					4	
	角材		1										1	
	棒	1											1	
	板	1	2					1					4	
	不明板材	1											1	
不明棒状製品	2	1					1					4		
不明	2						1					3		
奈良時代	縦杵											1	1	
	井戸杵	1											1	
	井戸杵横木			1									1	
	杭						1						1	
平安時代	板		2	1				1					4	
	鞍						1						1	
中世	槽		1										1	
	曲物	1											1	
	井戸杵			1					1				2	
	柱						2		1				3	
	柱根					1							1	
	梯子									1			1	
	杭											1	1	
	曲物		1										1	
	碗								1		1		2	
時期不明	木槌 柄				1								1	
	木槌 身		1										1	
	柱			1									1	
	棒状品			1									1	
	合計	12	11	9	1	1	2	2	22	3	1	1	3	2

内の広い範囲に生育しているが、多くは植林であり、本来の自生範囲については不明な点が多い。小敷田遺跡等の使用例を考慮すると（鈴木・能城,1991）、木材の入手は可能であったと考えられる。

一方、広葉樹材は、いずれも重硬で強度が高い材質を有する。これらの広葉樹材は、古墳時代後期では農具を中心に使用されており、強度の高い木材を選択していたことが推定される。日本各地の農具の調査では鋤・鋤類を中心とした多くのアカガシ亜属の利用例がある（島地・伊東,1988）。このことを考慮すると、農耕具の伝播と共に木材利用も伝わり、周辺に生育していたアカガシ亜属が選択的に利用された可能性がある。

古墳時代後期の農具のうち、馬鋤についてこれまで周辺地域で樹種同定を行った例は知られていないが、今回の結果から、鋤と同様の木材利用が行われたことが推定される。

奈良時代の木製品では、堅杵、井戸杵、杭、板がある。井戸杵や板には針葉樹のモミ属、スギが利用され、古墳時代後期と基本的に同様な木材利用が確認できる。堅杵についても、古墳時代後期と同じ樹種が確認されており、同様な木材利用が継続していたことが推定される。

平安時代では、鞍、槽、曲物、井戸杵、柱、梯子、杭がある。槽、曲物、井戸杵には針葉樹類が利用されている。この結果は、奈良時代と同様な傾向であり、針葉樹材の割裂性や耐水性を考慮した木材利用と考えられる。柱には針葉樹のカヤ、広葉樹のコナラ節、クリが認められた。コナラ節とクリについては、同時期の住居構築材にも多く利用されていることが知られている（千野,1991；高橋・植木,1994）。コナラ節やクリは、周辺の二次林等で現在も普通に見られる種類であり、遺跡周辺に生育していた木材を利用したことが推定される。一方、カヤは針葉樹としては重硬で強度が高く、耐水性にも優れた材質を有しており、柱材としてもしばしば確認されることがある（島地・伊東,1988）。カヤは、照葉樹林内

でカシ類等と共に生育する種類である。現在でも本地域周辺に生育していることから、遺跡周辺に生育していたものを用いた可能性がある。

梯子は、これまでの調査例で特定の樹木が利用されているような傾向は見られないが、基本的には強度が高い木材が利用されている。ヤマグワは比較的強度が高い部類に入り、これまでの傾向とも一致する。

鞍は黒色の漆塗りであり、樹種はクヌギ節であった。古墳時代の馬具については、行田市から熊谷市にまたがる小敷田遺跡や行田市池守遺跡で鐙が出土しており、針葉樹のイヌガヤやカヤが確認されている（山田,2003）。しかし、鞍については樹種同定を行った例は知られていない。鞍については、長野県榎田遺跡でカエデ属、奈良県谷遺跡でムクノキ等が確認された例がある（山田,2003）。また、正倉院に残されている馬鞍の樹種には、カシ、ムクノキ、カキ、ヤマグワ等が確認されている（貴島ほか,1981）。これらの結果を見ると、基本的には重硬な木材を選択しているようであり、今回の結果とも一致する。この鞍については、漆塗膜断面の薄片作製および観察を行った。その結果、下地に黒色の層があり、その上部に透明漆を塗っている様子が確認できた。この結果から、透明漆を通して下地を見ることで、肉眼で黒色を呈することが推定される。下地については、砂を含むことは確認できたが、大部分の粒子が同定不能であった。これまでの事例では、炭粉や油煙類を利用する例がよく見られるが、少なくとも炭粉や油煙の類とは粒子が異なる。岡田（1995）によれば、黒土の類を漆に混ぜた下地や、動物骨を焼いて粉碎した後に砂や漆に混ぜる骨粉下地がある。骨粉下地については、中国では多く確認されているようであるが、日本ではこれまでのところ滋賀県松原内湖遺跡の1例のみとされている。今回の下地については、今後も継続して同定を行い、由来を明らかにしたい。

中世では、曲物と椀がある。曲物はスギであり、

平安時代と同様な木材利用が確認できる。一方、椀は全て広葉樹材であり、クリ、カツラ、トネリコ属が確認された。これらの木材は、現在のろくろによる木材利用とも一致している。クリとトネリコ属は環孔材、カツラは散孔材で、木材の肉眼での印象は大きく異なり、材質的にも違いがある。民俗事例では、ろくろに使用される木材がいくつかに分類され、その分類によって用途も異なる（橋本,1979）。クリやトネリコ属は、環孔材ケヤキ系の木材であり、堅硬であるが靱性もあり、薄手物に適するとされる。カツラについては、分類の記載が無いが、系統的に散孔材サクラ・カエデ系の木材に類似する。サクラ・カエデ系は、割れ・狂いが少なく、白木地物に

適する他、下地が少量で足りるため、塗り物にも適するとされる。中世の漆器椀の生産と流通については、今後、資料の蓄積をし、検討していくことが必要である。

本地域周辺における木製品の樹種同定は、荒川左岸（利根川右岸）地域にいくつかの調査例があるが、荒川右岸についての事例が少ないため、木材利用の傾向等に関して不明な点が多い。また、本遺跡では、古墳時代後期から中世まで各時代の木製品が出土しており、時代による木材利用の変遷を知る上でも重要な資料である。今後、残る木製品についても樹種同定を行い、木材利用の傾向や時代による種類構成の比較など行いたい。

表3 検出動物分類群の一覧

軟体動物門	Phylum Mollusca
腹足綱	Class Gastropoda
前鰓垂綱	Subclass Prosobranchia
盤足目	Order Discopoda
カワニナ科	Family Pleuroceridae
チリメンカワニナ	<i>Semisulcospira bensoni reiniana</i>
ウミニナ科	Family Batillariidae
ウミニナ	<i>Batillaria multiformis</i>
フトヘナタリ科	Family Potamididae
カワアイ	<i>Cerithidea (Cerithideopsilla) djadjariensis</i>
新腹足目	Order Neogastropoda
アッキガイ科	Family Muricidae
アカニシ	<i>Rapana venosa</i>
原始紐舌目	Order Architaenioglossa
タニシ科	Family Vivipariidae
マルタニシ	<i>Cipangopaludina chinensis malleata</i>
二枚貝綱	Class Bivalvia
翼形垂綱	Subclass Pteriomophia
フネガイ目	Order Arcoida
フネガイ科	Family Arcidae
サルボウガイ	<i>Scapharca kagoshimensis</i>
カキ目	Order Ostreoida
カキ亜目	Suborder Ostreina
イタボガキ科	Family Ostreidae
マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>
弁鰓垂綱	Subclass Eulamellibranchia
古異歯目	Order Palaeoheterodonta
イシガイ科	Family Unionidae
マツカサガイ	<i>Unio japonensis</i>
異歯垂綱	Order Heterodonta
マルスダレガイ目	Order Veneroida
マルスダレガイ科	Family Veneridae
アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>
ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>
オオノガイ目	Order Myoida
オオノガイ亜目	Suborder Myoida
オオノガイ科	Family Myidae
オオノガイ	<i>Mya arenaria oonogai</i>
節足動物門	Phylum Arthropods
蔓脚綱	Class Cirripedia
完胸目	Order Thoracica
フジツボ科	Family Balanus
フジツボ類	<i>Balanus sp.</i>

II. 貝類の同定

1. 試料

試料は、古墳時代後期の第80号溝跡から検出された貝類である。これらは、既にクリーニングされた状態である。複数個検出されている貝類については、形態によりA-G類に分類されている。これらについては、代表的なもの数個を選び出し、同定試料とした。また、検出個数が少数のものは、その他として一括して取り扱われている。これについては、全てが同定試料とされた。所属時期は、いずれも古墳時代後期と考えられている。

ハマグリ、オオノガイ)、節足動物門蔓脚綱1種類(フジツボ類)の計12種類に同定される(表3)。以下、試料ごとに結果を示す。なお、同定結果を、表4に示す。これら検出された貝類は、発掘調査担当者により、各試料の個数が計数され、殻長あるいは殻高が計測されている。ここでは、これら計測値のデータも含めて報告を行い、産出個数の多いハマグリ、チリメンカワニナ、マルタニシ、マツカサガイの4種について計測値をグラフ化し、殻長あるいは殻高の分布図を作成した(図1~4)。なお、貝類の生態については、奥谷喬司編著(2000)などを参考とする。

表4 貝類同定結果(図版117)

試料	種類	左右	部位	数量	備考	計測値(mm)			
						部位	最小	最大	平均
A	ハマグリ	左	殻	112		殻長	24.60	111.00	55.67
		右	殻	195		殻長	24.16	98.29	52.09
B	アカニシ		本体	5		殻高	93.21	123.04	111.50
C	マガキ	左	殻	3		殻長	50.00	85.00	—
		右	殻	2		殻長	63.33	95.66	—
D	マルタニシ		本体	93		殻高	6.81	33.71	17.26
E	チリメンカワニナ		本体	609		殻高	9.69	35.30	20.21
F	マツカサガイ		合貝	20		殻長	24.43	44.44	38.13
		左	殻	83		殻長	26.91	49.83	38.76
		右	殻	75		殻長	26.62	48.00	36.92
G	フジツボ類		本体	塊		—	—	—	
その他	ウミニナ		本体	1	殻頂部破損	殻高	22.00	—	—
	カワアイ		本体	1		殻高	17.00	—	—
	サルボウガイ	右	殻	1		殻長	—	—	—
	アサリ	左	殻	2		殻長	48.91	49.10	—
	オオノガイ	左	殻	1		殻長	80.49	—	—

2. 分析方法

試料を肉眼およびルーペで観察し、その形態的特徴から、種類および部位の特定を行う。なお、同定および解析には、金子浩昌先生に協力をお願いし、署名原稿として結果を頂いた。

3. 結果

下田町遺跡の出土貝類

金子浩昌

同定の結果、分析試料は、軟体動物門腹足綱5種類(チリメンカワニナ、ウミニナ、カワアイ、アカニシ、マルタニシ)、軟体動物門二枚貝綱6種類(サルボウガイ、マガキ、マツカサガイ、アサリ、

(1) 産出種

・A類

ハマグリに同定される。多くの殻が検出されており、左112個、右195個が確認されている。最大殻は殻長111.00mmに達する。殻長70.0mm以上100.0mmまでの殻が大型殻であるが、その数は少ない。殻長70.0mm未満の殻が普通であるが、35.0mm前後から70.0mm未満までの殻が多い。このサイズは中小のサイズで、ハマグリを利用する際のもっとも小さいサイズであろう。最も、遺跡から出土したハマグリの場合、30.0mm以下の殻がみられることもあるが、ここではそうした小型サイズの殻はほとんど扱われなかったのである。

・B類

アカニシに同定される。大型殻5点が確認されている。殻高123.04mm標本は体層部が大きく壊され、肉を取り出すため破壊されたと考えられる。他4点のアカニシも大型の殻である。この貝は大型の巻貝であるが、内湾産の貝であるところから、容易に採取され搬入されたのであろう。

・C類

マガキに同定される。接合した左殻3点と、遊離した右殻2点がある。左殻の3点は、殻高85.0mmの2点と、殻高50.0mmの1点が接合する。右殻の2点は、殻高が95.66mmと63.33mmを計る。サイズは左右一致しないので、別殻であると考えられる。

・D類

マルタニシに同定される。殻高30±mmが成貝であり、その他は未成貝あるいは幼貝になる。殻高10～14mmという幼貝の多いことは、サイズを考えずに採取していることが考えられる。

・E類

チリメンカワニナに同定される。多くの殻が採取されているが、殻高10.0mmから30.0mm未満の殻が主体である。このサイズは、チリメンカワニナとしては小さいサイズであり、幼貝から垂成貝の成長段階の個体である。

・F類

マツカサガイに同定される。多くの殻が出土している。40.0mm以上がやや小型の成貝のサイズである。本遺跡のマツカサガイは、殻長40.0mm以下が大部分であるので、全体に小さかったといえよう。

・G類

フジツボに同定される。カキ殻に塊状となって付

着している。このことから、本来は、カキの方が食べられたと推定される。

・その他

チリメンカワニナ、ウミニナ、カワアイ、サルボウガイ、アサリ、オオノガイに同定される。ウミニナは、大きな湾の干潟、あるいは潮間帯などに分布する種類である。カワアイは鹹水種であるが、低鹹水種であるので、河口などに生育していることも考えられる。

サルボウガイは、右殻の殻頂部を残すのみの破片が1点検出されたのみである。殻長50.0mm前後の殻であったと思われる。アサリは、左殻2点があったのみである。殻長49.10mmと48.91mmであり、アサリとしては大きめのサイズ殻である。オオノガイは、左殻が1点検出されたのみである。殻長80.49mmを計る。

(2) 総括

本遺跡の貝種は、チリメンカワニナ、マツカサガイ・マルタニシが主になっていたようである。いずれも淡水貝種であって、手近で多く採れたと推定される。ただし、それらの淡水貝は、幼貝あるいは垂成体個体が多く、小型である。採取が過剰になり、小さな個体が多かったことも想像される。

ハマグリ、アカニシ、マガキ、アサリ、オオノガイなどの鹹水貝は、東京湾の現海岸線辺りからの搬入品であったと思われ、中でもハマグリが主体であったと推測される。採取量が多く、多くの搬入が可能であったのがこのハマグリで、ある程度のサイズ以上であったことも興味深い。

引用文献

- 千野裕道 1991 縄文時代に二次林はあったか 一遺跡出土の植物性遺物からの検討一 東京都埋蔵文化財センター研究論集 X, 215-249.
- 橋本鉄男 1979 ろくろ (ものと人間の文化史31) 法政大学出版局 444p.
- 貴島恒夫・嶋倉巳三郎・林 昭三 1981 正倉院宝物の木材材質調査報告. 正倉院年報第三号 1-17.
- 倉田 悟 1971 原色日本林業樹木図鑑 第1巻 (改訂版) 地球出版株式会社 331p.
- 奥谷喬司編著 2000 日本近海産貝類図鑑 東海大学出版会 1173p.
- 能城修一・鈴木三男 1986 鍛冶谷・新田口遺跡出土木材の樹種 [埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第62集 鍛冶谷・新田口遺

跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団 398-410.

岡田文男 1995 古代出土漆器の研究 顕微鏡で探る材質と技法 京都書院 190p.

パリノ・サーヴェイ株式会社 1997 今井川越田遺跡における古植生と植物利用「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第191集 本庄市 今井川越田遺跡 本庄今井工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告—Ⅲ—〈第2分冊〉」財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 369-376.

島地 謙・伊東隆夫(編) 1988 日本の遺跡出土木製品総覧 雄山閣 296p.

鈴木三男・能城修一 1991 小敷田遺跡の木材化石群集「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集 行田市・熊谷市 小敷田遺跡 一般国道17号熊谷バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告〈河川跡遺物編・第Ⅱ分冊〉」財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 268-318.

高橋重男 1998 埼玉県の裸子植物「伊藤 洋編,1998年度版 埼玉県植物誌」埼玉県教育委員会 81-86.

高橋 敦・植木真吾 1994 樹種同定からみた住居構築材の用材選択 PARYNO 2 パリノ・サーヴェイ株式会社 5-18.

山田昌久(編) 2003 考古資料大観 第8巻 弥生・古墳時代 木・繊維製品 小学館 369p

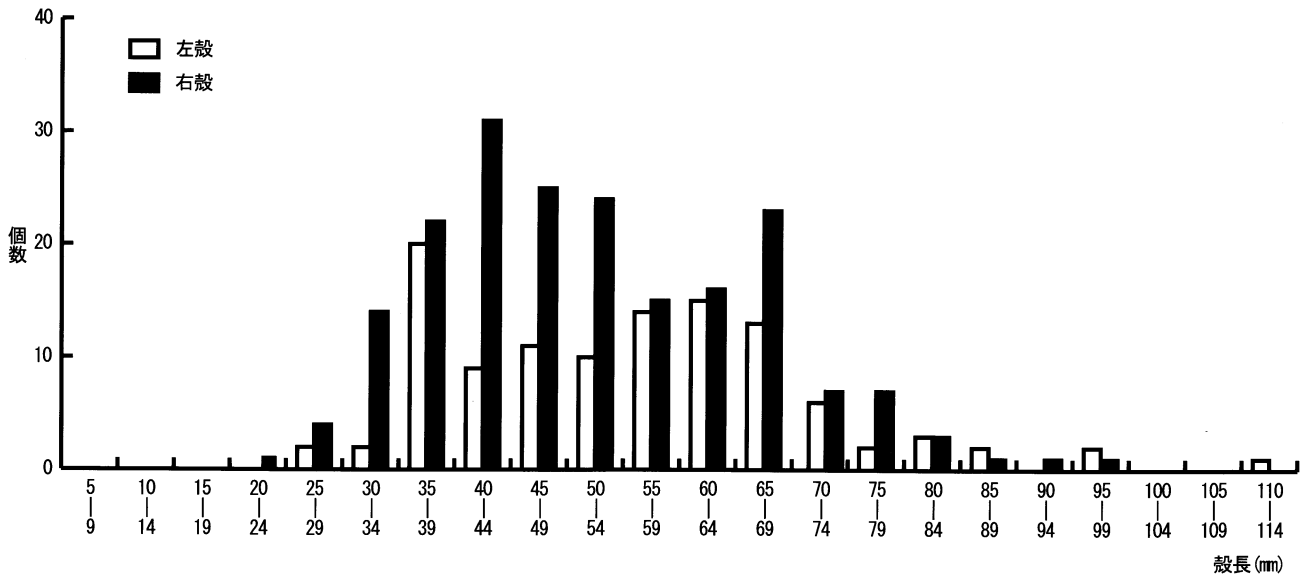


図1. ハマグリ of 殻長分布

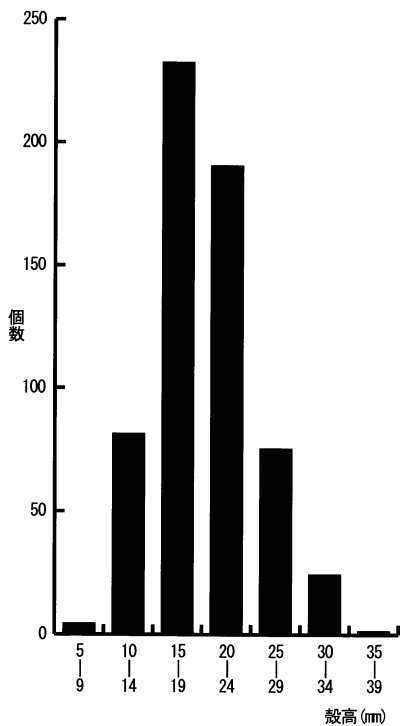


図2. チリメンカワナ of 殻高分布

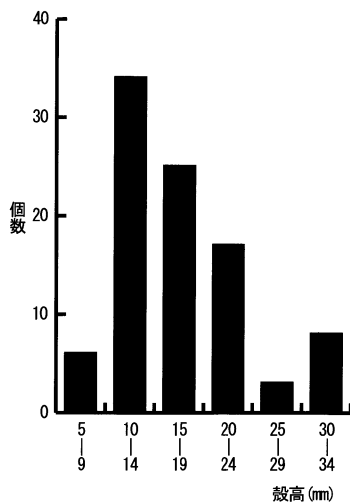


図3. マルタニシ of 殻高分布

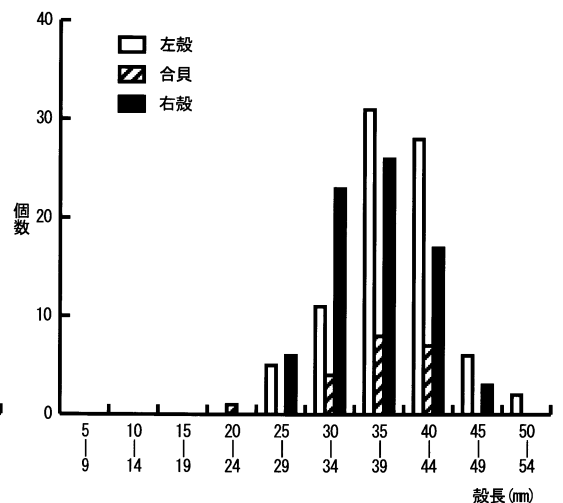
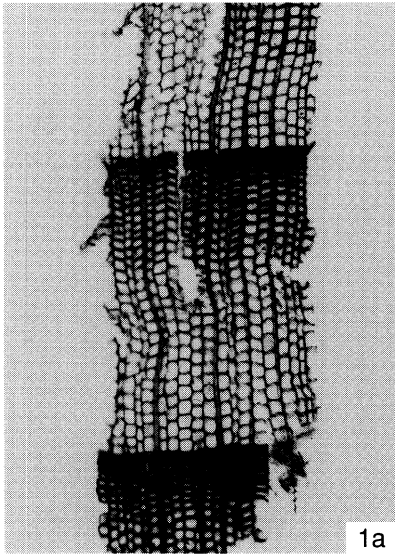


図4. マツカサガイ of 殻長分布

図版1 木材 (1)



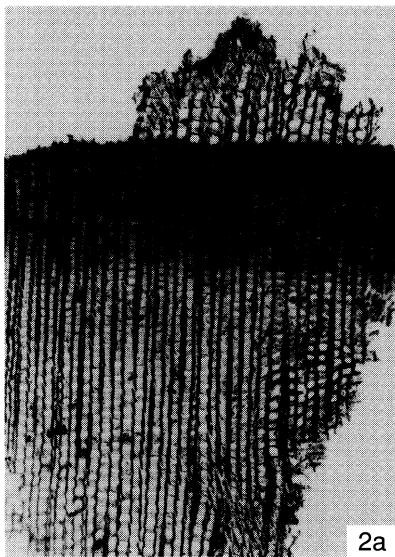
1a



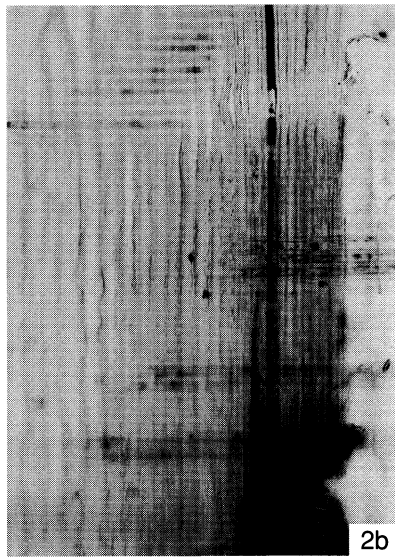
1b



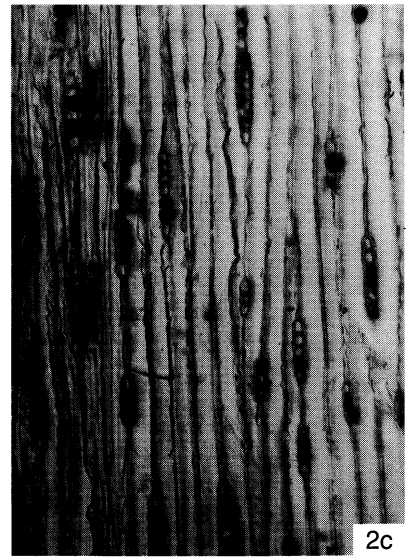
1c



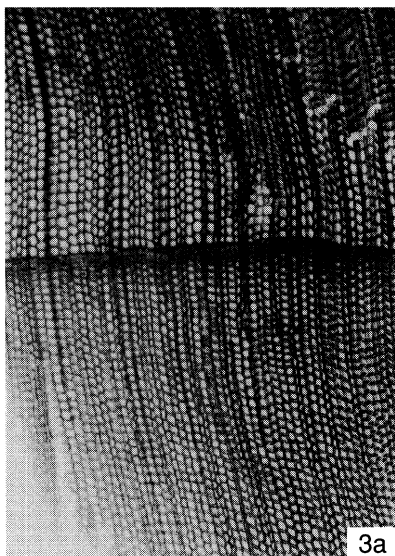
2a



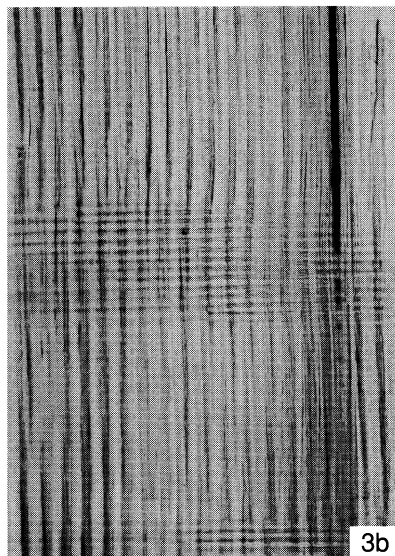
2b



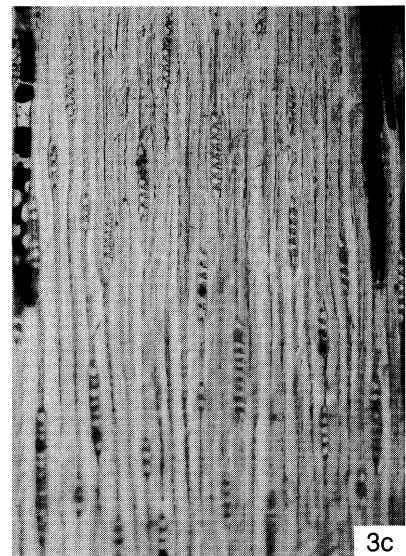
2c



3a



3b



3c

1. モミ属 (第337図269)

2. スギ (第336図260)

3. ヒノキ (第337図268)

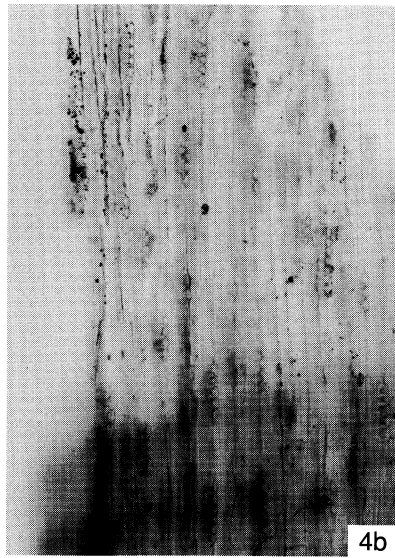
a: 木口、b: 柾目、c: 板目

200 μ m : a
200 μ m : b,c

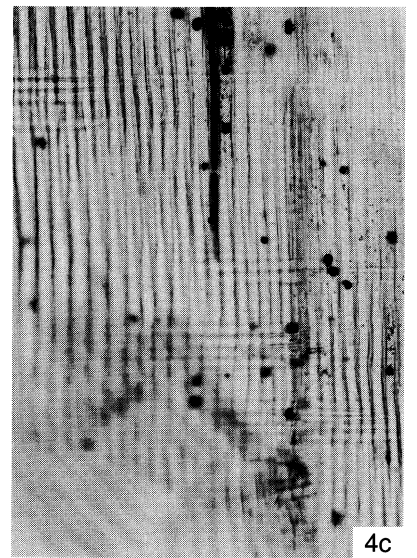
図版2 木材 (2)



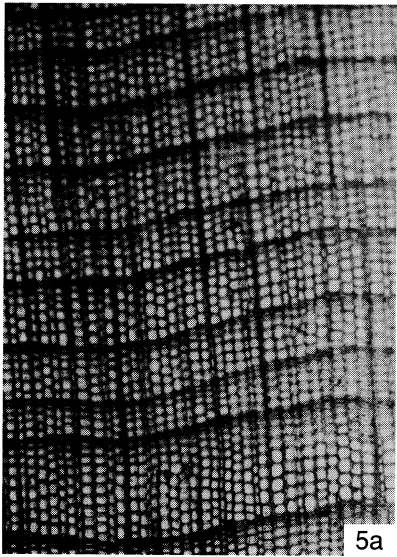
4a



4b



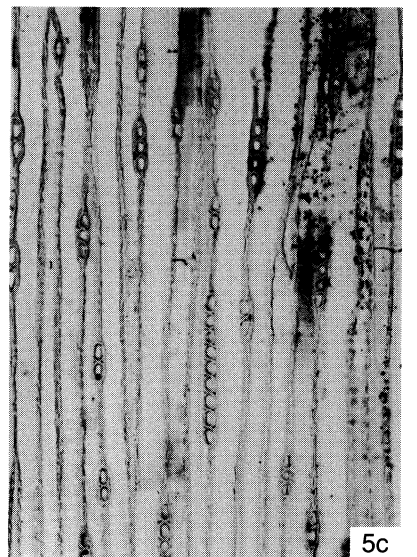
4c



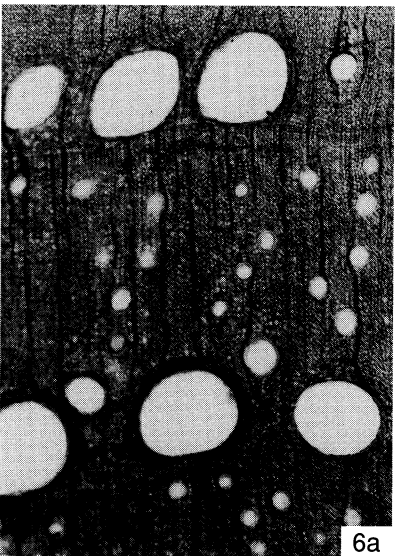
5a



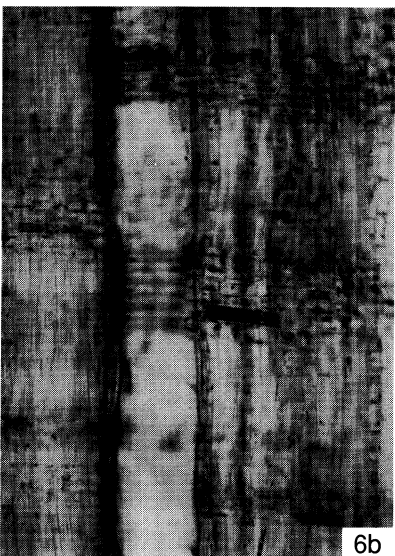
5b



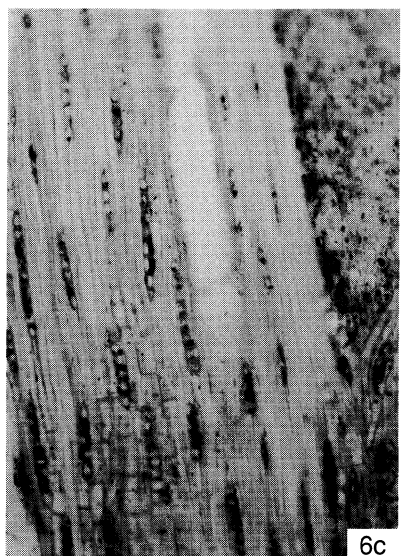
5c



6a



6b



6c

4. イヌガヤ (東区 SK179 柄)

5. カヤ (東区 SB27)

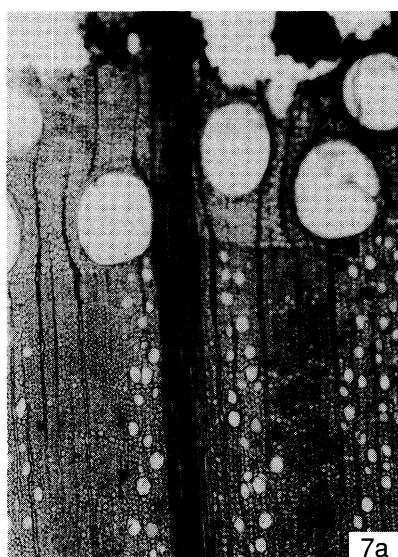
6. コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (第175図28)

a: 木口、b: 柁目、c: 板目

200 μ m : a

200 μ m : b,c

図版3 木材 (3)



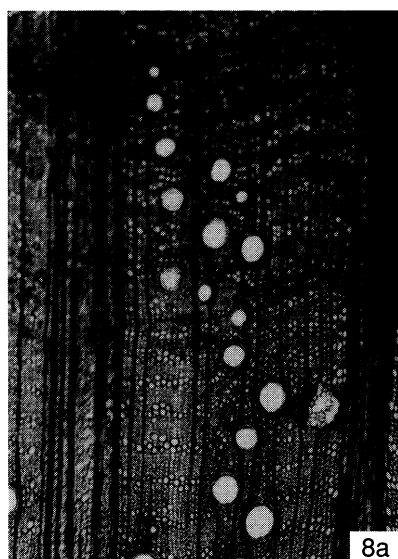
7a



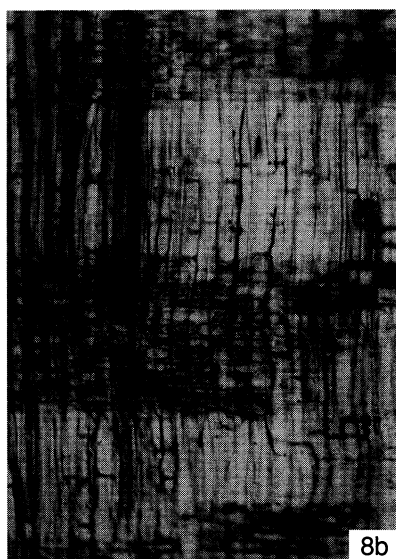
7b



7c



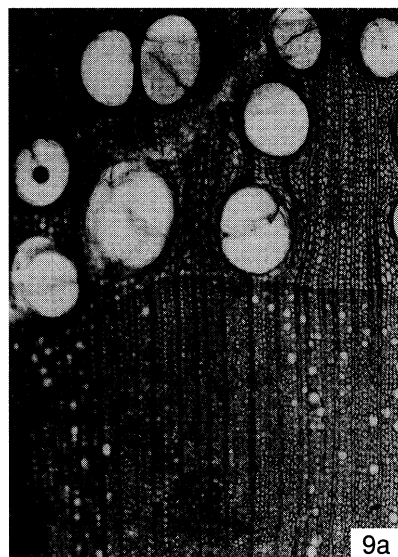
8a



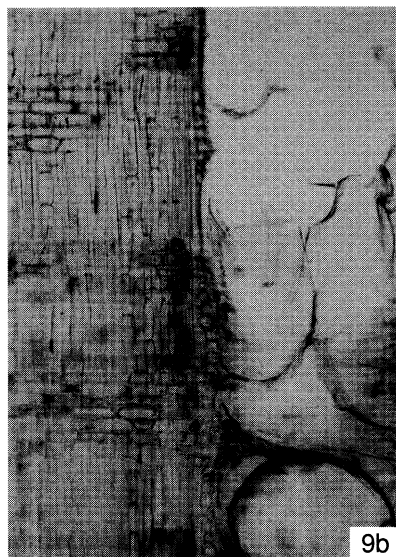
8b



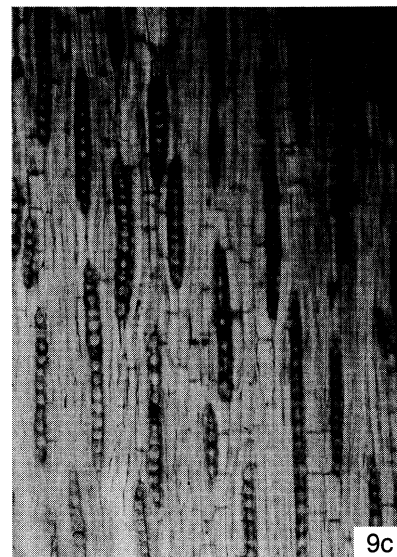
8c



9a



9b



9c

7. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (東区 SJ67)

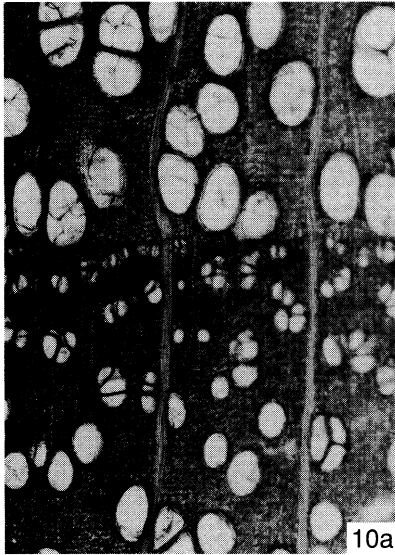
8. コナラ属アカガシ亜属 (第340図282)

9. クリ (第177図10)

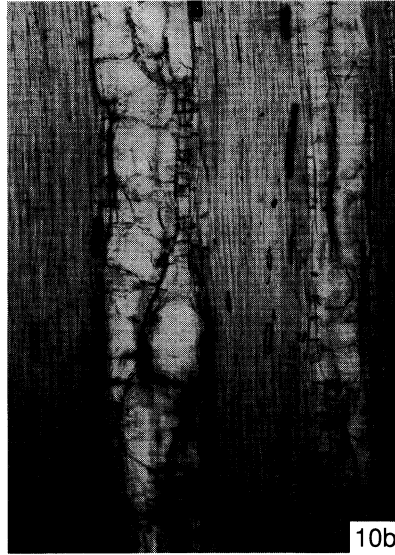
a: 木口、b: 柁目、c: 板目

200 μ m : a
200 μ m : b,c

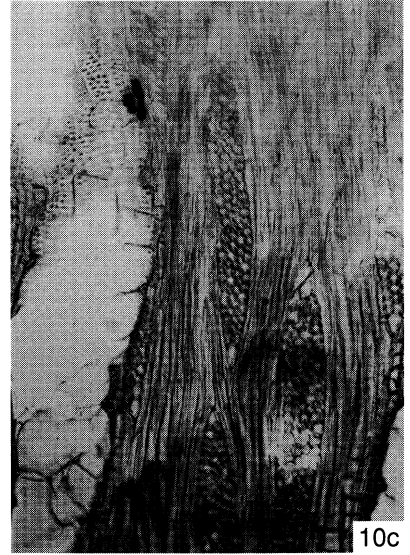
図版4 木材 (4)



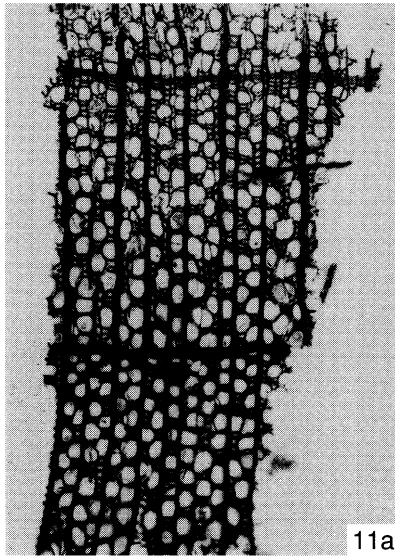
10a



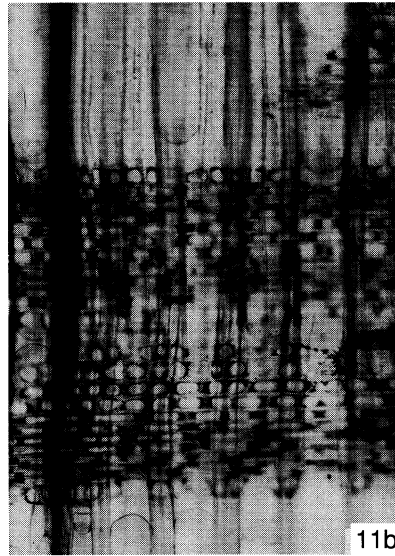
10b



10c



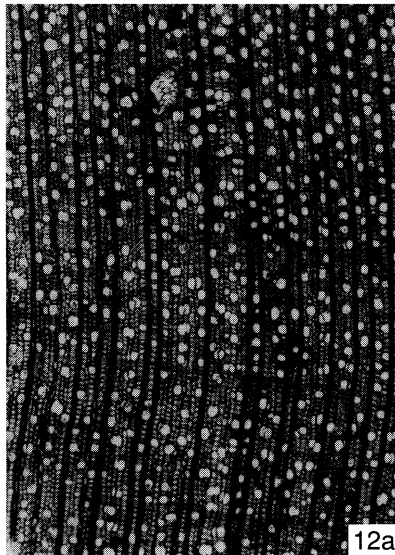
11a



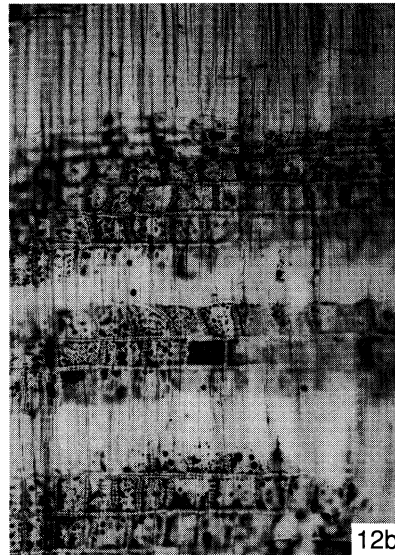
11b



11c



12a



12b



12c

10. ヤマグワ (第140図9)

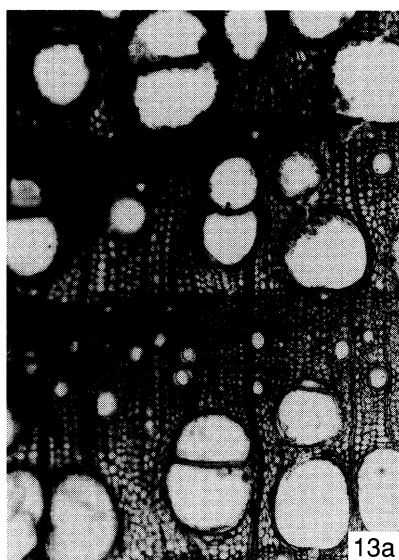
11. カツラ (第200図8)

12. サカキ (東区 SK181)

a: 木口、b: 柁目、c: 板目

200 μ m : a
200 μ m : b,c

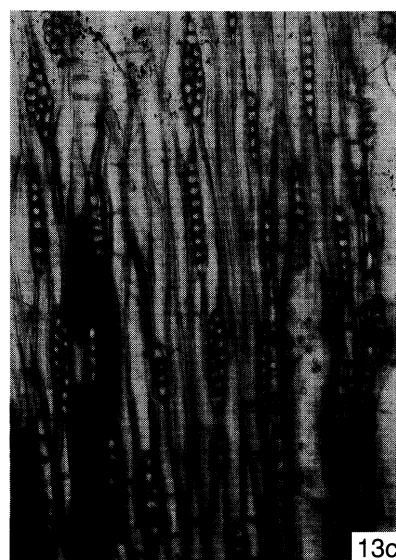
図版5 木材 (5)



13a



13b

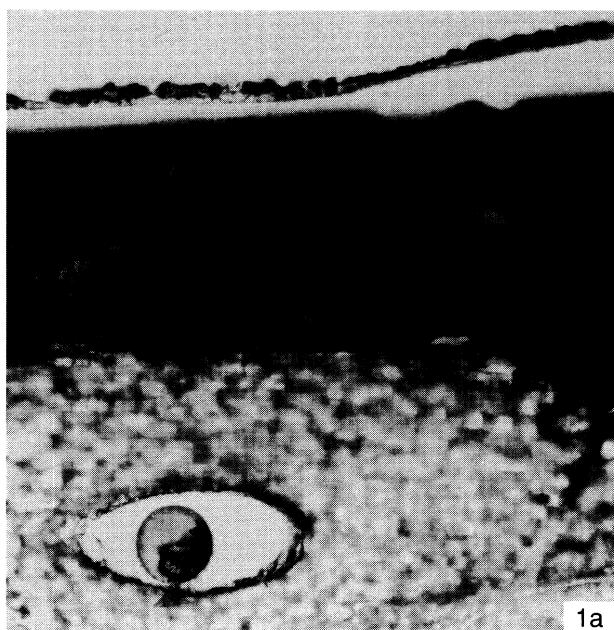


13c

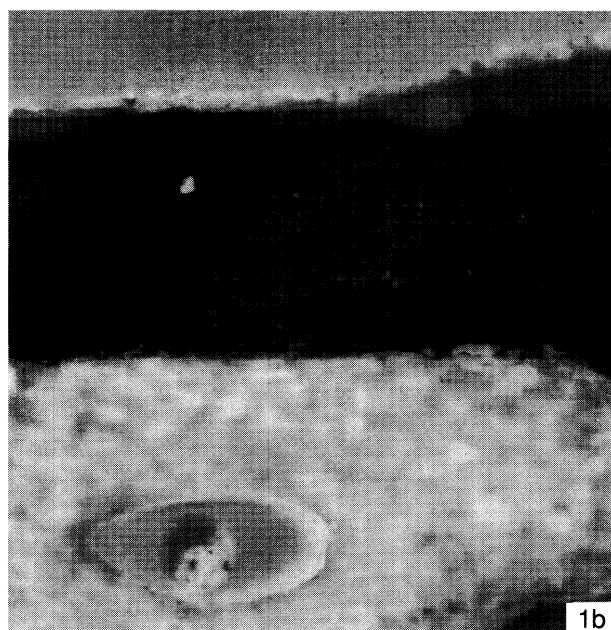
13. トネリコ属 (第200図4)
a: 木口、b: 柁目、c: 板目

200 μ m : a
200 μ m : b,c

図版6 漆断面



1a



1b

1. 漆断面 (第175図28)
a: 透過光、b: 落射蛍光

100 μ m : 1a,1b